

第172図 第90号住居跡遺物出土位置図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

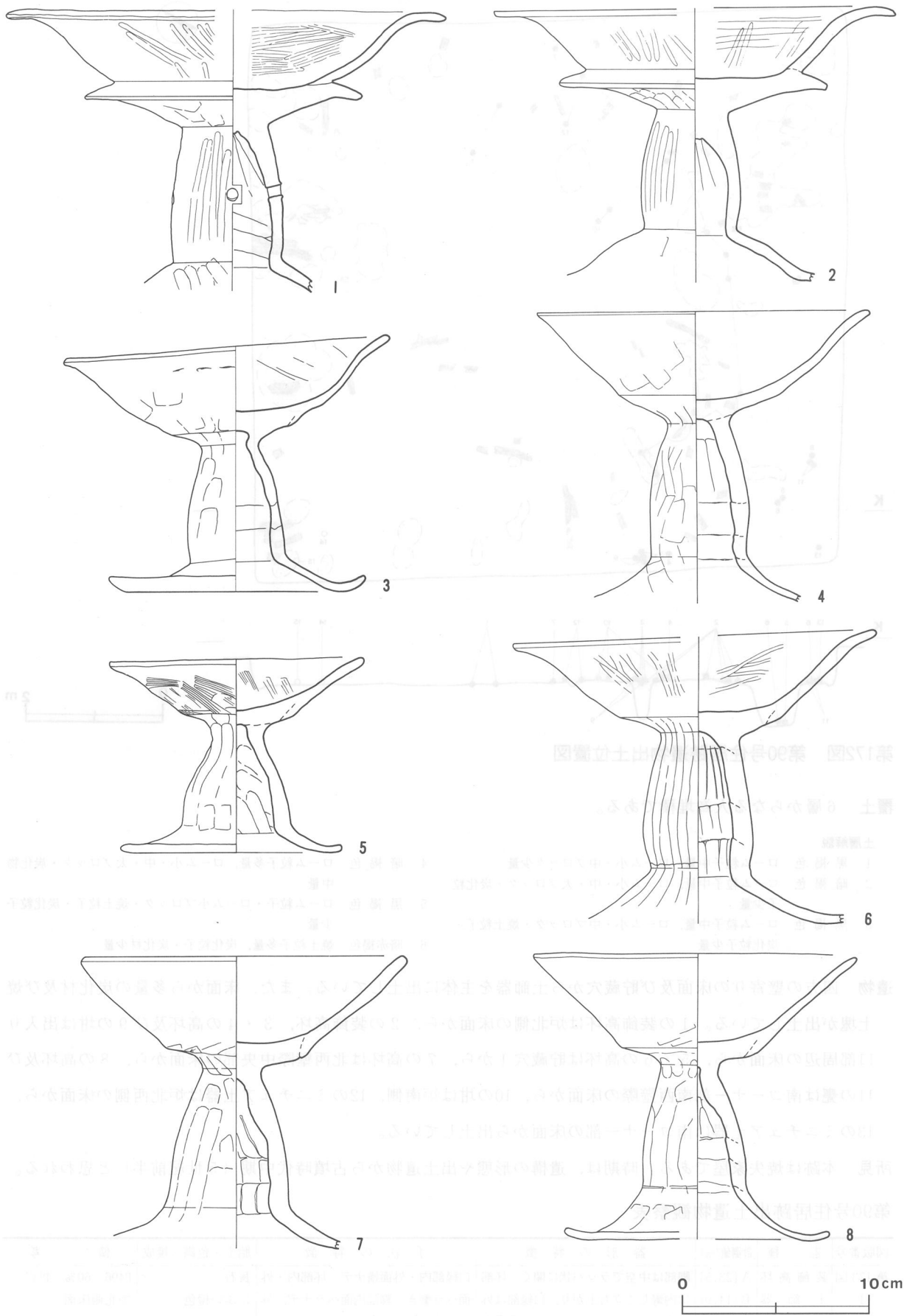
- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小・中・大ブロック・炭化物中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小・中・大ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・炭化材少量 |

遺物 四方の壁寄りの床面及び貯蔵穴から土師器を主体に出土している。また、床面から多量の炭化材及び焼土塊が出土している。1の装飾高坏は炉北側の床面から、2の装飾高坏、3・4の高坏及び9の罎は出入り口部周辺の床面から、5・6の高坏は貯蔵穴1から、7の高坏は北西壁際中央部の床面から、8の高坏及び11の甕は南コーナー部南西壁際の床面から、10の罎は炉南側、12のミニチュア土器は炉北西側の床面から、13のミニチュア土器は南コーナー部の床面から出土している。

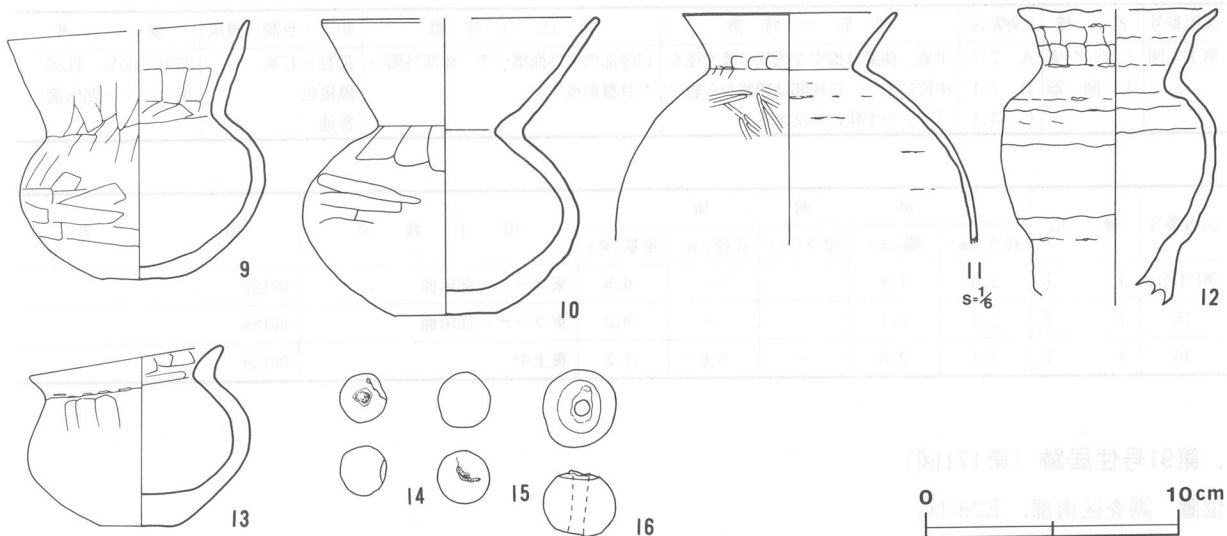
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	装飾高坏 土師器	A(23.5) B(14.9) E(9.0)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部下位に装飾用の突帯をもつ。脚部に4孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石にぶい橙色 普通	P496 60% PL67 炉北側床面



第173図 第90号住居跡出土遺物実測図(1)



第174図 第90号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 2	装飾高坏 土師器	A [21.7] B (14.7) E (9.2)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部下位に装飾用の突帯をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラ磨き。脚部内面へラナデ、外面縦位のへラ磨き。	長石 におい赤褐色 普通	P492 70% PL67 出入り口部周辺床面
3	高坏 土師器	A 17.6 B 13.7 D 13.8 E 8.0	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面へラ磨き、外面へラ削り後へラナデ。脚部外面縦位のへラナデ。坏部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P490 80% PL68 出入り口部周辺床面
4	高坏 土師器	A 17.9 B (15.6) E (9.8)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ。脚部内・外面へラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P494 60% PL68 出入り口部周辺床面
5	高坏 土師器	A 13.7 B 10.5 D 11.9 E 6.7	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面へラナデ、外面へラ削り後へラナデ。脚部外面縦位のへラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P489 80% PL67 貯蔵穴1 覆土下層
6	高坏 土師器	A [19.6] B (15.9) E (10.1)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラ磨き。脚部内・外面へラナデ。	長石・石英 におい褐色 普通	P495 70% PL68 貯蔵穴1 覆土下層
7	高坏 土師器	A 17.5 B (15.7) E (9.7)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラナデ。脚部内・外面へラナデ。坏部外面下位に輪積み痕が残る。	長石・石英 におい橙色 普通	P493 70% PL68 北西壁際中央部床面
8	高坏 土師器	A 17.5 B 15.5 D [14.3] E 9.4	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後へラナデ。脚部外面縦位のへラ削り後へラナデ。脚部と坏部との境に指頭圧痕が残る。	長石・石英 明赤褐色 普通	P491 80% PL68 南コーナー部南西壁際床面 二次焼成, 坏部内面剥離
第174図 9	埴 土師器	A [9.6] B 10.3 C 3.4	平底。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 におい黄褐色 普通	P497 90% PL68 出入り口部周辺床面
10	埴 土師器	A [11.0] B 11.7 C 4.0	平底。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英 におい黄褐色 普通	P498 80% PL67 炉南側床面
11	甕 土師器	A 17.0 B (18.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P500 40% PL69 南コーナー部南西壁際床面 二次焼成, 体部内面剥離
12	ミニチュア土器 土師器	A [7.9] B 11.7	底部欠損。体部は縦長な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面、体部外面ハケ目整形後へラナデ。口縁部内・外面、体部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P499 50% PL67 炉北西側床面

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第174図 13	ミニチュア土器 土 師 器	A 7.7	平底。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から短く「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P501 100% PL68 南コーナー部床面
		B 7.1				
		C 3.1				

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第174図14	土 玉	2.0	1.8	—	—	6.8	東コーナー部床面	DP127
15	土 玉	2.2	2.1	—	—	9.0	東コーナー部床面	DP128
16	土 玉	2.4	2.9	—	0.6	21.8	覆土中	DP129

第91号住居跡 (第171図)

位置 調査区南部, E2d0区。

重複関係 本跡は北西コーナー部を除いた住居跡のほぼ全体を第90号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明である。

壁 壁高は38cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固められている。

覆土 1層からなるが, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量

所見 本跡の時期は, 重複関係から第90号住居跡より古い時期であるが, 出土遺物もなく詳細な時期については不明である。

第92号住居跡 (第175図)

位置 調査区南部, E2f0区。

重複関係 本跡は南西壁が第88号住居跡を, 西コーナー部が第160号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸4.08m, 短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-120°-E

壁 壁高は28cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径24cmの円形, 深さ18cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 南東壁中央部を壁外に100cm程掘り込み, 砂質粘土で構築している。規模は長さ100cm, 幅110cmである。

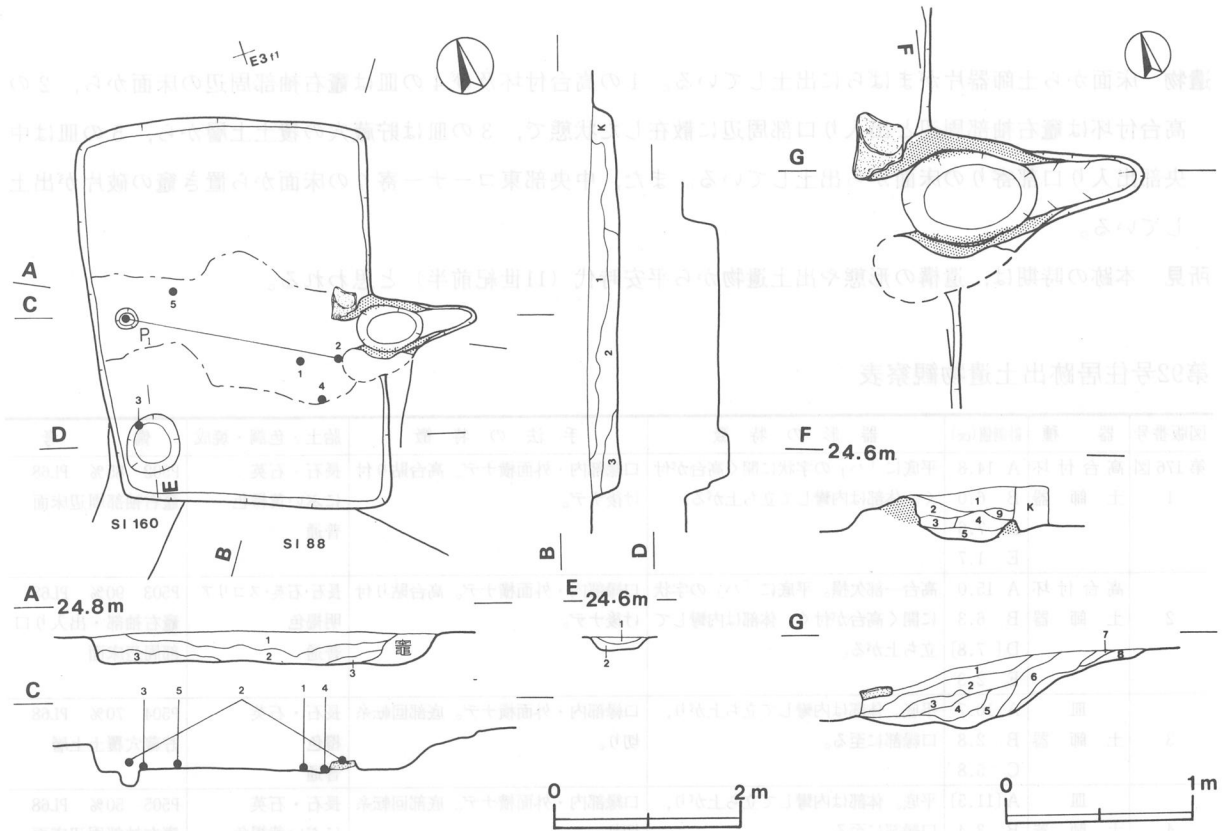
袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で, 火熱を受け赤変硬化している。

煙道部は長さ55cm程で, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

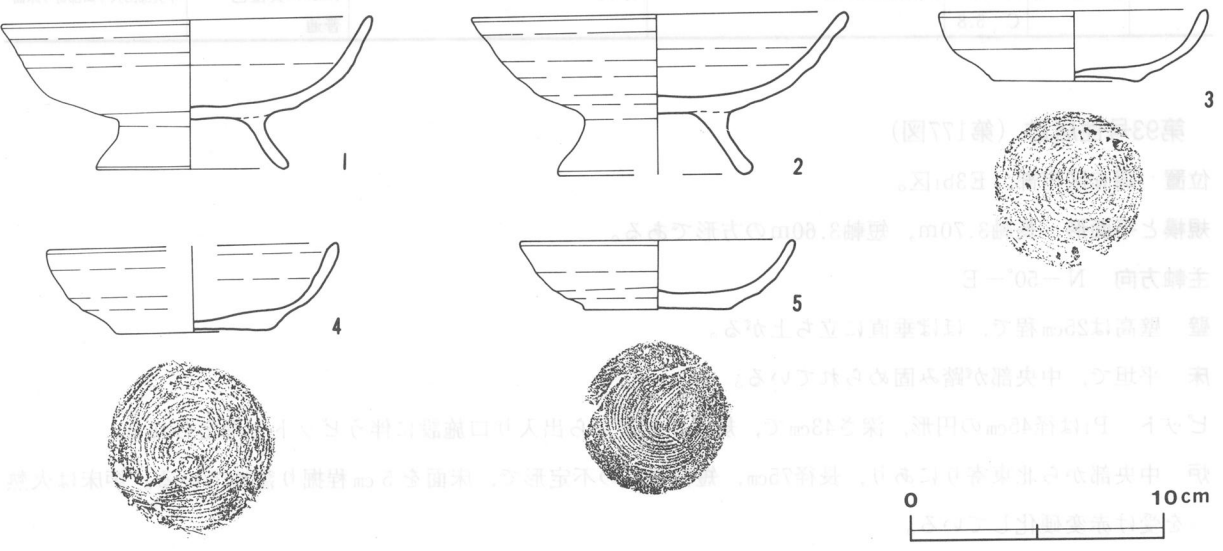
竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 におい赤褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 7 におい褐色 | 焼土小ブロック・砂粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | 砂粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 赤褐色 | 焼土大ブロック多量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径60cm, 短径55cmのほぼ円形で, 深さは10cmである。底面は平坦



第175図 第92号住居跡実測図



第176図 第92号住居跡出土遺物実測図

で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

- 貯蔵穴土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 - 2 褐色 ローム粒子中量

覆土 3層からなる人為堆積である。

- 土層解説
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量
 - 2 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子・ローム小・大ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量

遺物 床面から土師器片がまばらに出土している。1の高台付坏及び4の皿は竈右袖部周辺の床面から、2の高台付坏は竈右袖部周辺と出入り口部周辺に散在した状態で、3の皿は貯蔵穴の覆土上層から、5の皿は中央部出入り口部寄りの床面から出土している。また、中央部東コーナー寄りの床面から置き竈の破片が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（11世紀前半）と思われる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	高台付坏 土師器	A 14.8	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英 に ぶい黄橙色 普通	P502 85% PL68 竈右袖部周辺床面
		B 6.0				
		D 7.6				
		E 1.7				
2	高台付坏 土師器	A 15.0	高台一部欠損。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P503 90% PL68 竈右袖部・出入り口部周辺床面
		B 6.3				
		D〔7.8〕				
		E 2.3				
3	皿 土師器	A 10.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 橙色 普通	P504 70% PL68 貯蔵穴覆土上層
		B 2.8				
		C 5.8				
4	皿 土師器	A〔11.5〕	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 に ぶい黄褐色 普通	P505 50% PL68 竈右袖部周辺床面
		B 3.4				
		C 6.4				
5	皿 土師器	A 10.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア に ぶい黄褐色 普通	P506 60% PL69 中央部出入り口部寄り床面
		B 2.7				
		C 5.8				

第93号住居跡（第177図）

位置 調査区南部，E3b₁区。

規模と平面形 長軸3.70m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は25cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径45cmの円形，深さ43cmで，規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北東寄りにあり，長径75cm，短径40cmの不定形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

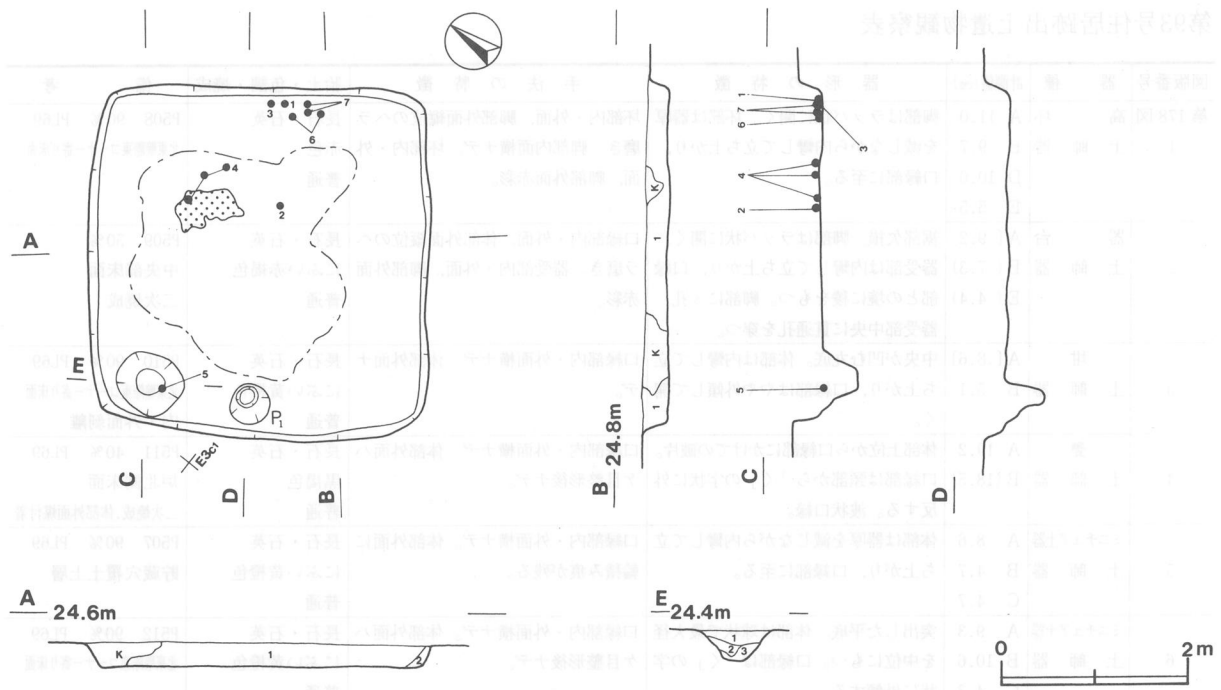
- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

覆土 2層からなる人為堆積である。

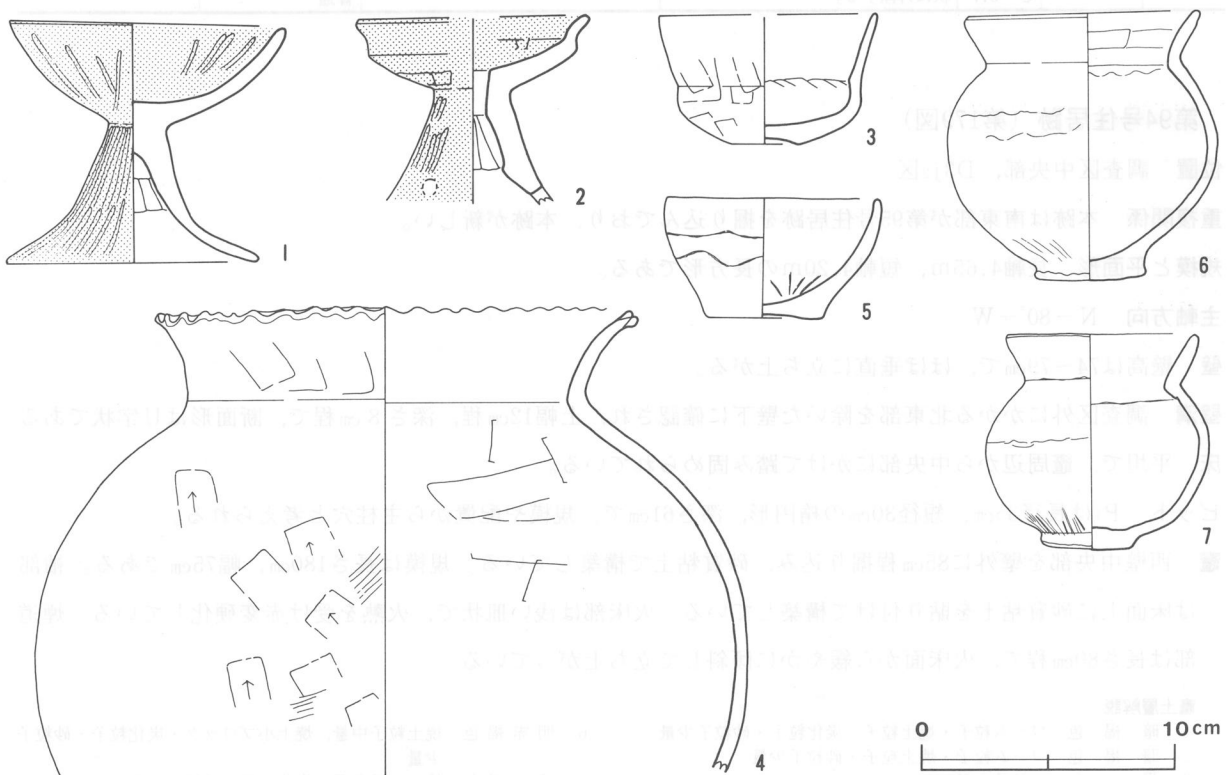
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム大ブロック中量

遺物 出入り口部付近，炉周辺及び北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から床面にかけて土師器が出土している。1の高台，3の埴及び6・7のミニチュア土器は北東壁際東コーナー寄りの床面から，2の器台は中央



第177図 第93号住居跡実測図



第178図 第93号住居跡出土遺物実測図

部の床面から、4の甕は炉北側の床面から、5のミニチュア土器は貯蔵穴の覆土上層から出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期4世紀前半と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	高坏土師器	A 11.0	脚部はラッパ状に開く。坏部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面、脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面横ナデ。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P508 90% PL69 北東壁際東コーナー寄り床面
		B 9.7				
		D 10.0				
		E 5.5				
2	器台土師器	A (9.2)	裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部内・外面、体部外面縦位のヘラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P509 50% 中央部床面 二次焼成
		B (7.3)				
		E (4.4)				
3	埴土師器	A (8.6)	中央が凹む丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外傾して開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P510 90% PL69 北東壁際東コーナー寄り床面 内・外面剥離
		B 5.1				
4	甕土師器	A 19.2	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P511 40% PL69 炉北側床面 二次焼成、体部外面煤付着
		B (18.5)				
5	ミニチュア土師器	A 8.6	体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P507 90% PL69 貯蔵穴覆土上層
		B 4.7				
		C 4.7				
6	ミニチュア土師器	A 9.3	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P512 90% PL69 北東壁際東コーナー寄り床面
		B 10.6				
		C 4.3				
7	ミニチュア土師器	A 7.6	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P513 80% PL69 北東壁際東コーナー寄り床面
		B 8.4				
		C 3.7				

第94号住居跡 (第179図)

位置 調査区中央部、D3j₂区。

重複関係 本跡は南東部が第95号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.65m、短軸4.20mの長方形である。

主軸方向 N-80°-W

壁 壁高は74~79cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 調査区外にかかる北東部を除いた壁下に確認され、上幅12cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は長径35cm、短径30cmの楕円形、深さ61cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。

竈 西壁中央部を壁外に85cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ180cm、幅75cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ80cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

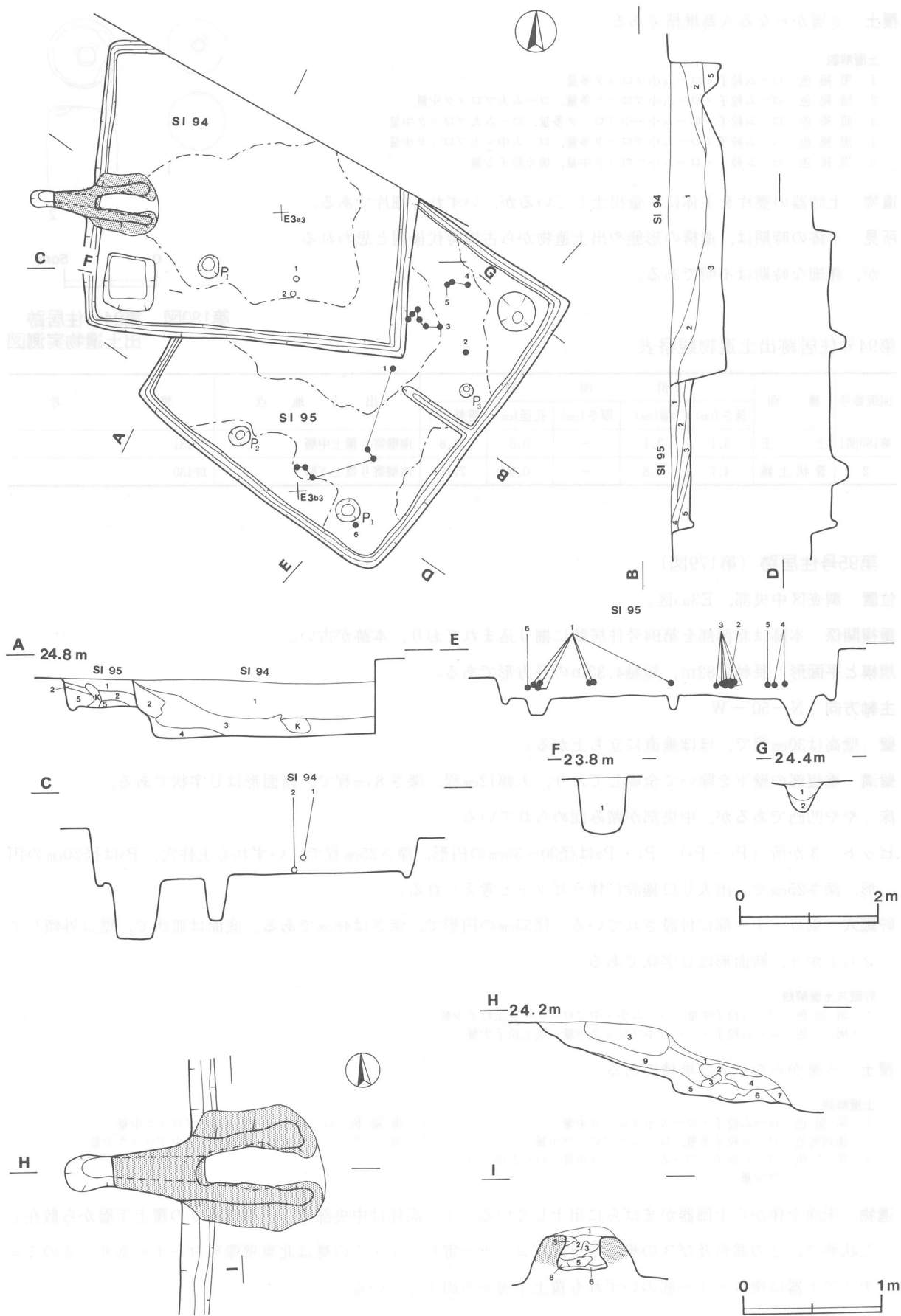
竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量	6 明赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒子少量	7 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂粒子中量、焼土小・中ブロック少量
3 褐色	砂粒子中量	8 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒子多量
4 極暗褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量
5 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量		

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸80cm、短軸74cmの隅丸方形で、深さは84cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、ローム大ブロック・粘土粒子少量
-------	------------------------------------



第179図 第94・95号住居跡実測図

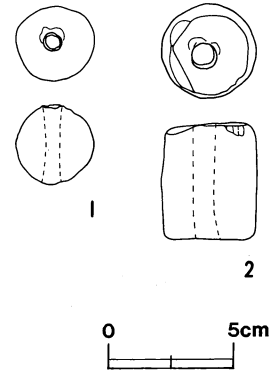
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量, ローム大ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中・大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われるが、詳細な時期は不明である。



第180図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第180図1	土玉	3.1	3.1	—	0.8	24.8	南壁寄り覆土中層	DP131
2	管状土錘	4.7	3.8	—	0.9	77.9	南壁寄り覆土下層	DP130

第95号住居跡 (第179図)

位置 調査区中央部, E3a3区。

重複関係 本跡は北西部を第94号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.82m, 短軸4.32mの長方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は30cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部の壁下を除いて全周しており、上幅12cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 やや凹凸であるが、中央部が踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は径30~35cmの円形、深さ25cm程で、いずれも支柱穴、P₃は径20cmの円形、深さ25cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。径55cmの円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

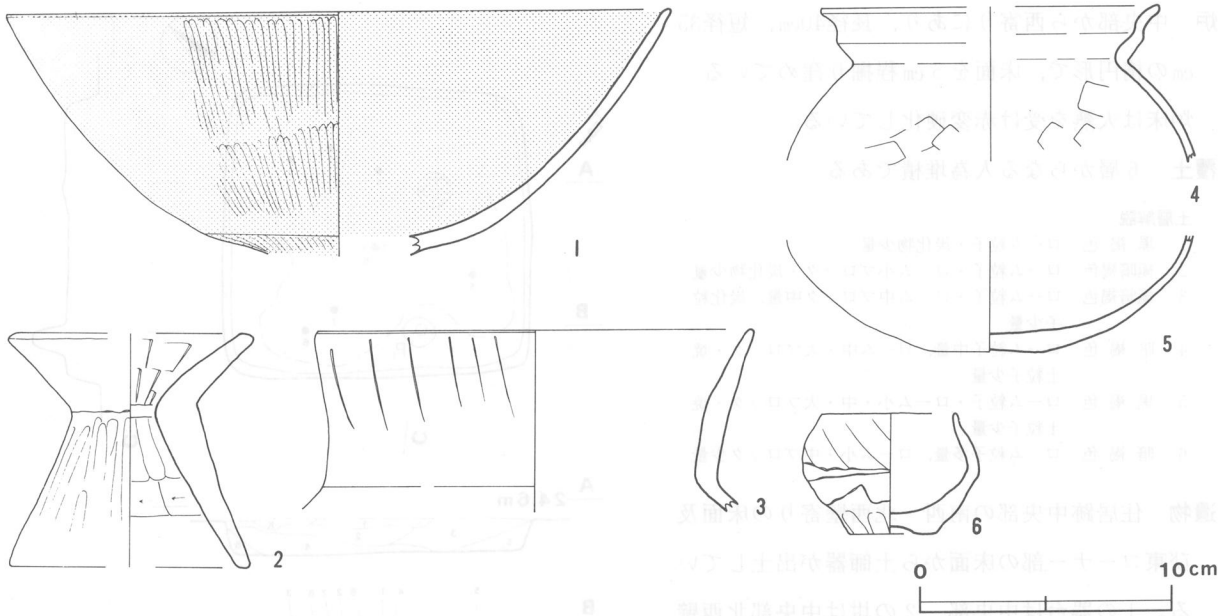
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量

遺物 床面全体から土師器がまばらに出土している。1の高坏は中央部南コーナー寄りの覆土下層から散在した状態で、2の器台及び3の甕は中央部東コーナー寄り、4・5の甕は北東壁際東コーナー寄り、6のミニチュア土器は南コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期 (4世紀前半) と思われる。



第181図 第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	高坏 土師器	A 26.3 B (9.6)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	外面縦位のヘラ磨き。坏部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P514 40% PL69 中央部南コーナー寄り覆土下層 坏部内面剥離
2	器台 土師器	A [9.8] B 9.2 D [9.5] E 6.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は器厚を減じながら逆「ハ」の字状に開き、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内面ハケ目整形後ヘラナデ、外面横ナデ。脚部内面横ナデ、外面縦位のヘラナデ。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P515 80% PL69 中央部東コーナー寄り床面 二次焼成
3	甕 土師器	A 17.4 B (7.2)	口縁部片。口縁部は頸部からやや外反する。	口縁部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P517 20% 中央部東コーナー寄り床面
4	甕 土師器	A [13.4] B (6.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は中位に稜をもち、頸部から屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剥離のため調整不明、外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P516A 15% 北東壁際東コーナー寄り床面 二次焼成、P516Bと同一個体
5	甕 土師器	B (4.4) C 4.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面剥離のため調整不明、外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P516B20% 北東壁際東コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面煤付着
6	ミニチュア土器 土師器	A 5.5 B 4.7 C 3.5	中央がやや凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎して上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P518 90% PL69 南コーナー部覆土下層

第96号住居跡 (第182図)

位置 調査区南部, E3c₂区。

規模と平面形 長軸3.26m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は30~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径33cmの円形、深さ36cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径40cm、短径35cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

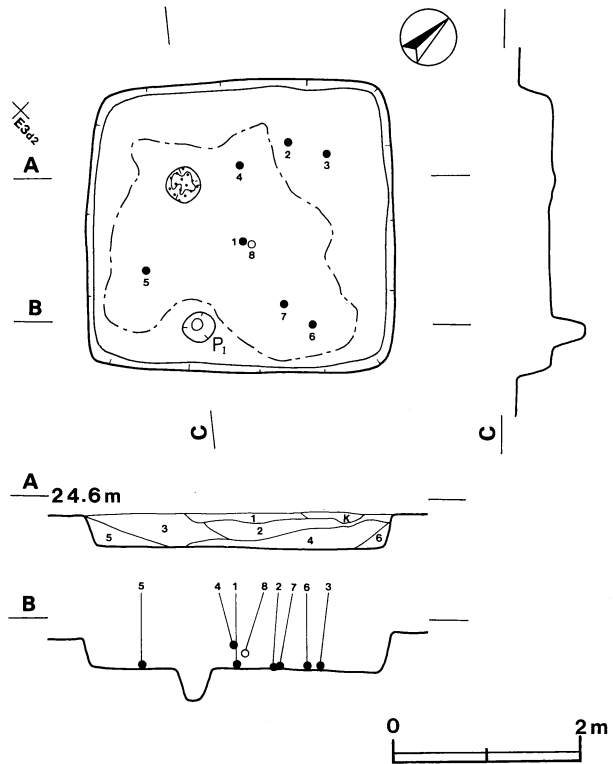
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・大ブロック・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

遺物 住居跡中央部の南西・北西壁寄りの床面及び東コーナー部の床面から土師器が出土している。1の器台は中央部、2の罎は中央部北西壁寄り、3の罎は中央部北コーナー寄り、5の甕は中央部南寄り、6・7の甕は東コーナー部のいずれも床面から出土している。また、4の罎は中央部北西壁寄りの覆土中層から出土している。

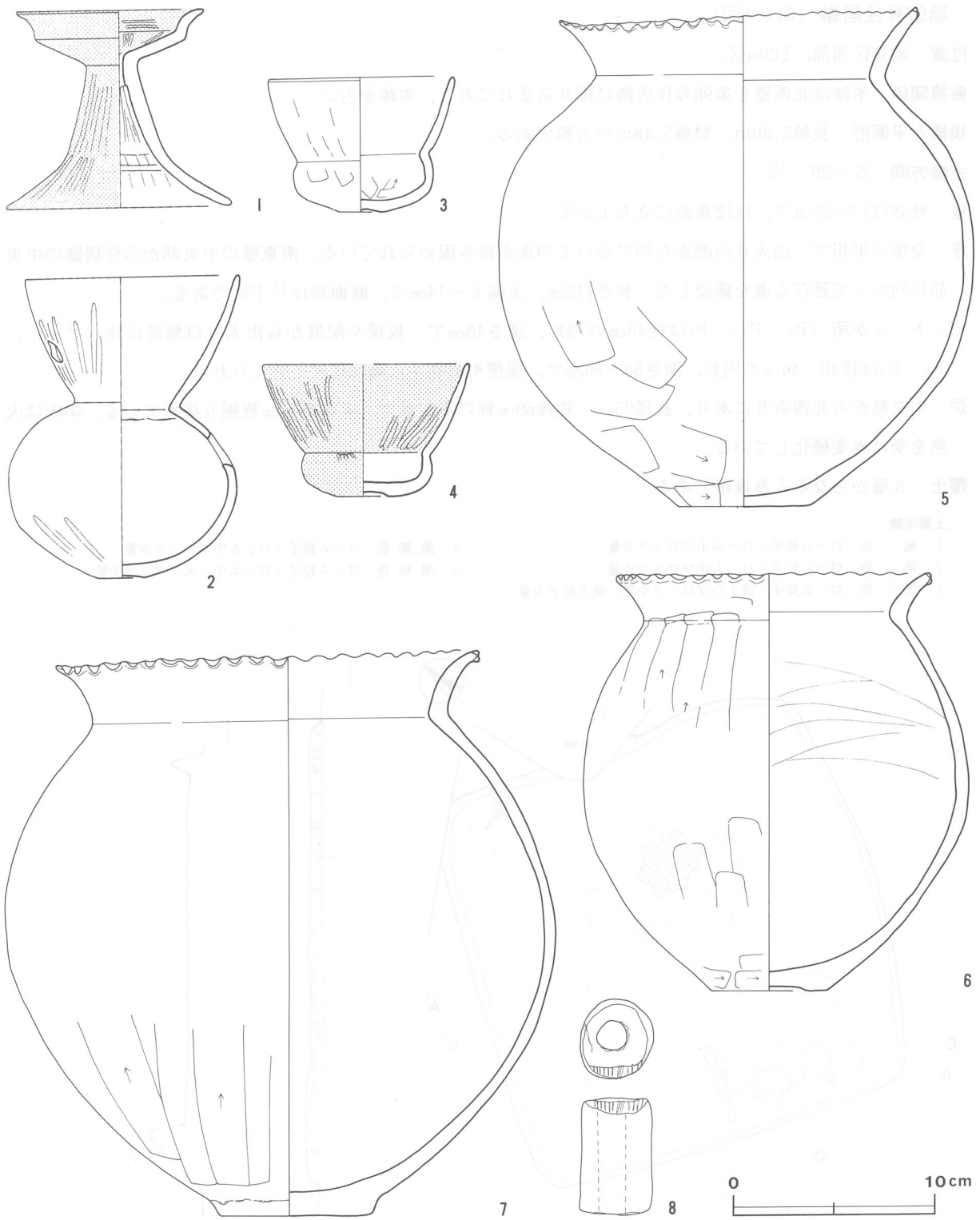
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



第182図 第96号住居跡実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	器台 土師器	A 9.4 B 9.9 D 11.2 E 7.1	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面へラ磨き。脚部内面へラナデ、外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P519 80% PL70 中央部床面
2	罎 土師器	A 10.7 B 15.1 C 2.3	平底であるが中央がやや凹む。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に開く。体部上位、口縁部中位の2か所に穿孔。	口縁部内面、体部外面へラ磨き。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P522 70% PL70 中央部北西壁際寄り床面
3	罎 土師器	A 9.3 B 6.7 C 2.2	平底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は内彎気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 黄橙色 普通	P521 80% PL70 中央部北コーナー寄り床面 体部内・外面剥離
4	罎 土師器	A [10.3] B 6.6 C 2.5	平底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は内彎気味に開く。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P520 70% PL70 中央部北西壁寄り覆土中層
5	甕 土師器	A 17.8 B 24.7 C 6.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P524 70% PL70 中央部南寄り床面 二次焼成、体部外面煤付着
6	甕 土師器	A 15.6 B 20.7 C 5.8	中央がやや凹む平底。体部は縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P523 70% PL70 東コーナー部床面 二次焼成、体部外面煤付着
7	甕 土師器	A 21.2 B 28.1 C 7.8	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P525 70% PL70 東コーナー部床面 二次焼成、体部外面煤付着



第183図 第96号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第183図8	管状土錘	5.9	3.7	—	1.4	88.6	中央部覆土中層	DP133 PL99

第97号住居跡 (第184図)

位置 調査区西部, D2h8区。

重複関係 本跡は北西壁を第98号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.48mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は12~27cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で, 出入り口部から炉にかけての床が踏み固められている。南東壁の中央部から住居跡の中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ112cm, 上幅8~14cmで, 断面形はU字状である。

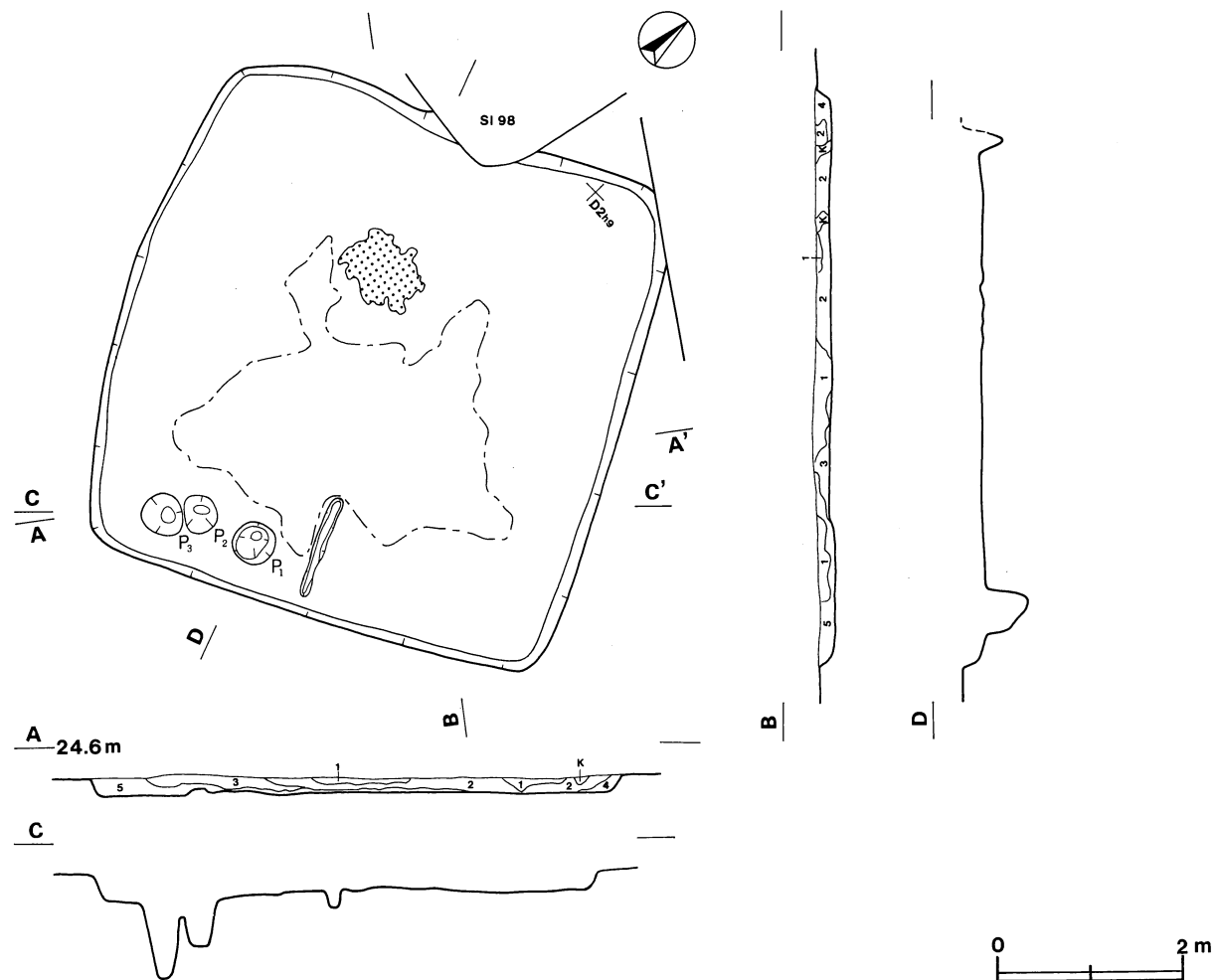
ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径45cmの円形, 深さ45cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピット, P₂・P₃は径40~46cmの円形, 深さ53~86cmで, 規模や形状から補助柱穴と考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径95cm, 短径60cm程の不定形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・ローム中・大ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量 | | |



第184図 第97号住居跡実測図

遺物 出入口部周辺及び北西壁中央部の床面から、土師器の甕片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第98号住居跡 (第185図)

位置 調査区西部, D2g8区。

重複関係 本跡は南東部が第97号住居跡を, 北西部が第141号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸3.04mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は13~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

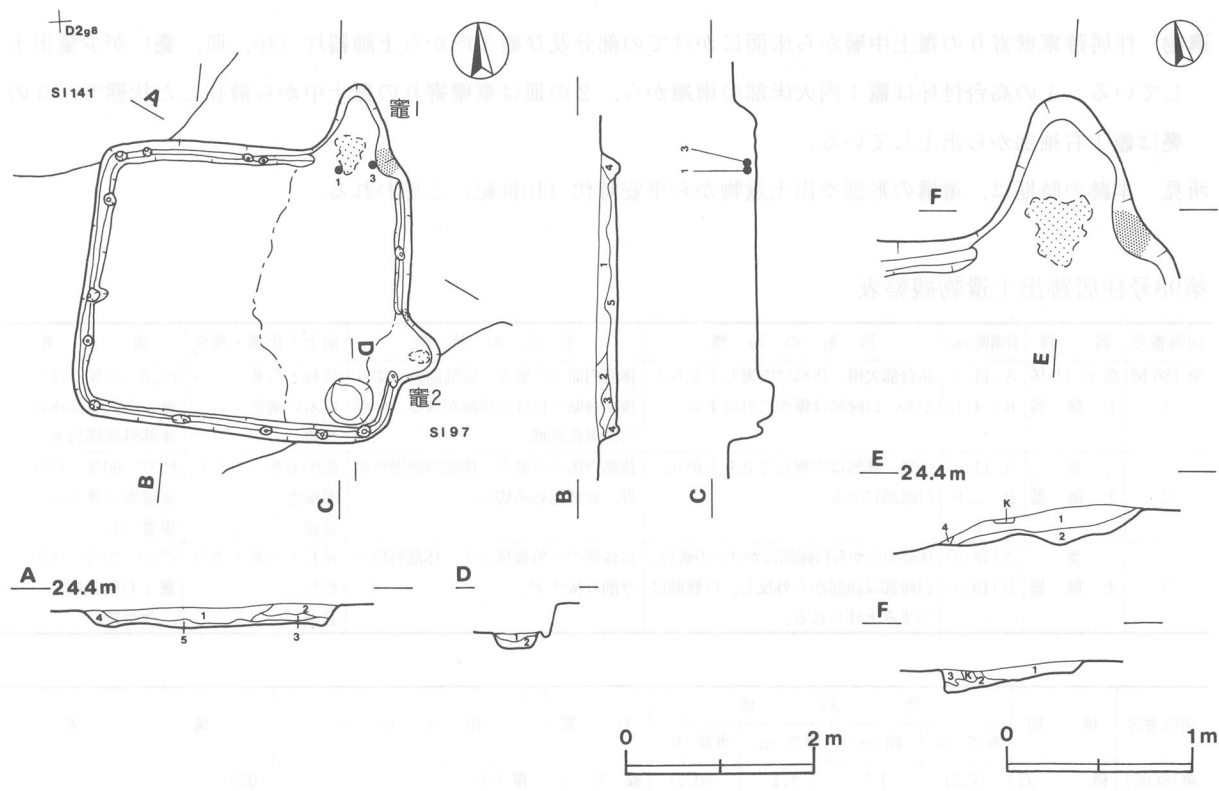
壁溝 壁下を全周しており, 上幅7~15cm, 深さ8cm程で, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で, 竈周辺から貯蔵穴周辺にかけて踏み固められている。

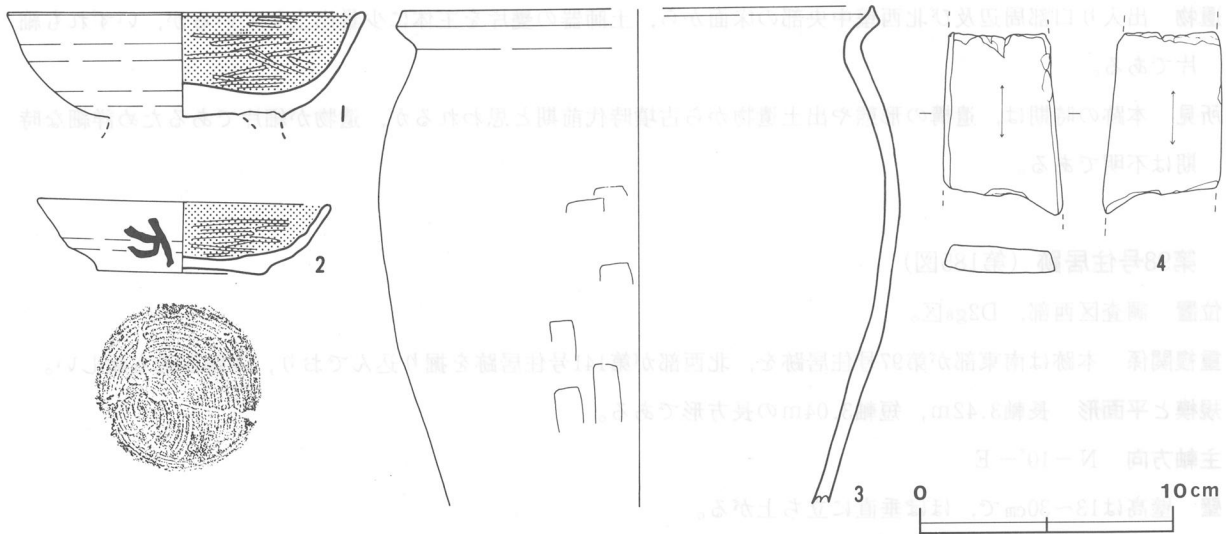
竈 2か所。竈1は北東コーナーの北壁側を壁外に75cm程掘り込んで構築している。袖部は削平されており, 右袖部の構築材と思われる粘土塊が僅かに残存している。火床部は浅い皿状で, 煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。竈2は南東コーナーの東壁側に構築している。すでに全体が削平されており, 一部赤変硬化した火床部と粘土塊を確認しただけである。

竈1土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子多量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量 |
| 2 明赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒子中量 |



第185図 第98号住居跡実測図



第186図 第98号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量

遺物 住居跡東壁寄りの覆土中層から床面にかけての部分及び竈1内から土師器片（坏，皿，甕）が少量出土している。1の高台付坏は竈1内火床部の南端から、2の皿は東壁寄りの覆土中から散在した状態で、3の甕は竈1右袖部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B (4.1)	高台部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。	体部内面へラ磨き。底部回転糸切り後高台貼り付けの痕跡が残る。坏部内面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P528 85% PL70 竈1内火床部南端 体部外面煤附着
2	皿 土師器	A 11.6 B 2.8 C 6.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へラ磨き。体部内面黒色処理。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P527 90% PL70 東壁寄り覆土中 墨書「万」
3	甕 土師器	A [18.6] B (19.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反し、口唇部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P529 20% PL71 竈1右袖部内 二次焼成

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第186図4	砥石	(7.2)	4.7	1.1	(60.2)	凝灰岩	覆土中	Q53

第99号住居跡 (第187図)

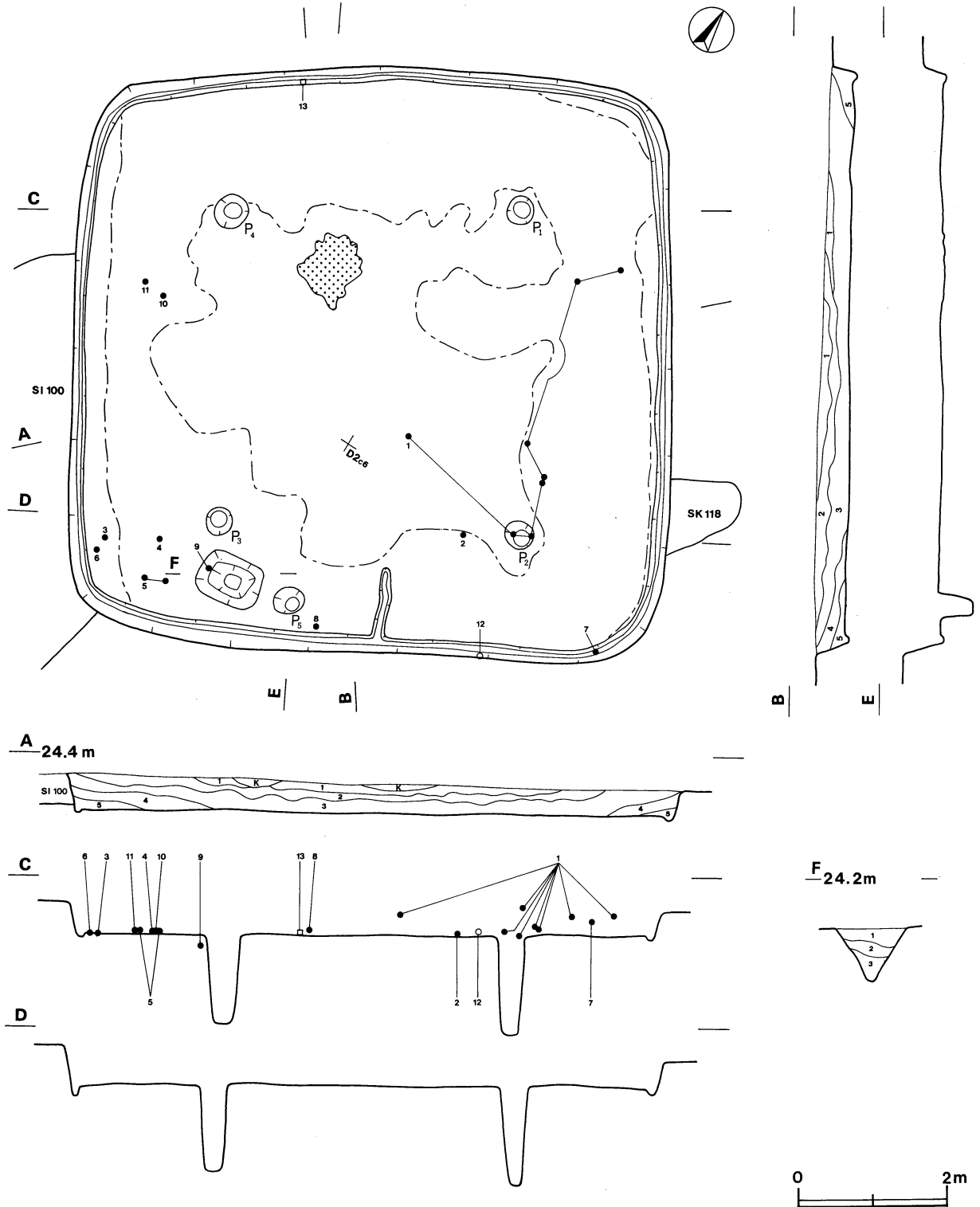
位置 調査区西部, D2b5区。

重複関係 本跡は南西壁が第100号住居跡を, 北東壁が第118号土坑を掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸7.95m, 短軸7.80mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は25~50cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第187図 第99号住居跡実測図

壁溝 壁下を全周しており，上幅10～15cm，深さ5cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ95cm，上幅10～15cm，深さ9～15cmで，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は径35～45cmの円形，深さ117～133cmで，いずれも主柱穴，P₅は径40cm程の円形，深さ44cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり，長径100cm，短径90cmの不定形で，床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁下の南コーナー寄りに付設されている。長軸85cm，短軸65cmの隅丸長方形で，深さは83cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

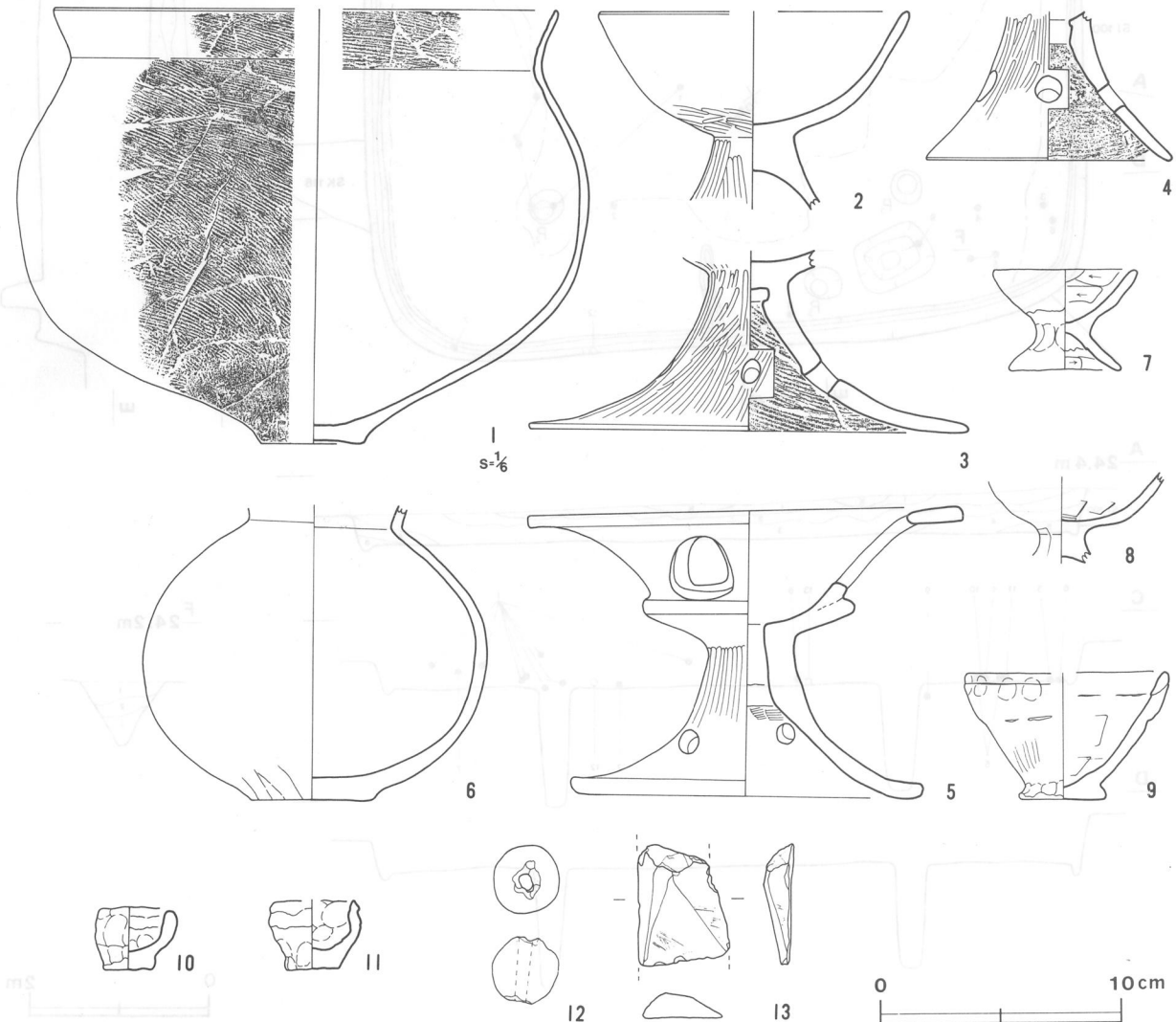
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 | 3 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | |

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中・大ブロック中量 | |



第188図 第99号住居跡出土遺物実測図

遺物 北西壁寄りの床面を除く三方の壁寄りの床面から少量の土師器とミニチュア土器及び手捏土器が出土している。1の鉢は東及び北コーナー寄りの覆土中層から散在した状態で、2の高坏は中央部東コーナー寄りの床面から、3の高坏、4の器台、5の装飾器台及び6の壺は南コーナー部の床面から出土している。また、7～9のミニチュア土器は東コーナー部の覆土下層、出入り口部の床面、貯蔵穴の覆土上層から、10・11の手捏土器は南西壁寄りの床面から出土している。

所見 本跡は、住居跡の形態としては同時期の他の住居跡と同様であるが、祭祀的色彩の濃い遺物が出土している。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図 1	鉢 土師器	A(41.5) B 36.0 C 8.7	突出した平底。体部は大きく内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面、体部外面ハケ目整形。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P532 50% PL71 北・東コーナー部覆土中層
2	高坏 土師器	A(13.0) B(8.2) E(3.0)	脚部上位から坏部にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部外面、脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P530 20% PL71 中央部東コーナー部寄り床面 坏部内面剥離
3	高坏 土師器	B(7.5) D 18.3 E 6.3	坏部欠損。脚部はラッパ状に開き、裾部は横方向に大きく開く。	脚部、裾部内面ハケ目整形、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P531 50% PL70 南コーナー部床面
4	器台 土師器	B(6.2) C 10.2	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に4孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部内面ハケ目整形、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P533 50% PL71 南コーナー部床面
5	装飾器台 土師器	A 18.1 B 12.0 D 14.6 E 6.7	脚部はラッパ状に開く。器受部下位は周縁が突き出し、上位はラッパ状に開く。脚部に4孔、器受部に透かし窓3か所、中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面横ナデ。脚部内面ハケ目整形後横ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P534 90% PL71 南コーナー部床面
6	壺 土師器	B(12.2) C 5.0	口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P535 80% PL71 南コーナー部床面
7	ミニチュア土器 土師器	A 6.0 B 4.2 D 4.6 E 1.5	高坏形。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面、脚部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P538 100% PL70 東コーナー部覆土下層
8	ミニチュア土器 土師器	B(3.7) E(1.2)	高坏形。脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P539 50% PL71 出入り口部床面
9	ミニチュア土器 土師器	A(8.5) B 5.3 C 3.6	鉢形。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P540 70% PL71 貯蔵穴覆土上層
10	手捏土器 土師器	A 3.0 B 2.6 C 2.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指頭によるナデ。体部内・外面に指頭圧痕、輪積み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P536 70% PL71 南西壁寄り床面
11	手捏土器 土師器	A(3.4) B 2.8 C 2.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指頭によるナデ。体部内・外面に指頭圧痕、輪積み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P537 90% PL71 南西壁寄り床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第188図12	土玉	2.8	2.8	—	0.6	19.6	南東壁際東コーナー寄り下層	DP135

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第188図13	砥石	(5.0)	3.8	1.2	(17.9)	凝灰岩	北西壁際床面	Q54

第100号住居跡 (第189図)

位置 調査区西部, D2c5区。

重複関係 本跡は北東部を第99号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺4.50m程の隅丸方形か隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-160°-E

壁 壁高は26~32cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 床面全体が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径18cm, 短径15cmの楕円形で, 深さは19cm, P₂は長径30cm, 短径20cmの楕円形で, 深さは66cmである。いずれも柱穴と考えられる。

炉 中央部から南西寄りにあり, 長径85cm, 短径70cmの不定形で, 床面を8cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

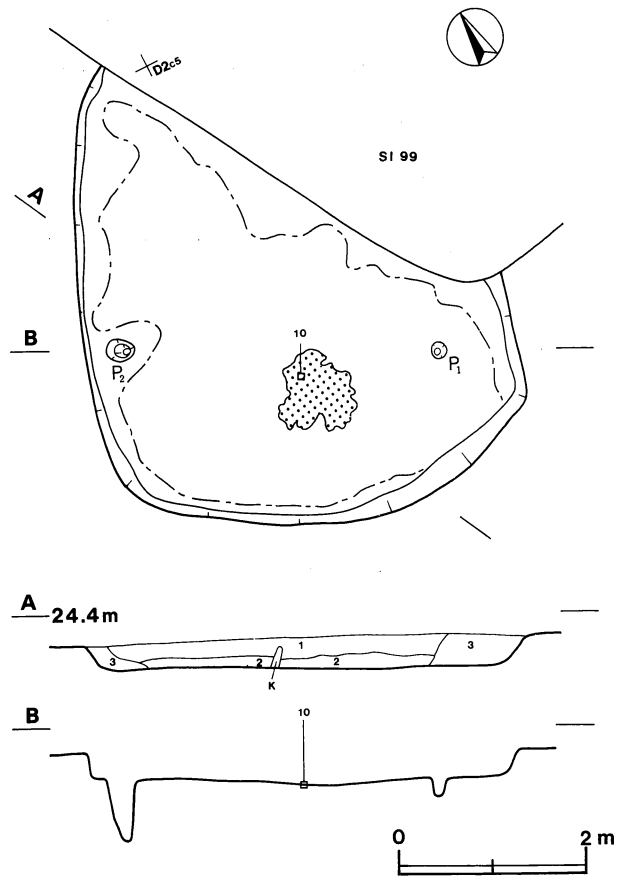
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片30点, 石器1点, チャート剥片3点及びメノウ剥片1点が炉を中心とする南部の床面から出土している。10の炉石は炉床の北部から長径方向に対しほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉 (関山Ⅱ式期) と思われる。

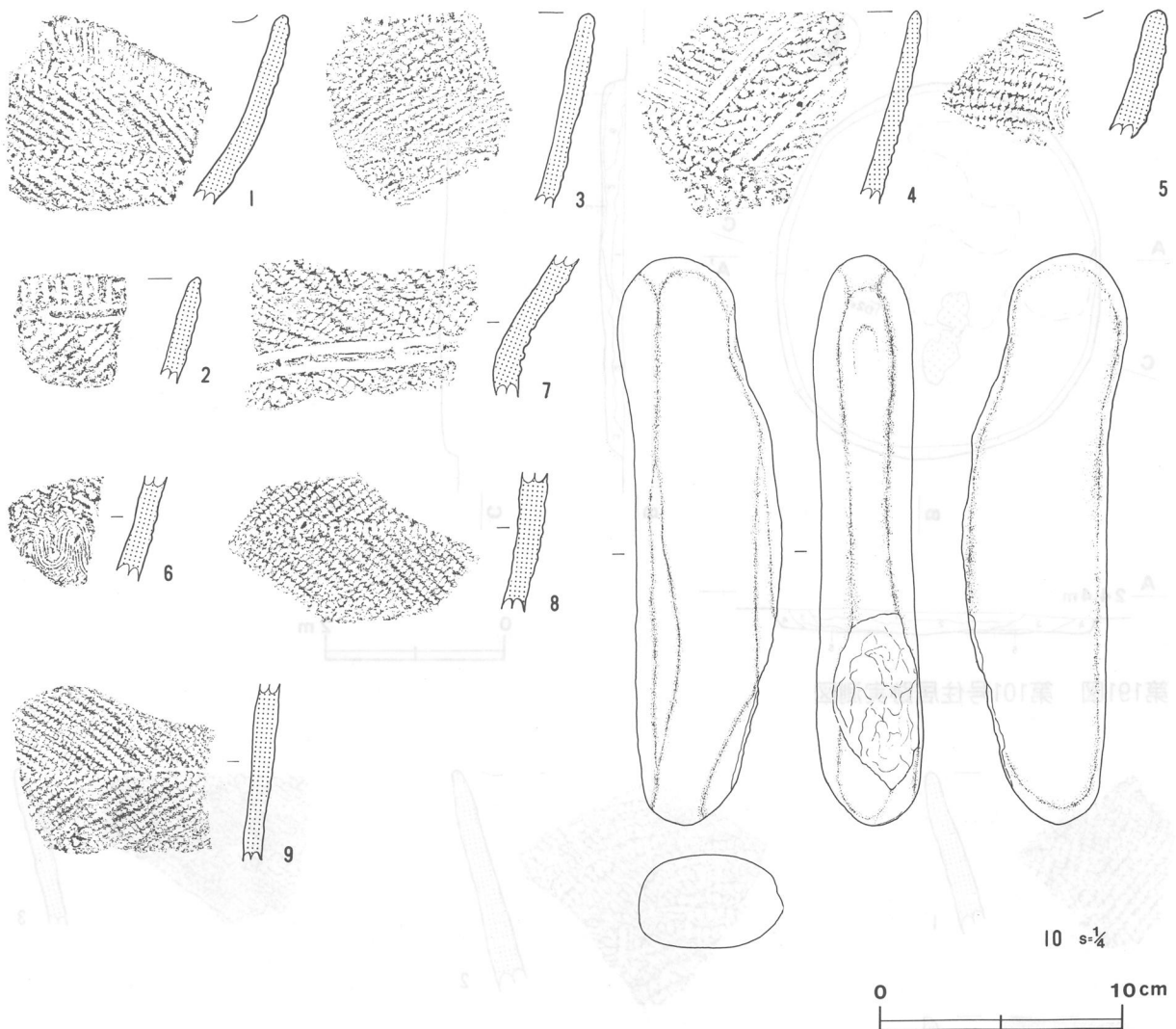
第190図1~9は, 第100号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1~5は口縁部片である。1~3は口縁部に縦の沈線が, 4は半截竹管によるV字状の沈線が, 5は単節LRの縄文と櫛歯状工具による沈線が施されている。6~9は胴部片である。6はコンパス文が, 7は半截竹管による平行沈線が, 8・9は単節LRとRLの羽状縄文が施されている。



第189図 第100号住居跡実測図

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第190図10	炉石	31.1	8.9	6.0	2200.9	安山岩	炉床	Q56 被熱 PL105



第190図 第100号住居跡出土遺物実測・拓影図

第101号住居跡 (第191図)

位置 調査区西端部, D2d₂区。

規模と平面形 長径4.10m, 短径3.54mの楕円形である。

主軸方向 N-25°-E

壁 壁高は16~26cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 炉の北側が踏み固められている。

炉 中央部からやや南西寄りにあり, 長径110cm, 短径40cmの不定形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

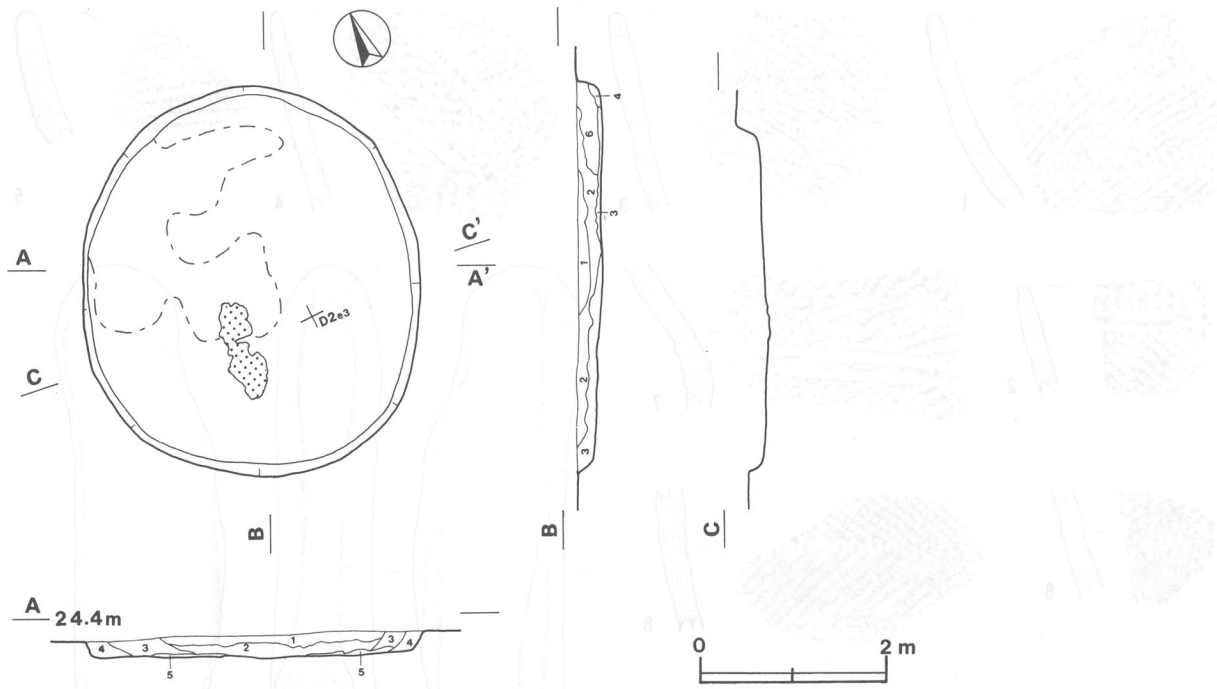
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

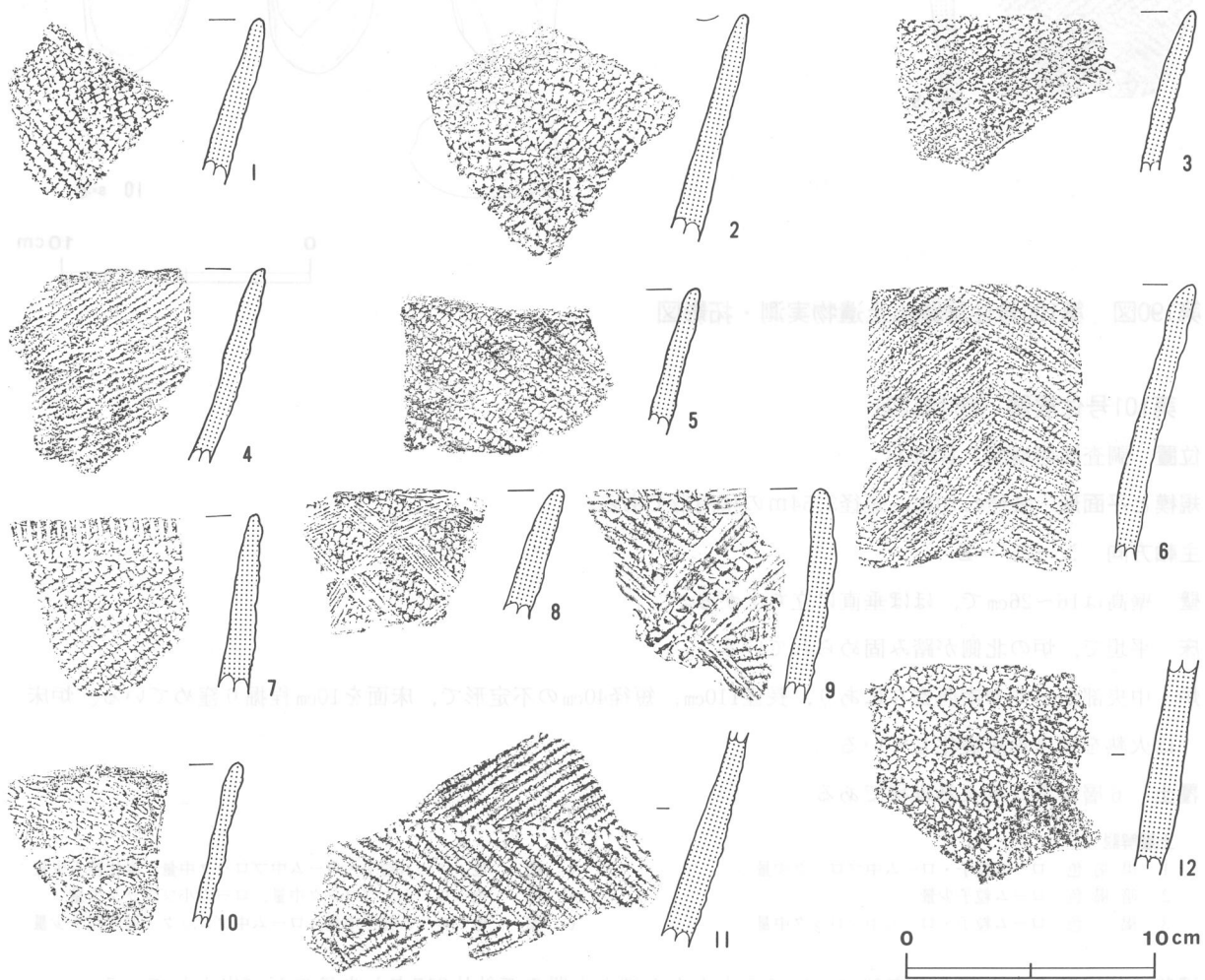
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量

遺物 住居跡の中央部から南部にかけての床面から縄文土器の深鉢片317点と少量の石が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉 (関山Ⅱ式期) と思われる。



第191图 第101号住居跡実測図



第192图 第101号住居跡出土遺物拓影图

第192図1～12は、第101号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～10は口縁部片である。1～5は単節LRの縄文が、6は無節Rの縄文が、7は口縁部に縦位の沈線が、8は櫛歯状工具による幾何学文が、9は半截竹管文が、10は直前段反撚り（正反の合）による縄文が施されている。11・12は胴部片である。11は結節の羽状縄文が、12は組み紐による縄文が施されている。

第102号住居跡（第194図）

位置 調査区西部，D2i4区。

重複関係 本跡は北部が第105号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.34m，短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は8cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

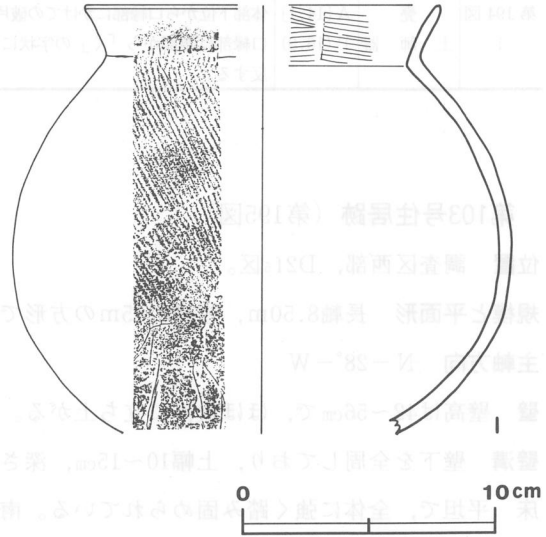
床 平坦であるが，全体的に軟らかい。

ピット P₁は径20cmの円形，深さは43cmで，規模や配置から出入り口施設のピットと考えられる。

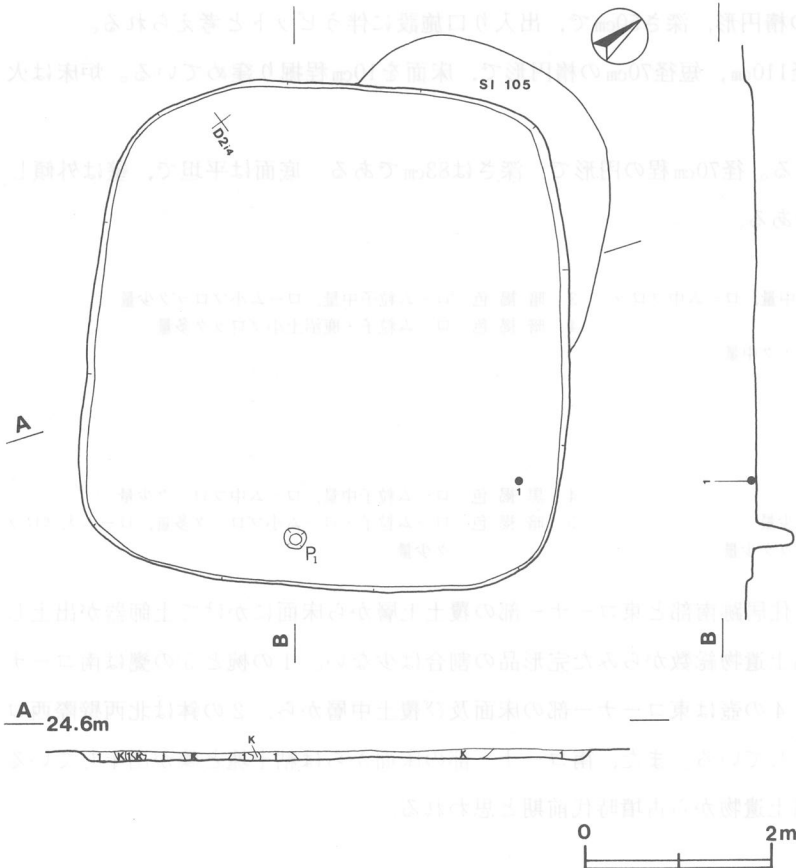
覆土 1層からなる人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第193図 第102号住居跡出土遺物実測図



第194図 第102号住居跡実測図

遺物 中央部及び東・西コーナー部の床面から土師器片が少量出土している。1の甕は東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第194図 1	甕 土師器	A [14.1] B (16.9)	体部下位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。 体部外面ハケ目整形。	長石・石英 黒色 普通	P541 30% 東コーナー部床面 二次焼成

第103号住居跡 (第195図)

位置 調査区西部, D2f5区。

規模と平面形 長軸8.50m, 短軸8.45mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は42~56cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており, 上幅10~15cm, 深さ10cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体に強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ130cm, 上幅15cm, 深さ17cm程で, 断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径35~65cm, 短径30~50cmの楕円形, 深さ49~72cmで, いずれも主柱穴, P5は長径75cm, 短径55cmの楕円形, 深さ50cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径110cm, 短径70cmの楕円形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径70cm程の円形で, 深さは83cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 4 暗褐色 ローム粒子・鹿沼土小ブロック多量 |

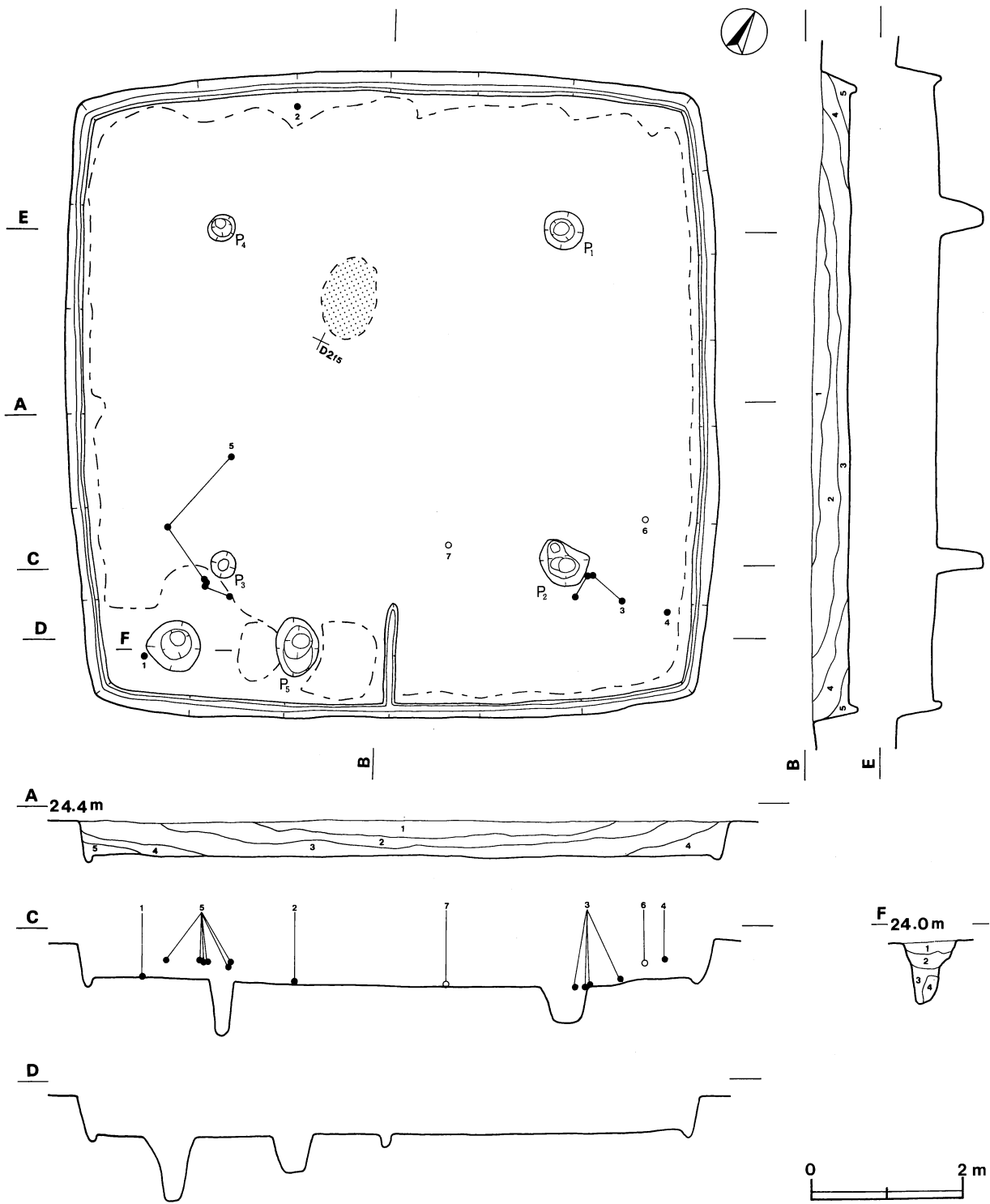
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム大ブロック少量 |
| 3 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | |

遺物 主に南コーナー部を中心とした住居跡南部と東コーナー部の覆土上層から床面に掛けて土師器が出土している。大半は土師器片であり, 出土遺物総数からみた完形品の割合は少ない。1の椀と5の甕は南コーナー部の床面及び覆土中層から, 3・4の壺は東コーナー部の床面及び覆土中層から, 2の鉢は北西壁際西コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。また, 南コーナー部の床面からは粘土塊と礫が出土している。

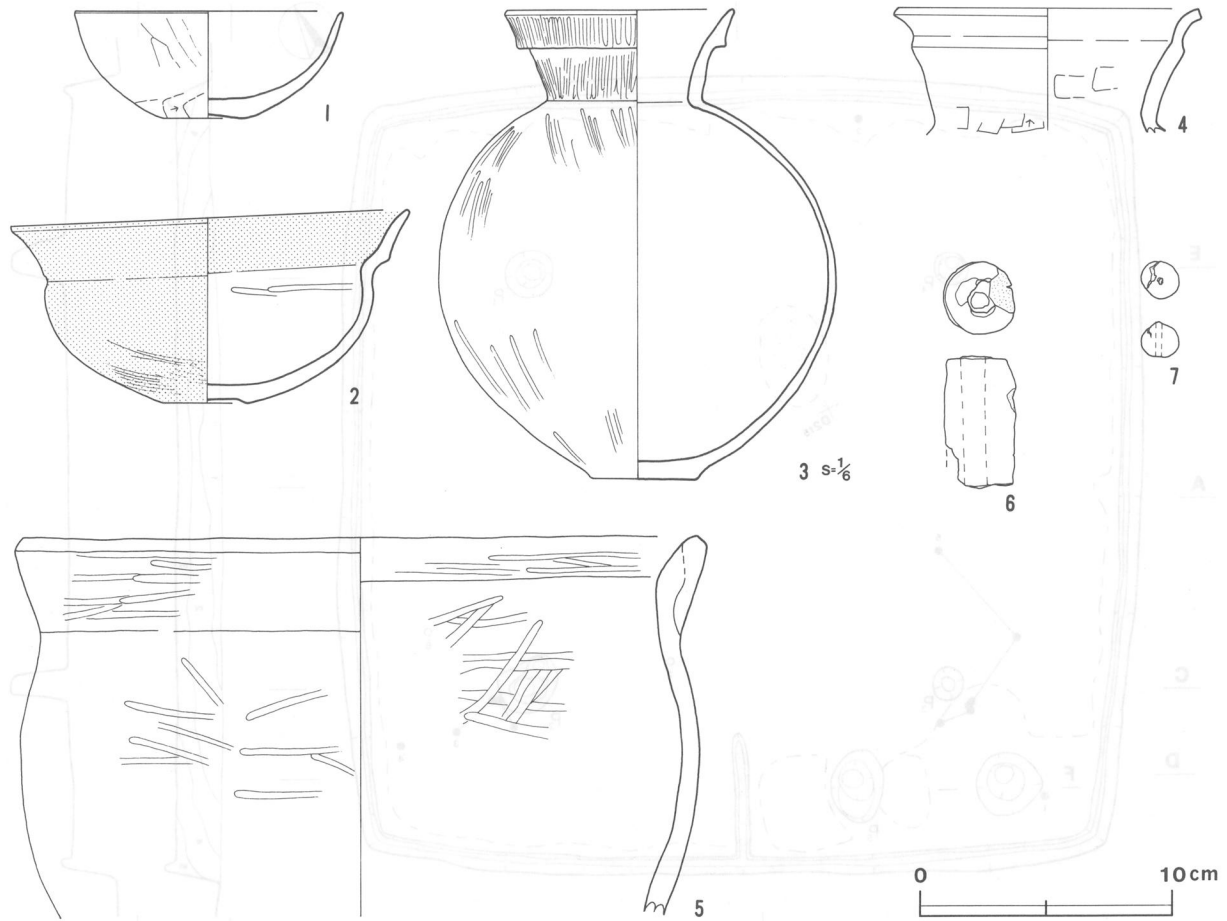
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第195図 第103号住居跡実測図

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 1	椀 土師器	A 10.6 B 4.2 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P542 95% PL72 南コーナー部床面 体部内面刻離



第196図 第103号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 2	土師器	A 15.8	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P543 100% PL71 北西壁際西コーナー寄り床面
		B 7.5				
		C 3.6				
3	土師器	A 18.3	突出した平底。体部はやや縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外傾する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P546 70% PL71 東コーナー部床面
		B 37.3				
		C 8.5				
4	土師器	A 12.0	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。口縁部下位に稜をもつ。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面、頸部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P545 5% 東コーナー部覆土中層
		B (4.8)				
5	土師器	A 27.4	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外傾する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P544 20% PL71 南コーナー部覆土中層 体部内面剝離
		B (15.0)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第196図6	管状土錘	5.3	2.9	—	1.0	(42.9)	東コーナー部覆土中層	DP136
7	土玉	1.5	1.5	—	0.2	2.6	南寄り床面	DP137

第104号住居跡 (第197図)

位置 調査区西部, D2is区。

重複関係 本跡は東コーナー部が第113号土坑を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸3.18mの方形である。

主軸方向 N-49°-W

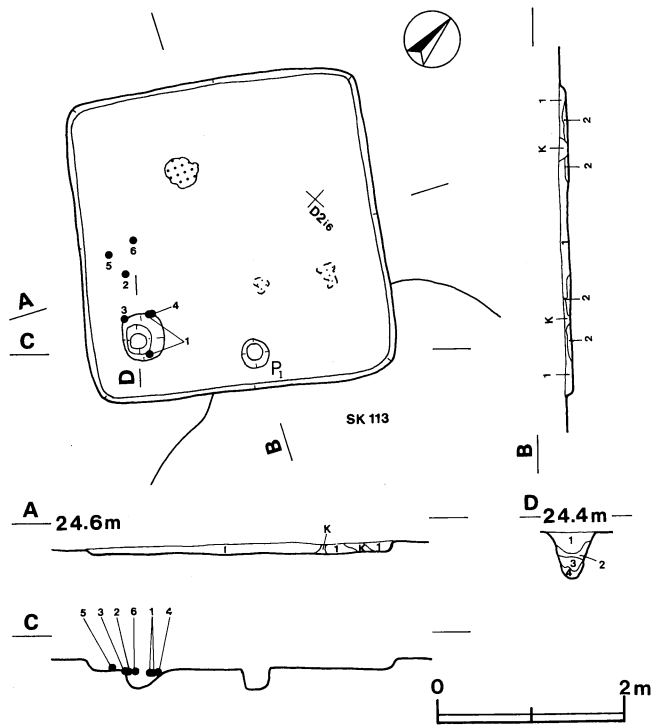
壁 壁高は13cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 出入り口部周辺が踏み固められている。

ピット P₁は径30cmの円形, 深さ24cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径35cm, 短径30cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸50cm, 短軸45cmの隅丸方形で, 深さは53cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形はU字状である。



第197図 第104号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

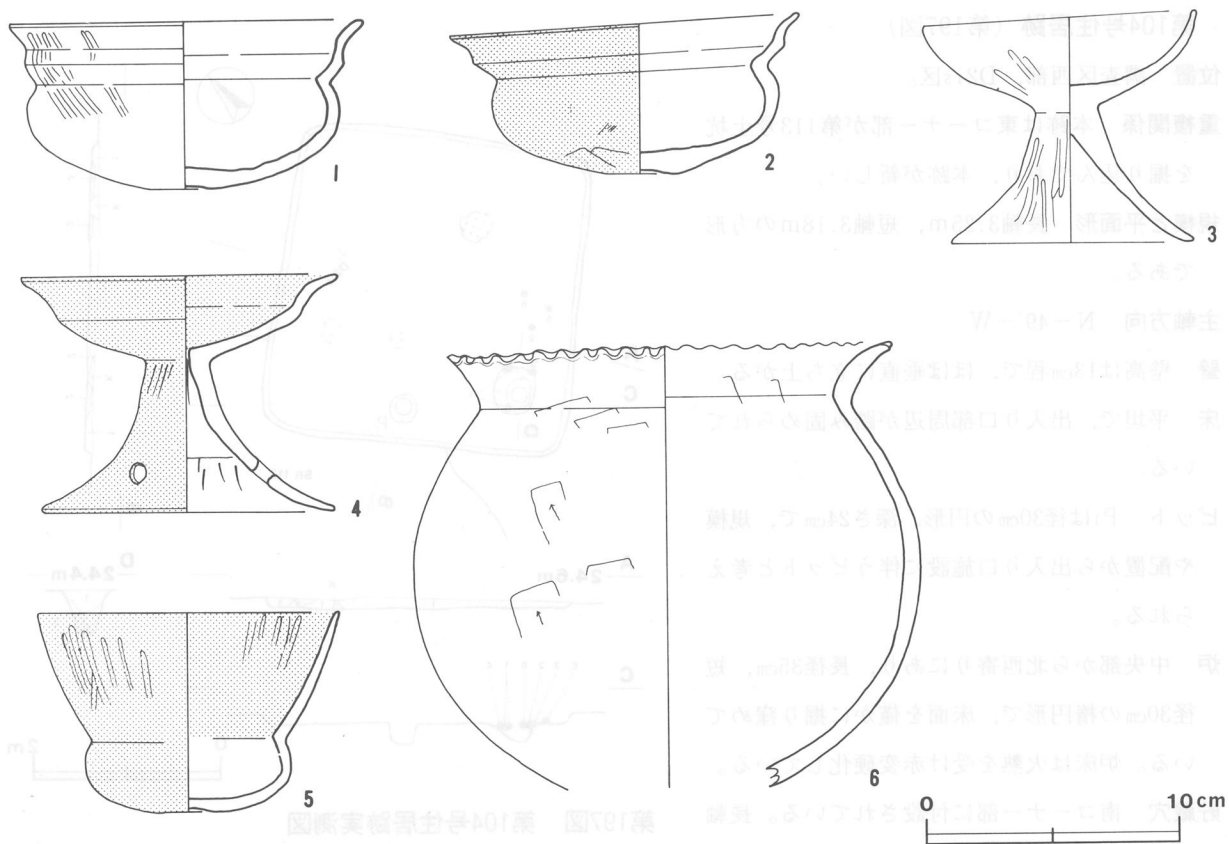
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 主に南西壁際の中央部から南コーナー部にかけての住居跡南部の床面から土師器が出土している。1の鉢は逆位, 3の高坏及び4の器台は正位の状態以南コーナー部の床面から, 2の鉢, 5の埴及び6の甕は正位の状態以南西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 1	鉢 土師器	A 14.0	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英 明褐色 普通	P547 80% PL72 南コーナー部床面 二次焼成, 体部内面剝離
		B 6.6				
		C 2.3				
2	鉢 土師器	A 13.8	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剝離のため調整不明。口縁部から体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P548 80% PL72 南西壁寄り床面 二次焼成, 体部内・外面剝離
		B 6.3				
		C 2.7				



第198図 第104号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 3	高土師器	A 10.8 B 9.2 D 9.6 E 5.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部、脚部外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英 赤褐色 普通	P549 100% PL72 南コーナー部床面 二次焼成、坏部内面剥離
4	器台土師器	A 12.5 B 9.3 D 11.6 E 5.9	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。脚部外面へラ削り後へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P550 95% PL72 南コーナー部床面 二次焼成、器受部内・外面剥離
5	柑土師器	A 11.9 B 7.9	丸底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P551 40% PL72 南西壁寄り床面 体部内面剥離
6	甕土師器	A 17.7 B (17.5)	底部欠損。体部は球状で、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 黒色 普通	P552 70% PL72 南西壁寄り床面 体部内面剥離・外面煤附着

第105号住居跡 (第199図)

位置 調査区西部、D2h4区。

重複関係 本跡は南部を第102号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸3.80m、短軸3.20mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は15cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から南東寄りにあり、長径68cm、短径45cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

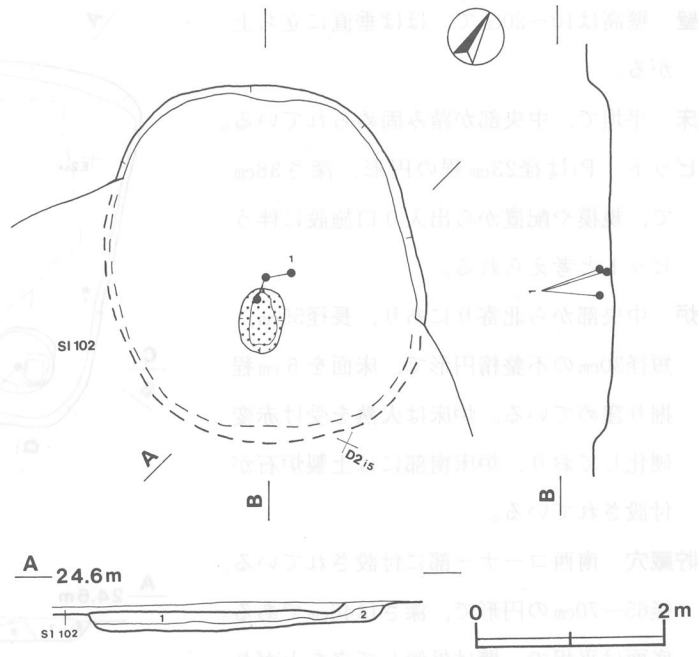
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

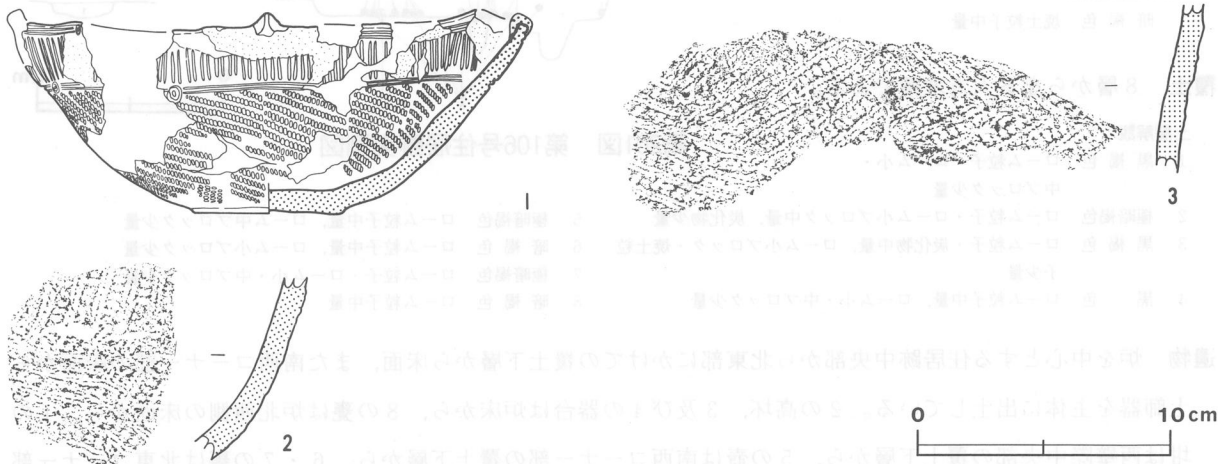
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 炉を中心とする住居跡のほぼ中央部の床面から縄文土器の深鉢・浅鉢片29点及び少量の石が出土している。1の浅鉢は炉の北側から西側にかけての床面から散在した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。



第199図 第105号住居跡実測図



第200図 第105号住居跡出土遺物実測・拓影図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第200図 1	浅鉢 縄文土器	A [20.7]	底部は無文で平底。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	長石・スコリア	P553 90% PL73 炉北側～西側床面 繊維土器
		B 8.0	胴部下位に単節LRの羽状縄文が、口縁部には縦位の沈線が施されている。	褐色	
		C 5.9		普通	

第200図2・3は、第105号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2・3は胴部片で、直前段合燃りの縄文が施されている。

第106号住居跡（第201図）

位置 調査区西部，E2a4区。

規模と平面形 長軸3.75m，短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は10~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径23cm程の円形、深さ38cmで、規模や配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径55cm、短径30cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径65~70cmの円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

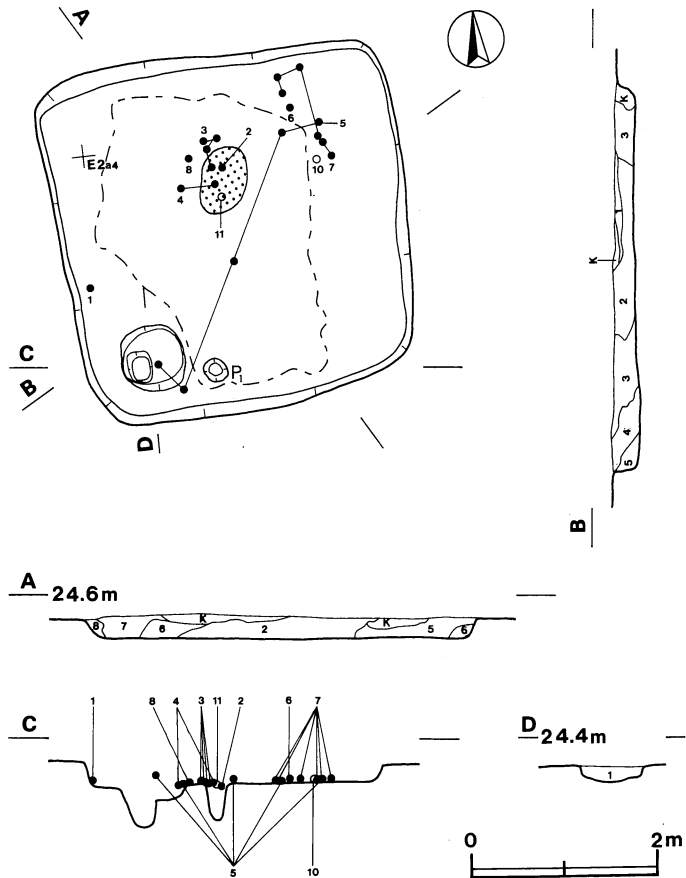
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 炉を中心とする住居跡中央部から北東部にかけての覆土下層から床面、また南西コーナー部の床面から土師器を主体に出土している。2の高坏、3及び4の器台は炉床から、8の甕は炉北西側の床面から、1の罎は西壁際中央部の覆土下層から、5の壺は南西コーナー部の覆土下層から、6・7の甕は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。炉床南部からは11の土製炉石が炉の長径に対して直交した状態で出土している。

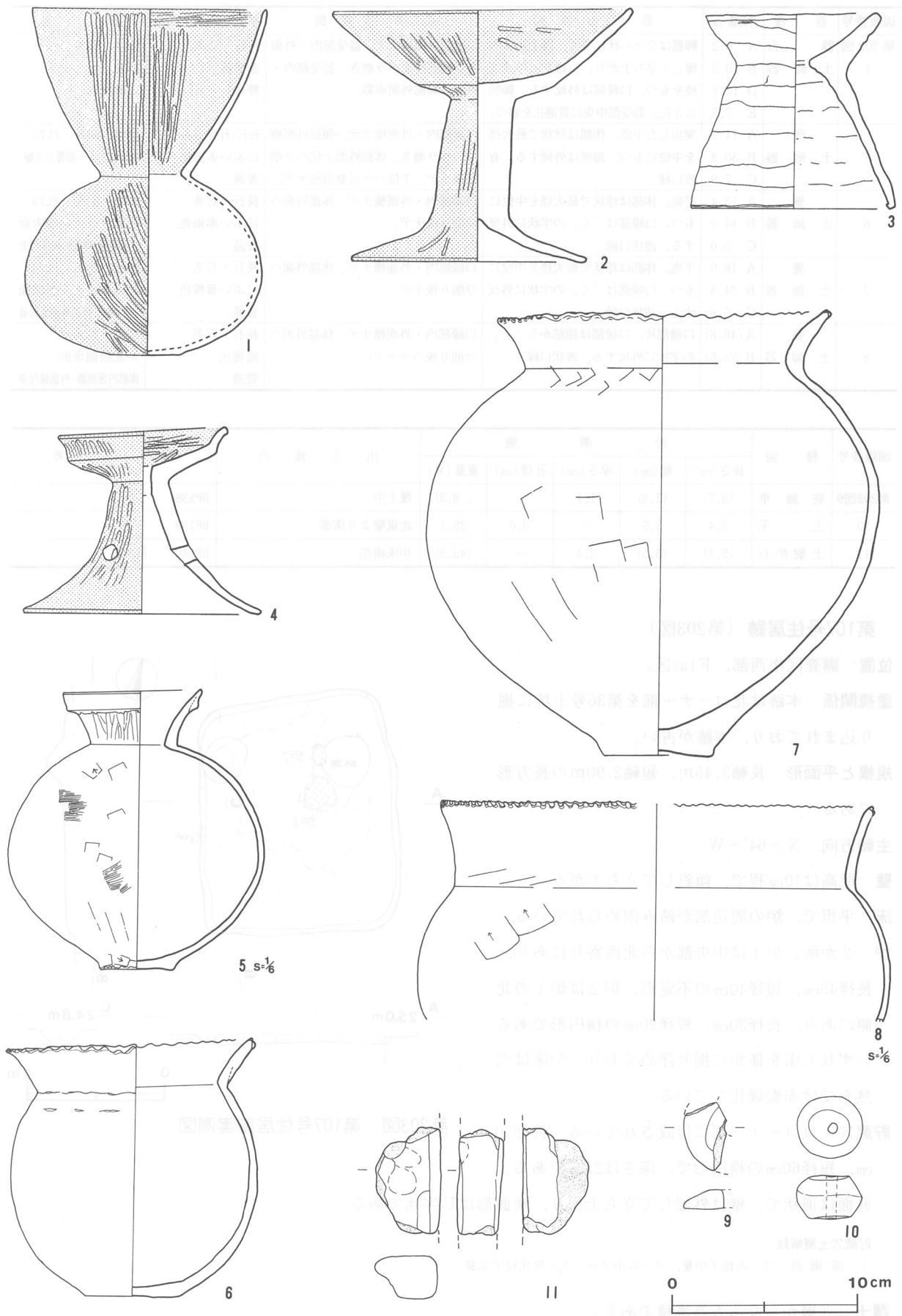
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	罎 土師器	A 12.8	平底。体部はやや偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面，体部外面へラ磨き。 口縁部内・外面，体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P557 100% PL72 西壁際中央部覆土下層
		B 18.7				
		C 3.8				
2	高坏 土師器	A 16.5	脚部は中実柱状で、裾部は横方向に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	坏部内・外面，脚部及び裾部外面へラ磨き。坏部から脚部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P554 70% PL72 炉床 二次焼成
		B 13.7				
		D 12.9				
		E 8.7				
3	器台 土師器	A 9.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面及び脚部内・外面ナデ。頸部に指頭圧痕，脚部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P555 90% PL73 炉床 二次焼成
		B 10.6				
		D 11.0				
		E 7.3				



第201図 第106号住居跡実測図



第202図 第106号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 4	土師器 台	A 9.2 B 10.3 D 12.8 E 7.3	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P556 95% PL73 炉床 二次焼成
5	土師器 壺	A 14.9 B 30.3 C 7.9	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。頸部は外傾する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のヘラ磨き。体部外面上位ヘラ削り後ナデ、下位ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P558 60% PL72 南西コーナー部覆土下層
6	土師器 甕	A 13.4 B 14.0 C 5.0	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P559 80% PL73 北東コーナー部床面 二次焼成、体部外面煤付着
7	土師器 甕	A 18.0 B 24.3 C 5.8	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P560 70% PL73 北東コーナー部床面 二次焼成、体部外面煤付着
8	土師器 甕	A (46.8) B (23.5)	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 暗褐色 普通	P561 10% 炉北西側床面 体部内面剥離・外面煤付着

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第202図9	紡錘車	(3.7)	(2.3)	1.1	—	(8.3)	覆土中	DP138
10	土玉	2.4	3.5	—	0.6	28.1	北東壁より床面	DP139
11	土製炉石	(5.7)	(3.5)	2.4	—	(43.9)	炉床南部	DP140 PL103

第107号住居跡（第203図）

位置 調査区南西部，Fla9区。

重複関係 本跡は北コーナー部を第36号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.45m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向 N-64°-W

壁 壁高は10cm程で、傾斜して立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部から北西寄りにあり、長径45cm，短径40cmの不定形，炉2は炉1の北側にあり、長径30cm，短径20cmの楕円形である。いずれも床を僅かに掘り窪めており、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

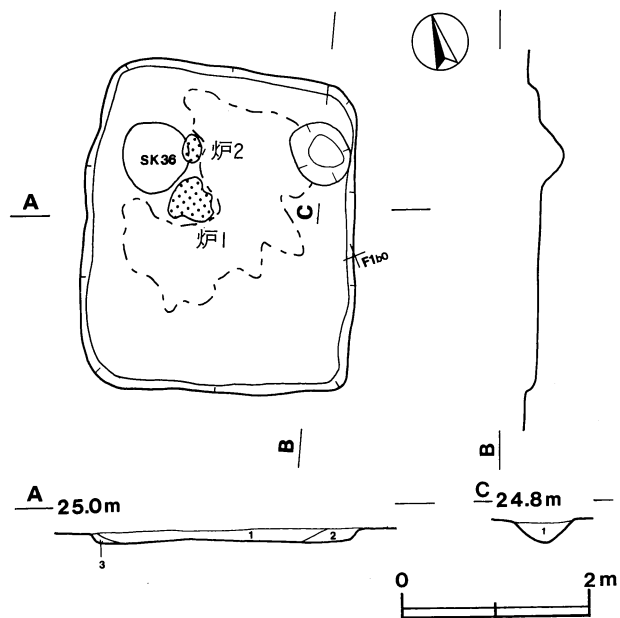
貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径70cm，短径60cmの楕円形で、深さは25cmである。

底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土 3層からなる人為堆積である。



第203図 第107号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第108号住居跡 (第204図)

位置 調査区西端部, E2b2区。

重複関係 本跡は、貯蔵穴が第79号土坑の覆土を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.70m, 短軸5.55mの方形である。

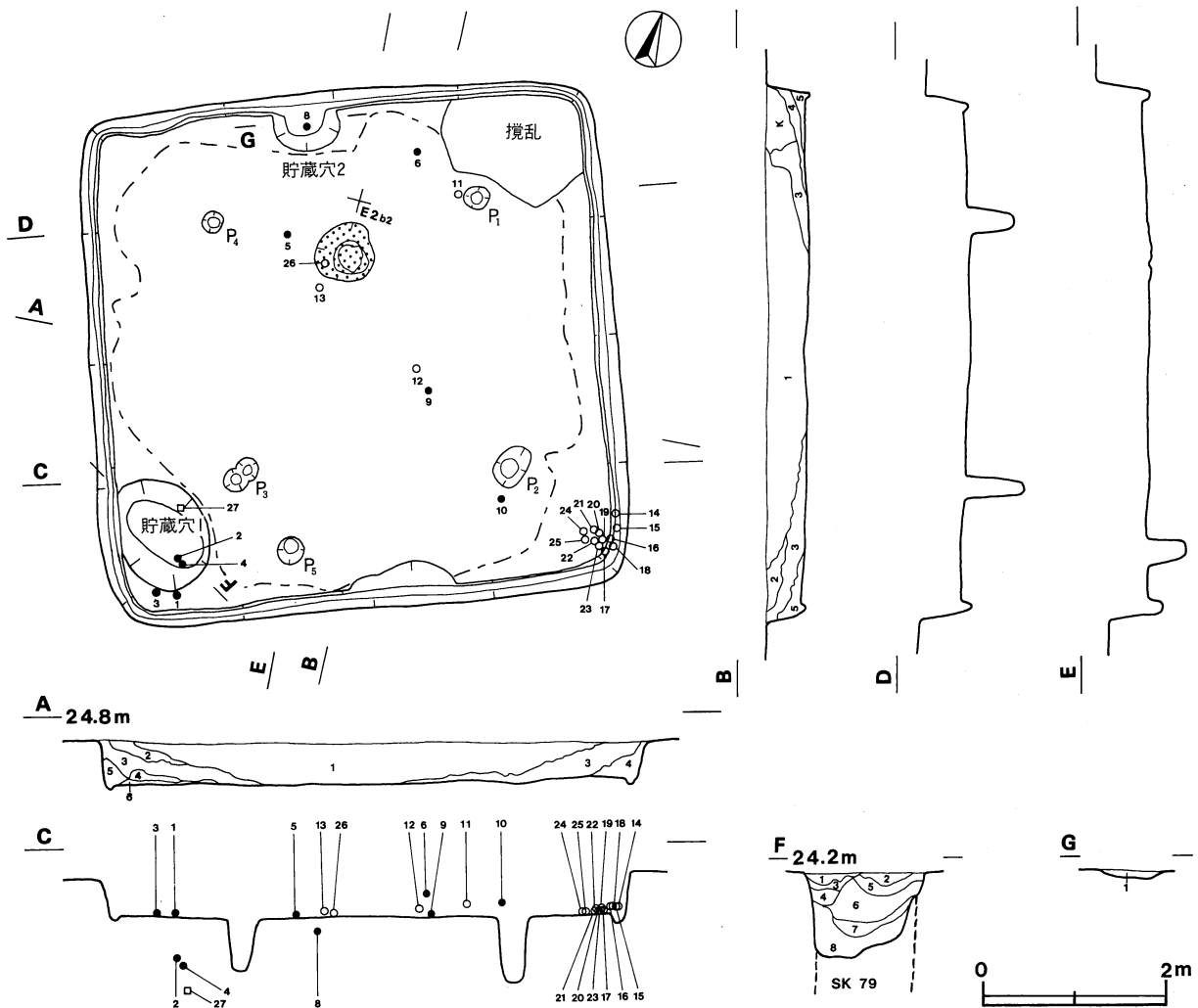
主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は42~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm, 深さ10cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、四方の壁寄りの床面が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄(P₃については配置換えの跡とみられP₃-A・Bとした)は長径25~45cm,



第204図 第108号住居跡実測図

短径22~30cmの円形ないし楕円形、深さ46~72cmで、いずれも支柱穴、P₅は径30cm程の円形、深さ42cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、径65cmのほぼ円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。第79号土坑と重複しており、その覆土上層を掘り込み、貯蔵穴として再利用したと考えられる。正確な規模は不明であるが、土層断面と遺物出土状況から深さは90cm程と思われる。貯蔵穴2は北壁下のほぼ中央部に付設されている。長径70cm、短径40cmの半円形で、深さは15cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム小ブロック・焼土小・中ブロック中量 | 7 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 |

貯蔵穴2土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

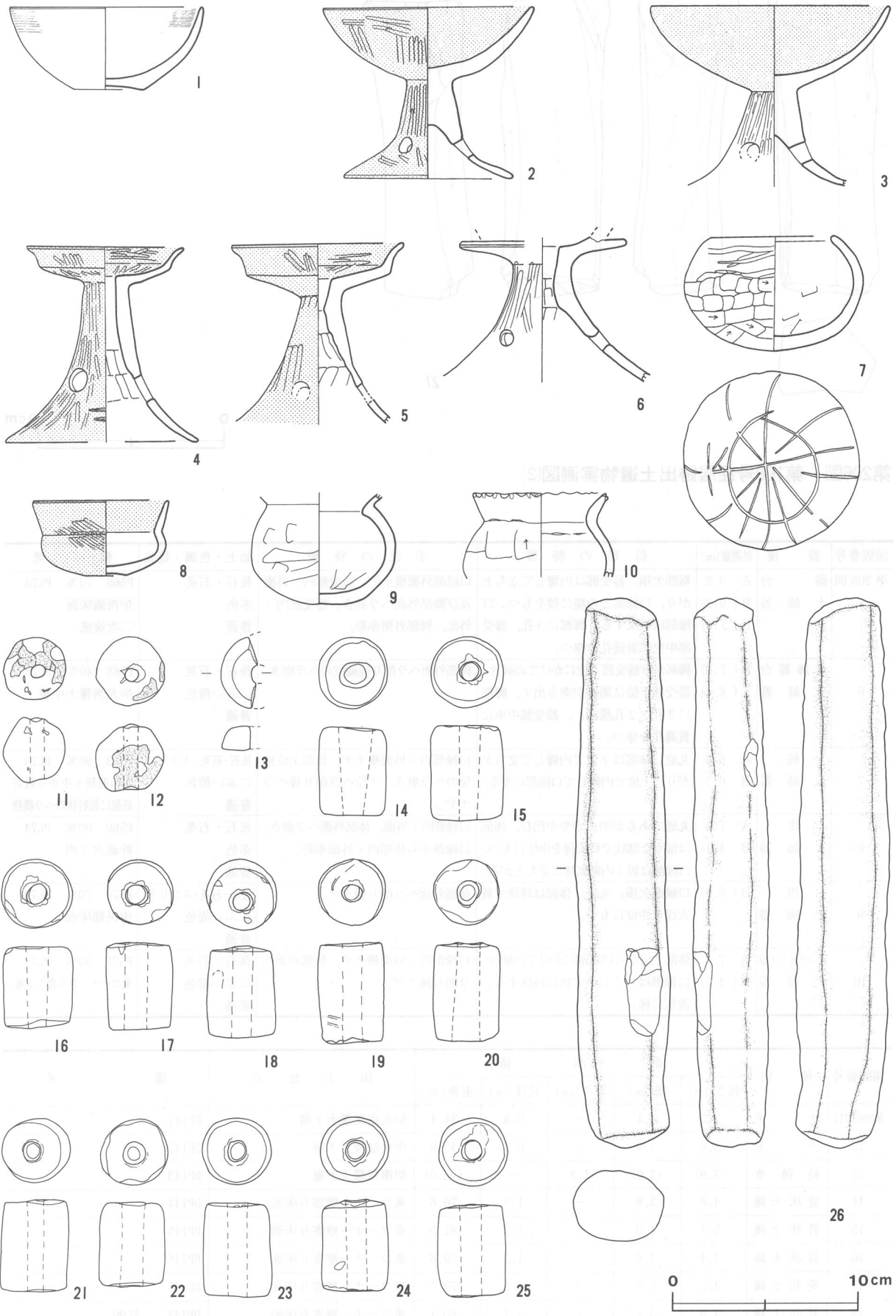
- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化物中量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 6 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 床面全体から土師器及び土製品が出土している。また、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて炭化材及び焼土塊が出土している。1の椀及び3の高坏は南コーナー部の床面から、2の高坏、4の器台及び27の砥石は貯蔵穴1内から、8の罎は貯蔵穴2内から、5の器台は炉西側の床面から、6の装飾器台は炉北側の覆土中層から、9の罎は中央部の床面から、10のミニチュア土器は東コーナー寄りの覆土下層から、7の椀は北西部の覆土中から散在した状態で、14~25の管状土錘は東コーナー壁際の覆土中層から床面にかけて集中した状態でそれぞれ出土している。炉床南部からは26の土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

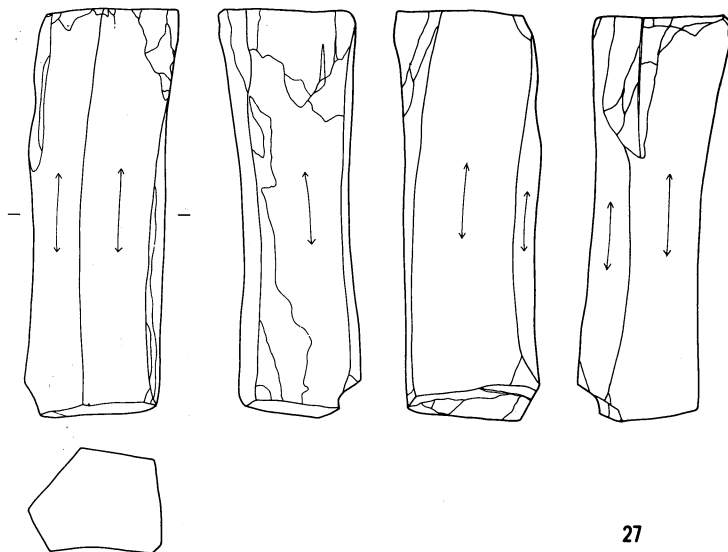
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第108号住居跡出土遺物観察表

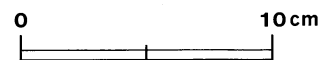
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	椀 土師器	A 10.4	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P562 90% PL74 南コーナー部床面
		B 4.4				
		C 3.8				
2	高坏 土師器	A 11.5	脚部は短い中実柱状で、裾部は横方向に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部及び裾部外面へラ磨き。坏部内・外面赤彩、脚部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P565 100% PL73 貯蔵穴1内
		B 9.3				
		D 9.3				
		E 5.3				
3	高坏 土師器	A 13.0	裾部欠損。脚部は短い中実柱状。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部外面へラ磨き。坏部内・外面、脚部外面赤彩痕。	長石・石英 暗赤色 普通	P564 70% PL73 南コーナー部床面 二次焼成
		B(9.8)				
		E(5.2)				
4	器台 土師器	A 8.5	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面及び脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P567 90% PL73 貯蔵穴1内 二次焼成
		B 10.7				
		D[10.4]				
		E 8.7				



第205图 第108号住居跡出土遺物実測図(1)



27



第206図 第108号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 5	器台 土師器	A 9.2 B (9.8) E (7.2)	裾部欠損。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面及び脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P566 70% PL73 炉西側床面 二次焼成
6	装飾器台 土師器	B (7.8) E (6.4)	脚部から器受部下位にかけての破片。器受部下位は周縁が突き出す。脚部に3孔(2孔現存)、器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面へラ削り後縦位のへラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P568 40% PL73 炉北側覆土中層
7	碗 土師器	A 6.6 B 6.3	丸底。体部は下位で内彎して立ち上がり、上位で内傾して口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位横位のへラ磨き、下位へラ削り後へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P563 90% PL73 北西部覆土中から散在 底部に放射状のへラ模様
8	埴 土師器	A 7.4 B 4.1	丸底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は短く内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P569 90% PL74 貯蔵穴2内
9	埴 土師器	B (6.0)	口縁部欠損。丸底。体部は球状で最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P570 70% PL73 中央部床面
10	ミニチュア土師器	A 7.3 B (4.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P571 40% PL74 東コーナー寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図11	土玉	3.5	3.4	—	0.8	34.1	炉北東側覆土下層	DP141
12	土玉	3.6	3.9	—	0.7	43.9	中央部覆土下層	DP142
13	紡錘車	(3.9)	(2.0)	1.3	—	(8.0)	炉南側覆土下層	DP143
14	管状土錘	4.8	3.8	—	1.9	70.6	東コーナー壁寄り床面	DP144
15	管状土錘	5.1	4.0	—	1.2	81.5	東コーナー壁寄り床面	DP145
16	管状土錘	4.4	3.8	—	1.2	69.6	東コーナー壁寄り床面	DP146
17	管状土錘	4.7	3.5	—	1.2	72.5	東コーナー壁寄り床面	DP147
18	管状土錘	4.9	3.7	—	1.1	80.1	東コーナー壁寄り床面	DP148 PL99
19	管状土錘	5.3	3.6	—	1.0	83.3	東コーナー壁寄り床面	DP149 PL99

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図20	管状土錘	5.3	3.6	—	1.2	76.1	東コーナー壁寄り床面	DP150 PL99
21	管状土錘	4.9	3.7	—	0.9	72.0	東コーナー壁寄り床面	DP151 PL99
22	管状土錘	4.5	3.7	—	1.3	64.1	東コーナー壁寄り床面	DP152 PL99
23	管状土錘	5.1	3.7	—	1.0	74.4	東コーナー壁寄り床面	DP153 PL99
24	管状土錘	5.0	3.6	—	1.1	65.4	東コーナー壁寄り床面	DP154 PL99
25	管状土錘	5.1	3.8	—	1.1	70.9	東コーナー壁寄り床面	DP155 PL99
26	土製炉石	30.0	4.8	4.2	—	672.7	炉床南部	DP156 PL98

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第206図27	砥石	16.1	6.0	4.1	681.6	安山岩	貯蔵穴1内	Q74 PL105

第109号住居跡 (第207図)

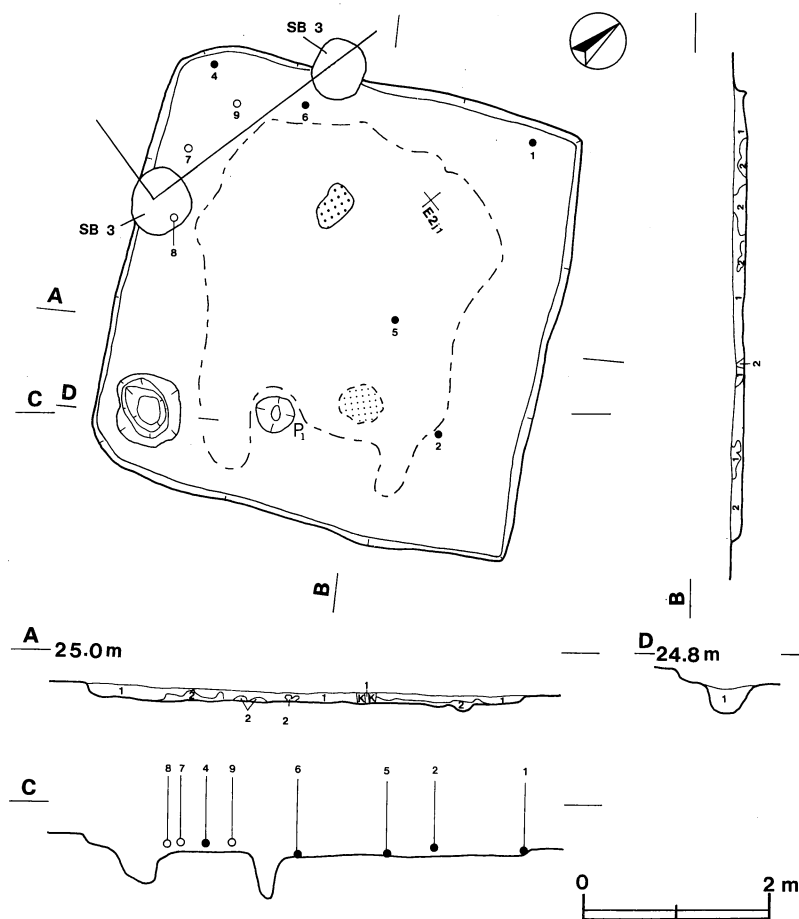
位置 調査区南西部, E1j0区。

重複関係 本跡は西部を第3号掘立柱建物跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

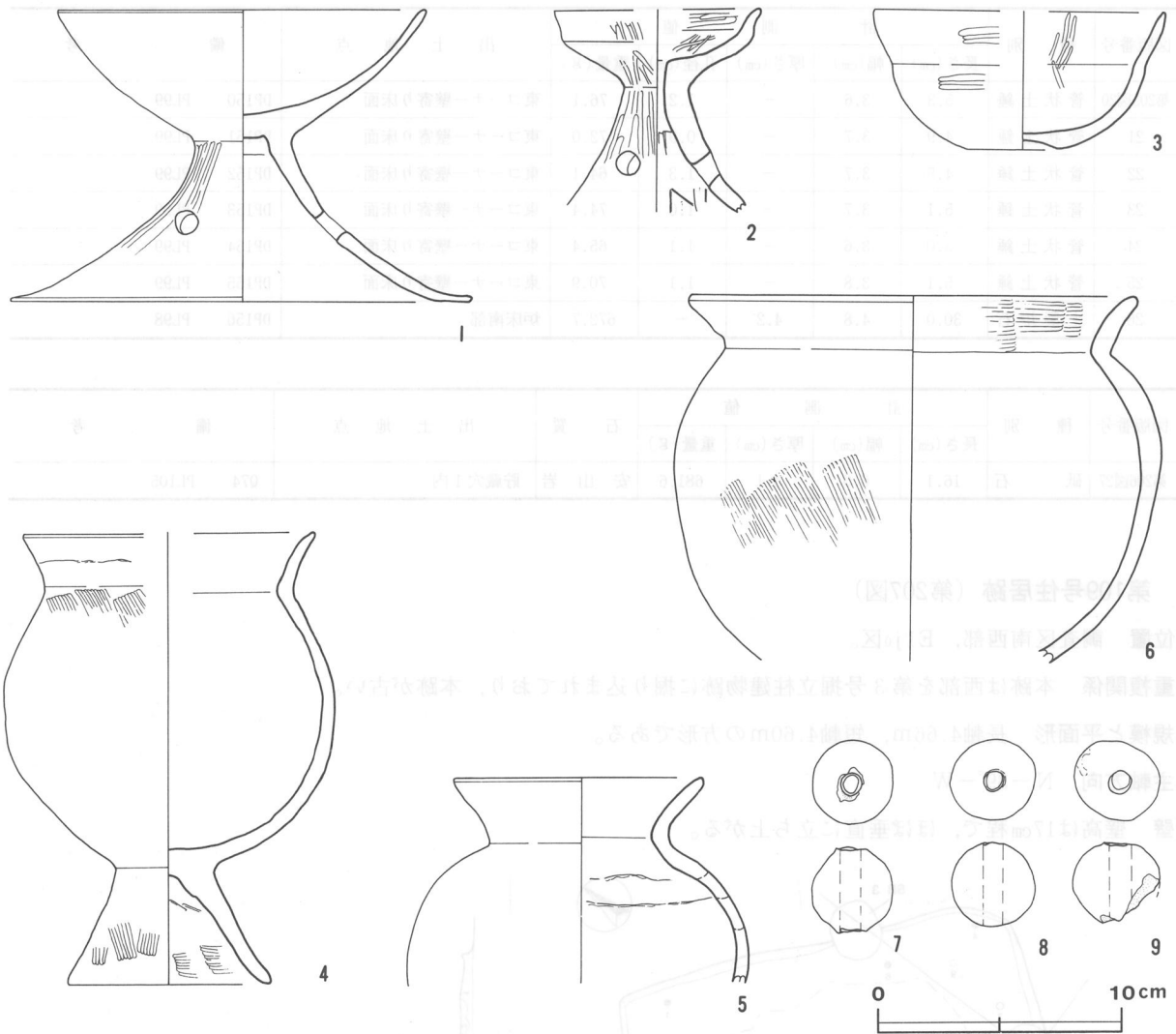
規模と平面形 長軸4.66m, 短軸4.60mの方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は17cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。



第207図 第109号住居跡実測図



第208図 第109号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1は径40cm程の円形、深さ47cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径50cm、短径35cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径80cm、短径65cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子少量

遺物 主に炉の北側を中心とした北西壁寄りの床面と南コーナー部の床面から土師器が出土している。1の高坏は北コーナー部の床面から、2の器台は東コーナー寄りの覆土中層から、4の台付甕は西コーナー部の覆土下層から、5の甕は中央部の床面から、6の甕は北西壁際西コーナー寄りの床面から、3の罎は覆土中か

ら散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	高 土 師 器	A 15.1	脚部はラッパ状に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P572 80% PL74 北コーナー部床面
		B 11.9				
		D 19.0				
		E 6.7				
2	器 土 師 器	A〔8.4〕	脚部欠損。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。脚部外面ヘラ削り後縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P573 50% PL74 東コーナー寄り覆土中層 二次焼成
		B(8.3)				
		E(5.0)				
3	埴 土 師 器	A〔12.0〕	平底であるが中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。	口縁部外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P574 40% 覆土中に散在
		B 5.7				
		C 3.8				
4	台 土 師 器	A〔12.0〕	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面、台部外面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P575 70% PL74 西コーナー部覆土下層 二次焼成、体部外面煤附着
		B 18.4				
		D 8.3				
		E 4.6				
5	甕 土 師 器	A 10.4	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P576 30% PL74 中央部床面 二次焼成
		B(8.4)				
6	甕 土 師 器	A 18.4	底部欠損。体部は球状で最大径を上位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面ハケ目整形、外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P577 70% PL74 北西壁際西コーナー寄り床面 二次焼成
		B(15.0)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第208図7	土玉	3.5	3.3	—	0.9	33.5	西コーナー部覆土下層	DP157
8	土玉	3.4	3.4	—	0.8	32.9	南西壁際中央部覆土下層	DP158
9	土玉	(3.3)	3.5	—	0.9	(30.0)	南西壁際西寄り覆土下層	DP159

第110号住居跡（第209図）

位置 調査区西端部，E1h9区。

重複関係 本跡は南部が第111号住居跡を掘り込み、東部を第3号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから、第111号住居跡より新しく、第3号掘立柱建物跡より古い。

規模と平面形 重複と西部が調査区外に延びているため、正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.15m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-20°-W

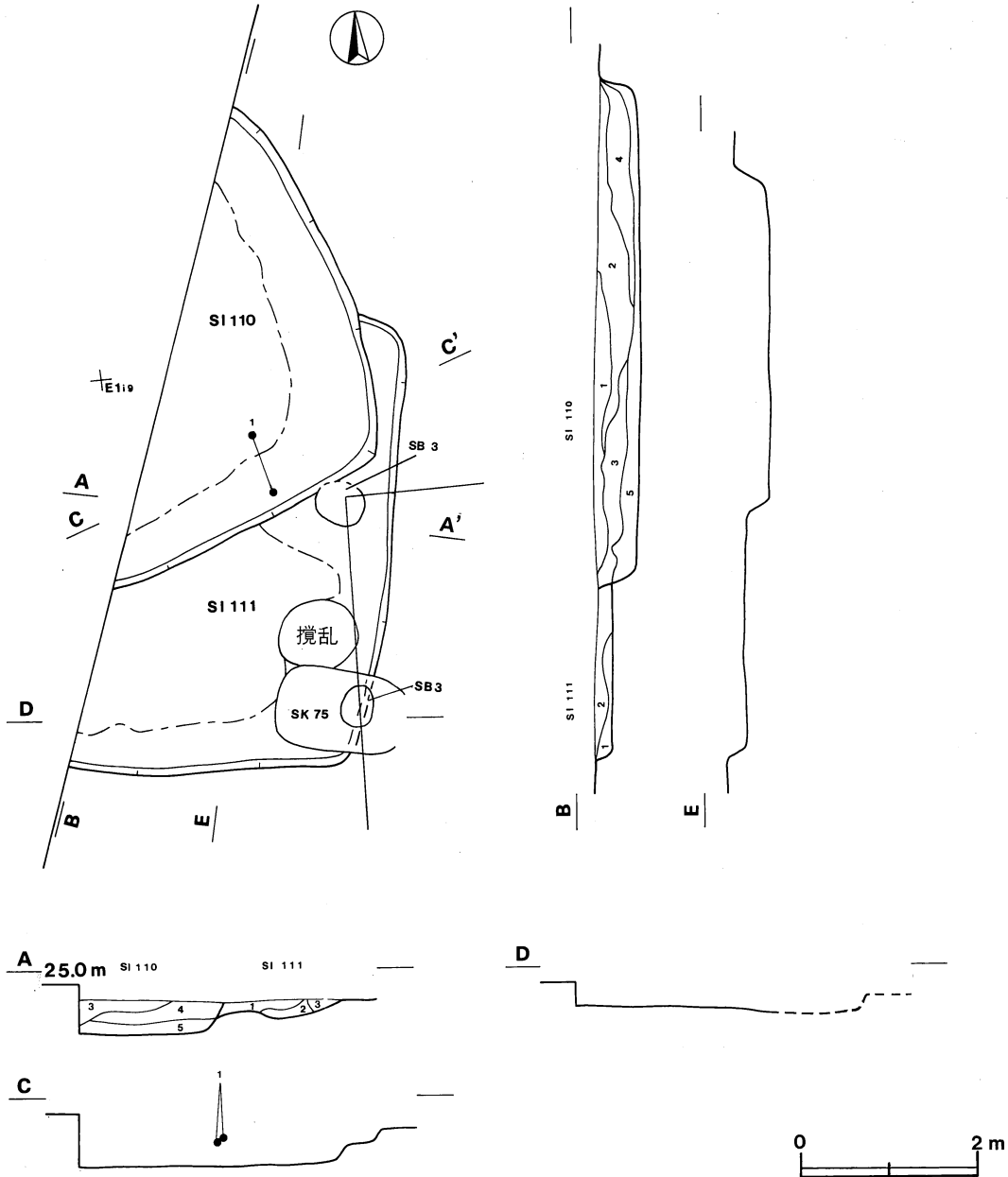
壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

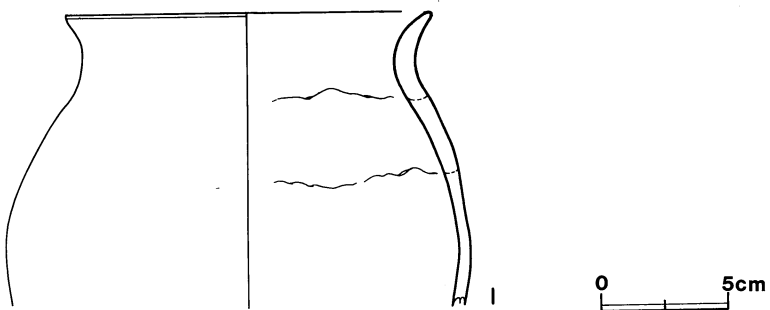
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | | |



第209図 第110・111号住居跡実測図



第210図 第110号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土している。1の甕は南東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 1	甕 土師器	A 14.5 B (11.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面及び体部内・外面剥離のため調整不明。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 明赤褐色 普通	P578 30% PL74 南東コーナー部覆土層 二次焼成, 体部内・外面剝離

第111号住居跡 (第209図)

位置 調査区西端部, E1i9区。

重複関係 本跡は北部を第110号住居跡に, 東部を第3号掘立柱建物跡に, 南東コーナー部を第75号土坑にそれぞれ掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 重複と西部が調査区外に延びているため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺5.10m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は20cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土しているが, いずれも細片である。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが, 遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第112号住居跡 (第211図)

位置 調査区西端部, E1g0区。

重複関係 本跡は南西部が第129号住居跡を, 北東コーナー部が第151号住居跡を掘り込み, 南西コーナー部を第74号土坑に掘り込まれていることから, 第129・151号住居跡より新しく, 第74号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.10mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は11~20cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固められている。

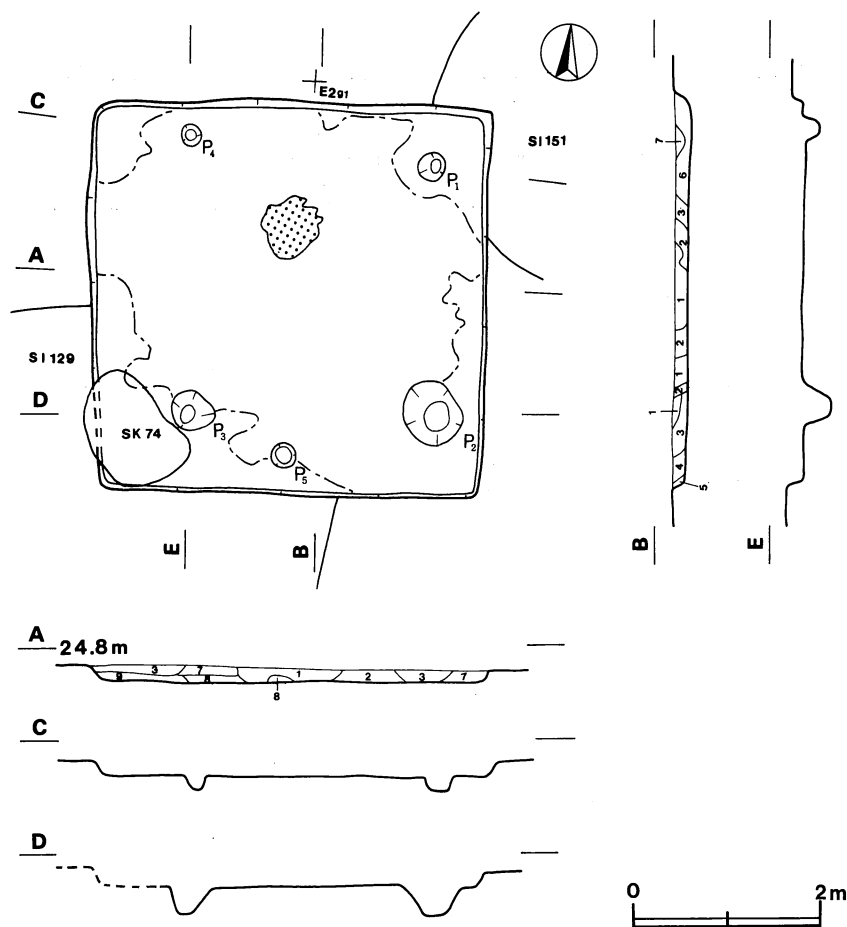
ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径25~70cm, 短径20~60cmの楕円形, 深さ17~33cmで, いずれも主柱穴, P5は径25cmの円形, 深さ22cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり, 長径65cm, 短径60cmの不整形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 8 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
5 黒褐色 ローム粒子中量 9 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量



第211図 第112号住居跡実測図

遺物 床面全体から土師器の甕片を主体にまばらに出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第113号住居跡 (第212図)

位置 調査区南西部, F2b区。

規模と平面形 長軸4.65m, 短軸4.60mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

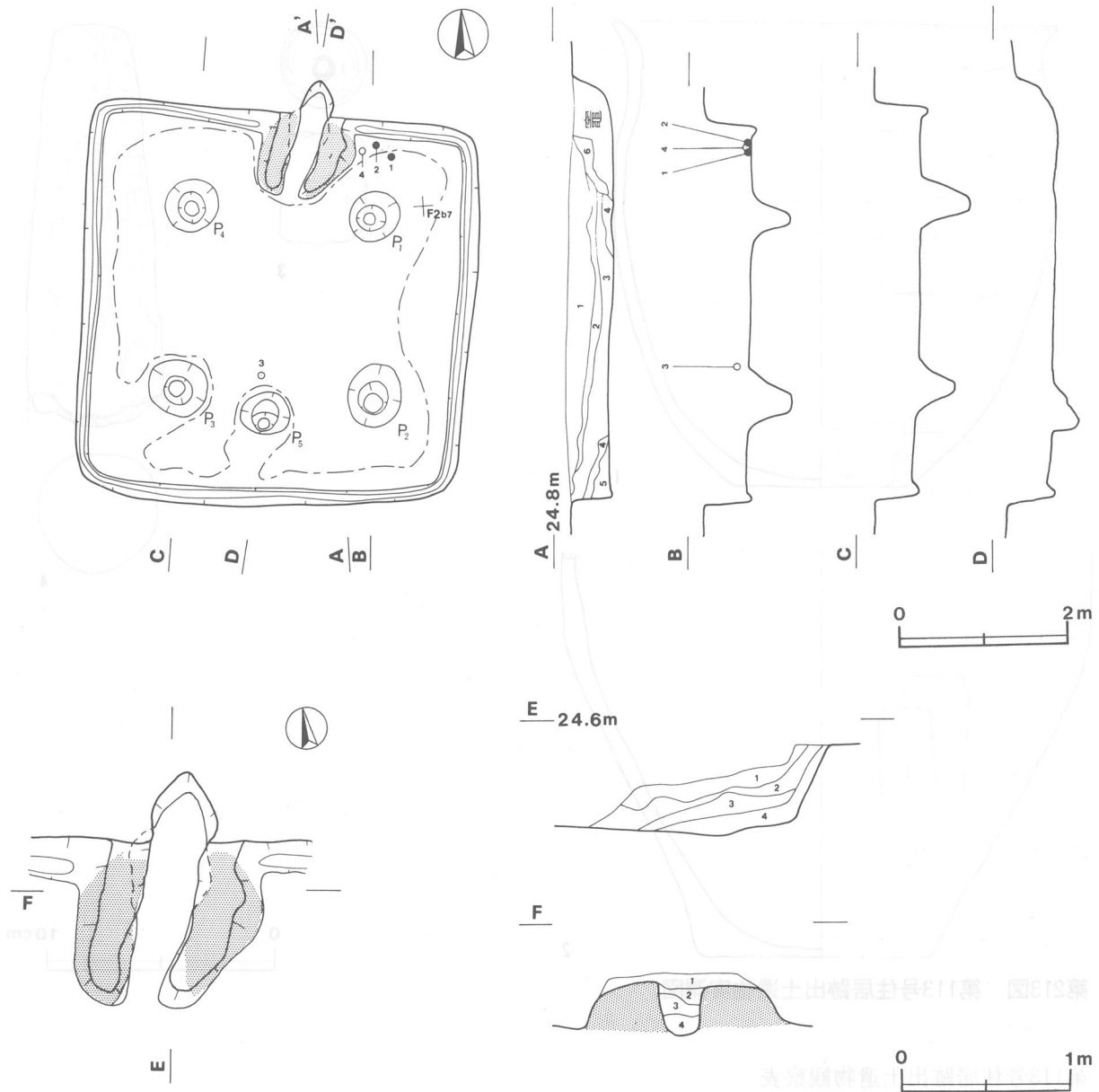
壁 壁高は54cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅8~10cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径60~70cm, 短径55~60cmの円形あるいは楕円形, 深さ44~57cmで、いずれも支柱穴, P₅は径55cmの円形, 深さ32cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に40cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ140cm, 幅110cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。



第212図 第113号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | 3 黄褐色 焼土粒子・砂粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中・大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 砂粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物少量 | 4 赤褐色 焼土粒子・焼土小・中・大ブロック多量 |

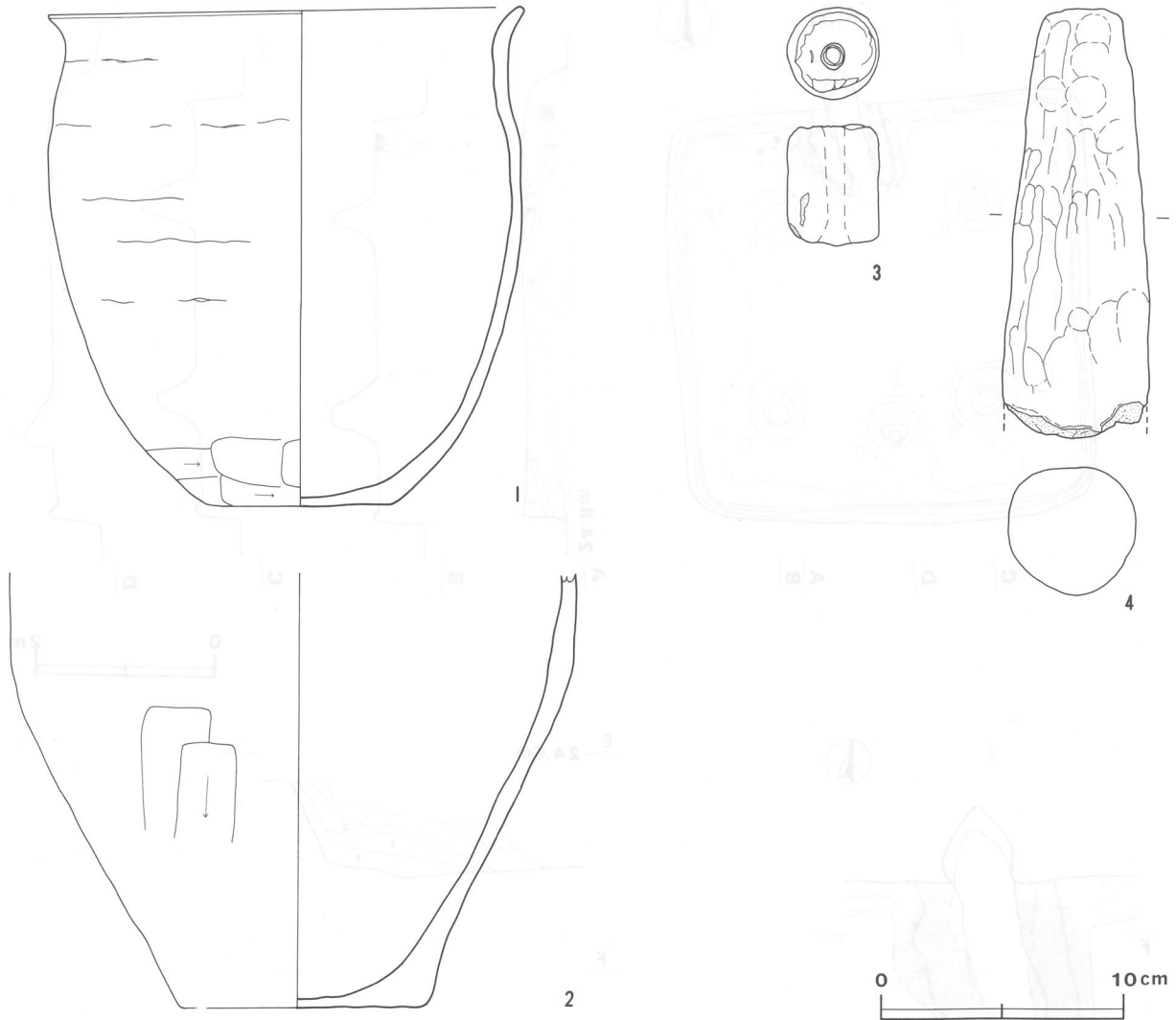
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量 | 6 黄褐色 砂粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 竈周辺の床面から甕等の土師器が出土している。また、四方の壁寄りの床面から炭化材と焼土塊が出土している。1・2の甕及び4の支脚は竈右袖部東側の床面から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われる。



第213図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	甕 土師器	A 19.7 B 20.7 C 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英 黒褐色 普通	P579 80% PL76 竈右裾部東側床面 二次焼成, 体部外面煤付着
2	甕 土師器	B (17.9) C 10.0	体部中位から底部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P580 40% PL74 竈右裾部東側床面 二次焼成, 体部外面煤付着

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第213図3	管状土錘	5.0	3.9	—	0.9	85.1	出入り口部覆土下層	DP160	PL99
4	支脚	(17.8)	6.0	—	—	(499.5)	竈右袖部東側床面	DP161	PL99

第114号住居跡（第214図）

位置 調査区中央部，E2a9区。

重複関係 本跡は北西壁が第116号住居跡を，南西壁が第117号住居跡を，北東壁が第127号住居跡を掘り込み，中央部から北東壁にかけて第115号住居跡に掘り込まれていることから，第116・117及び第127号住居跡より新しく，第115号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.95m，短軸6.80mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は52～70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅7～20cm，深さ8cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，出入り口周辺から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は長径55～70cm，短径45～65cmの楕円形，深さ67～84cmで，いずれも主柱穴，P₅は径50cm程の円形，深さ27cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部を壁外に55cm程掘り込み，砂質粘土で構築している。規模は長さ140cm，幅100cmである。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は浅い皿状で，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黄褐色 炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒子少量 | 4 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 2 赤褐色 炭化粒子多量，炭化物・焼土粒子中量，砂粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | 6 褐色 炭化物中量，焼土粒子少量 |

貯蔵穴 北西壁際の西コーナーと竈の間に付設されている。径70cm程の円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

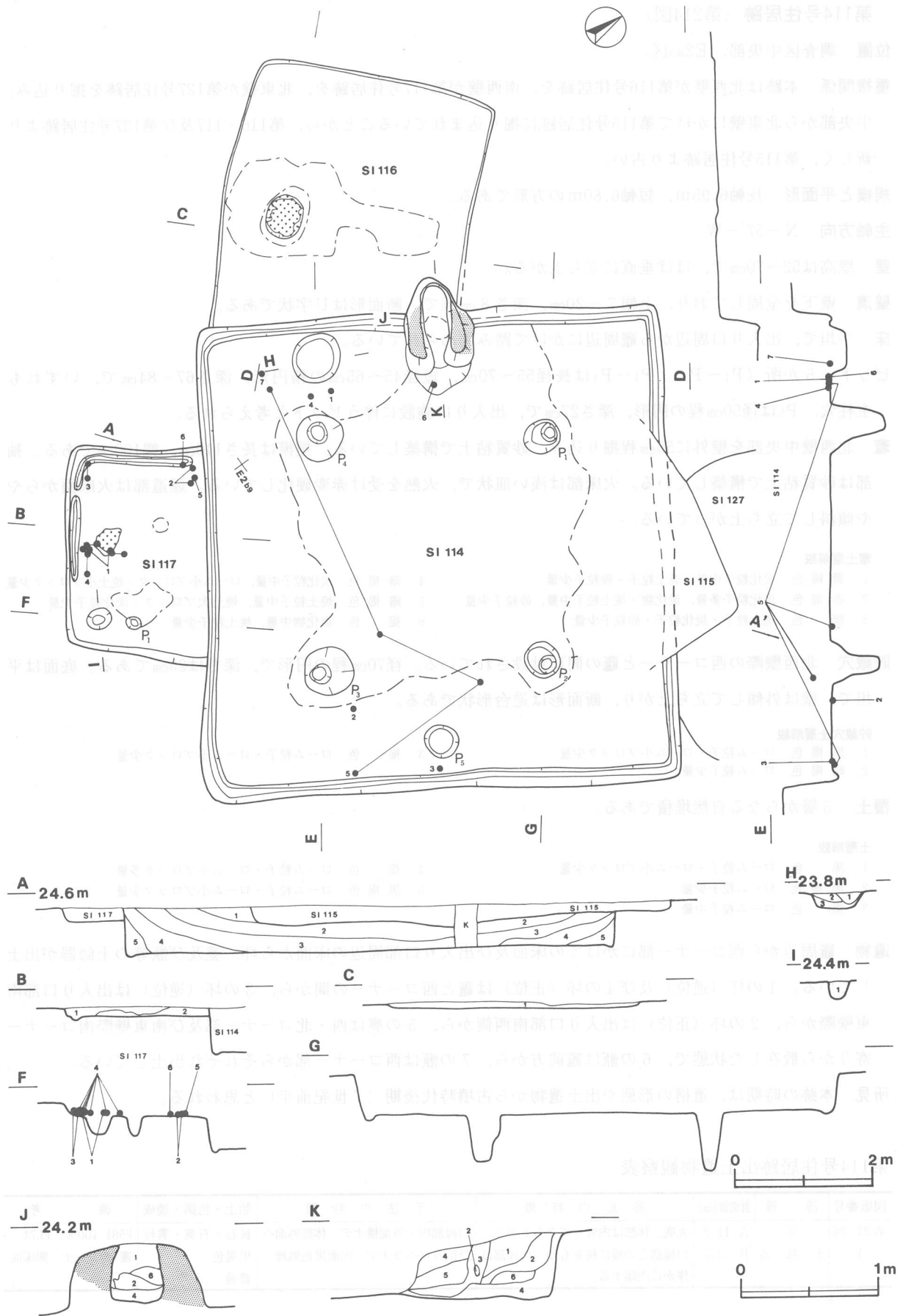
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 黒色 ローム粒子中量 | |

遺物 竈周辺から西コーナー部にかけての床面及び出入り口部周辺の床面から坏，甕及び甗等の土師器が出土している。1の坏（逆位）及び4の坏（正位）は竈と西コーナーの間から，3の坏（逆位）は出入り口部南東壁際から，2の坏（正位）は出入り口部南西側から，5の甕は西・北コーナー部及び南東壁際南コーナー寄りから散在した状態で，6の甗は竈前方から，7の甗は西コーナー部からそれぞれ出土している。

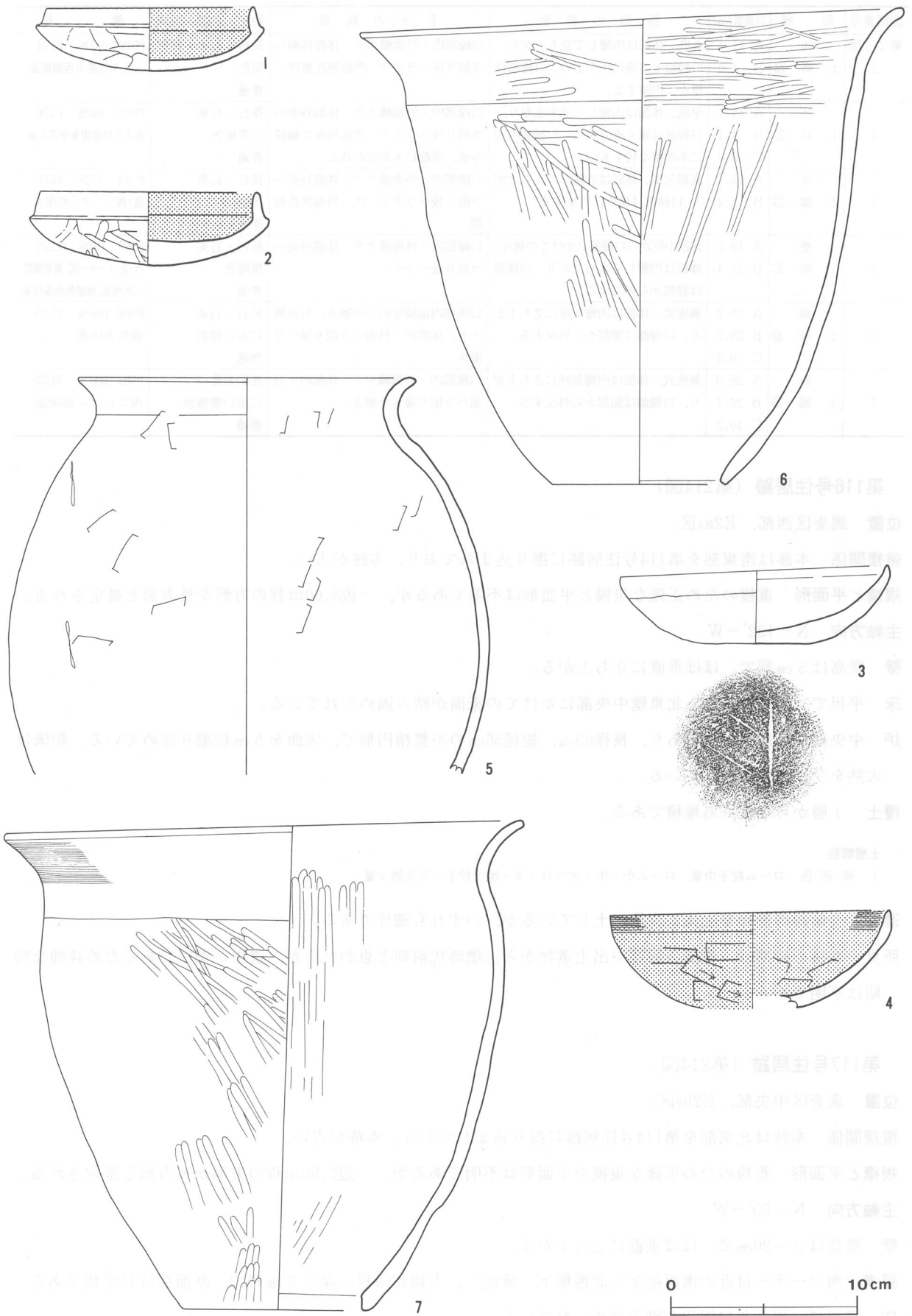
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 1	坏 土師器	A 11.2 B 3.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P581 100% PL74 竈・西コーナー間床面



第214図 第114・116・117号住居跡実測図



第215図 第114号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 2	坏 土師器	A 11.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒色 普通	P582 90% PL74 出入り口部南西側床面
		B 4.0				
3	坏 土師器	A 14.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。口縁部内面に不明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部外面に輪積み痕、底部に木葉痕が残る。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P583 90% PL76 出入り口部南東壁際床面
		B 4.1				
		C 5.7				
4	坏 土師器	A 15.1	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 黒色 普通	P584 70% PL76 竈・西コーナー間床面
		B (5.4)				
5	甕 土師器	A 18.2	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P585 20% PL75 西・北コーナー部、南東壁際 二次焼成、体部外面煤付着
		B (21.4)				
6	甗 土師器	A 29.2	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内面横位のヘラ磨き、外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P586 100% PL75 竈前方床面
		B 25.7				
		C 9.4				
7	甗 土師器	A 28.0	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P587 100% PL75 西コーナー部床面
		B 26.7				
		C 10.2				

第116号住居跡（第214図）

位置 調査区西部，E2a8区。

重複関係 本跡は南東部を第114号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが，一辺3.60m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-132°-W

壁 壁高は5cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉の周辺から北東壁中央部にかけての床面が踏み固められている。

炉 中央部から南西寄りにあり，長径65cm，短径55cmの不整楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなる人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土しているが，いずれも細片である。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが，遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第117号住居跡（第214図）

位置 調査区中央部，E2b9区。

重複関係 本跡は北東部を第114号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが，一辺2.90m程の方形か長方形と推定される。

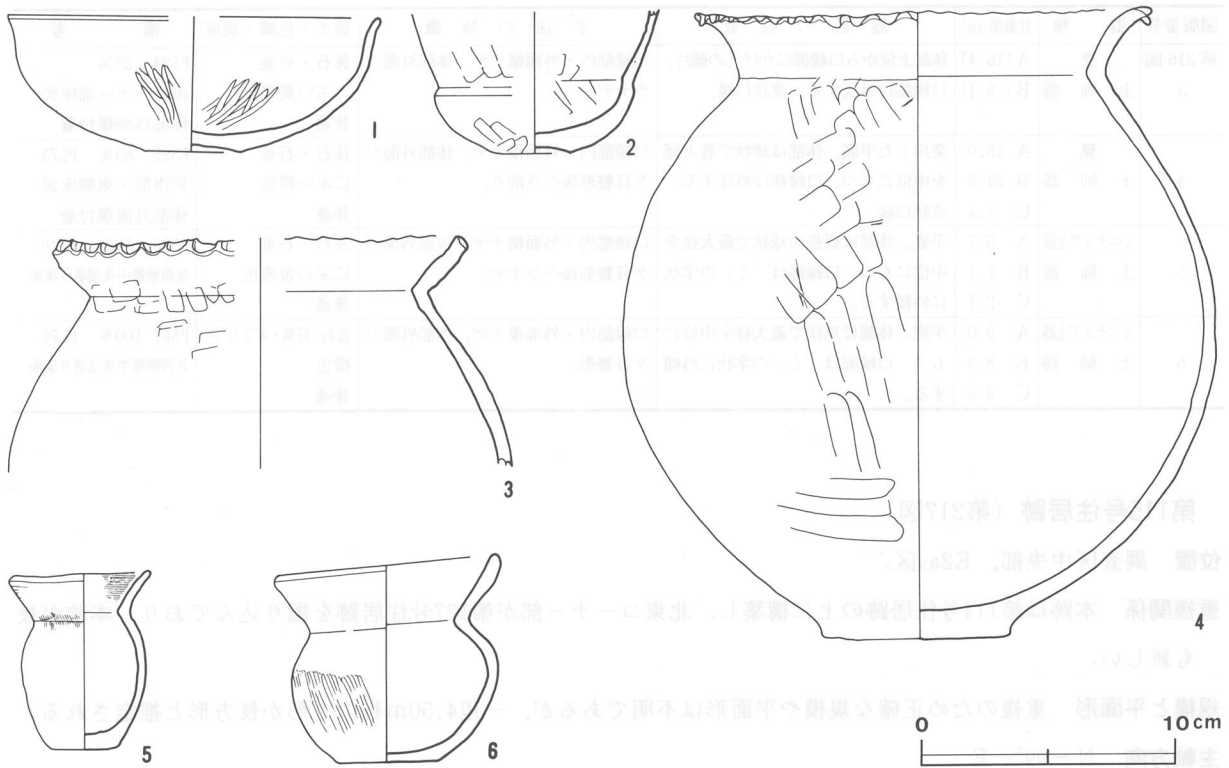
主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は9～20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西コーナー付近の南西壁下と北西壁下に確認し，上幅13cm程，深さ5cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，出入り口周辺が踏み固められている。

ピット P1は径20cm程の円形，深さ29cmで，規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第216図 第117号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部から南西寄りにあり、長径40cm、短径30cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径43cm、短径33cmの楕円形で、深さは27cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物中量

遺物 炉を中心とする南西壁寄り及び北西壁際の覆土下層から床面にかけて、土師器の甕片を主体に少量出土している。1の椀は炉南部の覆土下層から、4の甕は炉の南部と東側の床面から、3の甕は西コーナー部の床面から、2の埴及び5・6のミニチュア土器は北西壁際中央部寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	椀 土師器	A [14.7] B 5.3 C 3.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	長石・石英 明褐色 普通	P592 40% PL76 炉南部覆土下層
2	埴 土師器	B (5.6)	口縁部欠損。丸底であるが中央が凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P593 60% 北西壁際中央部寄り床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 3	甕 土師器	A [16.4] B (9.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P594 20% 西コーナー部床面 体部外面煤付着
4	甕 土師器	A 18.0 B 24.9 C 7.4	突出した平底。体部は球状で最大径 を中位にもつ。口縁部は外反する。 波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後へラ削り。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P595 80% PL75 炉南部・東側床面 体部外面煤付着
5	ミニチュア土器 土師器	A 5.7 B 7.1 C 2.7	平底。体部は縦長の球状で最大径を 中位にもつ。口縁部は「く」の字状 に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後へラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P596 80% PL76 北西壁際中央部寄り床面
6	ミニチュア土器 土師器	A 9.0 B 8.3 C 3.9	平底。体部は球状で最大径を中位に もつ。口縁部は「く」の字状に外傾 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P597 100% PL76 北西壁際中央部寄り床面

第115号住居跡 (第217図)

位置 調査区中央部, E2a区。

重複関係 本跡は第114号住居跡の上に構築し, 北東コーナー部が第127号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。

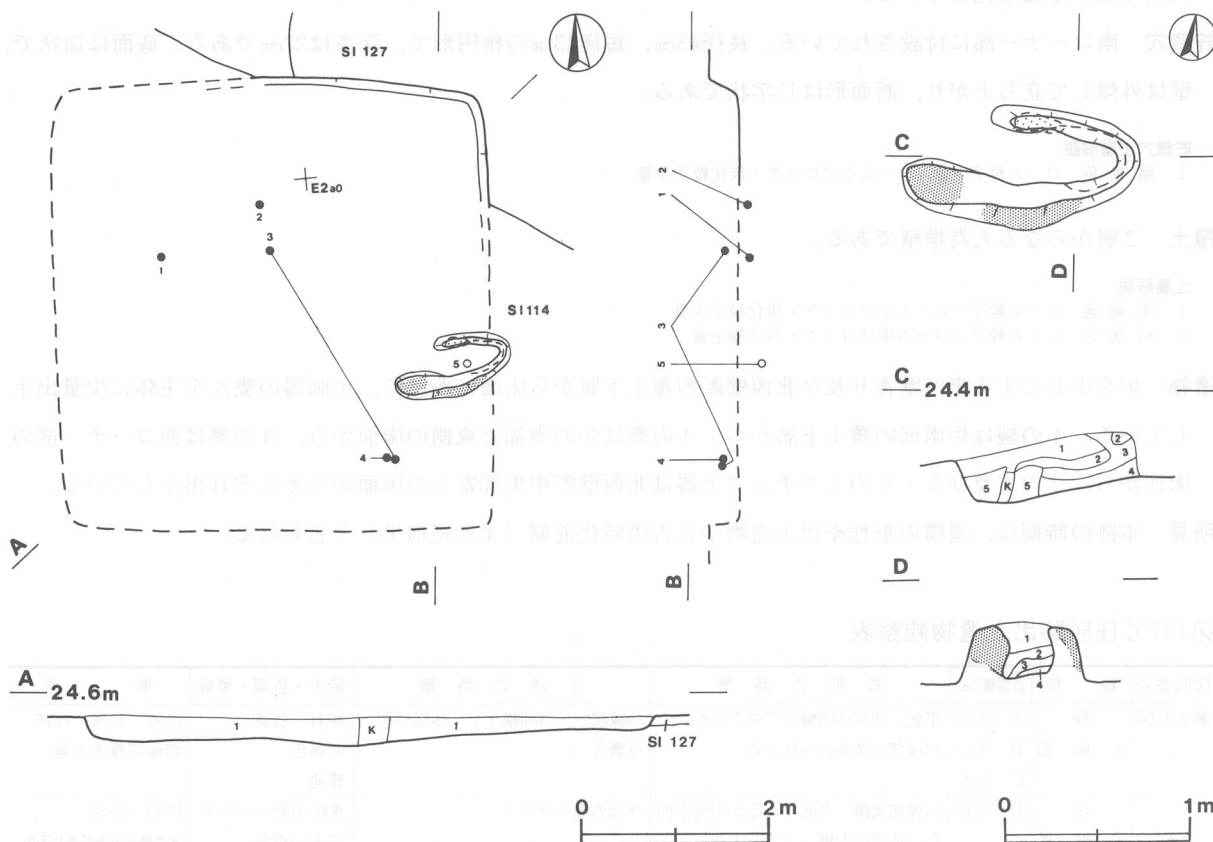
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが, 一辺4.50m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-99°-E

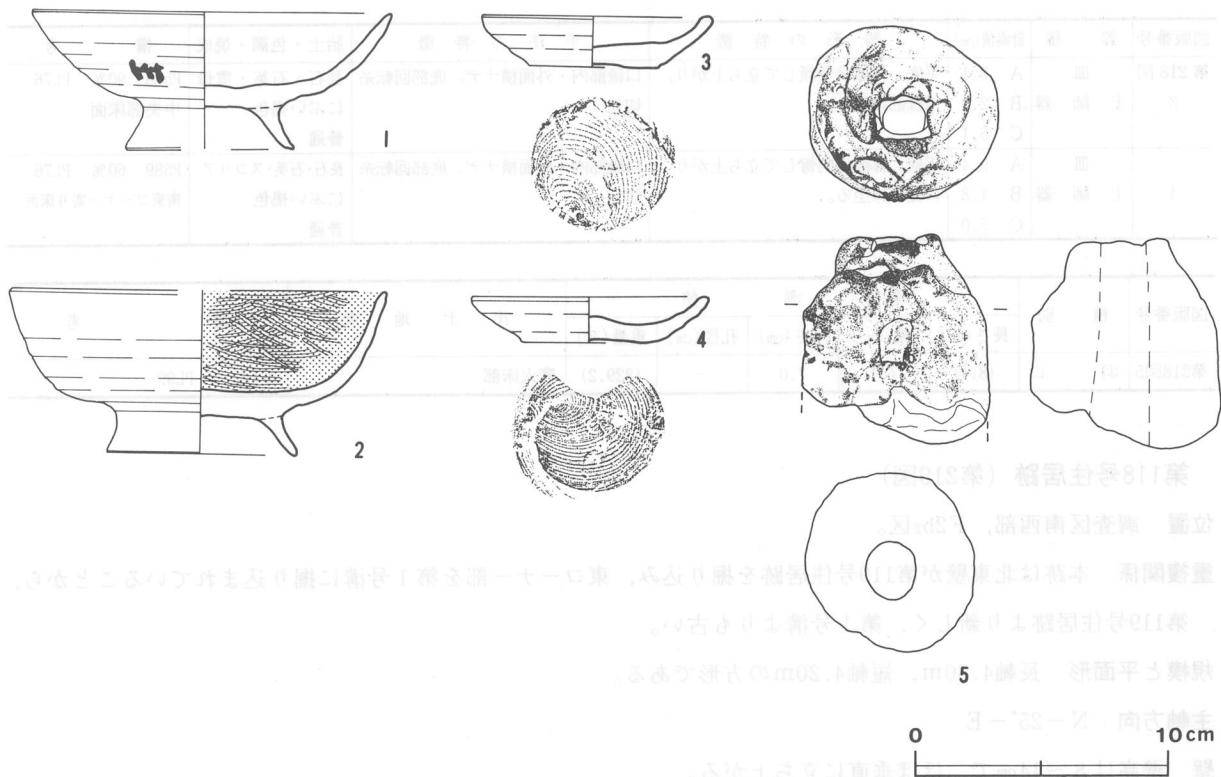
壁 壁高は30cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に軟らかく, 硬化部はない。

竈 攪乱と重複のため正確な規模等については不明である。東壁を掘り込んで構築しており, 赤変硬化した火



第217図 第115号住居跡実測図



第218図 第115号住居跡出土遺物実測図

床部の一部と袖部の構築材と思われる砂質粘土塊を確認した。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土大ブロック少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 砂粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 4 明黄褐色 焼土粒子中量 |
| | 5 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック中量 |

覆土 1層からなるが, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 住居跡全体の床面から少量の土師器が, 竈内から少量の土師器片, 羽口及び鉄滓が出土している。3の皿及び1・2の高台付坏は中央部の床面から, 4の皿は南東コーナー寄りの床面から出土している。また, 5の羽口及び鉄滓が竈の火床部から出土している。

所見 本跡は出土遺物等から工房跡と考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代(10世紀前半)と思われる。

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第218図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B 5.6 D〔6.6〕 E 1.7	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P590 80% PL76 中央部床面 墨書「主」
2	高台付坏 土師器	A〔15.1〕 B 6.5 D 7.6 E 1.6	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・スコリア におい黄橙色 普通	P591 60% PL76 中央部床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第218図 3	皿 土師器	A 9.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸 切り。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P588 90% PL76 中央部床面
		B 2.0				
		C 5.1				
4	皿 土師器	A 9.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸 切り。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P589 60% PL76 南東コーナー寄り床面
		B 1.8				
		C 5.0				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第218図5	羽口	(8.4)	7.4	7.0	—	(329.2)	竈火床部	DP162 PL99

第118号住居跡 (第219図)

位置 調査区南西部, F2b8区。

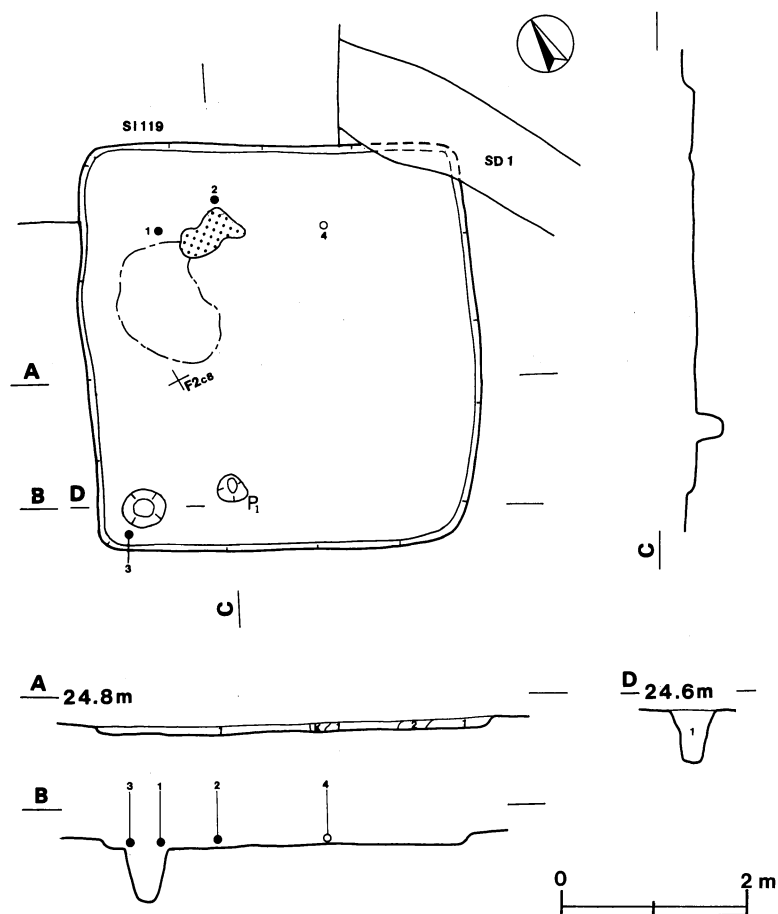
重複関係 本跡は北東壁が第119号住居跡を掘り込み、東コーナー部を第1号溝に掘り込まれていることから、第119号住居跡より新しく、第1号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.20mの方形である。

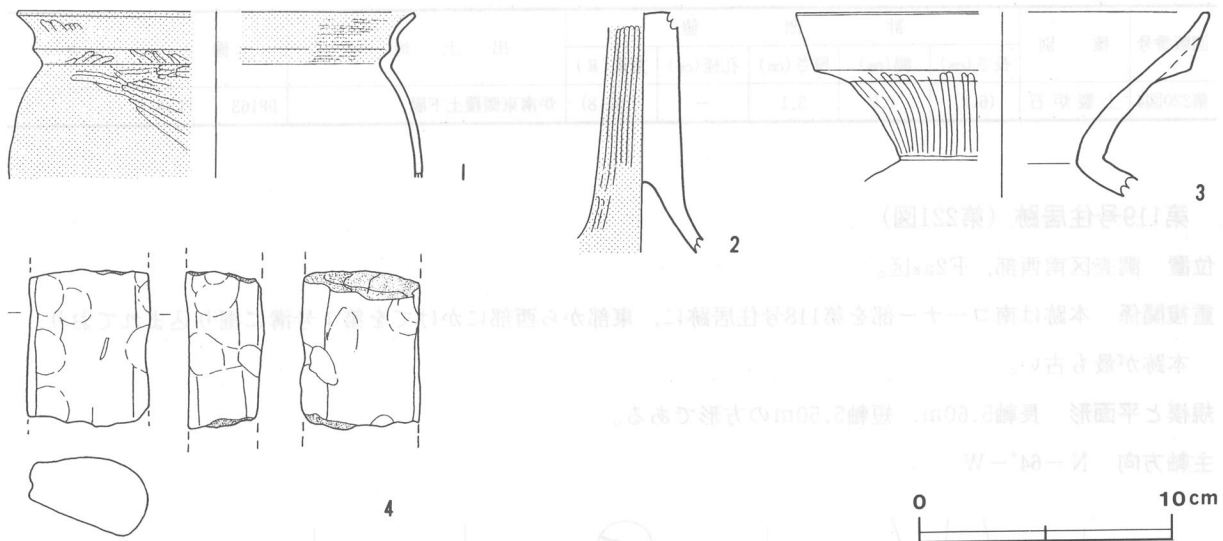
主軸方向 N-25°-E

壁 壁高は8~14cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の西側一帯が踏み固められている。



第219図 第118号住居跡実測図



第220図 第118号住居跡出土遺物実測図

ピット P₁は径20cm程の円形、深さ29cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径70cm、短径30cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さは56cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

2 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量

遺物 炉周辺から北東部の覆土下層から床面にかけて土師器の甕片を主体に少量出土している。炉周辺の覆土

下層からは、1の甕が炉北西側から、2の高坏が炉北側から、4の土製炉石が炉南東側から出土している。

また、3の壺は西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 1	甕 土師器	A〔16.0〕 B〔6.6〕	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から屈曲して外反する。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。 口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 明赤褐色 普通	P599 10% 炉北西側覆土下層 二次焼成
2	高坏 土師器	B〔9.4〕	脚部片。脚部は中実柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面 赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P600 10% 炉北側覆土下層 二次焼成
3	壺 土師器	A〔16.6〕 B〔7.3〕	口縁部片。口縁部は頸部から「く」 の字状に外傾する。有段口縁。	口縁部外面横ナデ。頸部内面横位、 外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P598 10% 西コーナー部覆土下層 二次焼成

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第220図4	土製炉石	(6.2)	4.9	3.1	—	(101.8)	炉南東側覆土下層	DP163 PL98

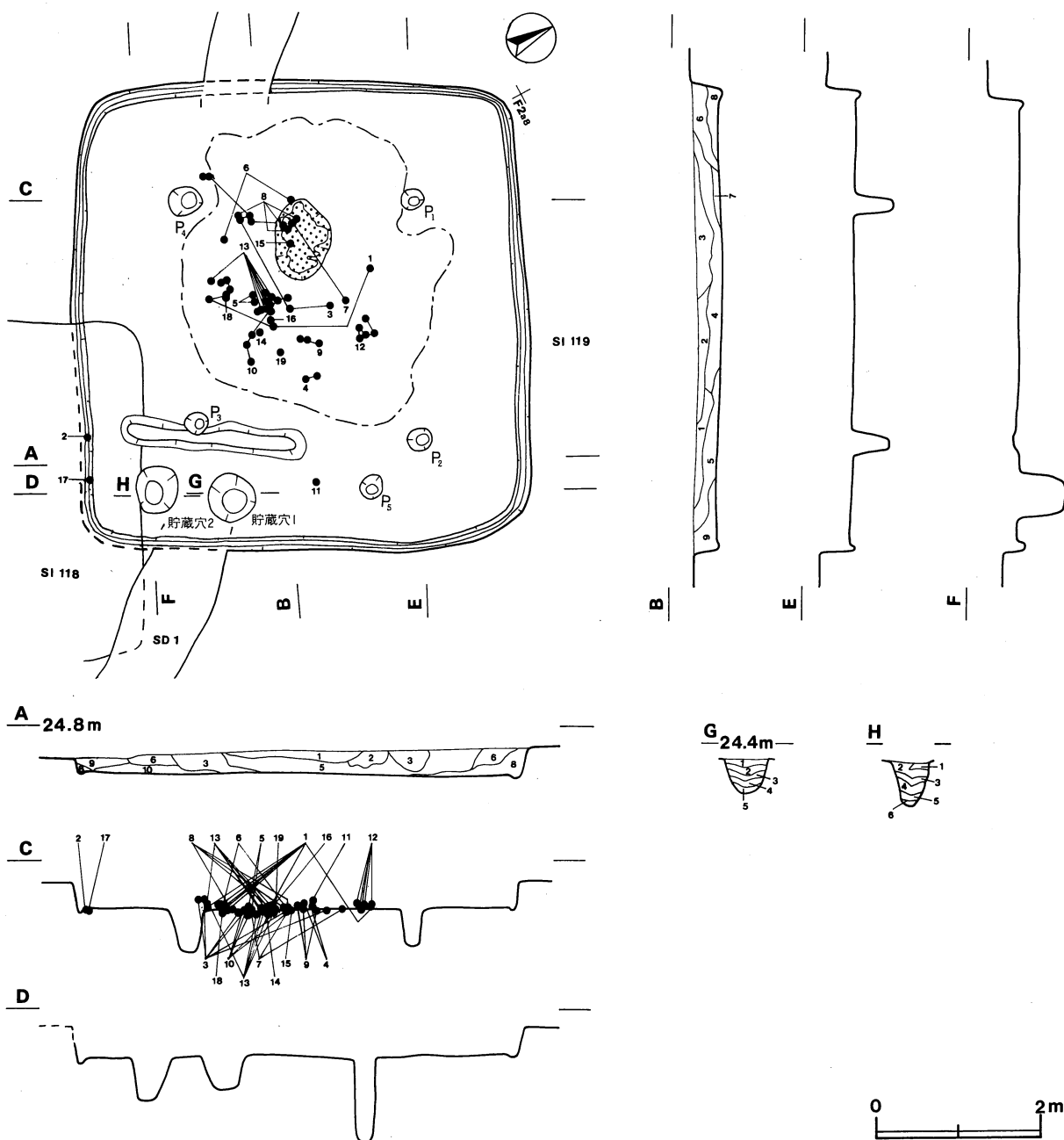
第119号住居跡 (第221図)

位置 調査区南西部, F2a8区。

重複関係 本跡は南コーナー部を第118号住居跡に, 東部から西部にかけてを第1号溝に掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-64°-W



第221図 第119号住居跡実測図

壁 壁高は28～38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。貯蔵穴1・2とP₃の間に長さ220cm、幅30～40cmで、床面から4～9cm盛り上がった帯状の硬化部がある。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は長径25～40cm、短径25～35cmの楕円形、深さ44～53cmで、いずれも主柱穴、P₅は径25cm程の円形、深さ100cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径95cm、短径70cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁下の南コーナー寄りに付設されている。径55cm程の円形で、深さは59cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。貯蔵穴2は貯蔵穴1と南コーナーの間に付設されている。長軸65cm、短軸50cmの隅丸長方形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | | |

貯蔵穴2土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 6 明褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量 |

覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

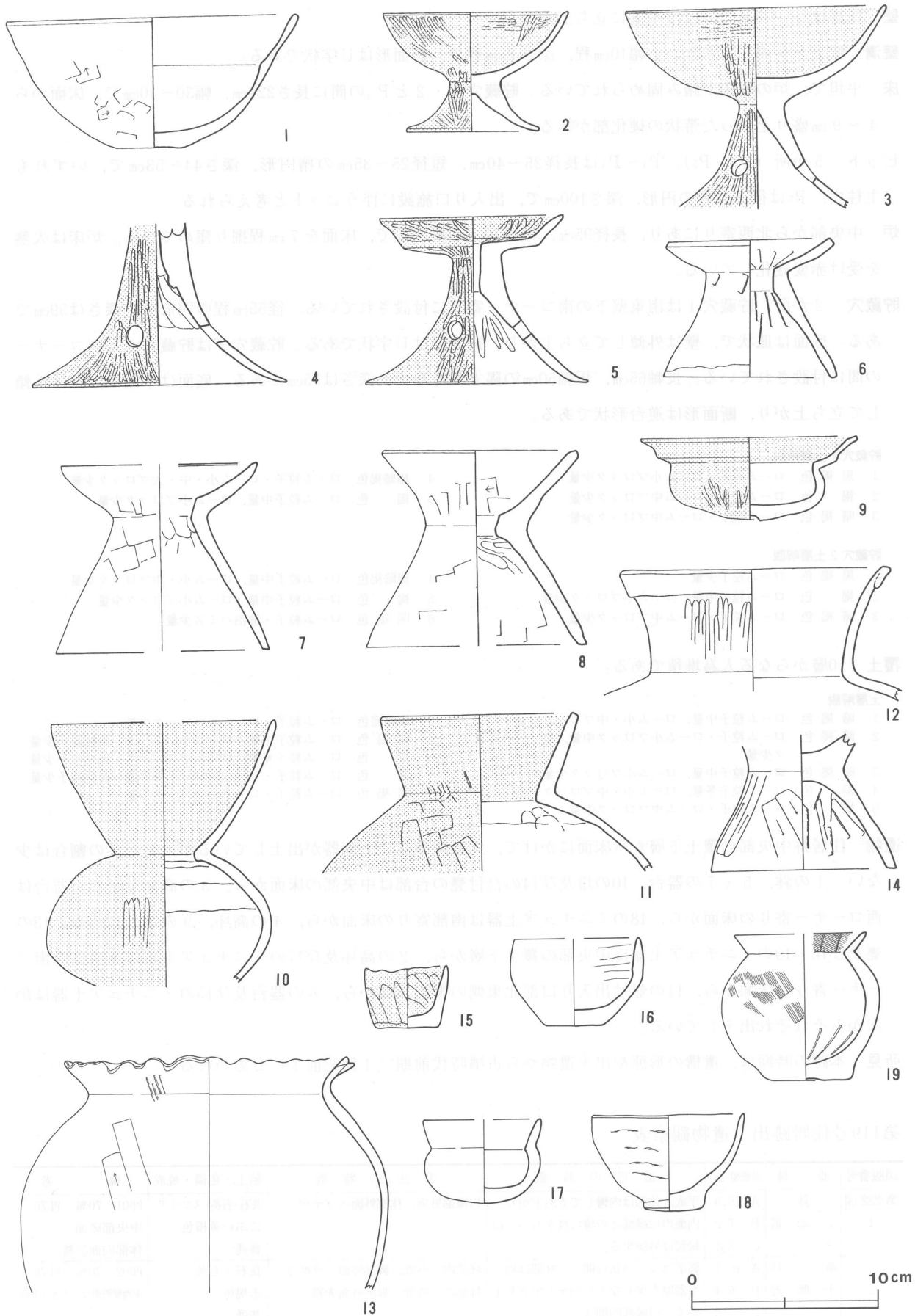
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

遺物 住居跡中央部の覆土下層から床面にかけて、比較的多量の土師器が出土しているが、完形品の割合は少ない。1の鉢、5・7の器台、10の埴及び14の台付甕の台部は中央部の床面から、3の高坏及び6の器台は西コーナー寄りの床面から、18のミニチュア土器は南部寄りの床面から、4の高坏、9の埴、12の壺、13の甕及び16・19のミニチュア土器は中央部の覆土下層から、2の高坏及び17のミニチュア土器は南西壁際南コーナー寄りの床面から、11の壺は出入り口部北東側の覆土下層から、8の器台及び15のミニチュア土器は炉床からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 1	鉢 土師器	A 16.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部外面、体部外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア におい黄橙色 普通	P601 70% PL76 中央部床面 体部内面剝離
		B 7.2				
		C 3.1				
2	高坏 土師器	A 10.1	脚部はラッパ状に開く。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がる。口縁部内削ぎ。	坏部内・外面、脚部外面ヘラ磨き。 坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P602 70% PL76 南西壁際南コーナー床面
		B 6.4				
		D 7.2				
		E 2.7				



第222図 第119号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 3	高土師器	A 14.2	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部外面、脚部外面ヘラナデ。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P603 70% PL77 西コーナー寄り床面 坏部内面剝離
		B (11.1) E (5.4)				
4	高土師器	D 14.0 E (8.7)	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P604 60% 中央部覆土下層 脚部内面煤付着
5	器土師器	A 10.0	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部内・外面ヘラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P609 70% PL76 中央部床面
		B 9.1				
		D 12.1				
		E 6.9				
6	器土師器	A 9.2	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、脚部内面ヘラナデ。脚部外面ハケ目整形後ナデ。脚部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P605 80% PL77 西コーナー寄り床面 二次焼成
		B 7.6				
		D 9.5				
		E 5.8				
7	器土師器	A [10.6]	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P606 70% 中央部床面
		B 10.3				
		D [11.6]				
		E 7.4				
8	器土師器	A 10.7	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P608 60% PL77 炉床 二次焼成
		B 10.5				
		D [12.1]				
		E 6.2				
9	坩土師器	A 11.8	丸底であるが中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P610 80% PL77 中央部覆土下層 二次焼成
		B 4.6				
10	坩土師器	A [12.0]	底部欠損。体部はやや扁平な球状で、口縁部は外方向に大きく開いて立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 橙色 普通	P611 70% PL77 中央部床面 二次焼成
		B (14.3)				
11	壺土師器	A 10.8	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面、ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ナデ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P612 20% PL77 出入り口北東側覆土下層 二次焼成、体部外面煤付着
		B (8.4)				
12	壺土師器	A 14.9	口縁部片。口縁部はやや外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P613 20% 中央部覆土下層 二次焼成
		B (6.7)				
13	甕土師器	A 15.7	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P614 40% PL77 中央部覆土下層 二次焼成、体部外面煤付着
		B (12.7)				
14	台付甕土師器	B (7.3)	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部内面ヘラナデ、外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P607 10% 中央部床面 二次焼成、台部外面煤付着
		D 10.0				
		E 5.2				
15	ミニチュア土師器	A 4.4	平底。体部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P615 90% PL77 炉床
		B 3.4				
		C 2.8				
16	ミニチュア土師器	A [6.9]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P616 40% 中央部覆土下層
		B 4.7				
		C 3.2				
17	ミニチュア土師器	A [6.4]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P617 80% PL77 南西壁際南コーナー寄り床面
		B 4.5				
18	ミニチュア土師器	A 8.2	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P618 80% PL77 南部寄り床面
		B 5.1				
		C 3.3				
19	ミニチュア土師器	A [7.2]	突出した平底で中央がやや凹む。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内面、体部外面ハケ目整形。	長石・石英 灰褐色 普通	P619 70% PL77 中央部覆土下層 二次焼成
		B 7.9				
		C 4.6				

第120号住居跡 (第223図)

位置 調査区南部, E2j7区。

規模と平面形 長軸5.10m, 短軸4.80mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は25cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナーを除く壁下を全周しており, 上幅8cm程, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。

ピット P₁は径30cm程の円形, 深さ53cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から南西寄りにあり, 長径65cm, 短径45cmの不定形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉2は中央部から南東寄りにあり, 長径55cm, 短径30cmの不整楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径70cm程の円形で, 深さは59cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

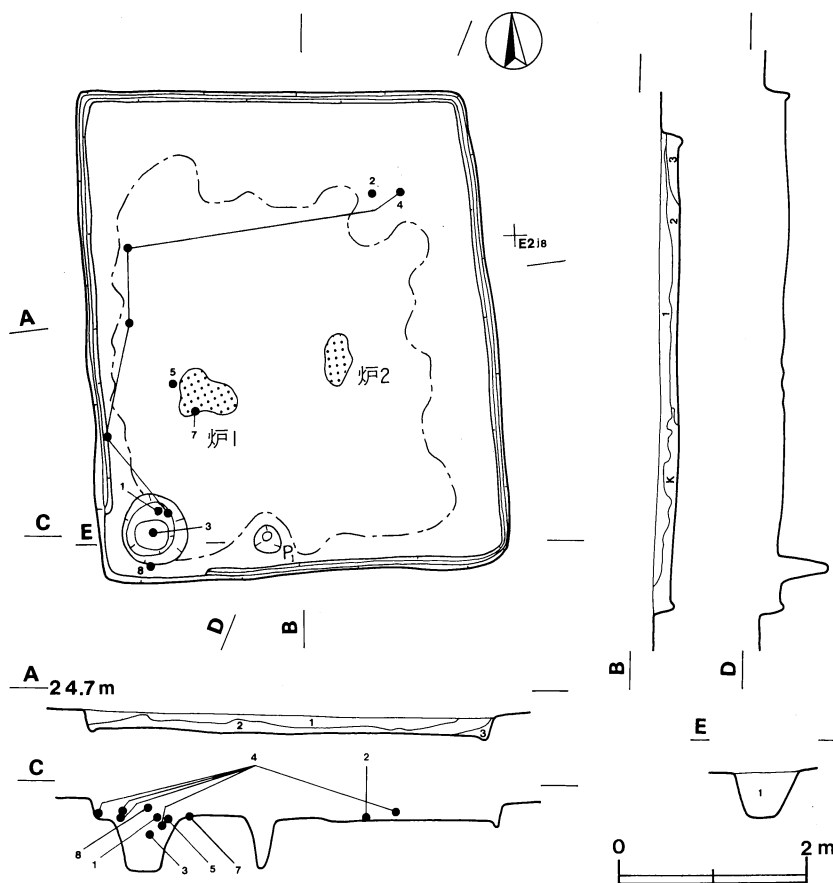
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

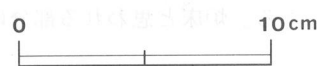
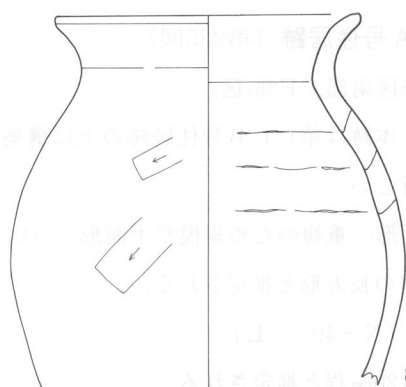
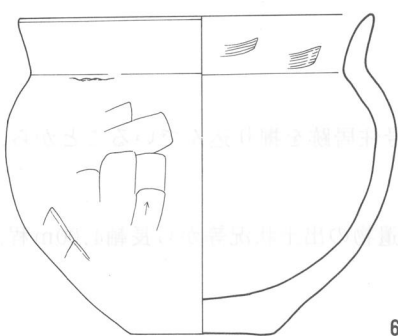
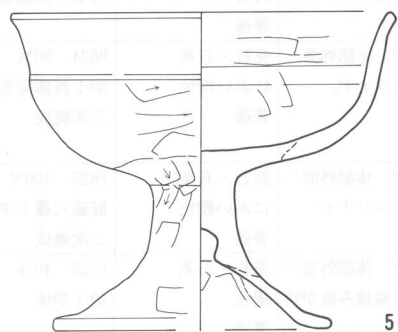
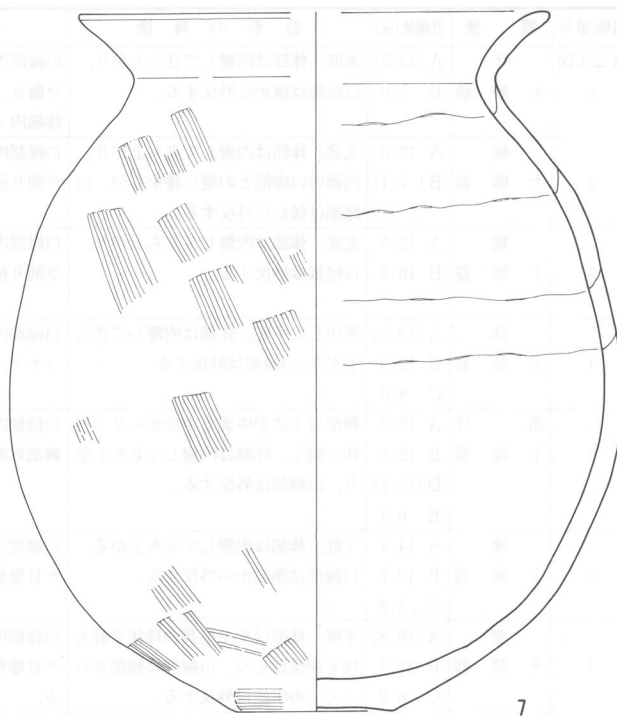
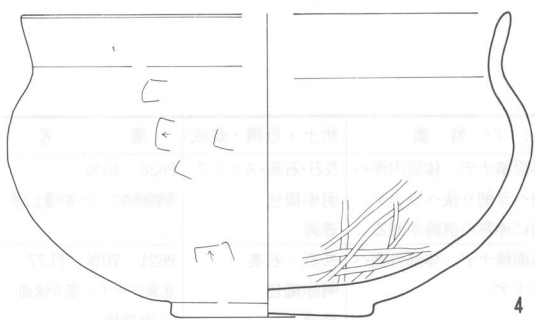
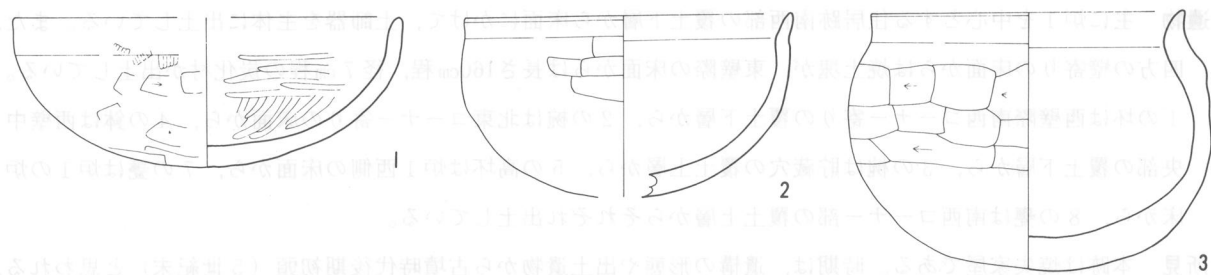
1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物中量, 焼土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量

3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量



第223図 第120号住居跡実測図



第224図 第120号住居跡出土遺物実測図

遺物 主に炉1を中心とする住居跡南西部の覆土下層から床面にかけて、土師器を主体に出土している。また、四方の壁寄りの床面からは焼土塊が、東壁際の床面からは長さ160cm程、径7cm程の炭化材が出土している。

1の坏は西壁際南西コーナー寄りの覆土下層から、2の椀は北東コーナー寄りの床面から、4の鉢は西壁中央部の覆土下層から、3の椀は貯蔵穴の覆土上層から、5の高坏は炉1西側の床面から、7の甕は炉1の炉床から、8の甕は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期初頭（5世紀末）と思われる。

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第224図 1	坏 土師器	A [15.2] B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り後へラナデ。体部内・外面に赤彩の痕跡が残る。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P620 40% 西壁際南西コーナー寄り覆土下層
2	椀 土師器	A 12.8 B (7.1)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P621 70% PL77 北東コーナー寄り床面 二次焼成
3	椀 土師器	A 12.5 B 10.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P622 100% PL78 貯蔵穴覆土上層
4	鉢 土師器	A [19.5] B 12.0 C 8.0	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P623 60% PL77 西壁中央部覆土下層
5	高坏 土師器	A 15.3 B 12.6 D [11.1] E 6.1	脚部は上位が中実で中位からラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面、脚部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P624 80% PL78 炉1西側床面 二次焼成
6	甕 土師器	A 14.1 B 12.7 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後へラ削り・へラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P625 100% PL78 貯蔵穴覆土中 二次焼成
7	甕 土師器	A [18.8] B 27.7 C 6.2	平底。体部はやや縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 褐色 普通	P626 40% PL78 炉1炉床
8	甕 土師器	A 12.2 B (14.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P627 30% PL78 南西コーナー部覆土上層 二次焼成

第121-A号住居跡（第225図）

位置 調査区南部，E2h8区。

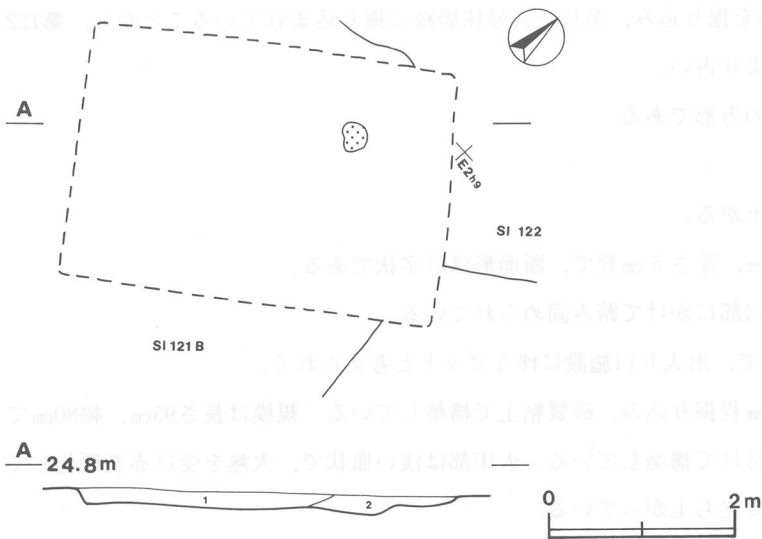
重複関係 本跡は第121-B号住居跡の上に構築し、北東部が第122号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が最も新しい。

規模と平面形 重複のため規模や平面形については不明であるが、遺物の出土状況等から長軸4.00m程、短軸2.60m程の長方形と推定される。

主軸方向 [N-49° - E]

壁 壁高は20cm程と推定される。

炉 遺物が集中して出土している部分の中央部からやや北東部にあり、長径40cm程、短径30cm程の楕円形である。炉床と思われる部分は火熱を受け赤変硬化している。



第225図 第121-A号住居跡実測図

覆土 2層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

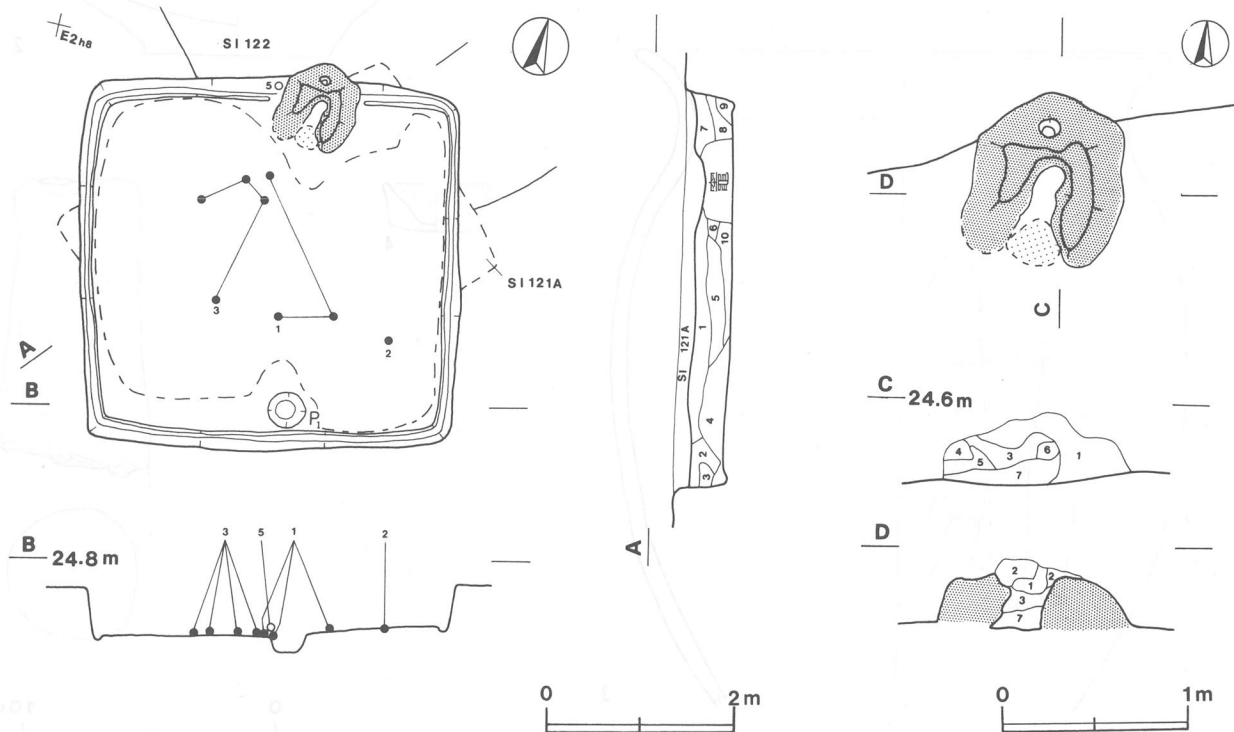
- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 少量の土師器の細片（甕，高台付坏）に伴って椀状滓（重量3kg程）及び数十点の鉄滓（総重量2kg程）が出土している。また、炉床からは焼土，砂，木炭及び鉄滓が出土している。

所見 本跡は工房跡と考えられる。時期は、重複関係や出土遺物から平安時代（10～12世紀）と思われる。

第121-B号住居跡（第226図）

位置 調査区南部，E2h8区。



第226図 第121-B号住居跡実測図

重複関係 本跡は北東部が第122号住居跡を掘り込み、第121-A号住居跡に掘り込まれていることから、第122号住居跡より新しく、第121-A号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は40~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅5~10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

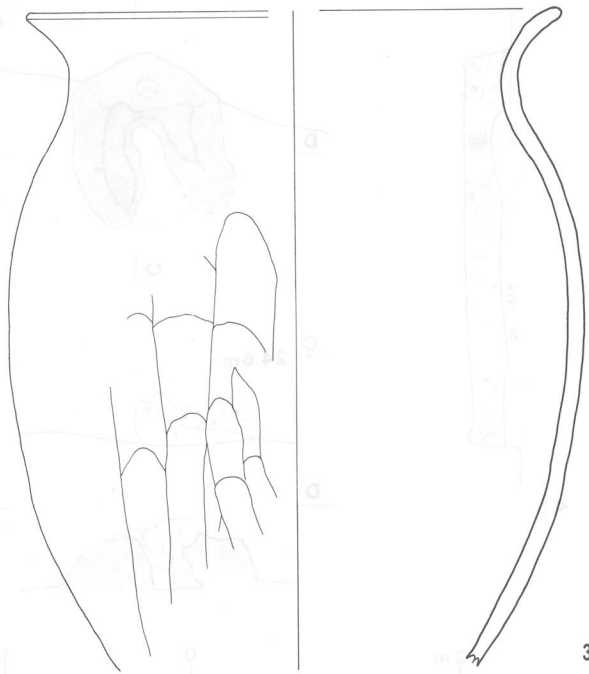
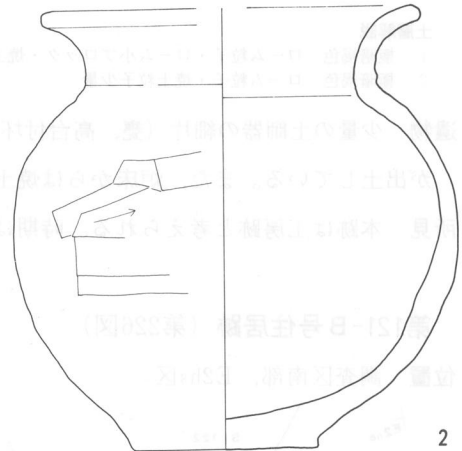
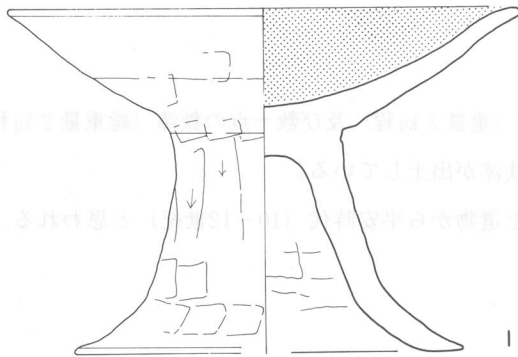
床 全体的に平坦で、竈周辺から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P1は径40cmの円形、深さ20cm程で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁のやや東寄りの部分を壁外に20cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ95cm、幅80cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|----------|------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂粒子少量 |
| | | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック中量, ローム粒子少量 |



第227図 第121-B号住居跡出土遺物実測図

覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 竈周辺から出入り口部にかけての床面から土師器がまばらに出土している。1の高坏は中央部, 2の甕は南東コーナー寄り, 3の甕は北西コーナー寄りのいずれも床面から出土している。また, 4の手捏土器は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(6世紀)と思われる。

第121-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 1	高坏 土師器	A 20.3	脚部は太い中空でラップ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。坏部内面へラ磨き。脚部外面へラ削り後へラナデ。坏部内面黒色処理。坏部外面及び脚部外面の一部に赤彩の跡が残る。	長石・石英・スコリア・礫にぶい赤褐色 普通	P628 70% PL78 中央部床面
		B 13.5				
		D [15.4]				
		E 8.7				
2	甕 土師器	A [15.0]	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P629 80% PL79 南東コーナー寄り床面
		B 17.4				
		C 7.3				
3	甕 土師器	A [21.2]	底部欠損。体部は縦長の球状で, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英褐色 普通	P630 40% PL78 北西コーナー寄り床面 二次焼成, 体部外面煤付着
		B (26.1)				
4	手捏土器 土師器	A [4.2]	平底。体部は器厚を減じながら立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面指頭によるナデ。体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英にぶい橙色 普通	P631 80% 覆土中
		B 1.9				
		C 3.6				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第227図5	支脚	(11.5)	6.3	5.1	—	(384.7)	竈左裾部覆土下層	DP164 PL99

第122号住居跡(第228図)

位置 調査区南部, E2gs区。

重複関係 本跡は北西壁が第123号住居跡を掘り込み, 南部を第121-A・B号住居跡に掘り込まれていることから, 第123号住居跡より新しく, 第121-A・B号住居跡より古い。

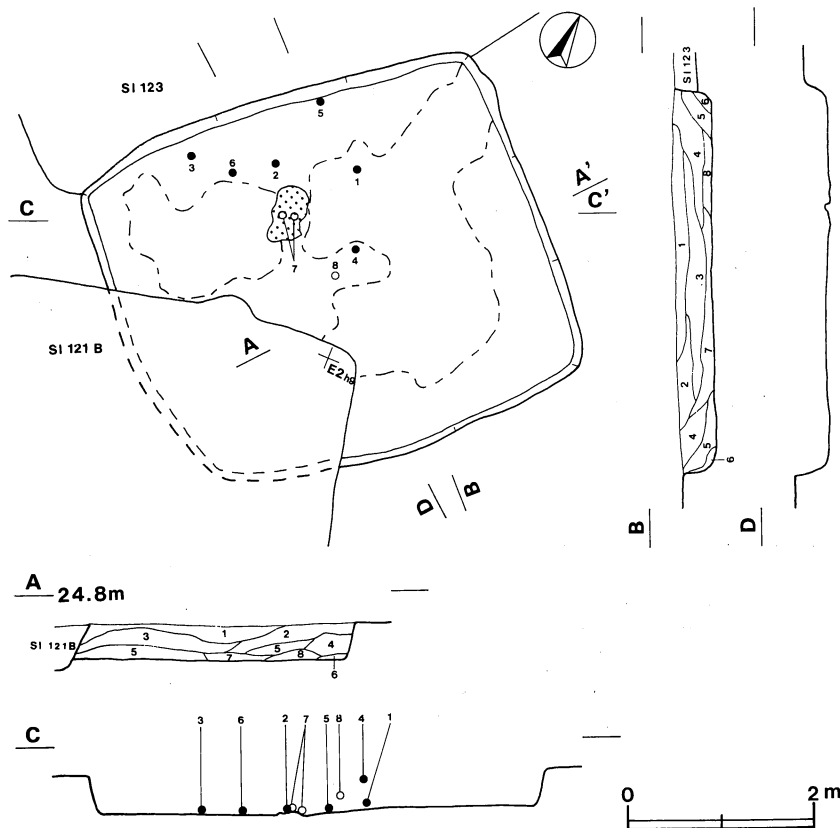
規模と平面形 長軸4.60m, 短軸4.05mの長方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は40cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径65cm, 短径35cmの不整楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており, 南部には土製炉石が付設されている。



第228図 第122号住居跡実測図

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

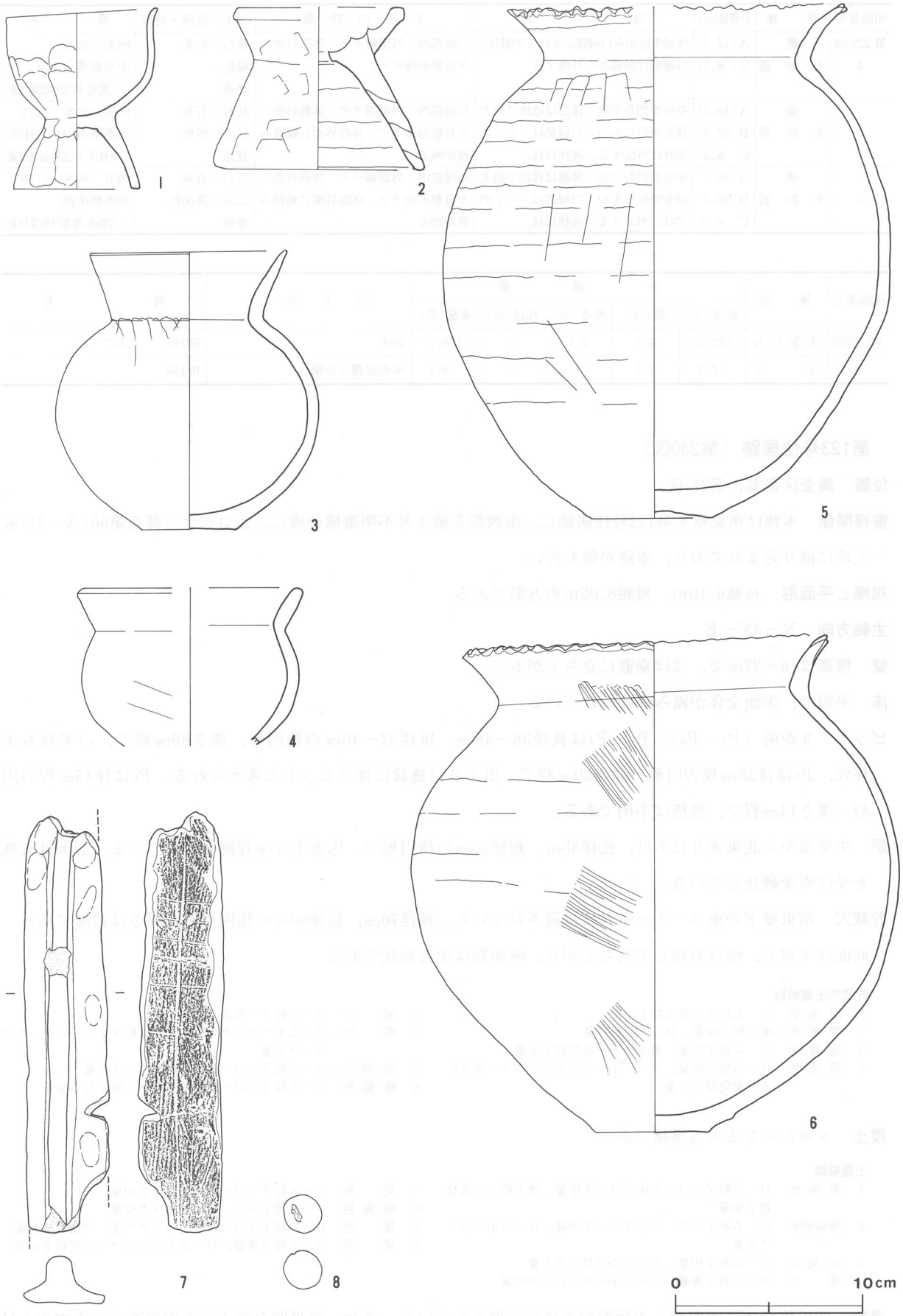
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |

遺物 炉を中心とする住居跡中央部から北西壁際にかけての床面から土師器を主体に出土している。2の器台は炉北西側の床面から、3の壺及び6の甕は炉西側の床面から、1の脚付椀は炉北東側の覆土下層から、5の甕は北西壁際中央部の床面から斜位の状態で、4の甕は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。炉床の南部からは7の土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第229図 1	脚付椀 土師器	A 8.1	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面、脚部外面縦位のヘラ削り後ナデ。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P632 90% PL78 炉北東側覆土下層
		B 9.7				
		D 6.8				
		E 3.8				
2	器台 土師器	A [9.2]	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部外面、脚部外面ハケ目整形後ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 におい橙色 普通	P633 80% PL78 炉北西側床面 二次焼成、器受部内面剝離
		B 8.7				
		D 11.3				
		E 6.2				
3	壺 土師器	A 10.6	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 におい橙色 普通	P634 90% PL78 炉西側床面
		B 14.9				
		C 5.2				



第229図 第122号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第229図 4	甕 土師器	A [12.2] B (8.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P635 30% 中央部覆土上層 二次焼成, 体部外面煤付着
5	甕 土師器	A [18.2] B 27.5 C 6.5	中央が凹む平底。体部は球状で最大 径を中位にもつ。口縁部は「く」の 字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後ナデ。体部外面に輪積み 痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P636 90% PL79 北西壁際中央部床面 二次焼成, 体部外面煤付着
6	甕 土師器	A 19.7 B 26.7 C 6.0	中央が凹む平底。体部は球状で最大 径を中位にもつ。口縁部は「く」の 字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後ナデ。体部外面に輪積み 痕が残る。	長石・石英 にぶい黒褐色 普通	P637 90% PL79 炉西側床面 二次焼成, 体部外面煤付着

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第229図7	土製炉石	(22.6)	4.7	2.5	—	(198.1)	炉床	DP165	PL102
8	土玉	2.1	2.1	—	—	8.1	中央部覆土中層	DP166	

第123号住居跡 (第230図)

位置 調査区南部, E2f8区。

重複関係 本跡は南東壁を第122号住居跡に, 南西部を第1号不明遺構の溝に, 北コーナー部を第56(A・B)号土坑に掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸6.10m, 短軸6.05mの方形である。

主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は16~27cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 床面全体が踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は長径38~48cm, 短径32~45cmの楕円形, 深さ89cm程で, いずれも主柱穴, P₅は径25cm程の円形, 深さ20cm程で, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は径45cm程の円形, 深さ14cm程で, 性格は不明である。

炉 中央部から北東寄りにあり, 長径85cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁下の南コーナー寄りに付設されている。長径70cm, 短径60cmの楕円形で, 深さは72cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

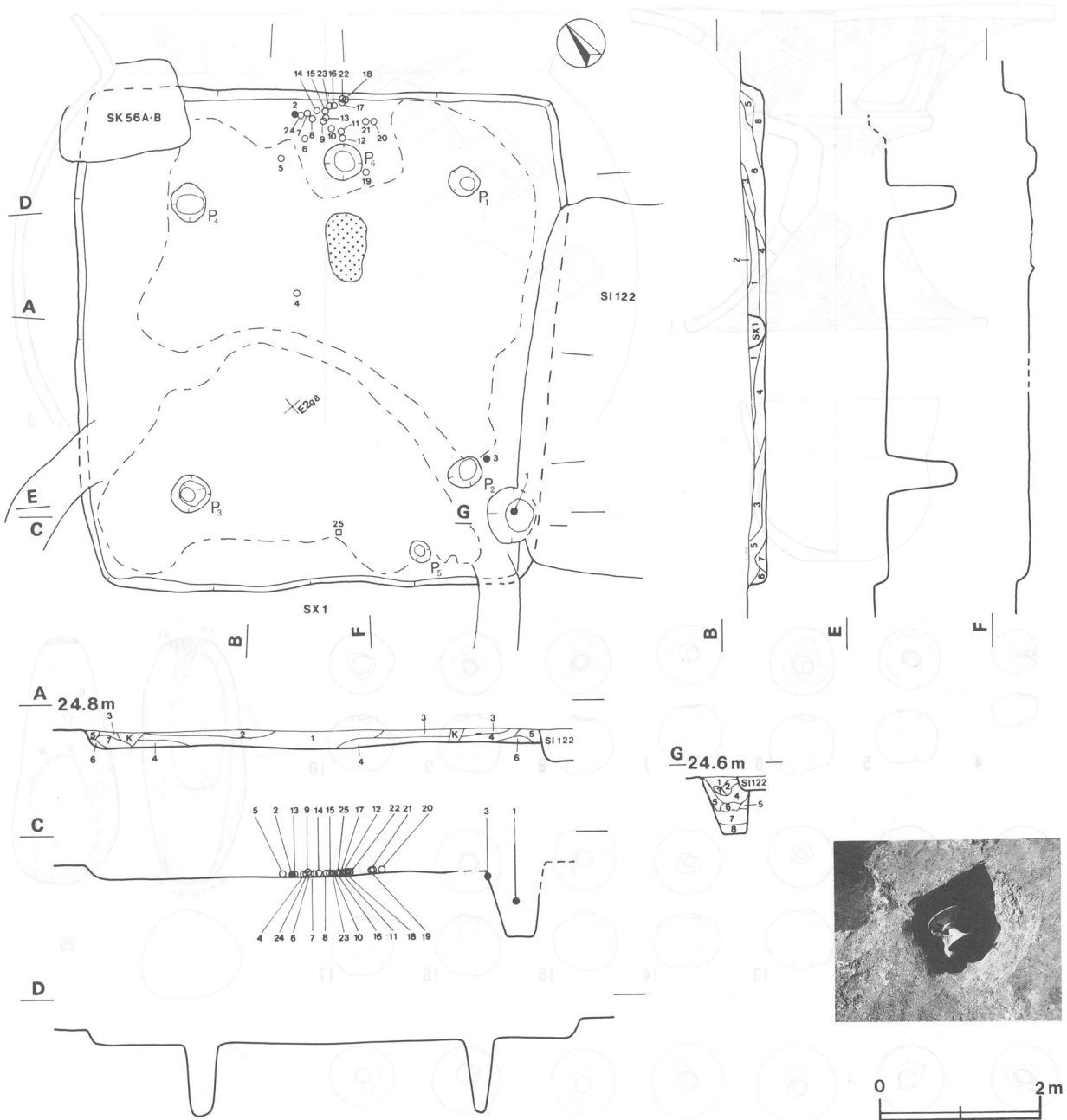
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	5 褐色	ローム粒子・黒色土粒子中量
2 黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量	6 褐色	ローム大ブロック中量, ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子少量

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ローム粒子・ローム中ブロック中量
2 極暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	7 褐色	ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
4 褐色	ローム粒子多量, ローム小・中ブロック中量	8 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 住居跡全体の床面から土師器がまばらに出土している。また, 南東壁を除く三方の壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の装飾器台は貯蔵穴から横位の状態で, 2の埴は北東壁際中央部の床



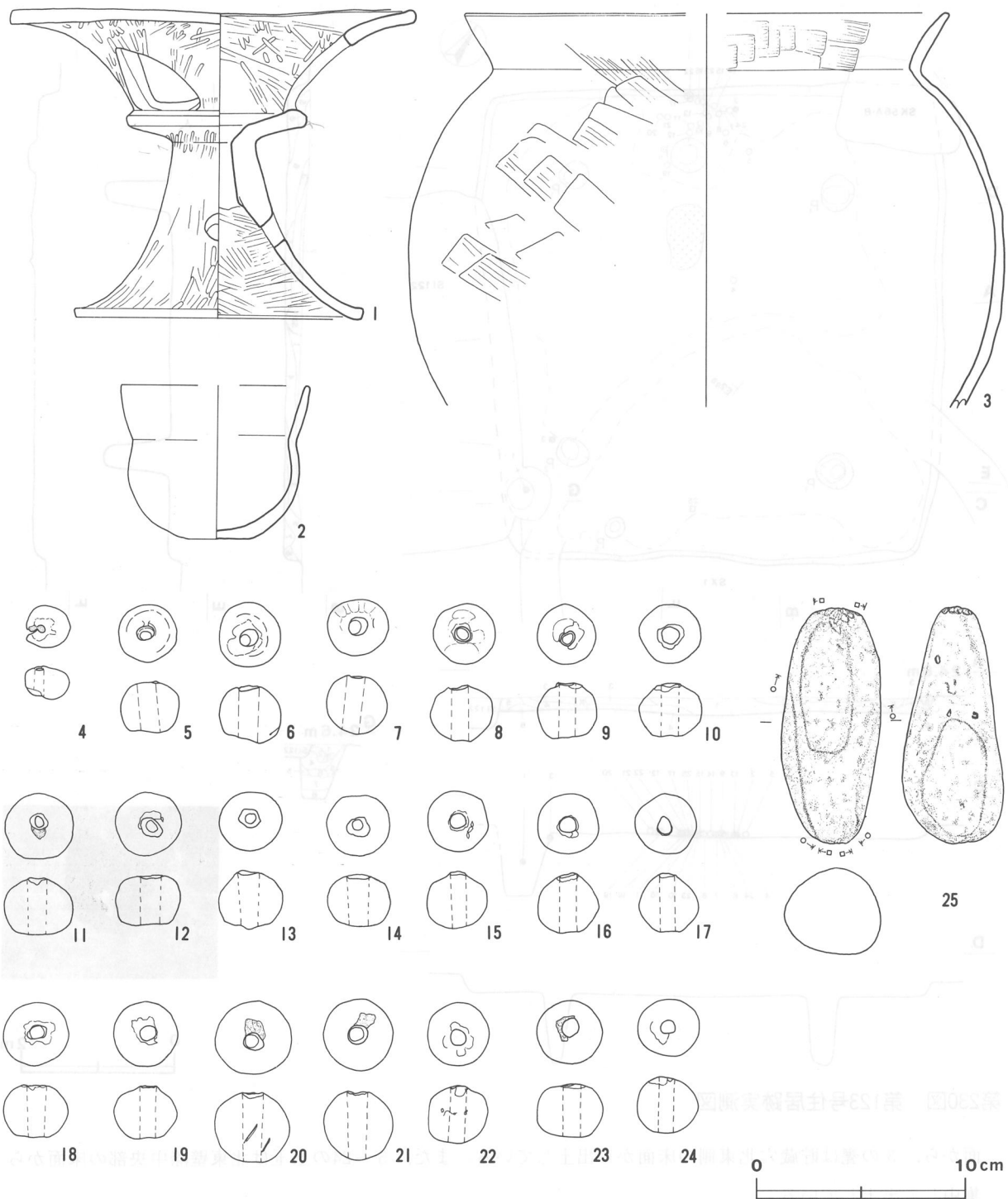
第230図 第123号住居跡実測図

面から、3の甕は貯蔵穴北東側の床面から出土している。また、5～24の土玉は北東壁際中央部の床面から集中して出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	装飾器台 土師器	A 19.4	脚部はラッパ状に開く。器受部下位	器受部内・外面，脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。脚部内面横位のハケ目整形。	長石・石英 にふい黄橙色 普通	P638 100% PL79 貯蔵穴内
		B 14.8	は周縁が突き出し，上位はラッパ状			
		D 13.8	に開く。脚部に3孔，器受部に透かし窓3か所，中央に貫通孔を穿つ。			
		E 8.5				



第231図 第123号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 2	土師器	A (9.1)	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は大きく開く。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P639 60% PL79 北東壁中央部床面
		B 7.4				
		C 3.2				
3	土師器	A (23.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形。	長石・石英 黒褐色 普通	P640 20% 貯蔵穴北東側床面 二次焼成
		B (18.9)				

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第231図4	土 玉	1.6	2.1	—	0.5	5.0	中央部床面	DP167 PL101
5	土 玉	2.5	2.8	—	0.9	17.9	北東壁際中央部床面	DP168 PL101
6	土 玉	2.8	3.0	—	0.9	22.0	北東壁際中央部床面	DP169 PL101
7	土 玉	2.8	2.9	—	0.9	19.6	北東壁際中央部床面	DP170 PL101
8	土 玉	2.7	3.0	—	0.9	19.3	北東壁際中央部床面	DP171 PL101
9	土 玉	2.7	2.9	—	0.8	17.6	北東壁際中央部床面	DP172 PL101
10	土 玉	2.6	2.9	—	0.9	17.5	北東壁際中央部床面	DP173 PL101
11	土 玉	2.8	3.3	—	0.9	26.7	北東壁際中央部床面	DP174 PL101
12	土 玉	2.5	3.2	—	1.0	22.0	北東壁際中央部床面	DP175 PL101
13	土 玉	2.8	3.0	—	1.1	19.5	北東壁際中央部床面	DP176 PL101
14	土 玉	2.5	3.0	—	1.0	19.3	北東壁際中央部床面	DP177 PL101
15	土 玉	2.8	3.0	—	0.8	19.0	北東壁際中央部床面	DP178 PL101
16	土 玉	2.9	3.0	—	0.9	19.8	北東壁際中央部床面	DP179 PL101
17	土 玉	2.9	3.0	—	0.7	20.1	北東壁際中央部床面	DP180 PL101
18	土 玉	2.5	3.2	—	1.0	21.3	北東壁際中央部床面	DP181 PL101
19	土 玉	2.5	3.1	—	0.8	20.6	北東壁際中央部床面	DP182 PL101
20	土 玉	3.3	3.6	—	1.0	41.1	北東壁際中央部床面	DP183 PL101
21	土 玉	3.4	3.3	—	1.0	33.0	北東壁際中央部床面	DP184 PL101
22	土 玉	2.8	2.9	—	0.8	21.7	北東壁際中央部床面	DP185 PL101
23	土 玉	2.6	3.2	—	0.9	22.2	北東壁際中央部床面	DP186 PL101
24	土 玉	2.7	3.0	—	0.7	18.6	北東壁際中央部床面	DP187 PL101

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第231図25	敲 石	11.3	4.8	4.2	345.1	安 山 岩	北東壁際中央部覆土下層	Q78 PL105

第124号住居跡（第232図）

位置 調査区南部，F3a1区。

重複関係 本跡は北西壁が第125号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.10m，短軸4.90mの方形である。

主軸方向 N-62°-W

壁 壁高は32~48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

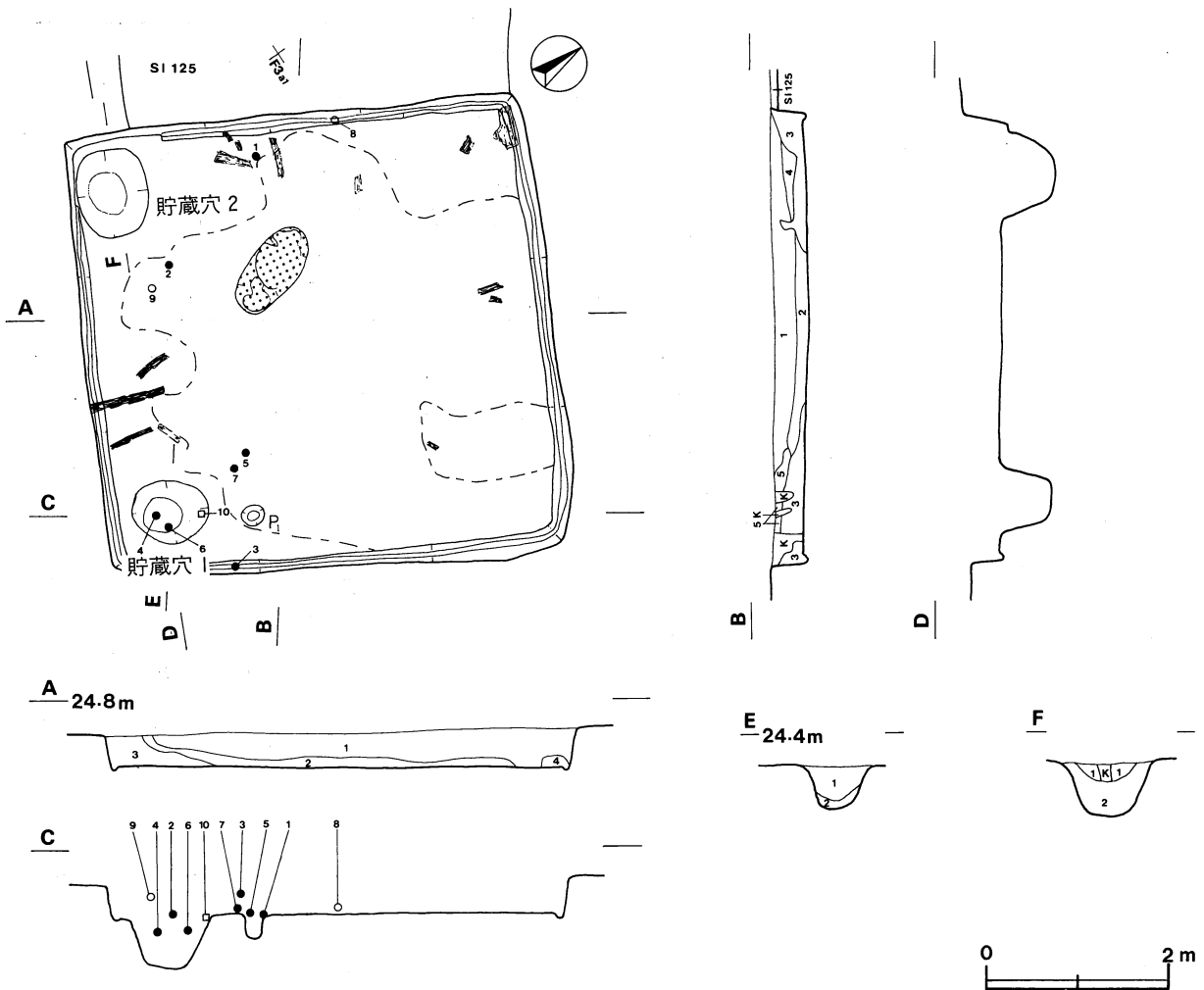
壁溝 壁下を全周し，上幅8~13cm，深さ3~6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，床面全体が踏み固められている。

ピット P₁は径25cm程の円形，深さ25cm程で，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり，長径105cm，短径55cmの楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されており，長径85cm，短径70cmの楕円形で，深さは55cmである。貯蔵穴2は西コーナー部に付設されており，長径95cm，短径75cmの楕円形で，深さは55cmである。いずれも底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。



第232図 第124号住居跡実測図

貯蔵穴1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

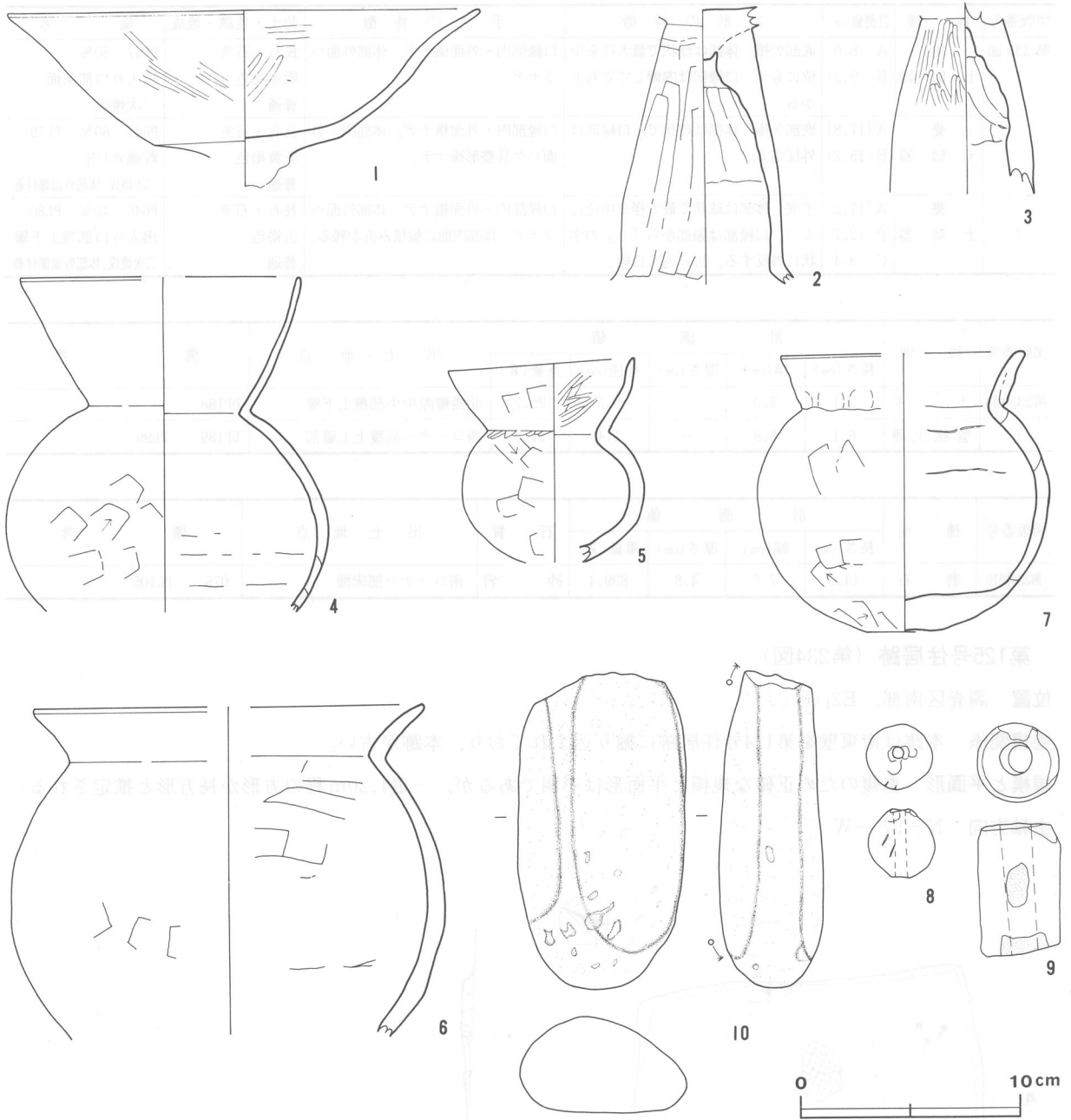
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子・炭化物少量 | 5 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | |

遺物 四方の壁寄りの床面及び2か所の貯蔵穴から土師器の甕片を主体に出土している。また、壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の高坏の坏部は北西壁際中央部の床面から、2・3の高坏の脚部は西コーナー部の覆土下層及び南東壁際南コーナー寄りの覆土中層から、5の埴は出入り口部の床面から、7の甕は出入り口部の覆土下層から、4の埴及び6の甕は貯蔵穴1の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。



第233図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 1	高土師器 坏器	A 21.6 B (8.0)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P641 50% PL79 北西壁際中央部床面
2	高土師器 坏器	E (12.6)	脚部片。脚部は中空で下方に開く。	脚部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P642 20% PL 西コーナー部覆土下層
3	高土師器 坏器	E (8.7)	脚部片。脚部は中空で下方に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P643 20% PL79 南東壁際南コーナー寄り覆土中層
4	土師器 埴器	A [12.8] B (15.3)	底部欠損。体部はやや扁平な球状で、口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P644 40% PL80 貯蔵穴1覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 5	土師器 甗	A 8.5 B (9.3)	底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P647 80% 出入り口部床面 二次焼成
6	土師器 甗	A [17.8] B (15.2)	底部欠損。体部は球状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P645 60% PL79 貯蔵穴1内 二次焼成,体部外面煤附着
7	土師器 甗	A [11.2] B 12.7 C 3.4	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 灰褐色 普通	P646 40% PL80 出入り口部覆土下層 二次焼成,体部外面煤附着

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第233図8	土玉	3.1	3.0	—	0.5	25.2	北西壁際中央部覆土下層	DP188
9	管状土錘	6.1	3.8	—	1.4	91.3	西コーナー部覆土上層部	DP189 PL99

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第233図10	磨石	14.5	7.7	4.8	839.4	砂岩	南コーナー部床面	Q79 PL105

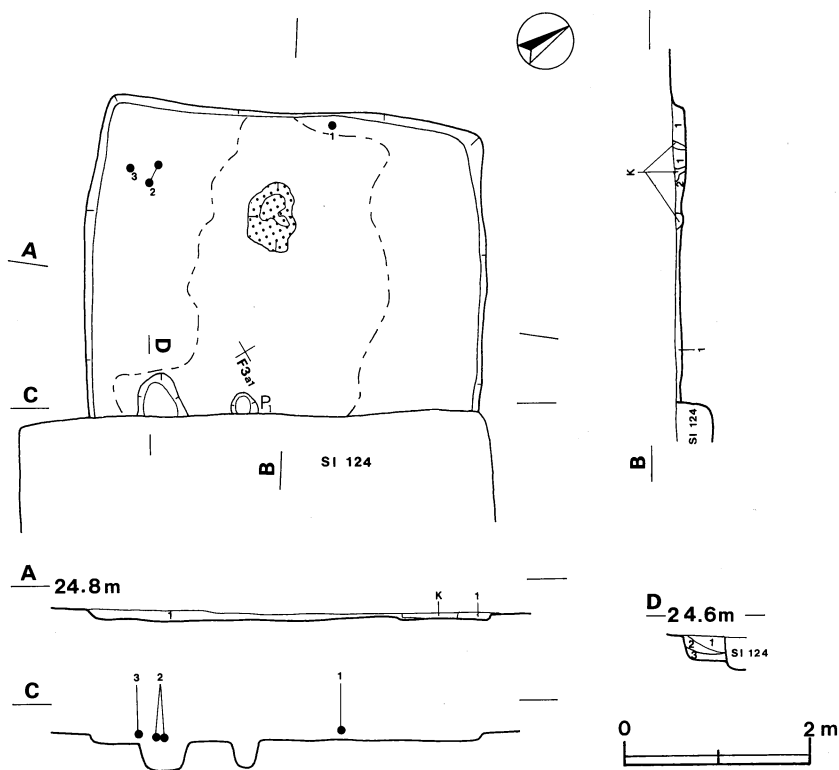
第125号住居跡 (第234図)

位置 調査区南部, E2j o区。

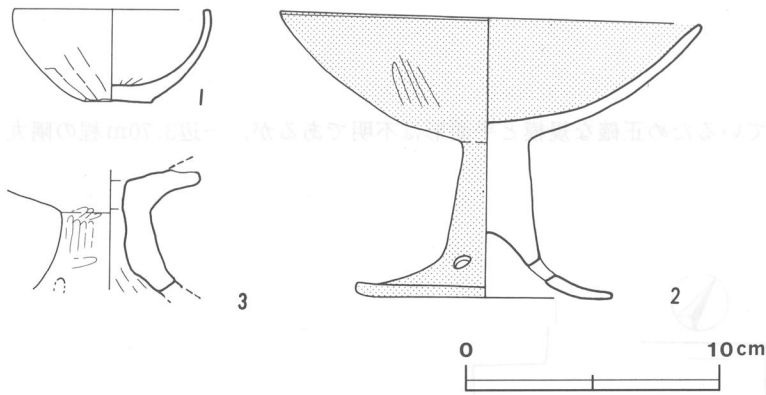
重複関係 本跡は南東壁を第124号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺4.20m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-57°-W



第234図 第125号住居跡実測図



第235図 第125号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は8~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径25cm程の円形か楕円形と推定され、深さ25cm程で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径70cm、短径50cmの不整楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されているが、南東部を第124号住居跡に掘り込まれている。径50cm程の円形か楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、黒色土粒子中量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

遺物 主に西コーナー部を中心とする住居跡西部の床面から土師器を主体に少量出土している。1の碗は北西壁際の覆土下層から、3の装飾器台及び2の高杯は西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第125号住居跡出土遺物観察表

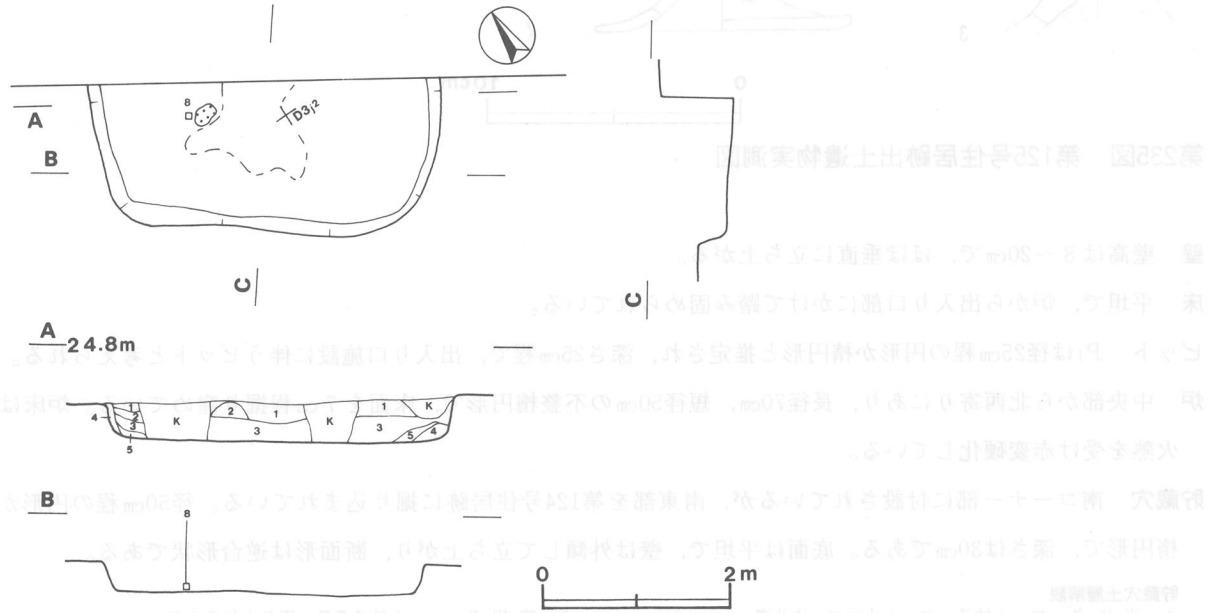
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 1	碗 土師器	A 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部平坦。	体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 淡黄色 普通	P648 80% PL80 北西壁際覆土下層
		B 3.7				
		C 2.8				
2	高杯 土師器	A 16.7	脚部は中実柱状で、裾部は横方向に大きく開く。杯部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部下位に3孔を穿つ。	杯部内・外面、脚部外面ヘラ磨き。 杯部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P650 70% PL80 西コーナー部覆土下層
		B 11.3				
		D 10.1				
		E 6.2				
3	装飾器台 土師器	B(4.8)	脚部中位から器受部にかけての破片。器受部下位は周縁が突き出す。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P649 10% 西コーナー部覆土下層
		E(3.1)				

第126号住居跡 (第236図)

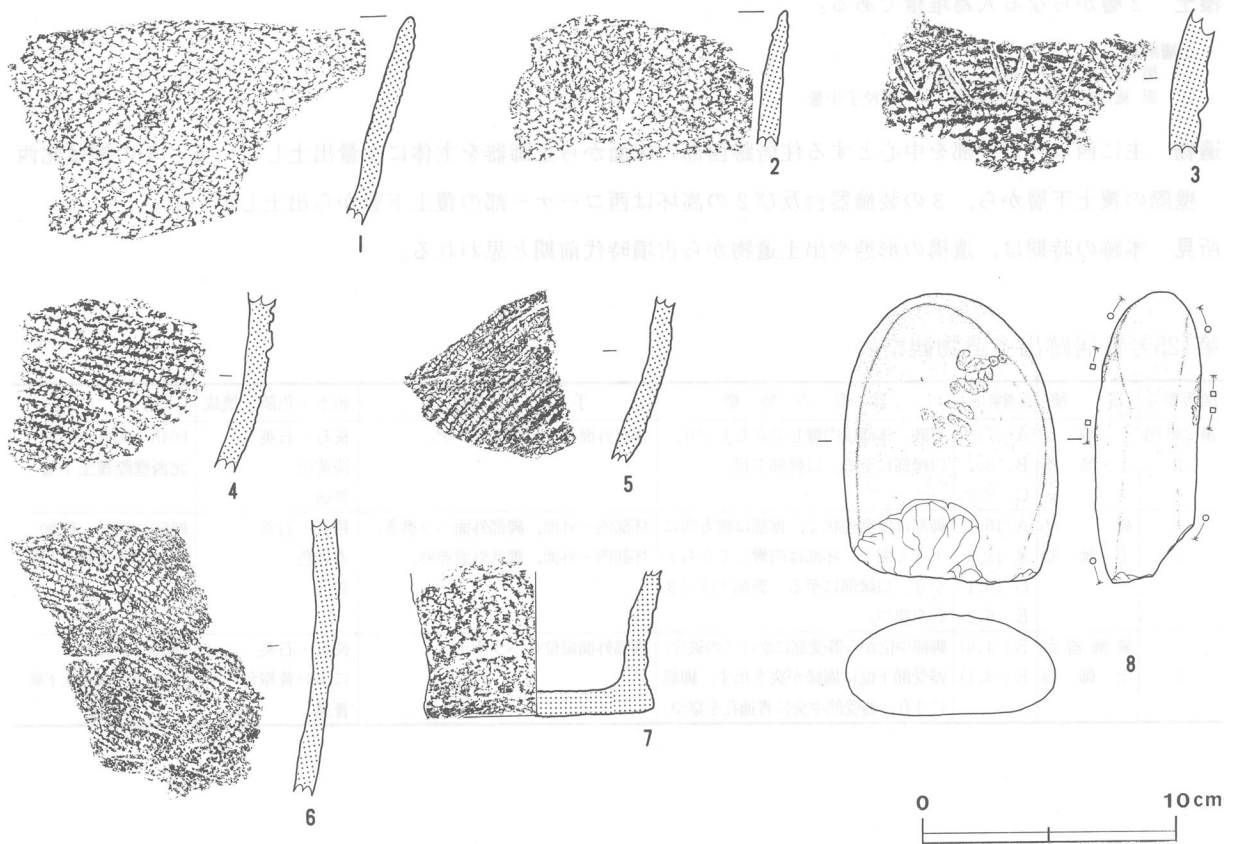
位置 調査区中央部, D3j1区。

規模と平面形 北東部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.70m程の隅丸
 方形か隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-55°-W



第236図 第126号住居跡実測図



第237図 第126号住居跡出土遺物実測・拓影図

壁 壁高は32cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部から西寄りにあり、長径30cm、短径18cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | | |

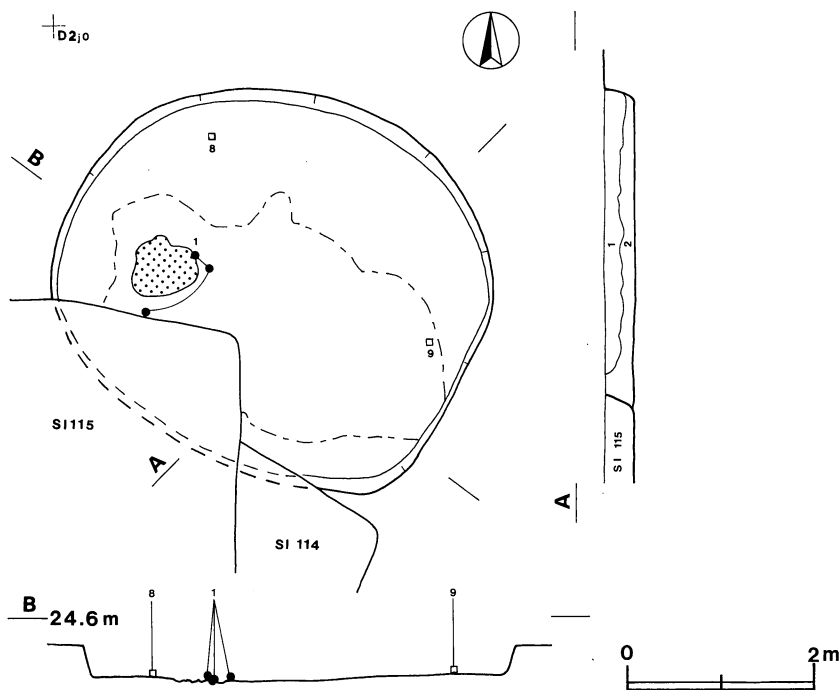
遺物 中央部の床面から縄文土器の深鉢片29点及び礫4点が出土している。8の磨石は炉北西側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第237図1～7は、第126号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片で、いずれも組紐文が施されている。3～6は銅部片である。3は単節縄文の上に鋸歯状文と上位に刺突が、4は単節縄文の上位に刺突が、5は無節の原体押圧と単節縄文が、6は単節の羽状縄文が施されている。7は底部片で、組紐による縄文が施されている。

第126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第237図8	磨石	(11.5)	8.6	4.3	(541.3)	砂岩	炉北西側床面	Q80 PL105 蔽石兼用



第238図 第127号住居跡実測図

第127号住居跡 (第238図)

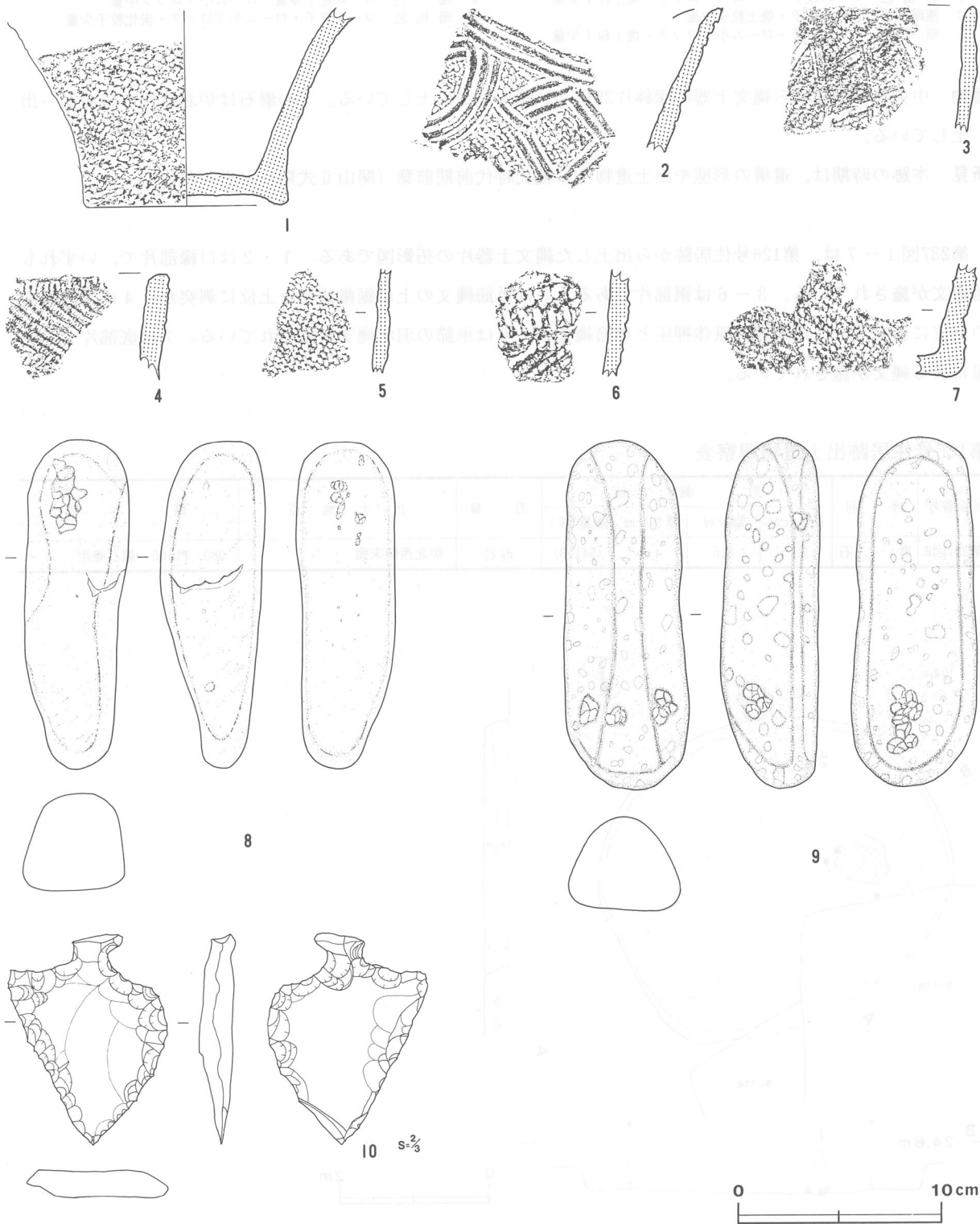
位置 調査区中央部, D2j₀区。

重複関係 本跡は南西部を第114・115号住居跡に掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸4.50m, 短軸3.60mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-66°-W

壁 壁高は30cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。



第239図 第127号住居跡出土遺物実測・拓影図

床 平坦で、炉の周辺を含む中央部が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径70cm、短径60cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 炉周辺及び南東部の床面から縄文土器の深鉢片33点及び礫12点が出土している。1の深鉢は炉床から、8の敲石は北部壁際の床面から、9の敲石は南東部壁際の床面から、10の石匙は南東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	深鉢 縄文土器	B(9.6) C 10.0	胴部下位から底部にかけての破片。底部は無文でやや上げ底気味の平底。胴部下位に単節RLの縦回転で縄文が施されている。	長石・スコリア 橙色 普通	P651 20% PL80 炉床 繊維土器

第239図2～7は、第127号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2～4は口縁部片である。2は半截竹管による幾何学文が、3は半截竹管による斜格子状文が、4は単節縄文が施されている。5・6は胴部片で、5は複節縄文が、6は棒状工具による刺突が施されている。7は底部片である。上げ底気味の平底で、単節RLの縄文が施されている。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第239図8	敲石	16.1	5.2	5.2	552.4	砂岩	北部壁際床面	Q81 PL105
9	敲石	17.2	6.2	5.0	760.2	砂岩	南東部壁際床面	Q82 PL105
10	石匙	5.2	4.0	0.9	12.8	頁岩	南東部覆土中	Q83

第128号住居跡（第240図）

位置 調査区中央部，E2c9区。

重複関係 本跡は南西壁が第161号住居跡を掘り込み、東コーナー部を第47号土坑に掘り込まれていることから、第161号住居跡より新しく、第47号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.15m、短軸3.65mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-37°-W

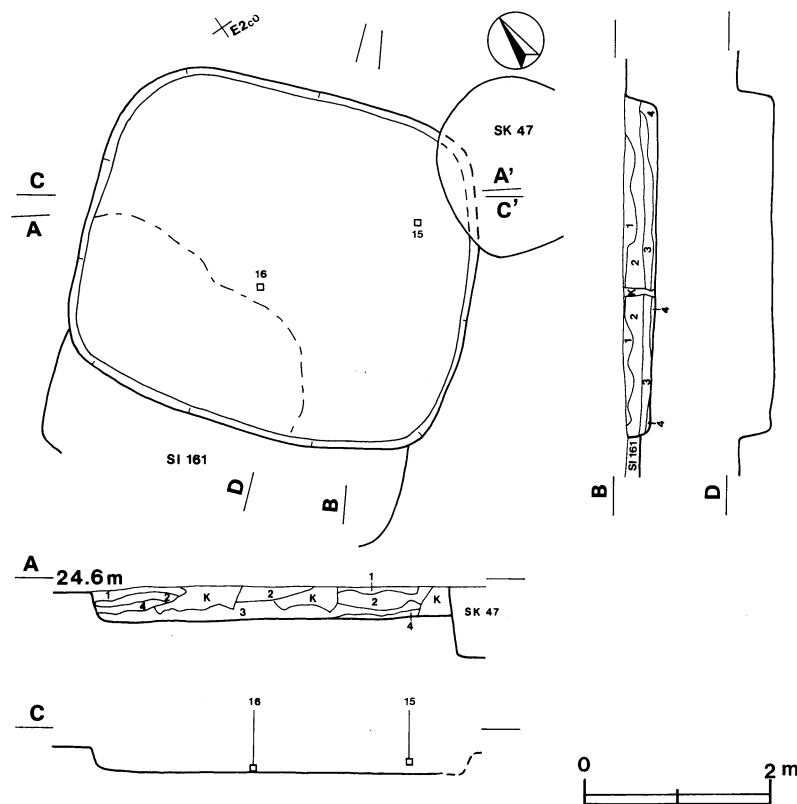
壁 壁高は25～33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、全体的に軟らかいが、西コーナー部周辺が踏み固められている。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量



第240図 第128号住居跡実測図

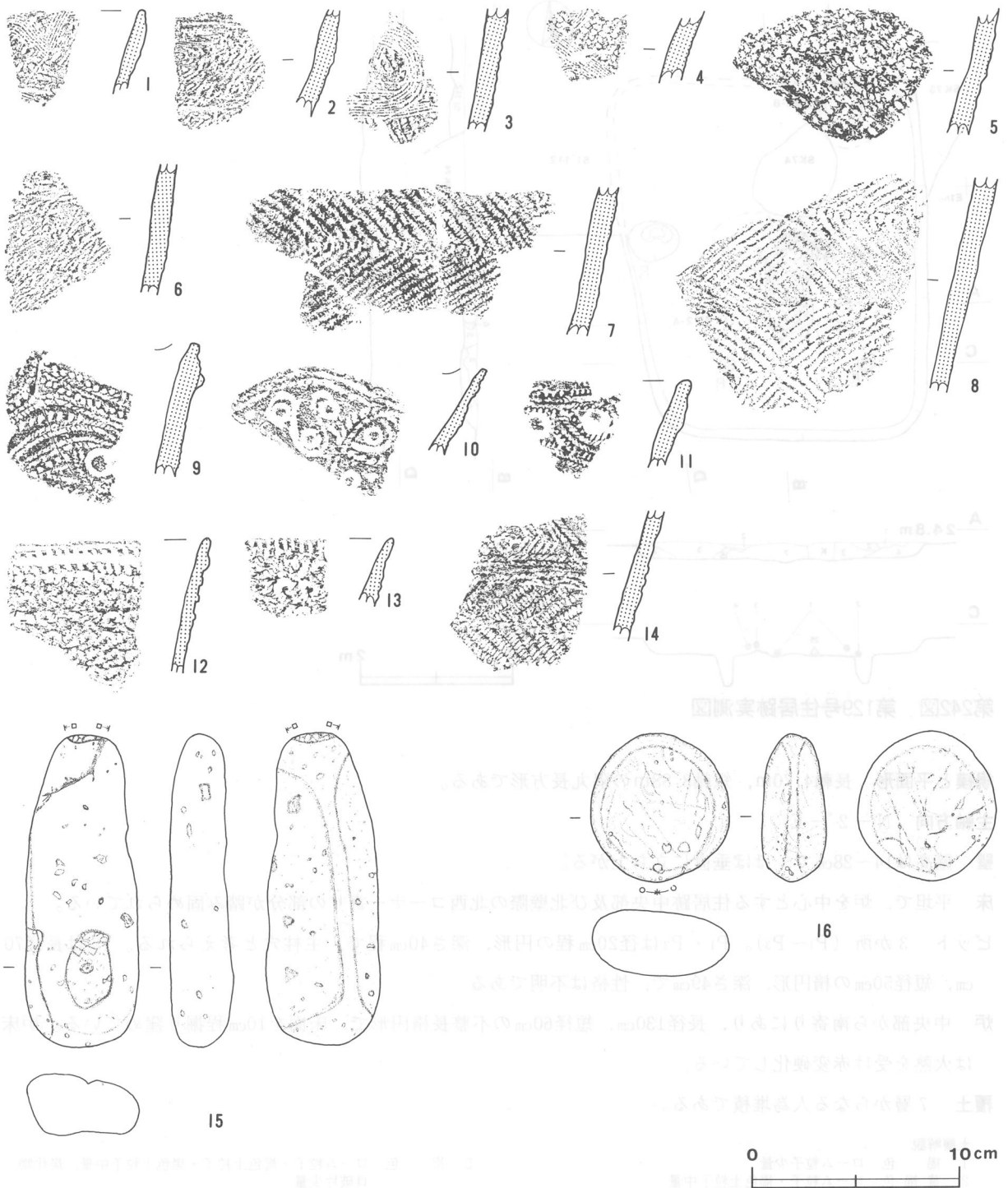
遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて縄文土器の深鉢片130点及び礫16点が出土している。15の敲石は東コーナー部の覆土下層から、16の磨石は中央部の床面から出土している。

所見 本跡は炉及び柱穴等が確認されなかったが、硬化面の一部と縄文土器の深鉢片及び石器等が出土していることから住居跡とした。時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第241図1～14は、第128号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片である。1は櫛歯状工具による沈線が、2は反捲りの縄文が施されている。2の口唇部は僅かに欠けている。3～8は胴部片である。3・4は櫛歯状工具による沈線が、5は単節RLの縄文が、6は反捲りの縄文が、7・8は羽状縄文が施されている。9～13は口縁部片である。9～11は円形刺突文が施され、9・10は波状口縁である。12・13はループ文が施され、口縁部及び隆帯上に縦位の刺突が施されている。14は胴部片で、羽状縄文と上位にハの字状の刺突が施されている。1～8が本跡に伴い、9～14は流れ込みと思われる。

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第241図15	敲石	15.1	5.5	3.0	396.4	砂岩	東コーナー部覆土下層	Q84	PL105
16	磨石	7.2	6.6	3.1	190.9	砂岩	中央部床面	Q85	PL105

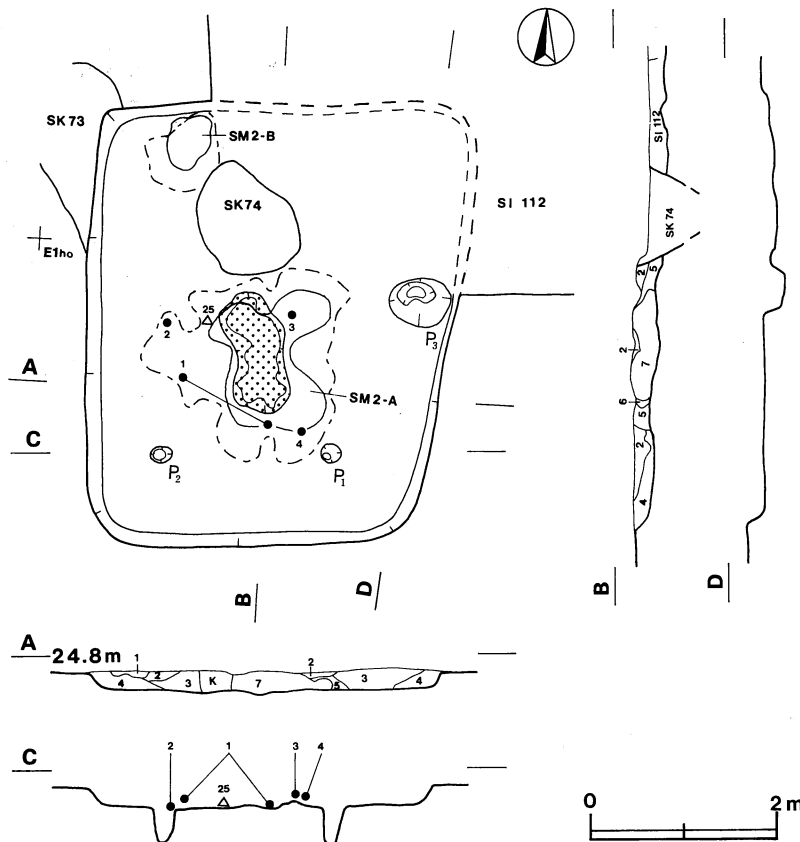


第241図 第128号住居跡出土遺物・拓影図

第129号住居跡 (第242図)

位置 調査区西端部, E1h0区。

重複関係 本跡は北西コーナー部が第73号土坑を掘り込み, 北東コーナー部を第112号住居跡に, 炉の北側を第74号土坑に掘り込まれていることから, 第73号土坑より新しく, 第112号住居跡及び第74号土坑より古い。また, 本跡内にはほぼ同時期に形成されたものと思われる第2号地点貝塚がある。



第242図 第129号住居跡実測図

規模と平面形 長軸4.70m，短軸3.88mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は14~28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉を中心とする住居跡中央部及び北壁際の北西コーナー寄りの部分が踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は径20cm程の円形，深さ40cm程で，支柱穴と考えられる。P₃は長径70cm，短径50cmの楕円形，深さ49cmで，性格は不明である。

炉 中央部から南寄りにあり，長径130cm，短径60cmの不整長楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 7層からなる人為堆積である。

土層解説

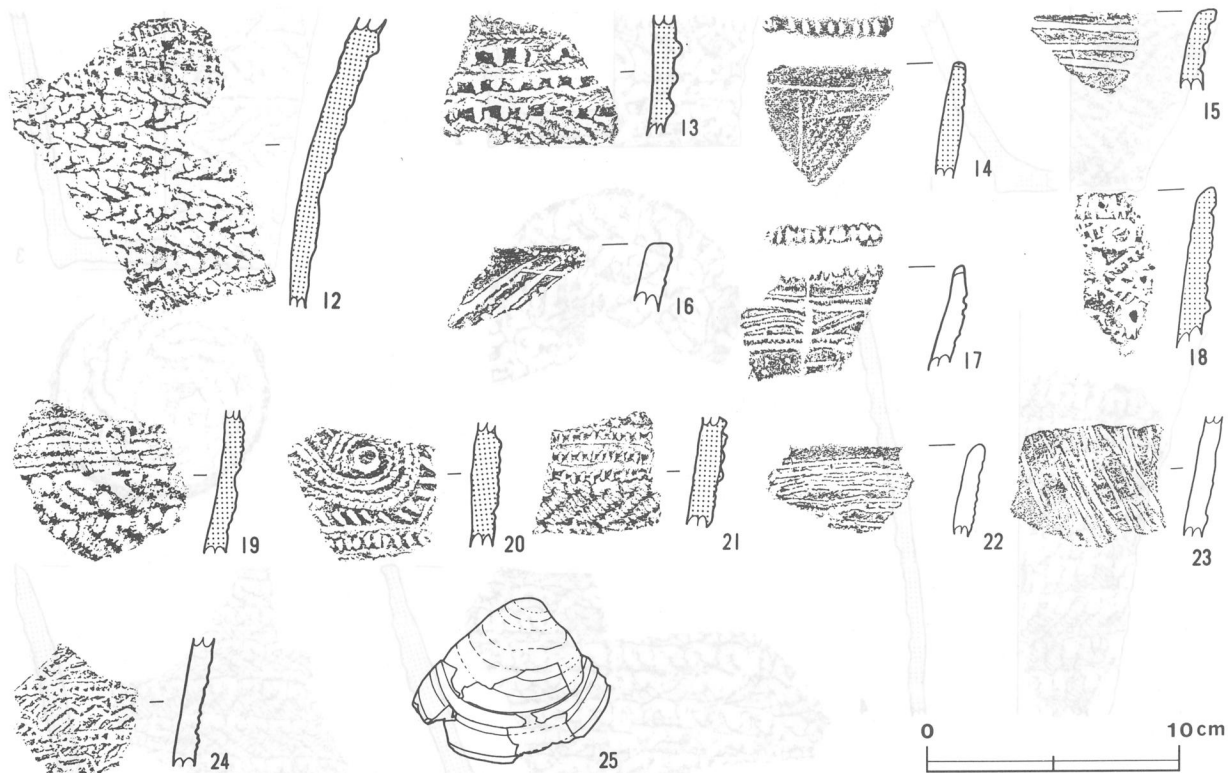
- | | | | |
|--------|-----------------|-------|--------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子・褐色土粒子・黒色土粒子中量，炭化物・貝破片少量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子・褐色土粒子中量 | 6 黒色 | 褐色土粒子・炭化物・貝破片少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック少量 | 7 灰褐色 | 混土貝層 (ヤマトシジミ，マガキが主体)，黒色土粒子・砂粒子・炭化物少量 |
| 4 暗黄褐色 | ローム粒子中量，褐色土粒子少量 | | |

遺物 炉を中心とする中央部の床面から縄文土器の深鉢を主体に出土している。1の深鉢は中央部の床面から，2の深鉢及び25の貝刃は炉西側の床面から，3の深鉢は炉床の北東部から，4の深鉢は炉南側の覆土下層から出土している。また，第2号地点貝塚からはヤマトシジミ，マガキを主体とする貝に混じり，縄文土器の深鉢片 (二ツ木式期を主体に) が出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉 (二ツ木式期) と思われる。また，本跡内に形成された第2号地点貝塚は，住居廃絶とほぼ同時期のものと考えられる。



第243图 第129号住居跡出土遺物実測・拓影图(1)



第244図 第129号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	深鉢 縄文土器	B(7.3) C(6.0)	胴部下位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部下位に単節LRの縄文が施されている。	長石・スコリア 橙色 普通	P652 10% 中央部床面 繊維土器
2	深鉢 縄文土器	B(5.4) C 10.0	胴部下位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部は単節LRとRLの末端をループさせた部分に羽状縄文が施され、底部端部には単節RLを一周させた縄文が施されている。	長石 におい褐色 普通	P653 10% PL80 炉西側床面 繊維土器
3	深鉢 縄文土器	B(10.2) C 8.7	胴部下位から底部にかけての破片。底部は上げ底。胴部は単節LRとRLの羽状縄文が施されている。底部は端部を原体による刺突で巡らし、中を単節RLの末端をループさせた部分に縄文が施されている。	長石 におい褐色 普通	P654 20% PL80 炉床北東部 繊維土器
4	深鉢 縄文土器	B(16.2)	胴部片。胴部は単節RLの末端をループさせた部分に縄文が施されている。	長石 褐色 普通	P655 20% PL80 炉南側覆土下層 繊維土器

第243・244図5～24は、第129号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。5～10は口縁部片である。5～8・10はループ文が施され、5は波状口縁で、7～9の口唇部は内削ぎである。9は2本一對の平行な隆帯上に刺突が、隆帯の間に原体による押圧が施されている。10は4段に縦位の刺突が施されている。11～13は胴部片である。11はループ文が、12はループ文の上位に円形竹管文と貼り瘤が施されている。13は3本一對の平行な隆帯上に刺突が、隆帯の間に原体による押圧が施されている。14～18は口縁部片である。14は貝殻腹縁文と細かい沈線が施され、15・16は角頭状の口唇部で、横位及び斜位に沈線が施されている。17は沈線と口唇部に刻みが施されている。18は円形竹管文と貼り瘤が施されている。19～21は胴部片である。19・20は原体による押圧と円形竹管文が、21は3本一對の平行な隆帯上に刺突が施されている。22は口縁部片で、横位の沈線が施されている。23・24は胴部片である。23は斜位に、24は波状に沈線が施されている。5～13は二ツ木式期、

14～16は田戸下層式期，17は田戸上層式期，18～21は花積下層式期，22～24は浮島I式期に比定されるものと思われる。

第130号住居跡（第245図）

位置 調査区南西部，E2d5区。

重複関係 本跡は北コーナー部を第158号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.70m，短軸5.60mの方形である。

主軸方向 N-64°-E

壁 壁高は14～19cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，全体が踏み固められている。

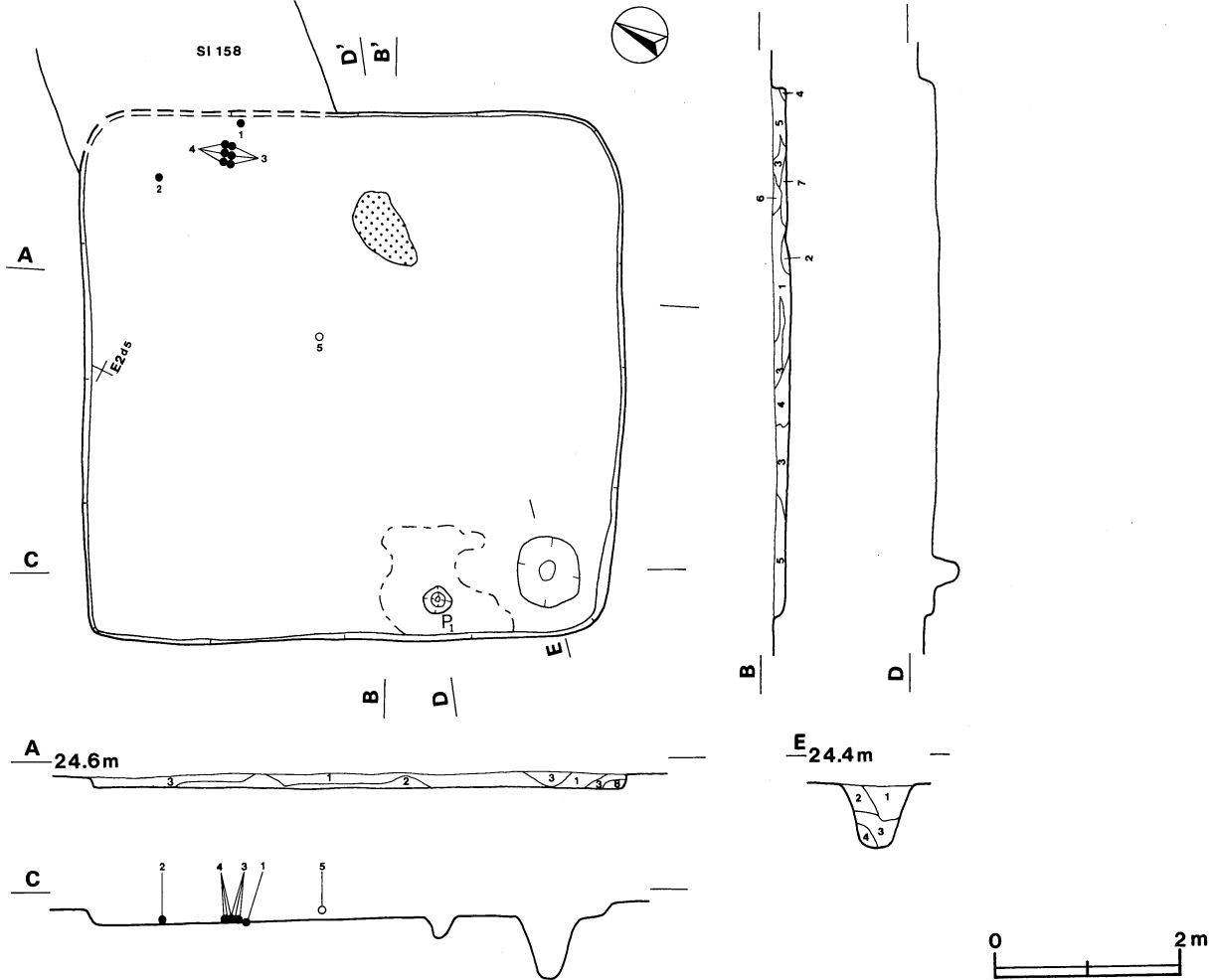
ピット P₁は径30cm程の円形，深さ26cmで，規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から東寄りにあり，長径90cm，短径50cmの不整楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径75cm，短径65cmの楕円形で，深さは70cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |



第245図 第130号住居跡実測図

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

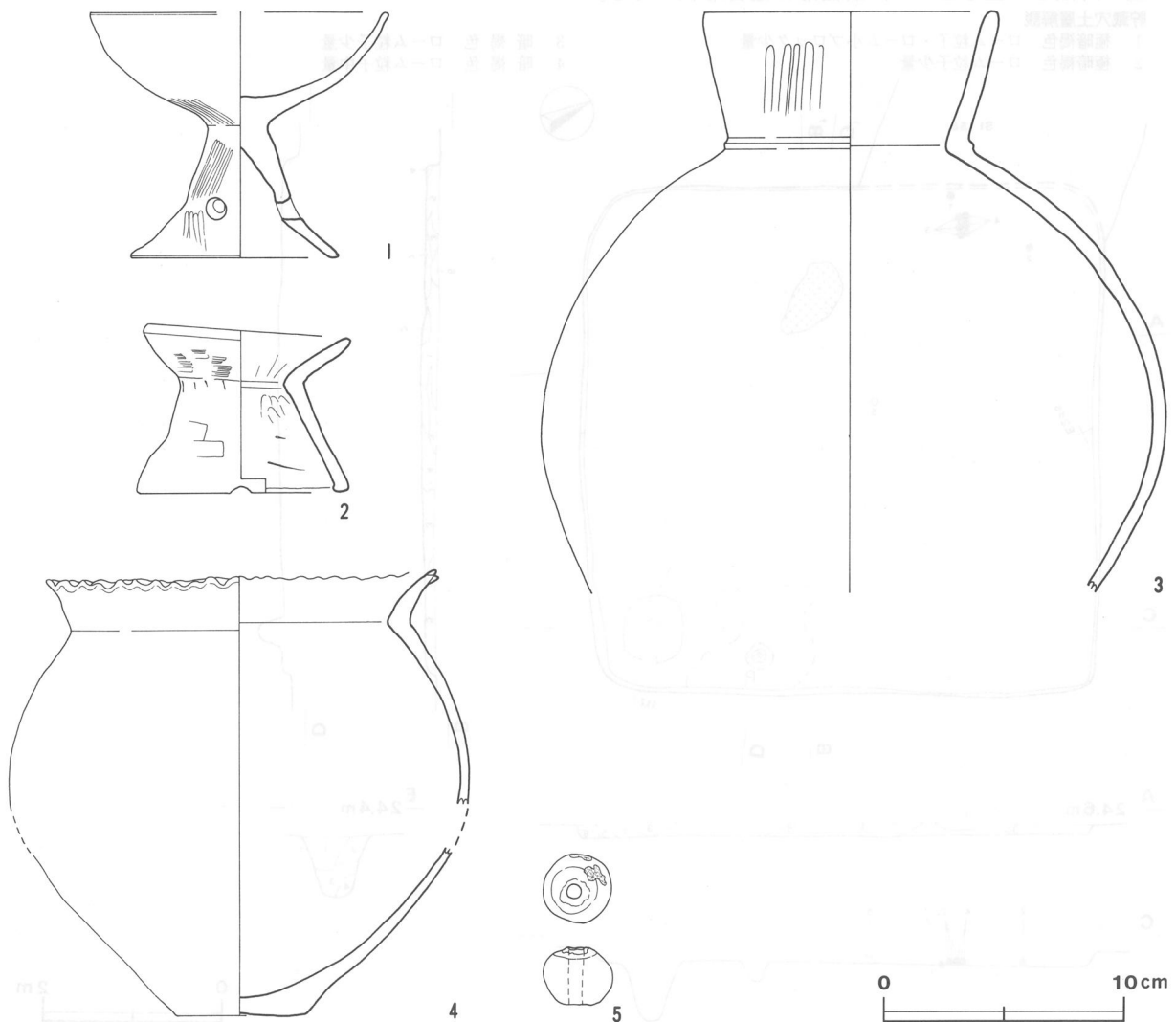
- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小・中・大ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 炉の北側から北コーナー部にかけての床面から土師器がまばらに出土している。2の器台は北コーナー部の床面から逆位の状態で、1の高坏及び3の壺・4の甕は炉と北コーナー間の床面から破片で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 1	高坏 土師器	A [12.3] B 10.1 D 8.6 E 5.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面、脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ。	長石・石英にぶい褐色 普通	P656 50% 炉・北コーナー間床面



第246図 第130号住居跡出土遺物実測図

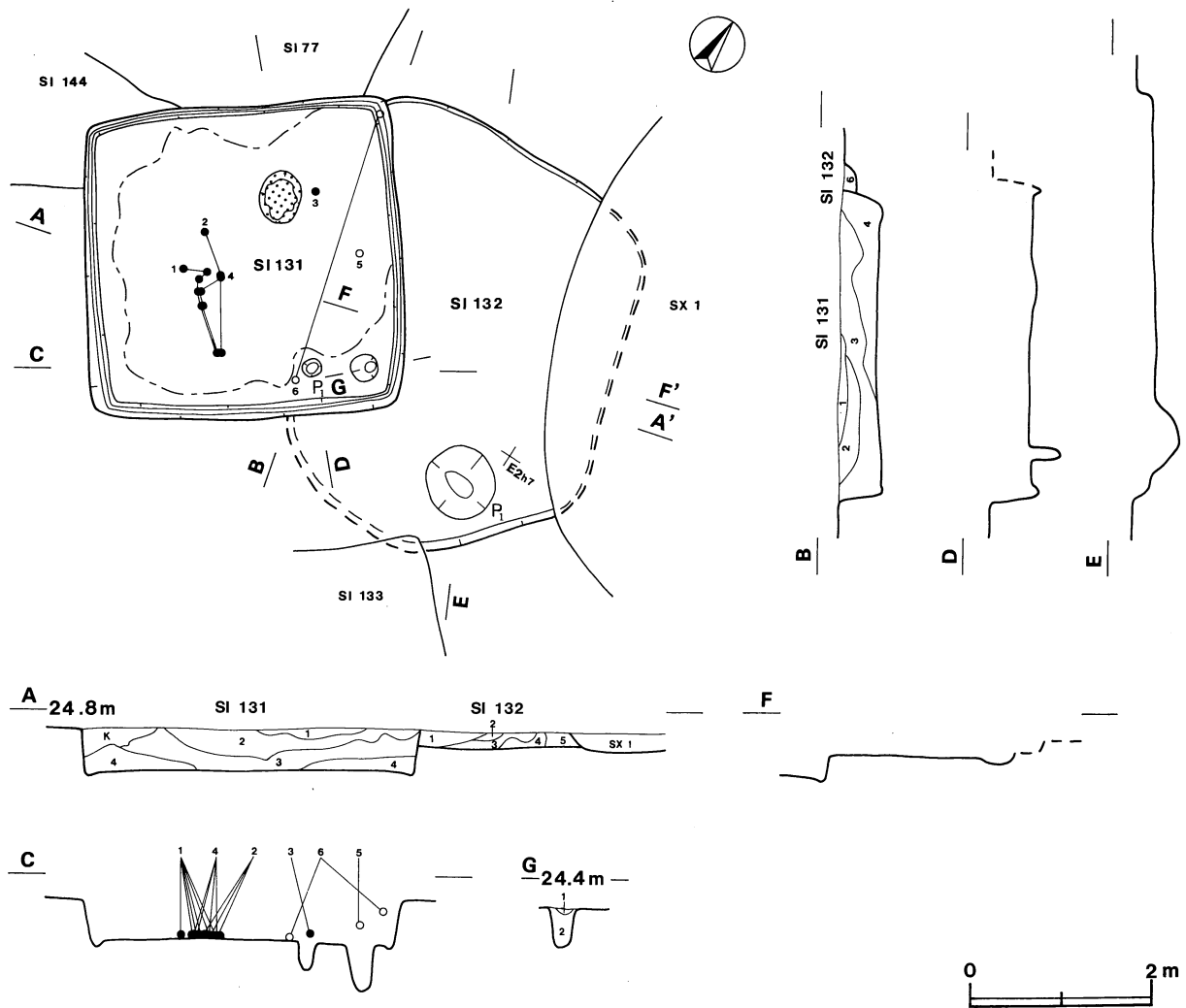
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 2	土師器 台	A 8.5	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面, 脚部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P657 95% PL80 北コーナー部床面 二次焼成
		B 7.0				
		D 8.8				
		E 4.8				
3	土師器 壺	A 12.1	底部欠損。体部は球状で、口縁部は頸部から外傾する。頸部に粘土紐を貼り付ける。	口縁部内面横ナデ, 外面ハケ目整形後ヘラ磨き。体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P659 40% PL81 炉・北コーナー間床面
		B (24.0)				
4	土師器 甕	A 16.2	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面, 体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P658 50% PL80 炉・北コーナー間床面 二次焼成, 体部外面煤付着
		B (18.3)				
		C 5.4				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第246図5	土玉	2.4	2.8	—	0.6	19.7	中央部覆土下層	DP190

第131号住居跡 (第247図)

位置 調査区南西部, E2g6区。

重複関係 本跡は北東部が第132号住居跡を, 北西部が第77号住居跡を, 西コーナー部が第144号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。



第247図 第131・132号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-36°-W

壁 壁高は43~48cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており, 上幅10cm程, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。

ピット P₁は径20cm程の円形, 深さ31cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり, 長径55cm, 短径48cmの楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。径30cm程の円形で, 深さは50cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

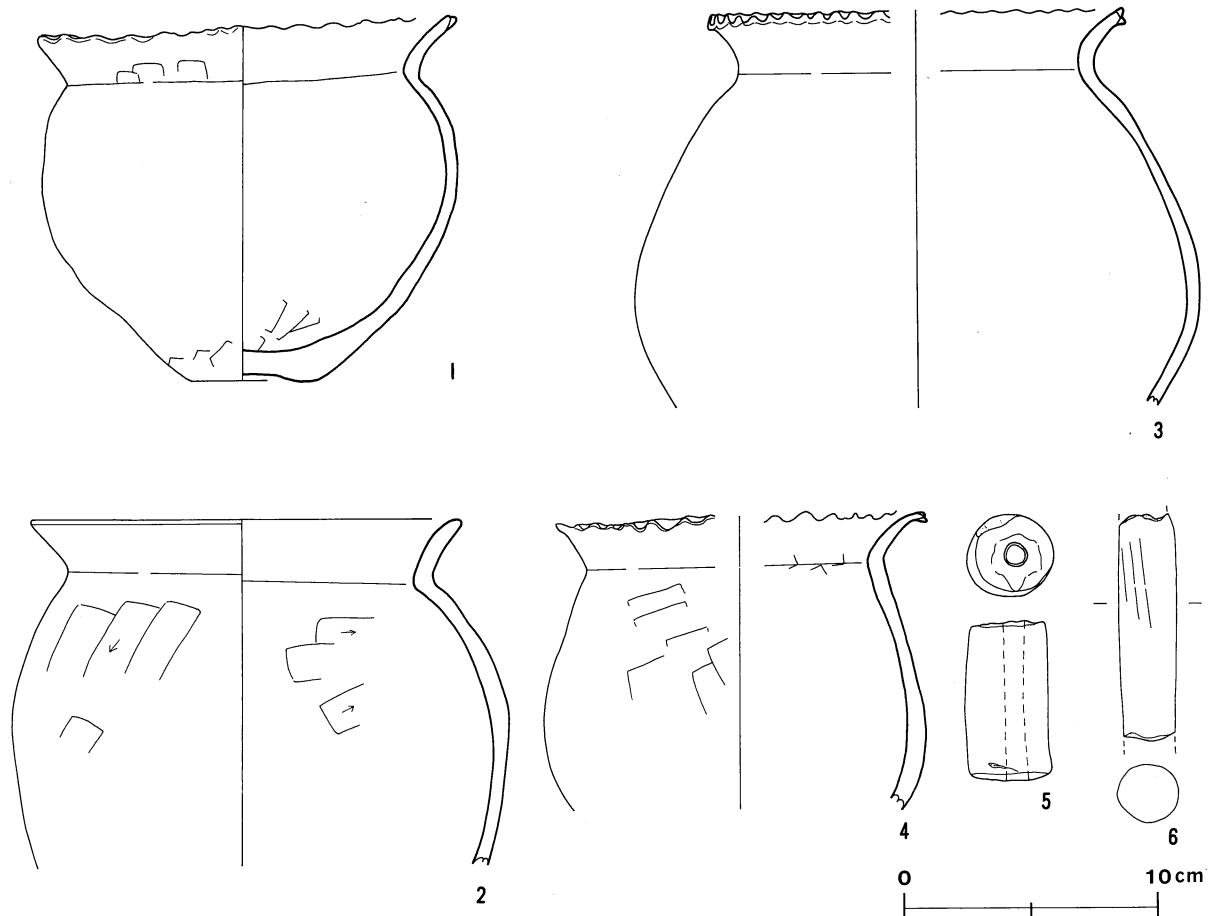
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中・大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量

遺物 住居跡の中央部から東部にかけての床面から土師器の甕片を主体に少量出土している。1・2・4の甕は中央部の床面から, 3の甕は炉の北東側床面から破片で出土している。



第248図 第131号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 1	甕 土師器	A 16.5	中央がやや凹む平底。体部は縦長の球状で最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P660 70% PL81 中央部床面 二次焼成、体部外面煤付着
		B 14.5				
		C 5.1				
2	甕 土師器	A 17.0	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P662 40% 中央部床面 二次焼成、体部外面煤付着
		B (13.7)				
3	甕 土師器	A [16.4]	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P384 40% PL81 炉北東側床面 二次焼成
		B (15.7)				
4	甕 土師器	A [14.7]	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P661 40% 中央部床面 二次焼成、体部外面煤付着
		B (11.7)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第248図5	管状土錘	6.2	3.5	—	0.9	75.8	北東壁中央部寄り	DP191 PL99
6	不明土製品	(8.9)	2.5	—	—	(56.0)	出入り口部床面	DP192 PL103

第132号住居跡（第247図）

位置 調査区南西部，E2g₆区。

重複関係 本跡は南部を第133号住居跡に，東部を第1号不明遺構の溝に，西部を第131号住居跡にそれぞれ掘り込まれており，本跡が最も古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが，長軸（径）4.70m程の隅丸長方形か楕円形と推定される。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は16cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが，全体的に軟らかい。

ピット P₁は径75cm程の円形，深さ30cm程で，性格は不明である。

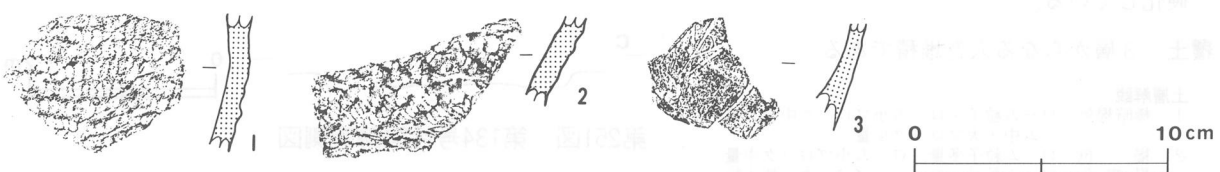
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 | 4 褐色 | 黒色土粒子多量 |
| 2 褐色 | 黒色土粒子多量 | 5 褐色 | 黒色土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量 |

遺物 床面から縄文土器の深鉢片3点及び礫7点が出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期と思われるが，遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第249図 第132号住居跡出土遺物拓影図

第249図1～3は、第132号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は胴部片である。1は単節R Lの縄文が、2はループ文が施されている。3は底部に近い破片で、斜位の沈線が施されている。

第133号住居跡 (第250図)

位置 調査区南西部, E2h6区。

重複関係 本跡は北コーナー部が第132号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.75m, 短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は22~36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部がやや踏み固められている。

覆土 2層からなる人為堆積である。

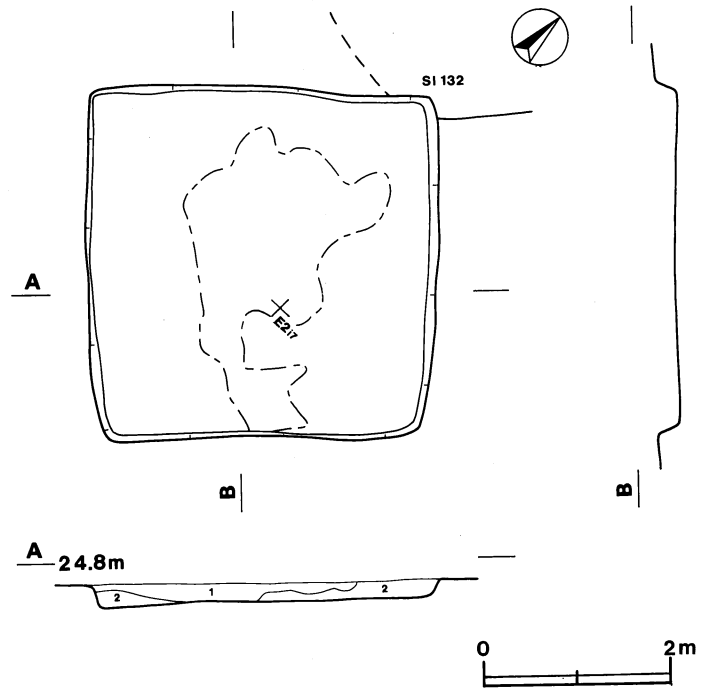
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器の甕片を主体に床面から少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺

物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第250図 第133号住居跡実測図

第134号住居跡 (第251図)

位置 調査区西部, D2g6区。

規模と平面形 長軸2.70m, 短軸2.60mの方形である。

主軸方向 N-127°-W

壁 壁高は10~16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

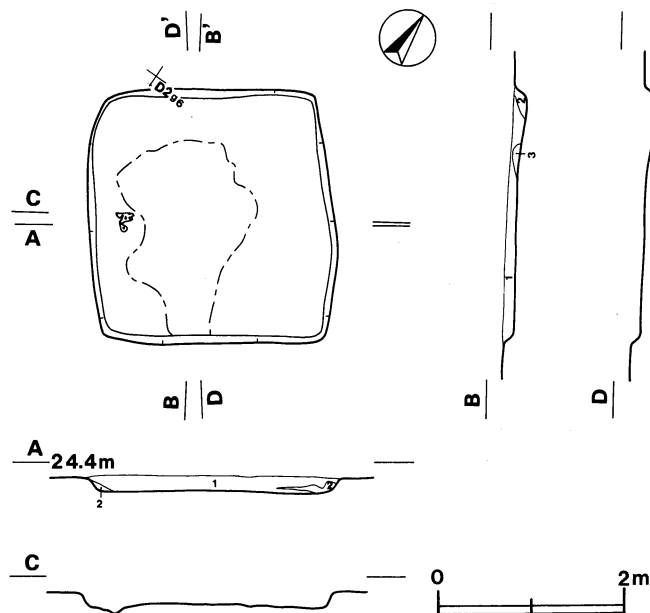
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部から南西壁中央部寄りにあり、長径20cm, 短径15cmの不定形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中・大ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量



第251図 第134号住居跡実測図

遺物 土師器の甕片を主体に中央部の床面から少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第135号住居跡（第252図）

位置 調査区西部，D2e7区。

重複関係 本跡は南東壁が第141号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸6.80m，短軸6.20mの方形である。

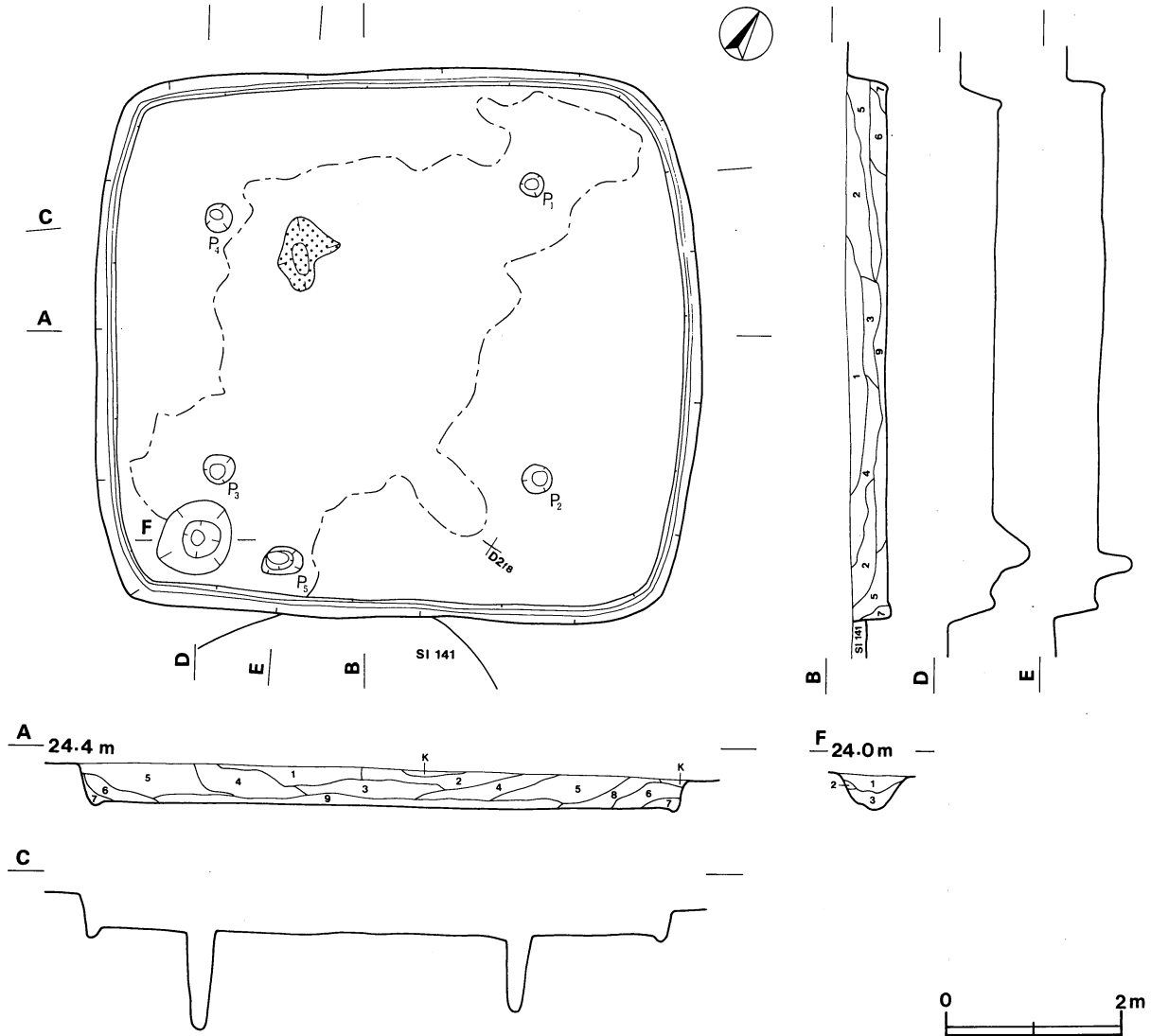
主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は28~42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅10cm程，深さ5~10cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，東・西コーナー部を除いた床面が踏み固められている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は径25~30cmの円形，深さ71~110cmで，いずれも主柱穴，P₅は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ39cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。



第252図 第135号住居跡実測図

炉 中央部から西寄りにあり、長径80cm、短径65cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径80cm程の円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | | |

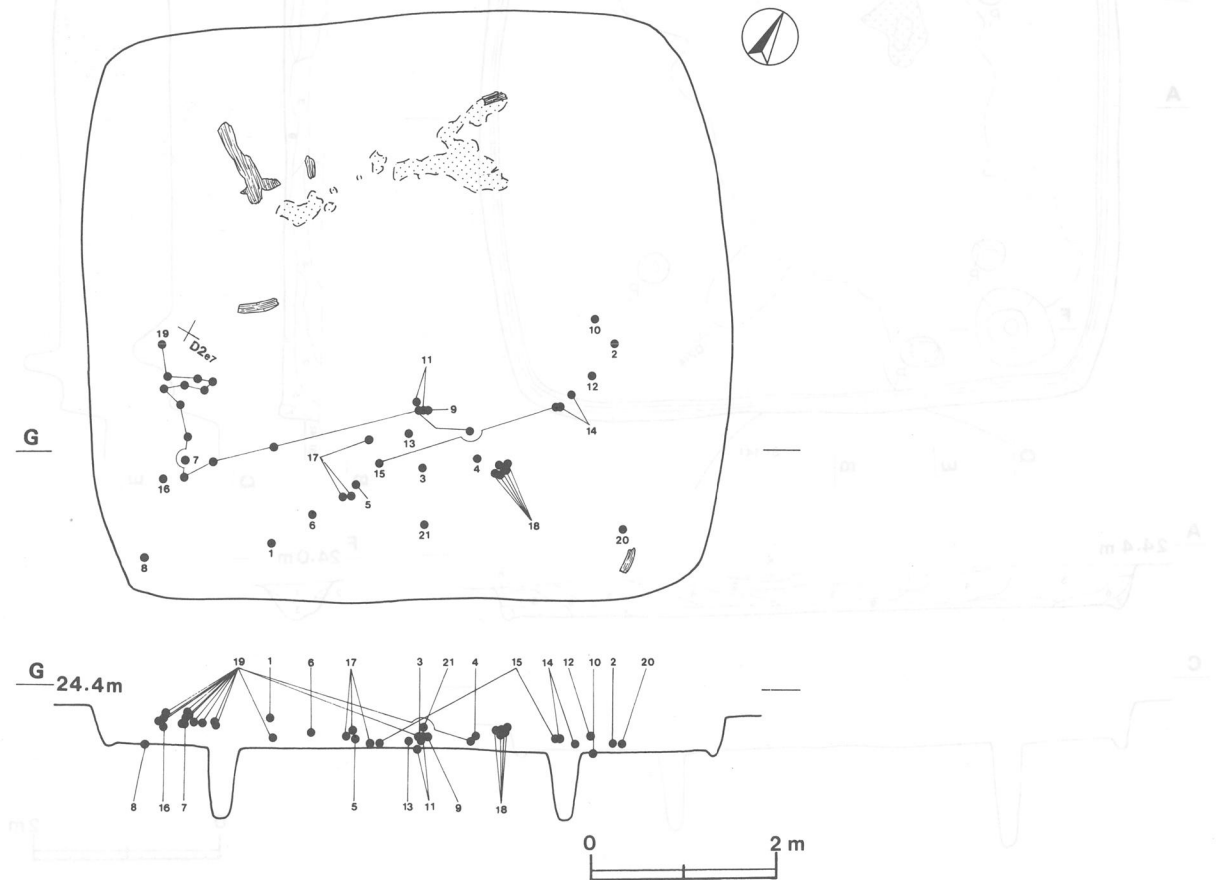
覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

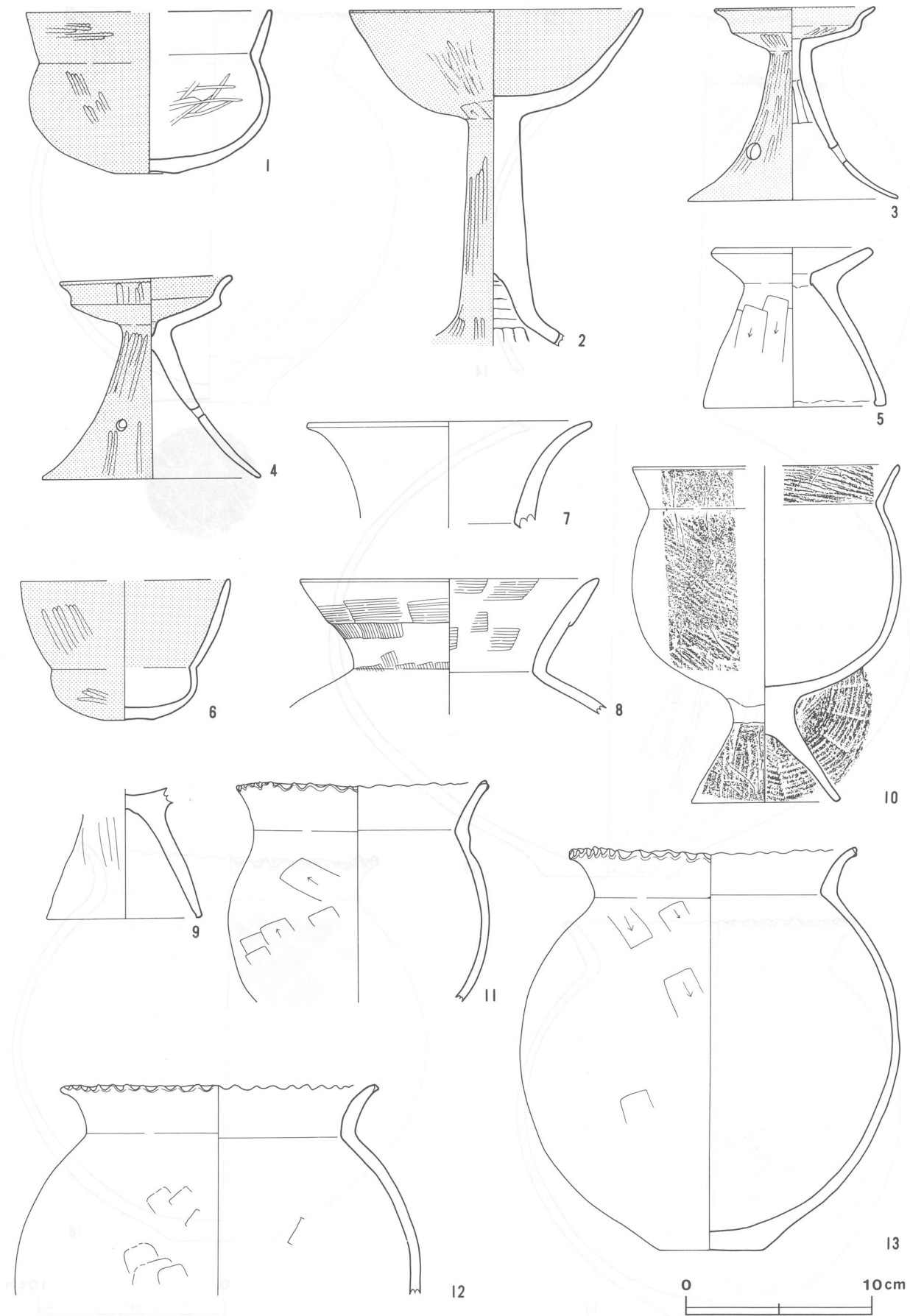
- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量 | 6 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| | | 9 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 主に住居跡南東部の覆土上層から床面にかけての部分から土師器を主体に出土している。また、北西部の床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。南コーナー部からは1の椀及び7の壺が覆土上層から、16の壺及び19の鉢が覆土中層から、8の壺が床面から出土している。中央部東寄りからは12の甕が覆土中層から、2の高坏及び14の甕が覆土下層から、20のミニチュア土器が東コーナー部の覆土下層から、10の台付甕が床面から出土している。中央部南東寄りからは18の甕及び21のミニチュア土器が覆土中層から、3・4・5の器台、9の台付甕及び11・13・15・17の甕が覆土下層からそれぞれ出土している。また、6の罎は南東壁中央部寄りの覆土中層から出土している。

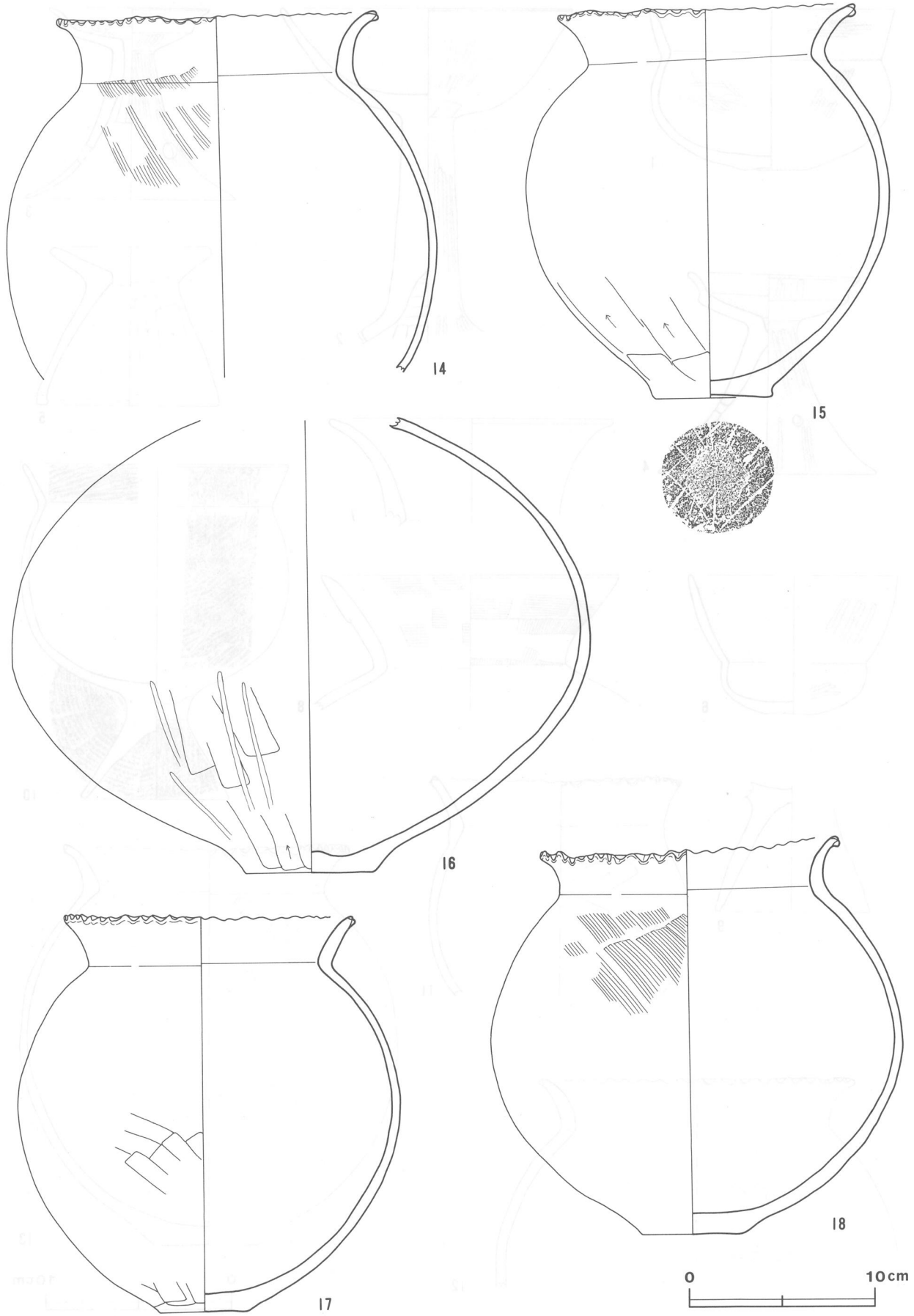
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



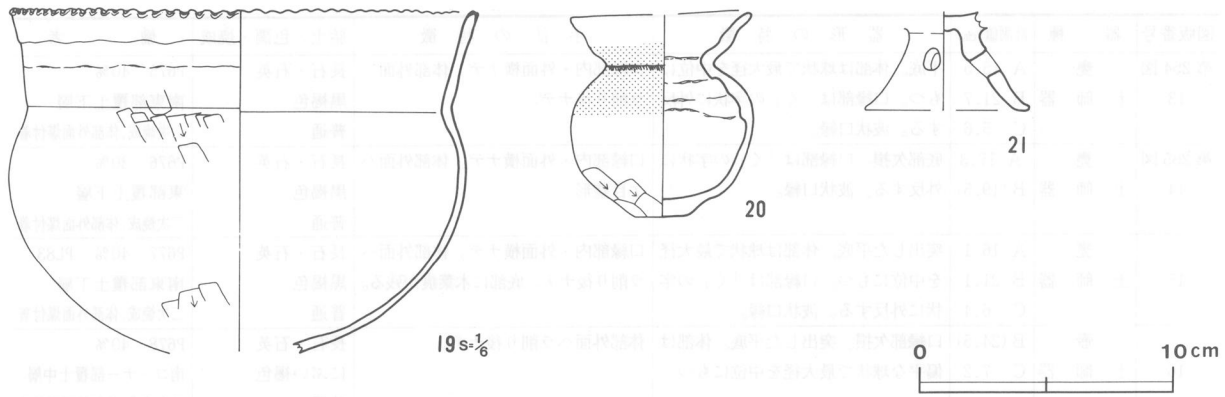
第253図 第135号住居跡遺物出土位置図



第254图 第135号住居跡出土遺物実測図(1)



第255图 第135号住居跡出土遺物実測図(2)



第256図 第135号住居跡出土遺物実測図(3)

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図 1	碗 土師器	A [13.2]	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ。口縁部外面、体部内・外面へラ磨き。口縁部外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P663 50% PL81 南コーナー部覆土上層 体部内面剝離
		B 8.6				
		C 3.3				
2	高 土師器	A 15.8	裾部欠損。脚部は中実柱状。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。脚部と裾部の境に孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部外面へラ磨き。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P664 80% PL82 東部覆土下層
		B (18.1)				
		E (12.2)				
3	器 土師器	A 8.7	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P665 90% PL82 南東部覆土下層
		B 10.2				
		D 11.4				
		E 7.9				
4	器 土師器	A 9.3	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔を穿つ。器受部中央に貫通孔を穿とうとした痕跡有り。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P666 80% PL81 南東部覆土下層 二次焼成 器受部内面剝離
		B 10.9				
		D 11.9				
		E 8.3				
5	器 土師器	A 8.8	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P667 95% PL81 南東部覆土下層 二次焼成
		B 8.6				
		D 9.8				
		E 6.4				
6	罎 土師器	A [11.3]	丸底。体部は偏平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P668 60% PL81 南東壁中央部寄り覆土中層 体部内面剝離
		B 7.6				
7	壺 土師器	A 15.4	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面赤彩痕有り。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P669 20% 南コーナー部覆土上層 二次焼成、口縁部外面煤付着
		B (5.7)				
8	壺 土師器	A 16.2	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横位のハケ目整形。頸部外面縦位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P670 30% PL81 南コーナー部床面 二次焼成
		B (7.3)				
9	台付 土師器	B (7.1)	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面へラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P671 10% 南東部覆土下層 二次焼成、台部外面煤付着
		E 5.8				
10	台付 土師器	A [14.4]	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面、体部外面、台部内・外面ハケ目整形。体部内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P672 60% PL82 東部床面 二次焼成、体部外面煤付着
		B 18.1				
		D 8.0				
		E 4.6				
11	甕 土師器	A 13.6	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P673 60% PL83 南東部覆土下層 二次焼成、体部外面煤付着
		B (11.8)				
12	甕 土師器	A 17.1	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部外面赤彩痕有り。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P674 30% PL81 東部覆土中層 二次焼成、体部外面煤付着
		B (11.3)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図 13	甕 土師器	A 15.5	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P675 40% 南東部覆土下層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B 21.7				
		C 5.6				
第255図 14	甕 土師器	A 17.3	底部欠損。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 黒褐色 普通	P676 30% 東部覆土下層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B (19.5)				
15	甕 土師器	A 16.1	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。底部に木葉痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P677 40% PL83 南東部覆土下層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B 21.1				
		C 6.4				
16	壺 土師器	B (24.5)	口縁部欠損。突出した平底。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P678 40% 南コーナー部覆土中層 二次焼成, 体部外面煤附着
		C 7.2				
17	甕 土師器	A 15.8	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P679 60% PL83 南東部覆土下層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B 21.5				
		C 4.9				
18	甕 土師器	A 16.3	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 黒褐色 普通	P680 50% PL82 南東部覆土中層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B 21.3				
		C 5.5				
第256図 19	鉢 土師器	A 36.9	底部欠損。体部はやや偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P681 80% PL82 南コーナー部覆土中層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B (27.1)				
20	ミニチュア土器 土師器	A [7.2]	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾し中位に不明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。頸部から体部上位にかけて帯状に赤彩。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P683 80% PL82 東コーナー部覆土下層
		B 8.1				
		C 2.1				
21	ミニチュア土器 土師器	B (3.8)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面へラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P682 40% 南東部覆土中層
		D [6.6]				
		E 3.0				

第136号住居跡 (第257図)

位置 調査区北西部, C2i7区。

重複関係 本跡は南東壁を第68号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.25mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は22~31cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下を除く三方の壁下に確認され, 上幅5~10cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 床面全体が踏み固められている。

炉 中央部にあり, 長径130cm, 短径60cmの不定形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径45~55cmの円形で, 深さは53cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

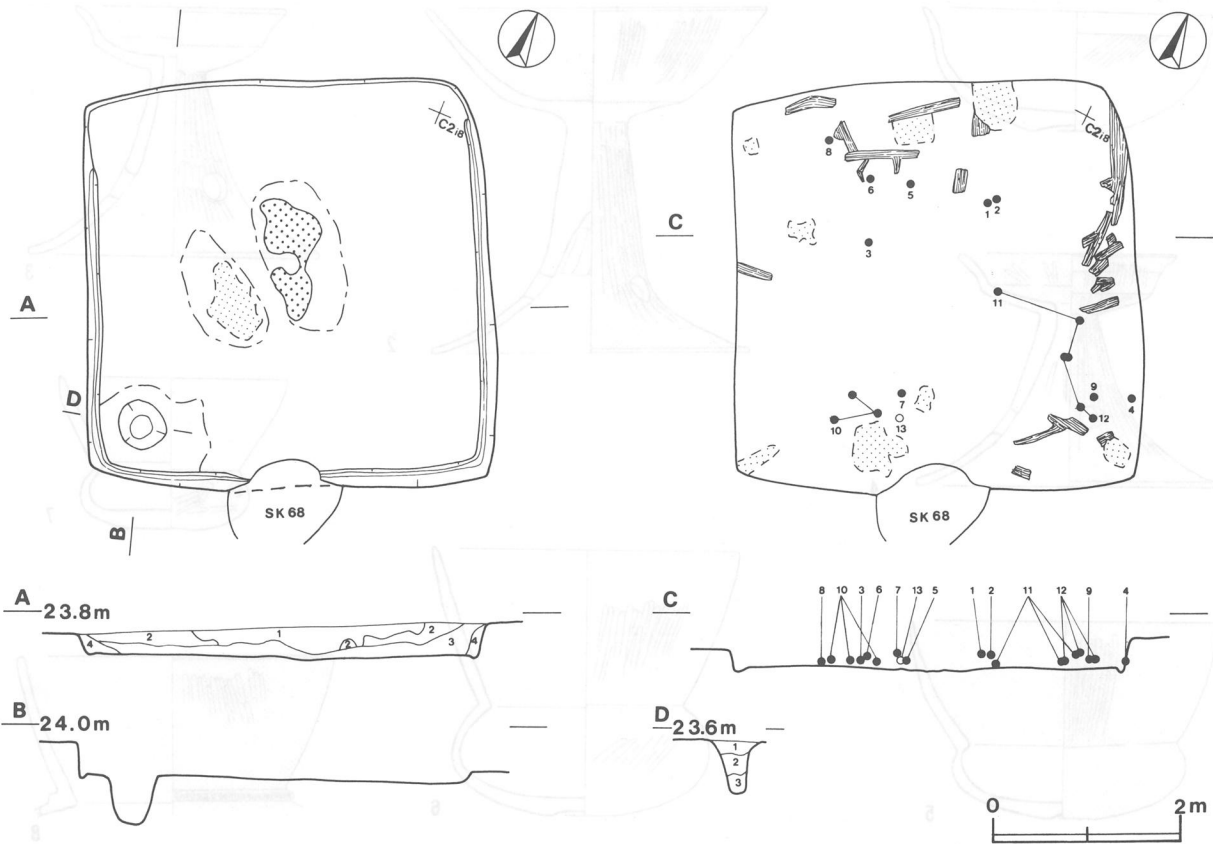
貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・炭化粒子少量



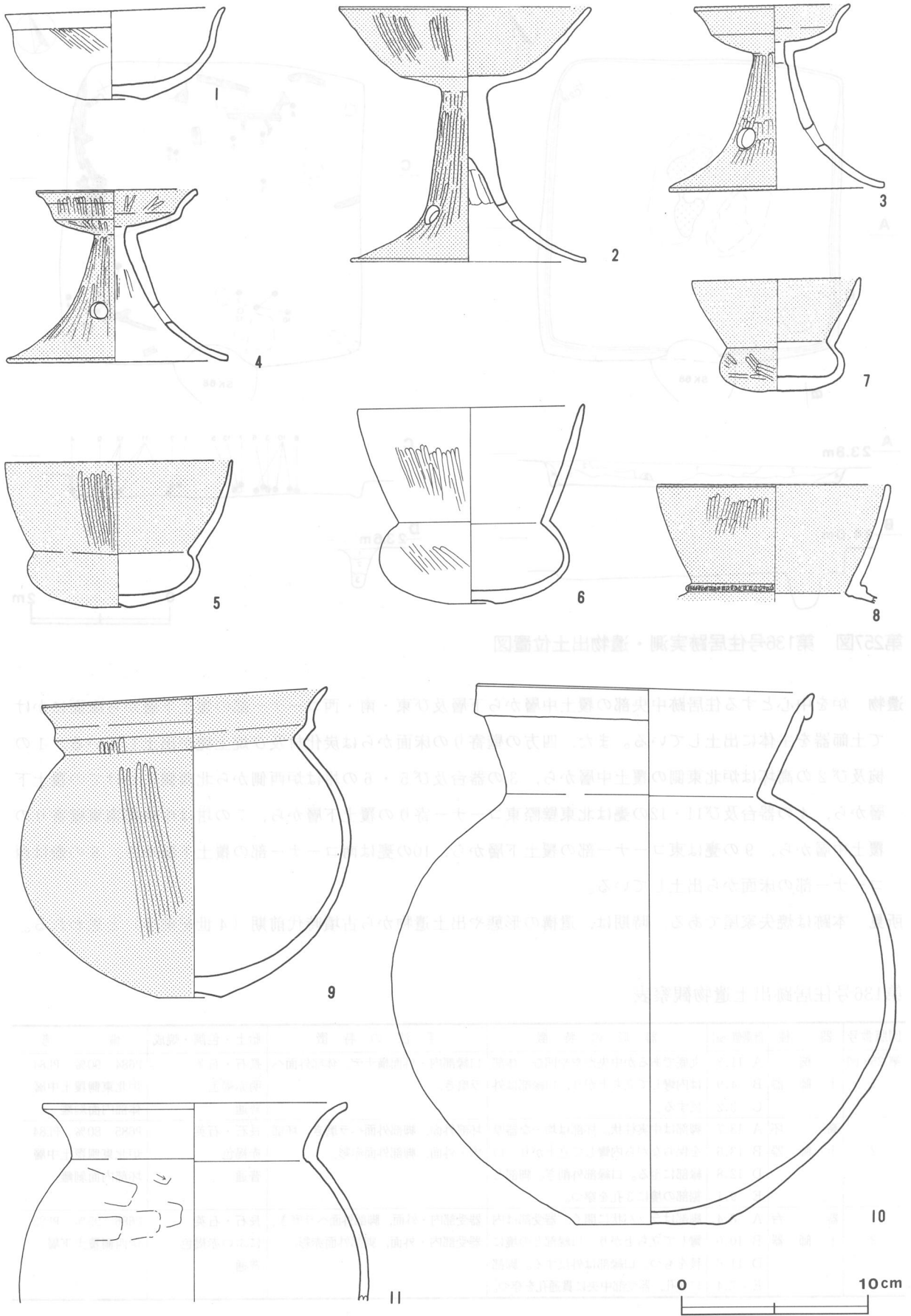
第257図 第136号住居跡実測・遺物出土位置図

遺物 炉を中心とする住居跡中央部の覆土中層から下層及び東・南・西コーナー部の覆土下層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、四方の壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の椀及び2の高坏は炉北東側の覆土中層から、3の器台及び5・6の罎は炉西側から北西側にかけての覆土下層から、4の器台及び11・12の甕は北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から、7の罎は中央部南東壁寄りの覆土中層から、9の甕は東コーナー部の覆土下層から、10の甕は南コーナー部の覆土下層から、8の壺は西コーナー部の床面から出土している。

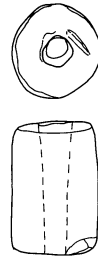
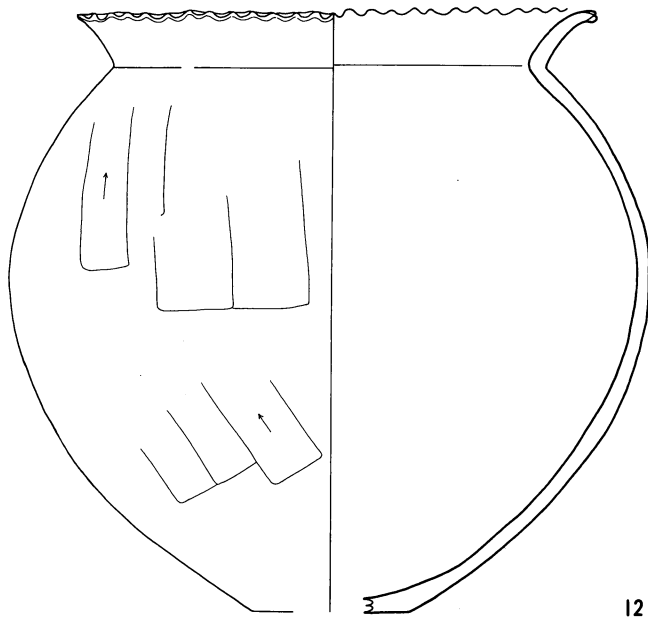
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	土師器 椀	A 11.8	丸底であるが中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P684 90% PL84 炉北東側覆土中層 体部内面剝離
		B 4.9				
		C 3.2				
2	土師器 高坏	A 13.7	脚部は中実柱状。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。脚部と裾部の境に3孔を穿つ。	坏部外面、脚部外面へラ磨き。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P685 80% PL84 炉北東側覆土中層 坏部内面剝離
		B 13.6				
		D 12.8				
		E 9.1				
3	土師器 器台	A 8.4	脚部はラップ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔、器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P686 95% PL83 炉西側覆土下層
		B 10.0				
		D 11.6				
		E 7.4				

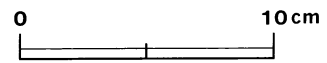


第258図 第136号住居跡出土遺物実測図(1)



13

12



第259図 第136号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 4	土師器	A 8.7	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P687 95% PL84 北東壁際東コーナー寄り覆土下層
		B 9.3				
		D 11.9				
		E 6.9				
5	土師器	A 12.3	丸底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P688 100% PL83 炉北西側覆土下層
		B 8.0				
6	土師器	A 12.2	平底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P689 95% PL84 炉北西側覆土下層
		B 10.6				
		C 2.6				
7	土師器	A 9.0	平底。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P690 90% PL84 中央部南東壁寄り覆土中層
		B 6.2				
		C 3.8				
8	土師器	A 12.6	口縁部片。口縁部は頸部から外傾する。頸部に粘土紐を貼り付ける。	口縁部内・外面へラ磨き。口縁部内・外面赤彩。頸部の粘土紐に刻みを施す。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P691 20% 西コーナー部床面
		B (6.4)				
9	土師器	A 15.2	中央がやや凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は屈曲して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P692 90% PL82 東コーナー部覆土下層
		B 16.6				
		C 3.4				
10	土師器	A 18.2	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P693 90% PL83 南コーナー部覆土下層
		B 29.1				
		C 8.0				
11	土師器	A 16.4	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英 褐色 普通	P694 20% 北東壁際東コーナー寄り覆土下層 二次焼成、体部外面煤付着
		B (10.6)				
第259図 12	土師器	A 20.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英 黒褐色 普通	P695 50% PL83 北東壁際東コーナー寄り覆土下層 二次焼成、体部外面煤付着
		B 23.7				
		C (6.2)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第259図13	管状土錘	5.3	3.5	—	1.2	75.7	南東壁中央部寄り覆土下層	DP193 PL99

第137号住居跡（第260図）

位置 調査区北西部，D2a8区。

規模と平面形 長軸3.04m，短軸2.94mの
方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は26~34cmで，ほぼ垂直に立ち上
がる。

床 平坦で，炉の周囲から出入り口部にか
けて踏み固められている。

ピット P₁は長径30cm，短径25cmの楕円
形，深さ19cmで，出入り口施設に伴うピ
ットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり，長径45cm，
短径25cmの不定形で，床面を5cm程掘り
窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化
している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|------|---------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼
土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子・黒色土粒子多量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子中量，黒色土粒子少量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

遺物 炉周辺から南コーナー部にかけての

床面から土師器の甕片及び高坏片が少量

出土している。1の高坏は炉周辺の床面から散在した状態で出土している。また，北コーナー部北西壁際の
床面からはベンガラ塊（約1kg）が出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第261図 1	高坏 土師器	A 15.5 B (4.7)	坏部片。坏部は均一な器厚を保ちな がら内彎して立ち上がり，口縁部に至 る。	坏部内・外面ヘラ磨き。坏部内・外 面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P696 40% 炉周辺床面 坏部内面剝離

第138号住居跡（第262図）

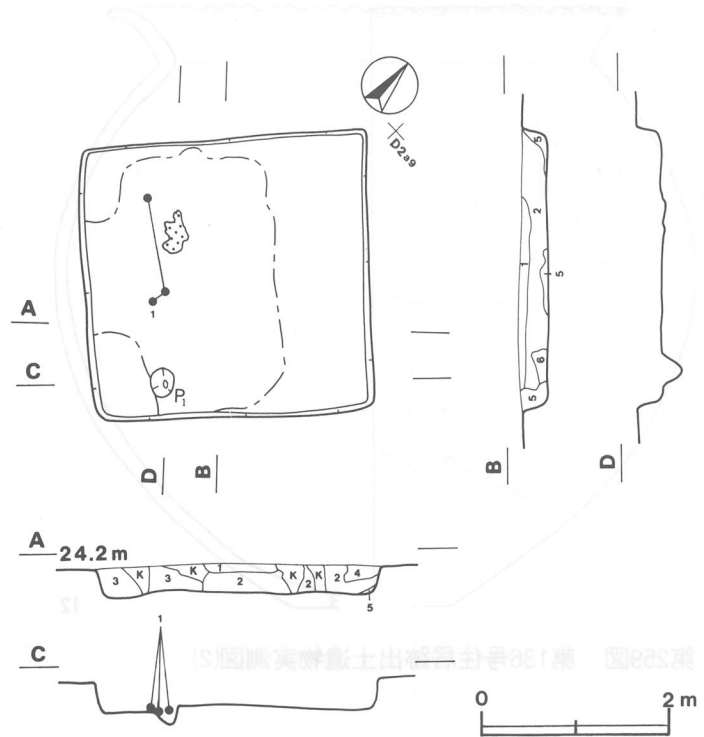
位置 調査区中央部，D3a2区。

規模と平面形 長軸3.10m，短軸3.00mの方形である。

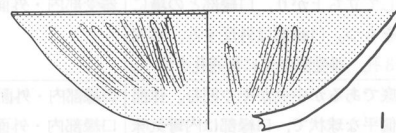
主軸方向 N-46°-W

壁 壁高は16~30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

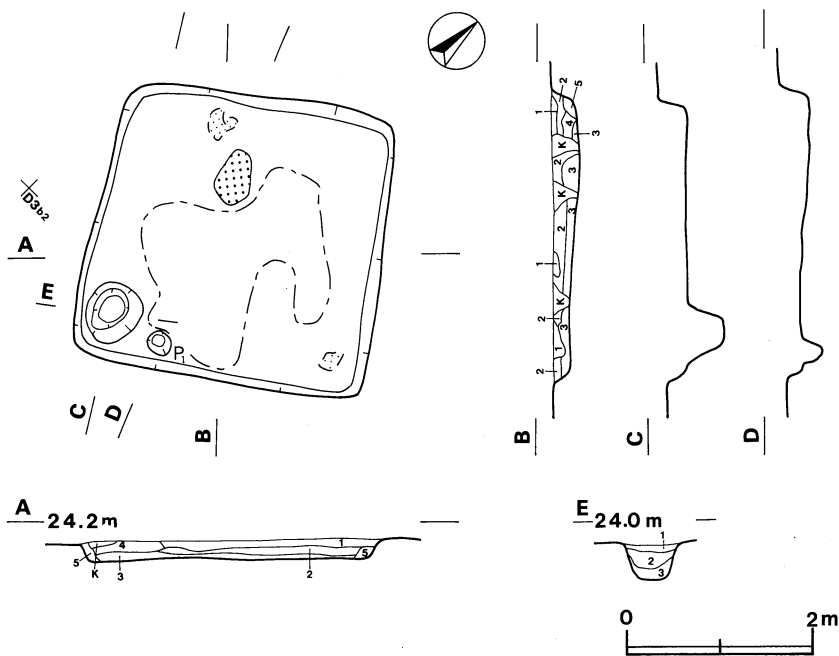
床 平坦で，出入り口部から炉の周囲にかけて踏み固められている。



第260図 第137号住居跡実測図



第261図 第137号住居跡出土遺物実測図



第262図 第138号住居跡実測図

ピット P1は径25cm程の円形、深さ18cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径40cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径65cm、短径60cmの円形で、深さは39cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | |

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 黒色 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 | |

遺物 土師器の甕片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第139号住居跡 (第263図)

位置 調査区中央部、D2d0区。

重複関係 本跡は東コーナー部を第70号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は30~37cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、北コーナー部と西コーナーの一部を除いた床面が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径30cm, 短径25cmの楕円形, 深さ48cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₂は径20cm程の円形, 深さ52cmで, 性格は不明である。

炉 中央部から西寄りにあり, 長径70cm, 短径40cmの不定形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

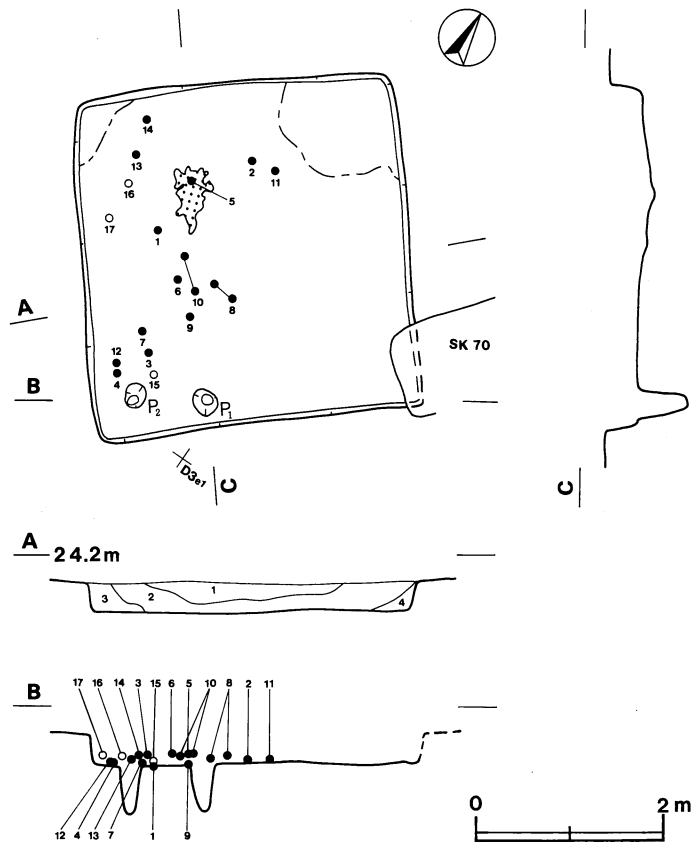
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小・中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 炉を中心とする中央部及び南・西コーナー部を含む住居跡の西部から土師器を主体に出土している。炉の周辺からは1の鉢が南側の床面から, 2の高坏が北側の床面から, 5の罎が北側の覆土中層から出土している。中央部からは8~10の甕が覆土中層から床面にかけて, 6の罎が南西寄りの覆土中層から, 11の甕が北寄りの床面から, 南コーナー部からは3の高坏, 12のミニチュア土器, 4の器台及び7の甕が覆土中層から床面にかけて, 西コーナー部からは13・14のミニチュア土器が覆土下層からそれぞれ出土している。

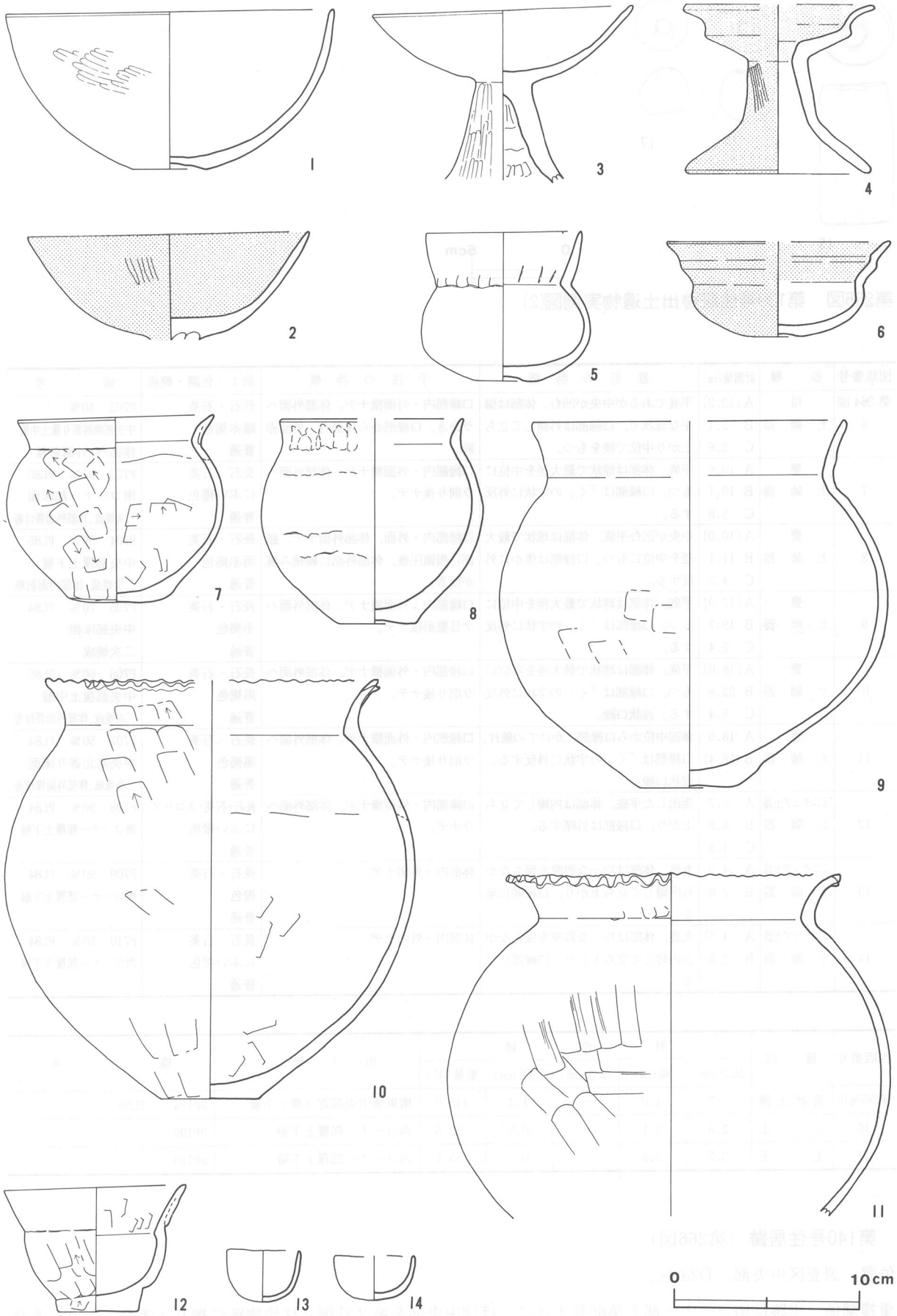
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期 (4世紀前半) と思われる。



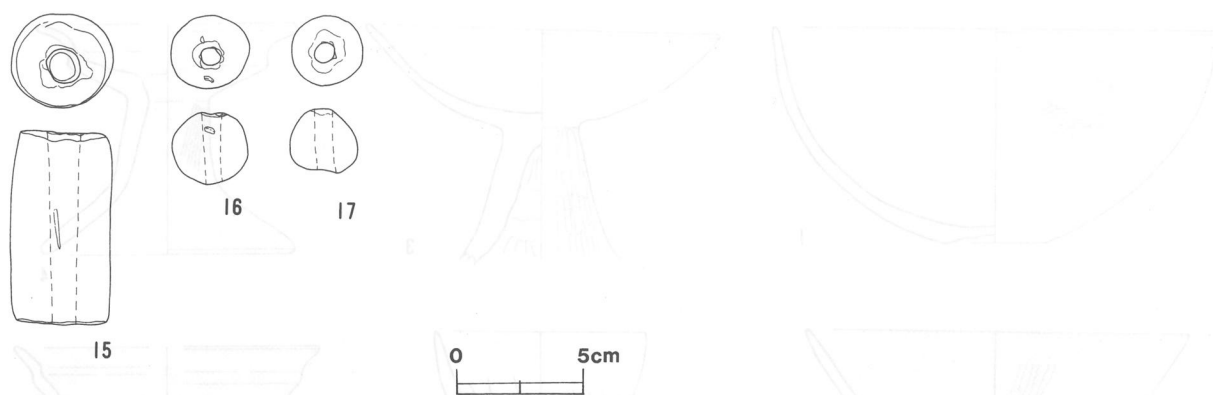
第263図 第139号住居跡実測図

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	鉢 土師器	A 17.7	中央がやや凹む平底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	長石・石英 黒褐色 普通	P697 95% PL84 炉南側床面 二次焼成, 体部外面係付着
		B 8.6				
		C 4.0				
2	高坏 土師器	A 15.4	坏部片。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部内・外面, 脚部外面へラ磨き。 坏部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P698 50% PL84 炉北側床面 坏部内・外面剝離
		B (5.7)				
3	高坏 土師器	A 14.1	脚部下位欠損。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部外面, 脚部外面へラ磨き。	長石・石英 赤褐色 普通	P699 60% 南コーナー部覆土中層 二次焼成, 坏部内面剝離
		B (9.4)				
		E (5.2)				
4	器台 土師器	A [10.5]	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面, 脚部外面へラ磨き。 器受部内・外面, 脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P700 70% PL84 南コーナー部床面
		B 9.1				
		D 10.2				
		E 5.9				
5	罎 土師器	A 8.4	中央がやや凹む平底。体部は偏平な球状で, 口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。頸部に指頭圧痕が残る。	長石・石英 橙色 普通	P701 100% PL85 炉北側覆土中層
		B 8.0				
		C 3.2				



第264图 第139号住居跡出土遺物実測図(1)



第265図 第139号住居跡出土遺物実測図(2)

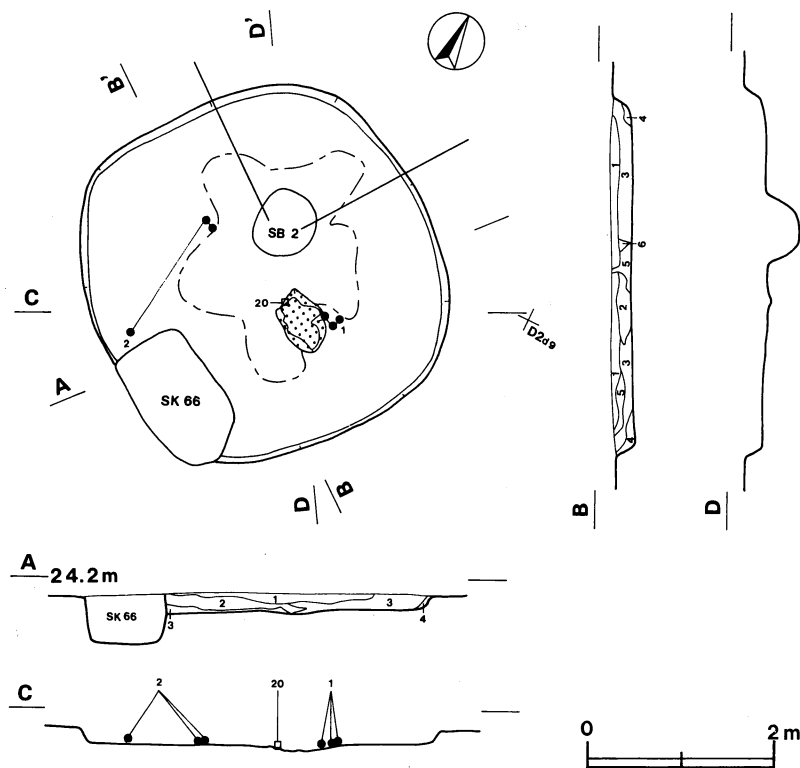
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 6	土師器 罎	A [12.2] B 5.1 C 2.6	平底であるが中央が凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は外傾して立ち上がり中位で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P702 40% 中央部南西寄り覆土中層 体部内・外面剥離
7	土師器 甕	A 10.6 B 10.1 C 5.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P703 90% PL85 南コーナー部床面 二次焼成、体部外面煤附着
8	土師器 甕	A [10.0] B 11.1 C 4.3	中央が凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。頸部に指頭圧痕、体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 明赤褐色 普通	P704 50% PL85 中央部覆土下層 二次焼成、体部内面剥離
9	土師器 甕	A [17.0] B 19.7 C 5.4	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ目整形後ナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P705 70% PL84 中央部床面 二次焼成
10	土師器 甕	A [18.0] B 22.6 C 5.4	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P706 60% PL85 中央部覆土中層 二次焼成、体部外面煤附着
11	土師器 甕	A 18.0 B [18.4]	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P707 50% PL84 中央部北寄り床面 二次焼成、体部外面煤附着
12	ミニチュア土器 土師器	A 9.7 B 6.8 C 4.3	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P708 90% PL84 南コーナー部覆土下層
13	ミニチュア土器 土師器	A 4.0 B 2.8	丸底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P709 90% PL84 西コーナー部覆土下層
14	ミニチュア土器 土師器	A [4.5] B 2.5	丸底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P710 50% PL84 西コーナー部覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第265図15	管状土錘	7.7	4.0	—	1.3	145.9	南東壁中央部寄り覆土下層	DP194 PL99
16	土玉	2.8	3.1	—	0.8	22.6	西コーナー部覆土下層	DP195
17	土玉	2.5	2.8	—	0.8	15.7	西コーナー部覆土下層	DP196

第140号住居跡 (第266図)

位置 調査区中央部、D2d8区。

重複関係 本跡は南コーナー部を第66号土坑に、ほぼ中央部を第2号掘立柱建物跡に掘り込まれており、本跡が最も古い。



第266図 第140号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.80m，短軸3.70mの隅丸方形である。

主軸方向 N-140°-E

壁 壁高は14~20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉の周辺を含む中央部が踏み固められている。

炉 中央部からやや南東寄りにあり，長径70cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉

床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

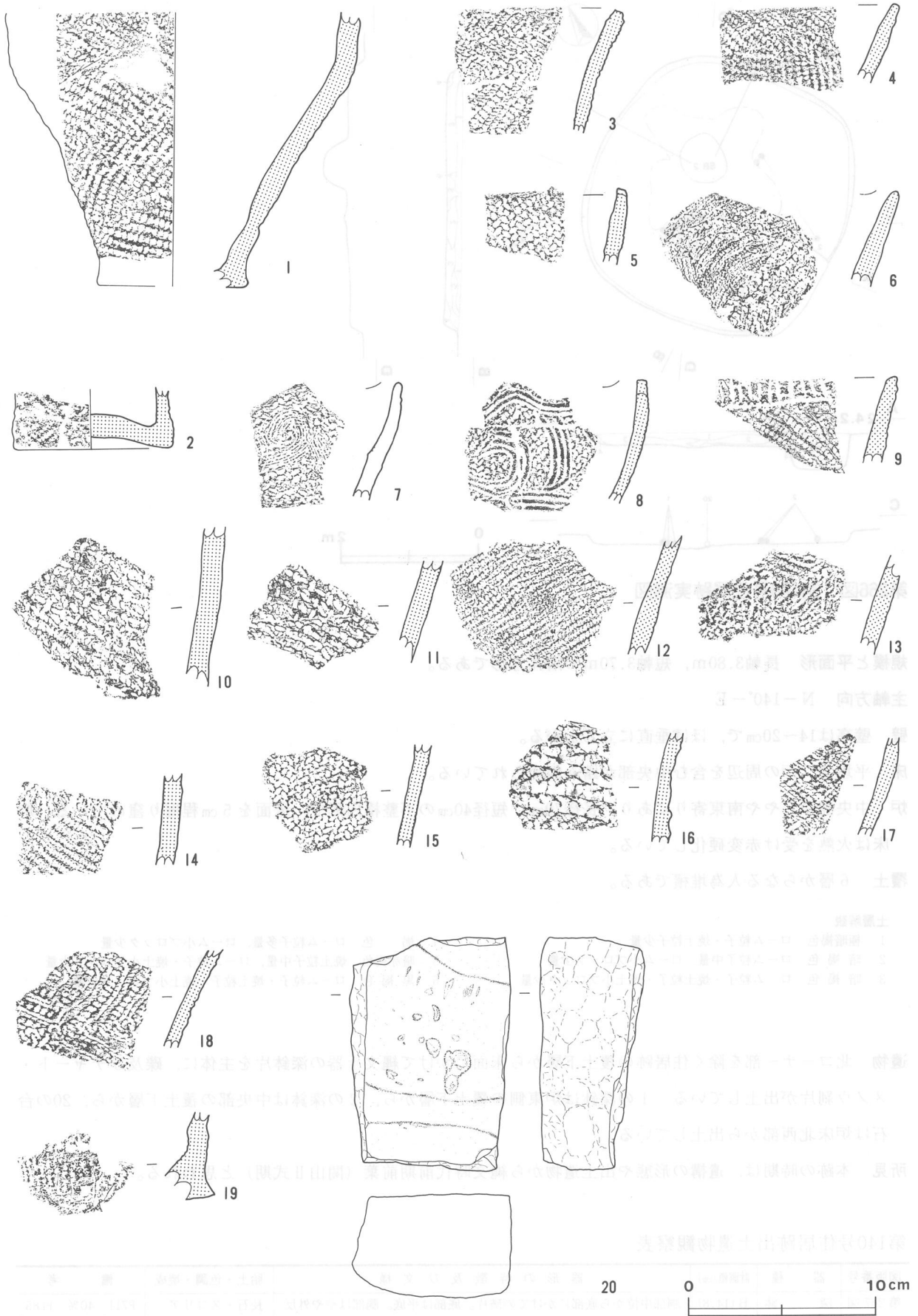
- | | | | |
|--------|----------------------|--------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 |

遺物 北コーナー部を除く住居跡の覆土下層から床面にかけて縄文土器の深鉢片を主体に，礫及びチャート・メノウ剥片が出土している。1の深鉢は炉東側の覆土下層から，2の深鉢は中央部の覆土下層から，20の台石は炉床北西部から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第140号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	深鉢 縄文土器	B(14.8) C〔8.0〕	胴部中位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部はやや外反して立ち上がり，上位で直立する。胴部全体に単節RLとLRの横位回転による羽状縄文が施されている。	長石・スコリア 橙色 普通	P711 40% PL85 炉東側覆土下層 繊維土器



第267図 第140号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼功	備考
第267図 2	深鉢 縄文土器	B(3.1) C 8.2	胴部下端から底部にかけての破片。底部は上げ底。胴部下端は単節RLの横位回転による縄文が施されている。	長石 にぶい黄橙色 普通	P712 10% 中央部覆土下層 繊維土器

第267図3～19は、第140号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。3～9は口縁部片である。3は直前段合燃りの縄文が施され口唇部は内削ぎである。4は単節RLの縄文が施されている。6～8は波状口縁である。5は口唇部に小突起が、6は異状縄文が施されている。7は櫛歯状工具による沈線が施され、胎土に繊維を含まない。8は半截竹管による幾何学文が施されている。9は縦位の沈線が施されている。10～18は胴部片である。10～14は単節縄文が、15は組紐による縄文が、16はループ文が、17・18は直前段合燃りの縄文が施されている。19は底部片で、単節縄文が施されている。

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第267図20	台石	12.5	8.7	5.7	958.6	凝灰岩	炉床北西部	Q88

第141号住居跡 (第268図)

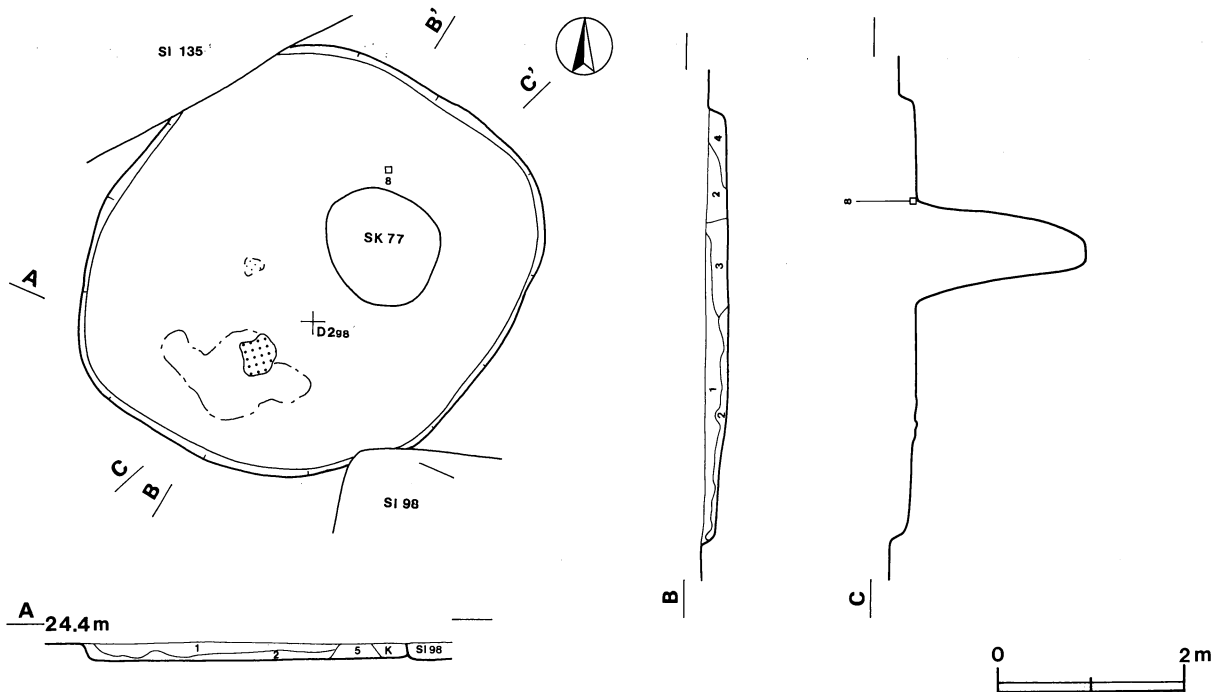
位置 調査区中央部, D2f7区。

重複関係 本跡は南東側の壁を第98号住居跡に、北西側の壁を第135号住居跡に、東部の床面を第77号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

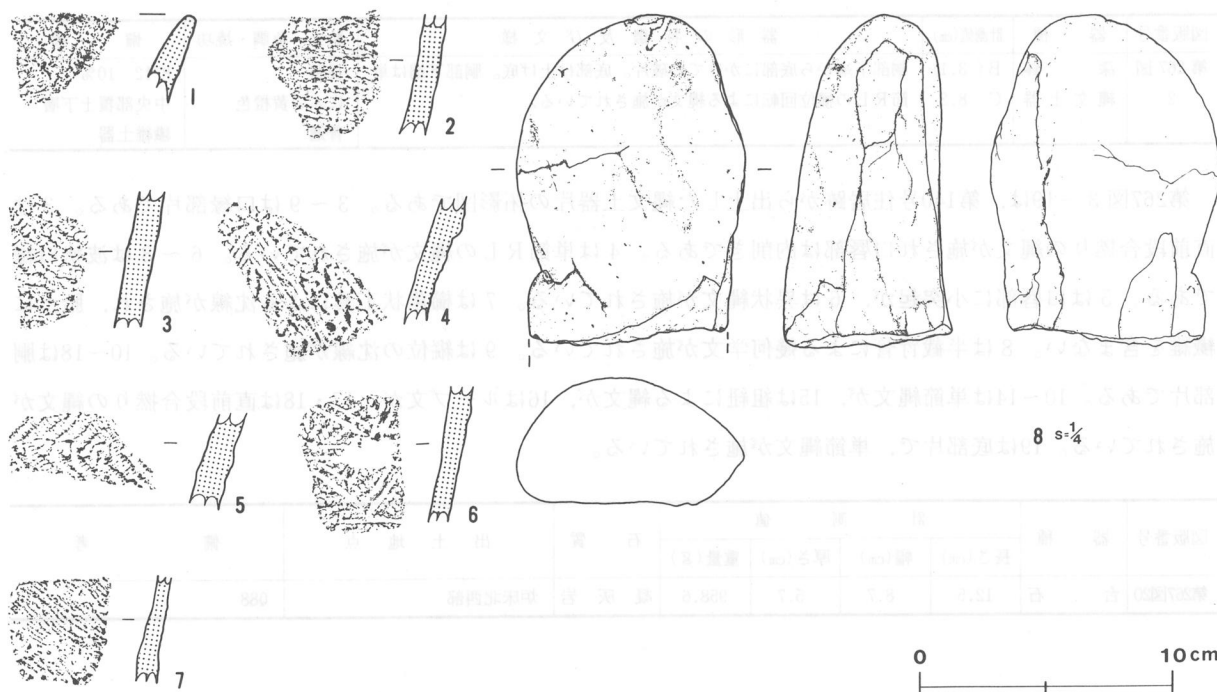
規模と平面形 長軸4.62m, 短軸4.28mの隅丸方形である。

主軸方向 N-147°-W

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。



第268図 第141号住居跡実測図



第269回 第141号住居跡出土遺物実例・拓影図

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部からやや南西寄りにあり、長径45cm、短径40cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量 | 5 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物 住居跡全体の覆土下層から床面にかけて縄文土器の深鉢片を主体に石器等も少量出土している。8の炉石は炉床の北端部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

第269図1～7は、第141号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、単節R Lの縄文が施され、外面に煤が付着している。2～7は胴部片である。2・3は単節R Lの縄文が、4は半截竹管による幾何学文が、5は羽状縄文が、6は半截竹管による斜格子文が、7は円形竹管文が施されている。

第141号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第269図8	炉石	(17.5)	(12.0)	8.9	2255.9	凝灰岩	炉床北端部	Q91

第142号住居跡（第270図）

位置 調査区中央部，D3e₂区。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.86mの方形である。

主軸方向 N-47°-E

壁 壁高は52～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅5～12cm，深さ5～15cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，全体に踏み固められ，特に炉の周辺から出入り口部にかけては強固である。南東壁下中央部から南コーナーにかけての硬化面は1m四方形の範囲が一段高くなっている。南東壁下中央部から住居中央部に向かって延びる溝(a)，南西壁下中央部から住居中央部に向かって延びる溝(b)を確認した。aは長さ105cm，上幅10cm程，深さ10cmで，断面形はU字状である。bは長さ100cm，上幅15cm程，深さ15cmで，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は径15cm程の円形，深さは30～50cmで，いずれも支柱穴，P₅は径25cmの円形，深さは28cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から北東寄りにあり，長径65cm，短径50cmの不定形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さは48cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 黒色土粒子多量，ローム粒子少量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

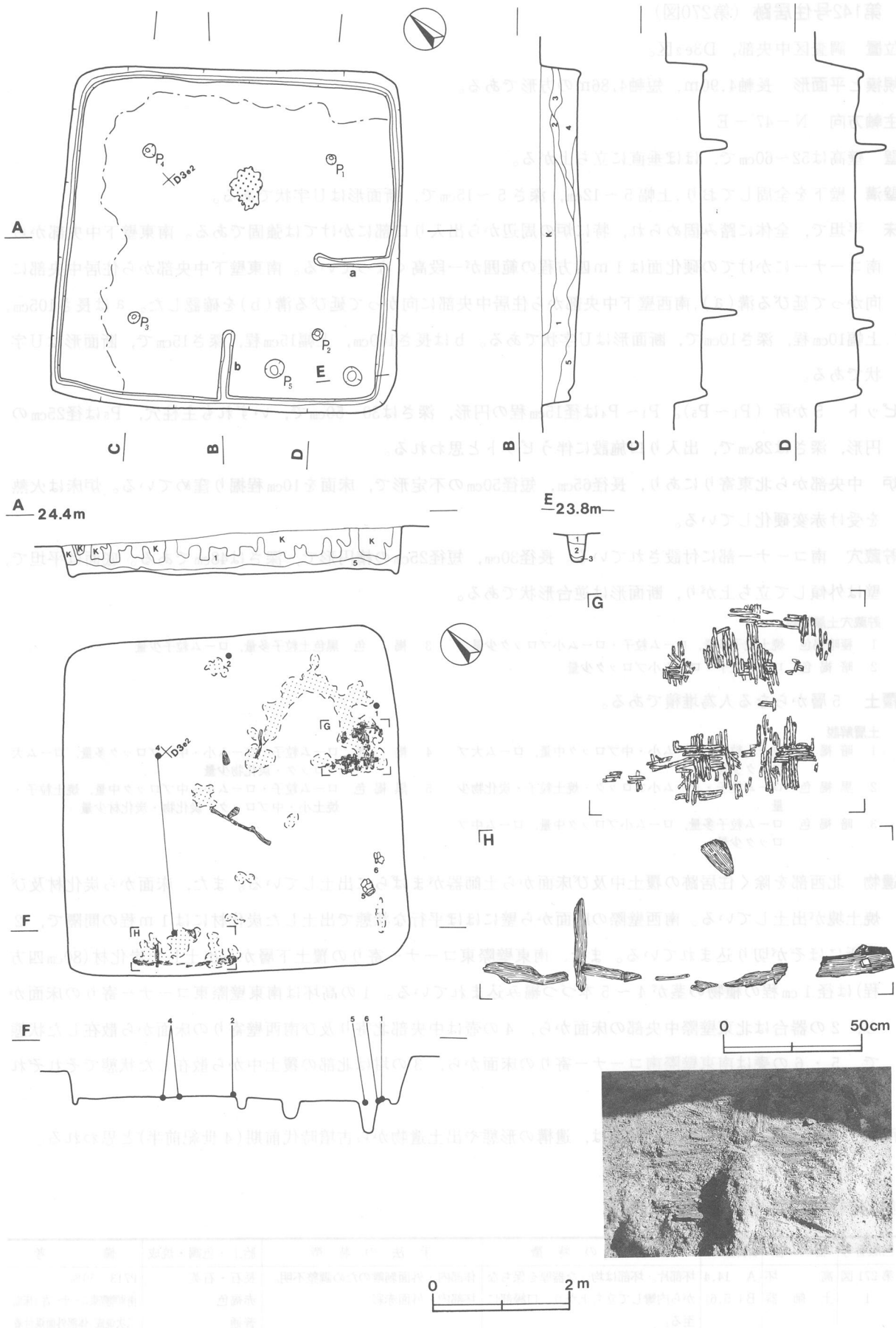
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，ローム大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小・中・ブロック多量，ローム大ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化物・炭化材少量

遺物 北西部を除く住居跡の覆土中及び床面から土師器がまばらに出土している。また，床面から炭化材及び焼土塊が出土している。南西壁際の床面から壁にほぼ平行な状態で出土した炭化材には1m程の間隔で，2か所にほぞが切り込まれている。また，南東壁際東コーナー寄りの覆土下層から出土した炭化材(80cm四方形)は径1cm程の植物の茎が4～5本づつ編み込まれている。1の高坏は南東壁際東コーナー寄りの床面から，2の器台は北東壁際中央部の床面から，4の壺は中央部北寄り及び南西壁寄りの床面から散在した状態で，5・6の甕は南東壁際南コーナー寄りの床面から，3の罎は北部の覆土中から散在した状態でそれぞれ出土している。

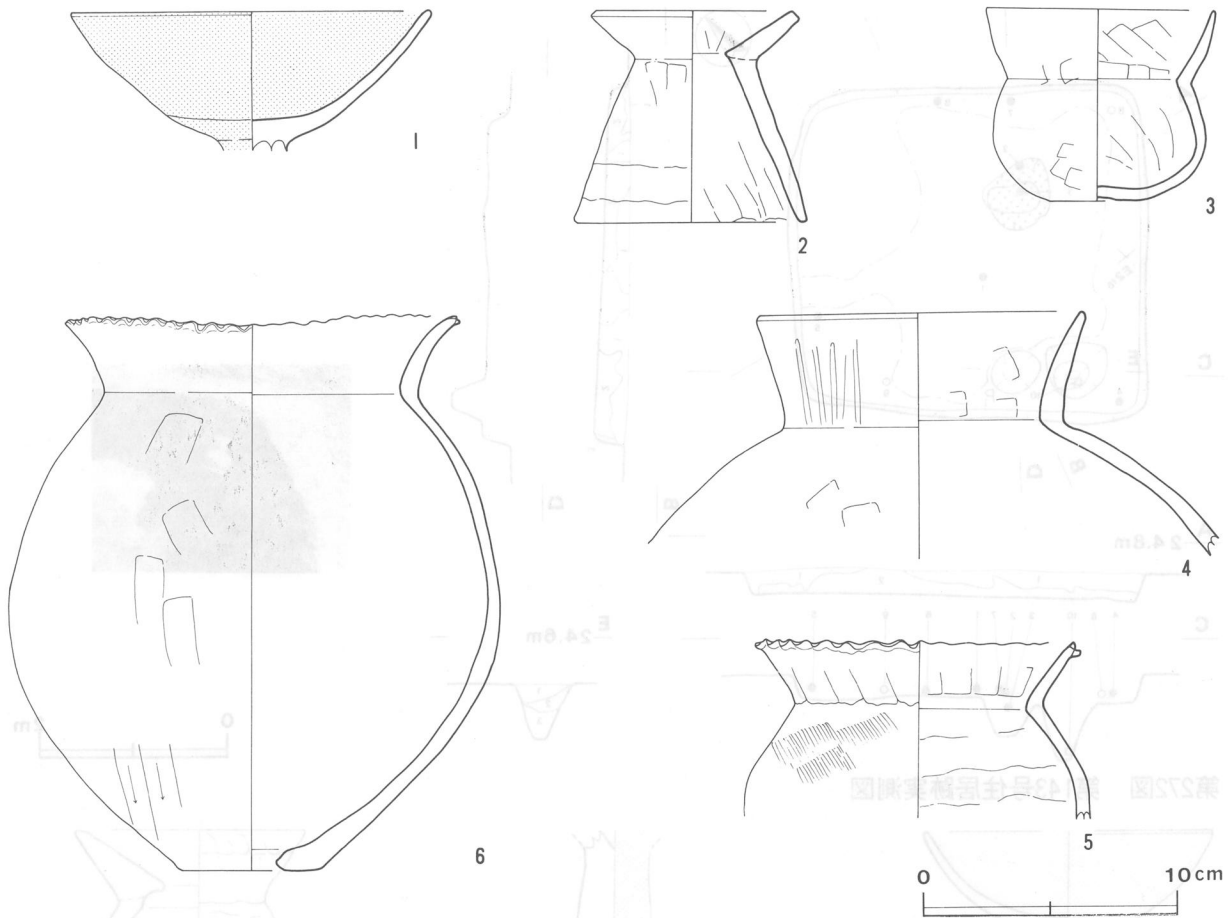
所見 本跡は焼失家屋である。時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第142号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	高坏 土師器	A 14.4 B(5.6)	坏部片。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面剥離のため調整不明。 坏部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P713 50% 南東壁際東コーナー寄り床面 二次焼成，体部外面煤付着



第270図 第142号住居跡実測・遺物出土位置図



第271図 第142号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 2	土師器 台	A 8.3	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面ナデ。脚部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P714 100% PL85 北東壁際中央部床面 二次焼成
		B 8.4				
		D 9.1				
		E 6.4				
		C 6.4				
3	土師器 罎	A 9.1	中央が凹む平底。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面ヘラナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P715 90% PL85 覆土中に散在
		B 7.6				
		C 3.8				
4	土師器 壺	A 13.0	口縁部片。口縁部は頸部から僅かに外反する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P716 20% 南東壁際南コーナー寄り 中央部北寄り床面に散在
		B (9.7)				
5	土師器 甕	A 12.9	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 暗褐色 普通	P717 20% 南東壁際南コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面煤附着
		B (7.1)				
6	土師器 甕	A 15.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。底部穿孔。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 灰褐色 普通	P718 70% PL85 南東壁際南コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面煤附着
		B 21.9				
		C 5.5				

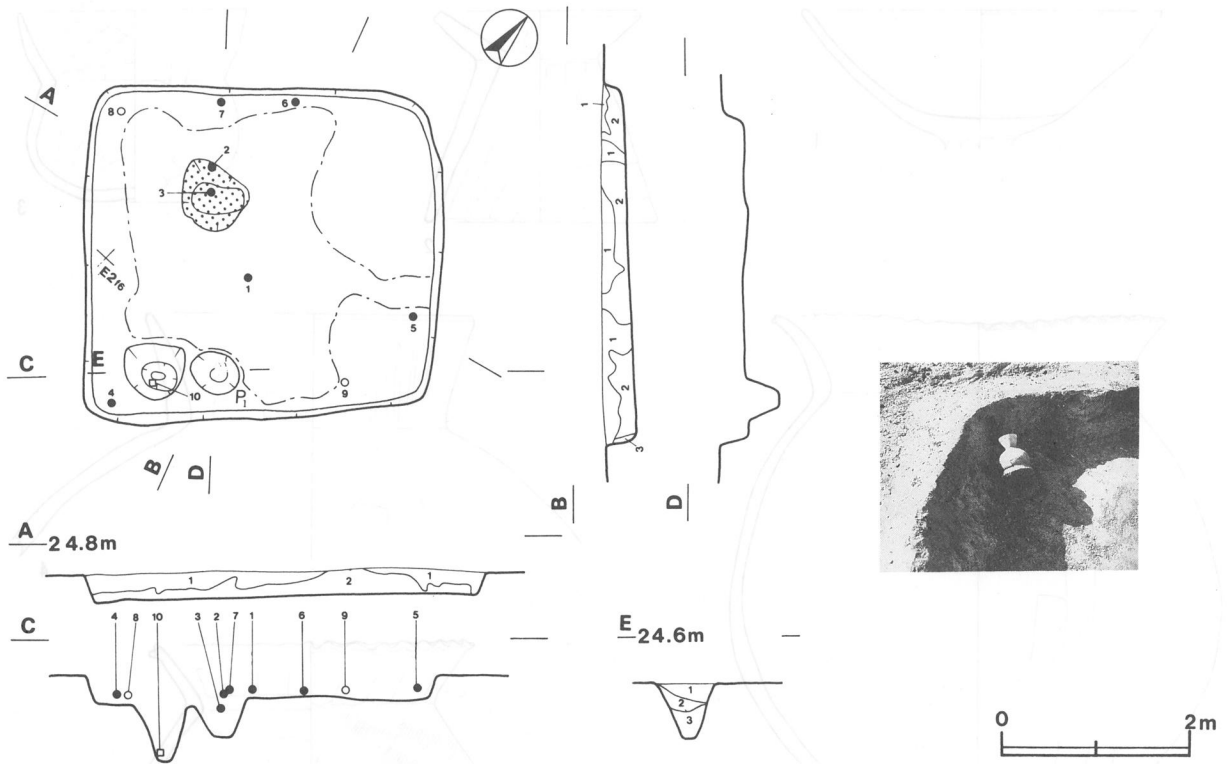
第143号住居跡 (第272図)

位置 調査区南西部, E2e6区。

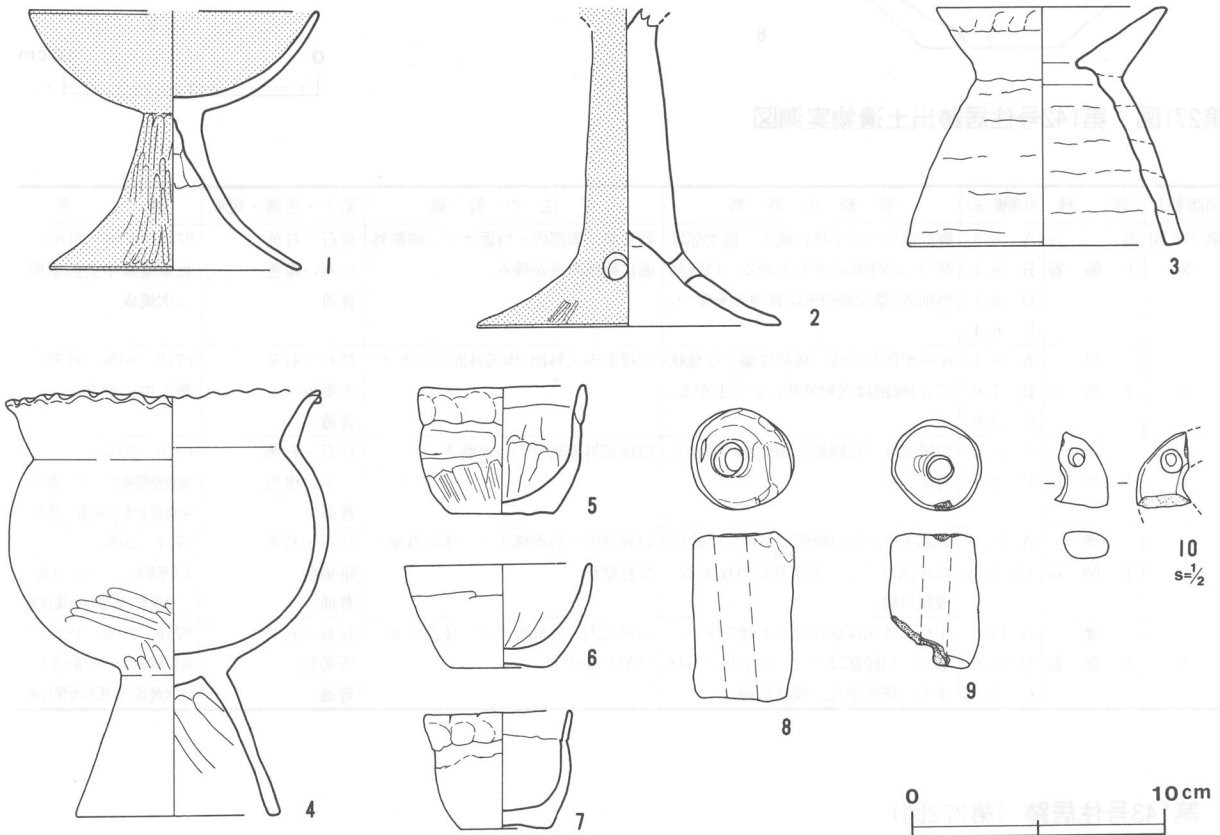
規模と平面形 長軸3.78m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は21~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第272图 第143号住居跡実測図



第273图 第143号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、全体に踏み固められ、特に炉の周辺から出入り口部にかけては強固である。

ピット P₁は径45cm程の円形、深さは38cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径75cm、短径70cmの不定形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、南東部に土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径68cm、短径58cmの楕円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量, 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 北コーナー部を除く住居跡の覆土中層から床面にかけて土師器がまばらに出土している。3の器台及び2の高坏は炉床の中央部と北西部から、1の高坏は中央部、4の台付甕は南コーナー部のいずれも覆土下層から、3点のミニチュア土器はそれぞれ5が北東壁際東コーナー寄りの覆土中層から、6・7が北西壁際中央部の覆土下層から並んだ状態で出土している。また、炉床南東部からは土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土していたが、損傷が激しく取り上げることは不可能であった。

所見 炉床から土製炉石と近接して被熱した器台が出土しており、炉の使用を考えるための好資料となろう。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	高坏 土師器	A [11.4]	脚部はラッパ状に開く。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面, 脚部外面ヘラ磨き。 坏部内・外面, 脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P720 60% PL86 中央部覆土下層
		B 10.3				
		D 10.0				
		E 6.2				
2	高坏 土師器	B (11.9)	坏部欠損。脚部は中実柱状。裾部は外方向に大きく開く。脚部と裾部との境に3孔を穿つ。	脚部, 裾部外面ヘラ磨き。脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P721 50% 炉床北西部覆土下層 二次焼成
		D 12.0				
3	器台 土師器	A 9.3	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部, 脚部内・外面ナデ。器受部外面, 脚部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P719 100% PL86 炉床中央部覆土中層 二次焼成
		B 9.5				
		D 11.0				
		E 6.6				
4	台付甕 土師器	A 12.4	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。台部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P722 90% PL85 南コーナー部覆土下層 二次焼成, 体部外面煤附着
		B 16.8				
		D 8.0				
		E 5.6				
5	ミニチュア土器 土師器	A 6.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内面に輪積み痕, 外面に輪積み痕及び指頭圧痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P723 90% PL85 北東壁際東コーナー寄り覆土中層
		B 5.1				
		C 4.2				
6	ミニチュア土器 土師器	A 7.4	中央が凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ, 外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P724 100% PL85 北西壁際中央部覆土下層
		B 4.2				
		C 3.9				
7	ミニチュア土器 土師器	A 6.0	中央が凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P725 100% PL85 北西壁際中央部覆土下層
		B 4.6				
		C 3.5				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第273図8	管状土錘	6.7	4.0	—	1.3	116.7	西コーナー部覆土下層	DP197
9	管状土錘	5.3	3.6	—	1.1	(61.2)	東コーナー付近覆土下層	DP198 PL99

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第273図10	勾玉	(2.0)	(1.4)	0.7	2.2	滑石	貯蔵穴覆土下層	Q92

第144号住居跡 (第274図)

位置 調査区南西部, E2g5区。

重複関係 本跡は北部を第77号住居跡に, 東部を第131号住居跡に, 西部を第78号住居跡にそれぞれ掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 南コーナー部の一部を確認したが, 重複のため正確な規模や平面形については不明である。

主軸方向 [N-65°-W]

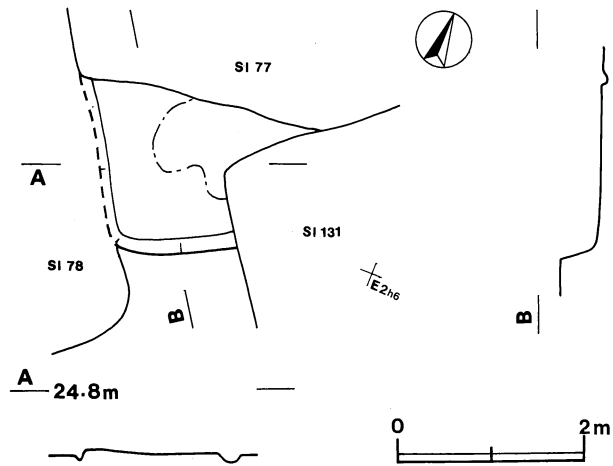
壁 壁高は40cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 硬化した床面の一部を確認した。

覆土 堆積状況は不明である。

遺物 覆土中から土師器の細片が極少量出土している。

所見 本跡は重複が激しく遺物も細片のため詳細な時期は不明であるが, 古墳時代前期の第77・78・131号住居跡より古い時期と思われる。



第274図 第144号住居跡実測図

第145号住居跡 (第275図)

位置 調査区南西部, E2h2区。

重複関係 本跡は北部が第79号住居跡を掘り込み, 東部を第149号住居跡に掘り込まれていることから, 第79号住居跡より新しく, 第149号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.62mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

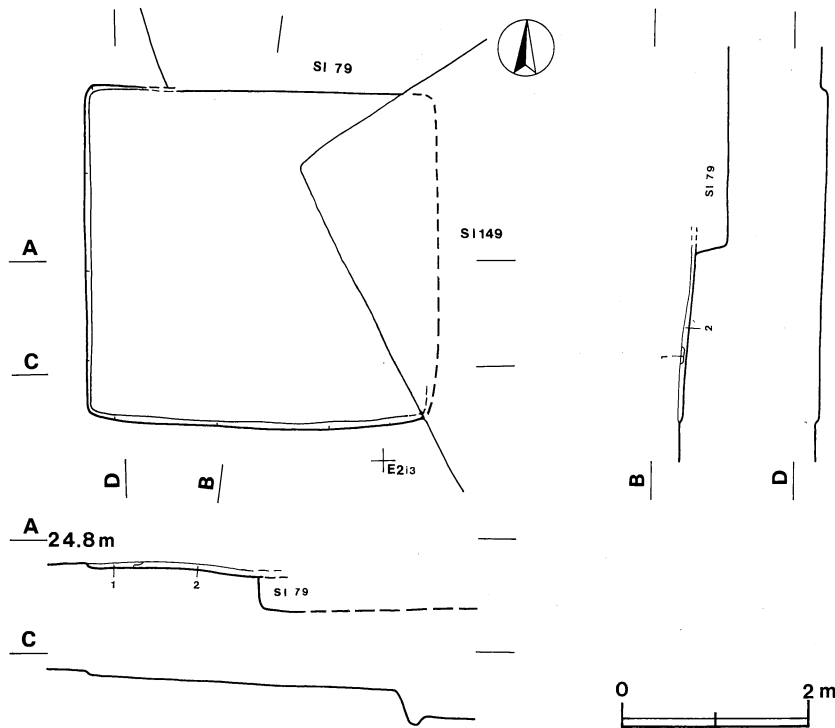
壁 壁高は5cm程を確認した。

床 平坦であるが, 全体的に軟らかい。

覆土 2層からなるが, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量



第275図 第145号住居跡実測図

遺物 床面から土師器の甕片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第146号住居跡（第276図）

位置 調査区中央部，D3f5区。

重複関係 本跡は北東部を第3号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.90m，短軸6.60mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は60cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

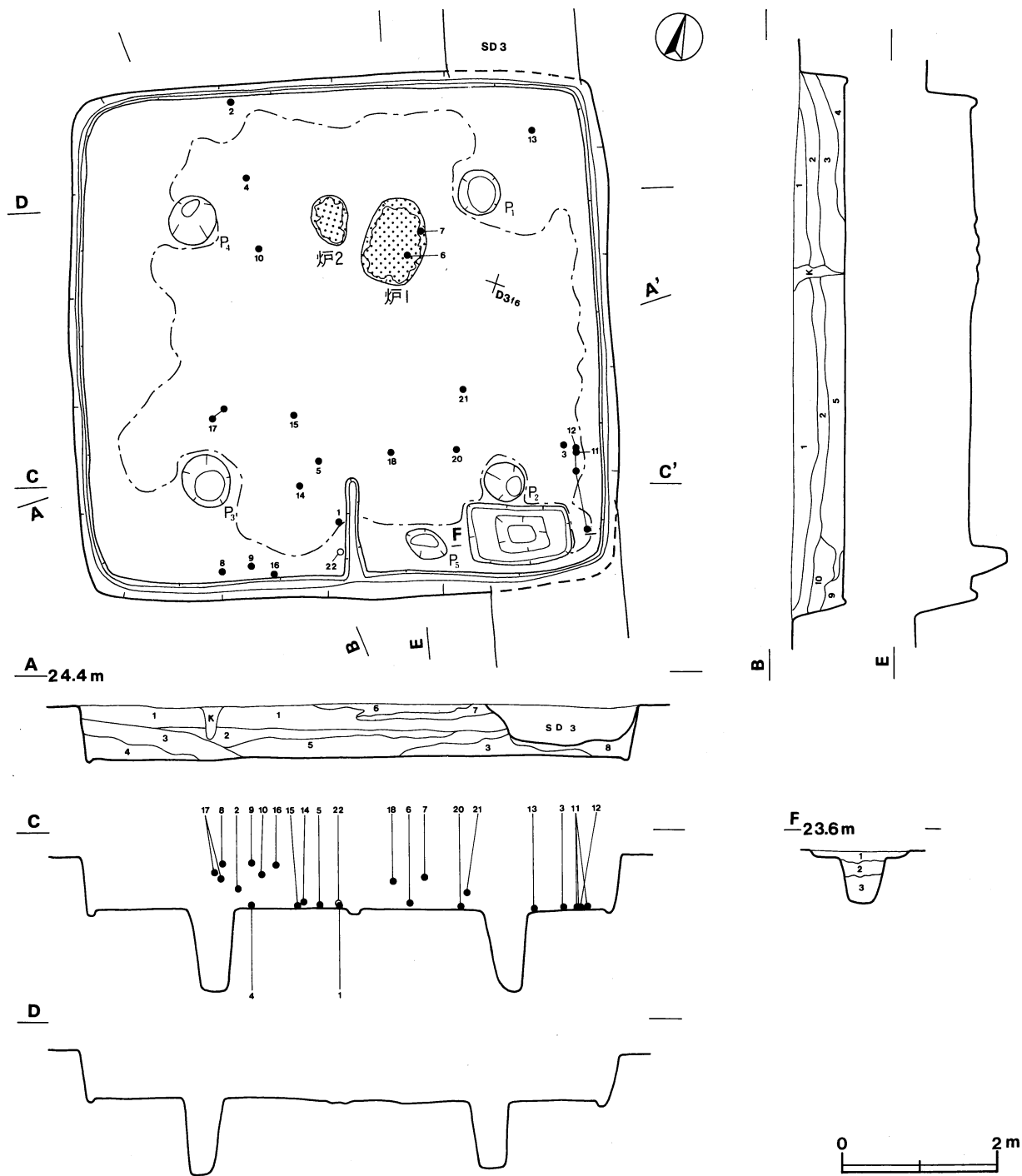
壁溝 壁下を全周しており，上幅5~12cm，深さ7cm程で，断面形はU字状である。

床 全体に平坦で，強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。上幅15~20cm，深さ15cm程で，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は長径50~60cm，短径22~55cmの楕円形，深さ85~95cmで，いずれも支柱穴，P₅は長径55cm，短径35cmの楕円形，深さ45cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から北寄りにあり，長径110cm，短径80cmの楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉2は炉1の西側にあり，長径65cm，短径45cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部の南東壁側に付設されている。長軸130cm，短軸75cmの隅丸長方形で，深さは72cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。



第276図 第146号住居跡実測図

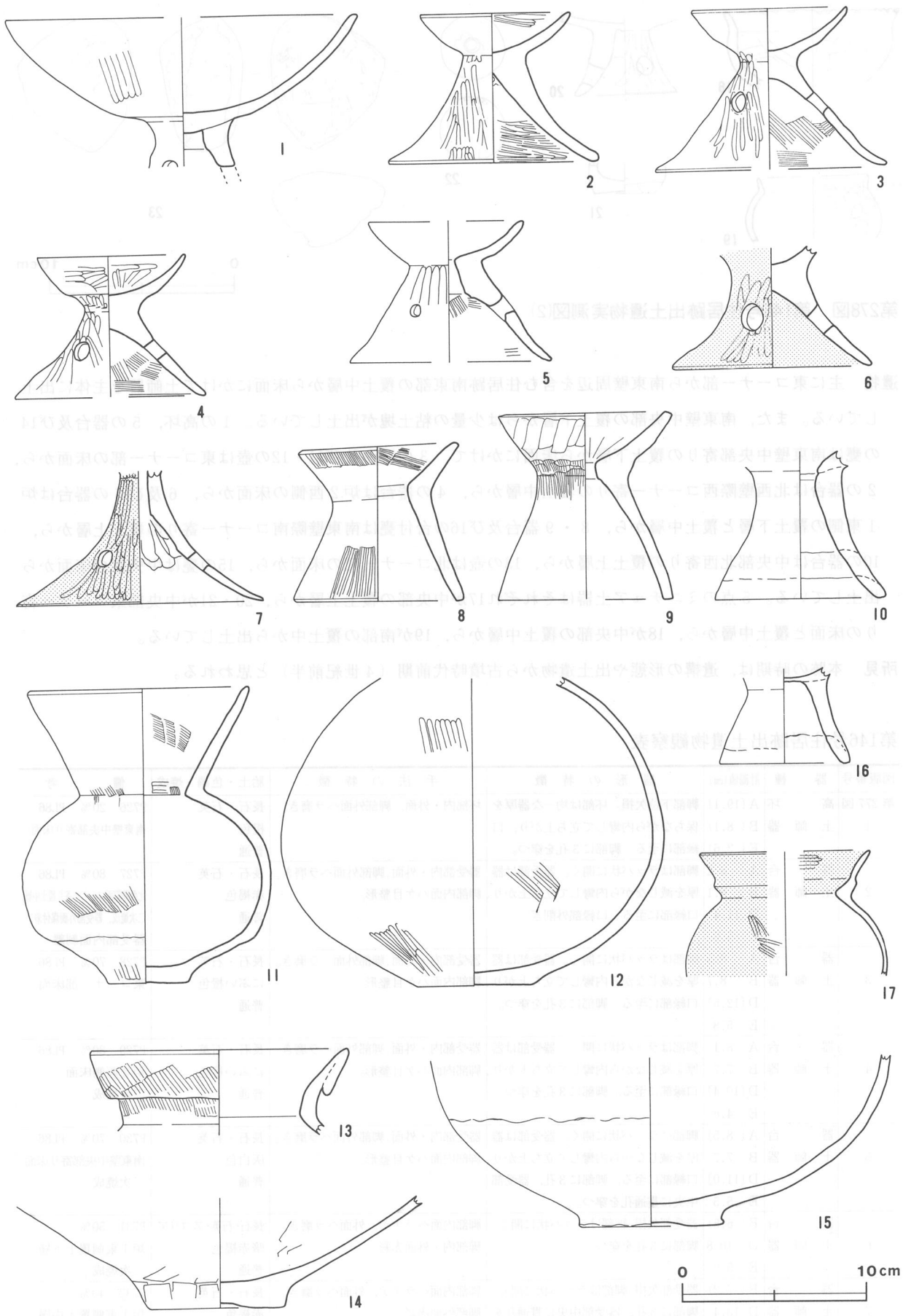
貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | |

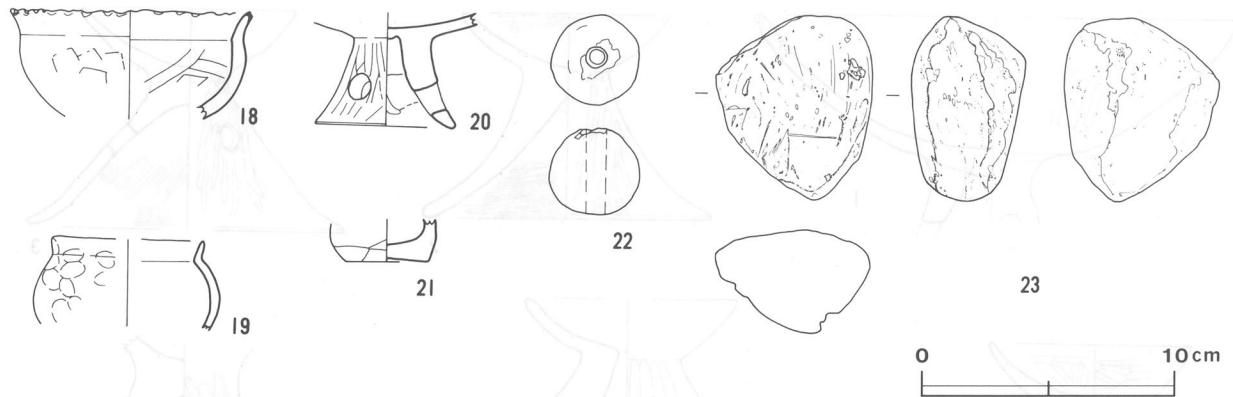
覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 6 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・黒色土粒子多量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 9 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 5 極暗褐色 ローム粒子多量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |



第277図 第146号住居跡出土遺物実測図(1)



第278図 第146号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 主に東コーナー部から南東壁周辺を含む住居跡南東部の覆土中層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、南東壁中央部の覆土下層からは少量の粘土塊が出土している。1の高坏，5の器台及び14の甕は南東壁中央部寄りの覆土下層から床面にかけて，3の器台及び11・12の壺は東コーナー部の床面から，2の器台は北西壁際西コーナー寄りの覆土中層から，4の器台は炉2西側の床面から，6及び7の器台は炉1東側の覆土下層と覆土中層から，8・9器台及び16の台付甕は南東壁際南コーナー寄りの覆土上層から，10の器台は中央部北西寄りの覆土上層から，13の壺は北コーナー部の床面から，15の甕は中央部の床面から出土している。5点のミニチュア土器はそれぞれ17が中央部の覆土上層から，20・21が中央部東コーナー寄りの床面と覆土中層から，18が中央部の覆土中層から，19が南部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第146号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	高坏 土師器	A [19.1] B (8.1) E (2.6)	脚部下位欠損。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部内・外面，脚部外面へラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P726 20% PL86 南東壁中央部寄り床面
2	器台 土師器	A 8.2 B 8.1 D 11.4 E 5.9	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部外削ぎ。	器受部内・外面，脚部外面へラ磨き。脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 赤褐色 普通	P727 80% PL86 北西壁際西コーナー寄り覆土中層，二次焼成，器受部外面煤付着，器受部内面剝離
3	器台 土師器	A 8.5 B 8.7 D [12.5] E 5.8	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	器受部内・外面，脚部外面へラ磨き。脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P728 70% PL86 東コーナー部床面
4	器台 土師器	A 8.1 B 7.7 D [10.4] E 4.6	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	器受部内・外面，脚部外面へラ磨き。脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P729 80% PL86 炉2西側床面 二次焼成
5	器台 土師器	A [8.5] B 7.7 D [11.0] E 5.5	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり，口縁部に至る。脚部に3孔，器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面，脚部外面へラ磨き。脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 灰白色 普通	P730 70% PL86 南東壁中央部寄り床面 二次焼成
6	器台 土師器	B (6.5) D 10.8 E 5.0	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部内面へラナデ，外面へラ磨き。脚部内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 暗赤褐色 普通	P731 50% 炉1東側覆土下層 二次焼成
7	器台 土師器	B (7.2) D 13.4 E 6.9	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔，器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部内面へラナデ，外面へラ磨き。脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P732 40% 炉1東側覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 8	器 土師器	A 8.8	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面ハケ目整形。脚部内面ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P733 90% PL86 南東壁際南コーナー寄り覆土上層 二次焼成
		B 8.7				
		D 9.3				
		E 5.9				
9	器 土師器	A 9.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内面ヘラナデ，外面斜位のヘラナデ。脚部外面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P734 70% PL86 南東壁際南コーナー寄り覆土上層 二次焼成
		B 10.1				
		D〔9.5〕				
		E 6.8				
10	器 土師器	B(8.0)	器受部中位から欠損。脚部はラッパ状に開く。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P735 50% 中央部北西寄り覆土上層
		D 9.3				
		E 7.0				
11	壺 土師器	A 12.2	突出した平底。体部はやや扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面，体部外面ハケ目整形後ナデ。体部外面下位に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P736 90% PL86 東コーナー部床面
		B 16.1				
		C 4.4				
12	壺 土師器	B(16.7)	口縁部欠損。平底。体部はやや扁平な球状で最大径を下位にもつ。	体部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P737 40% 東コーナー部床面
		C 6.2				
13	壺 土師器	A 14.0	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内面横位・外面斜位のハケ目整形。頸部外面縦位のハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P738 10% 北コーナー部床面
		B(4.6)				
14	甕 土師器	B(6.0)	体部下位から底部にかけての破片。突出した平底で中央がやや凹む。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい黒褐色 普通	P739 10% 南東壁中央寄り覆土下層 二次焼成，体部外面煤付着
		C 7.3				
15	甕 土師器	B(9.2)	体部下位から底部にかけての破片。突出した平底で中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P740 20% 中央部床面 二次焼成，体部外面煤付着
		C 7.9				
16	台付甕 土師器	B(5.3)	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部内・外面ナデ。台部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P741 20% 南東壁際南コーナー寄り覆土上層
		D 7.2				
		E 4.1				
17	ミニチュア土器 土師器	A〔9.3〕	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面，体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面，体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P742 20% 中央部覆土上層
		B 6.8				
第278図 18	ミニチュア土器 土師器	A 9.6	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は僅かに外傾する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P743 30% PL87 中央部覆土中層
		B(4.3)				
19	ミニチュア土器 土師器	A〔6.0〕	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P744 30% 南部覆土中
		B(3.5)				
20	ミニチュア土器 土師器	B(4.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P745 40% 中央部東コーナー寄り床面
		D 5.6				
		E 3.5				
21	ミニチュア土器 土師器	B(1.7)	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P746 60% 中央部東コーナー寄り覆土中層
		C 3.3				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第278図22	土玉	(3.4)	3.5	-	0.8	35.2	南西壁際中央部覆土下層	DP199

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第278図23	砥石	7.2	6.2	4.5	35.7	軽石	西部覆土中	Q93

第147号住居跡 (第279図)

位置 調査区中央部, D3i3区。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明である。

主軸方向 [N-8°-W]

壁 壁高は17cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

炉 北壁寄りにあるが、南部が調査区外に延びているため正確な規模や平面形は不明である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。

長径48cm, 短径38cmの楕円形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

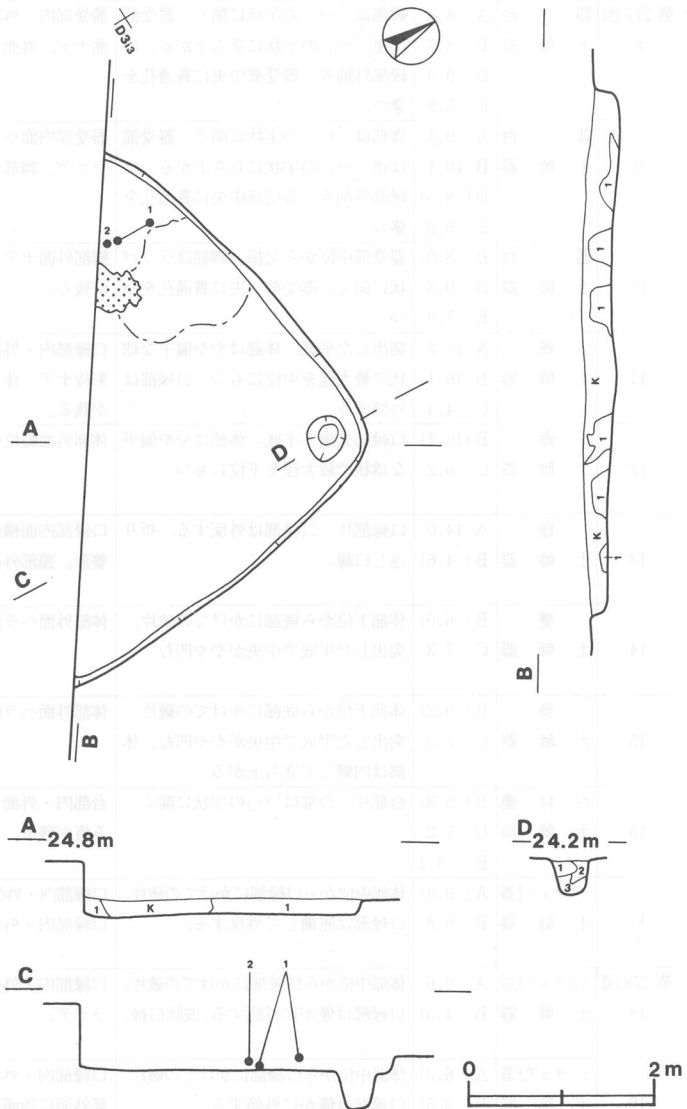
覆土 耕作による攪乱のため1層のみ確認した。

土層解説

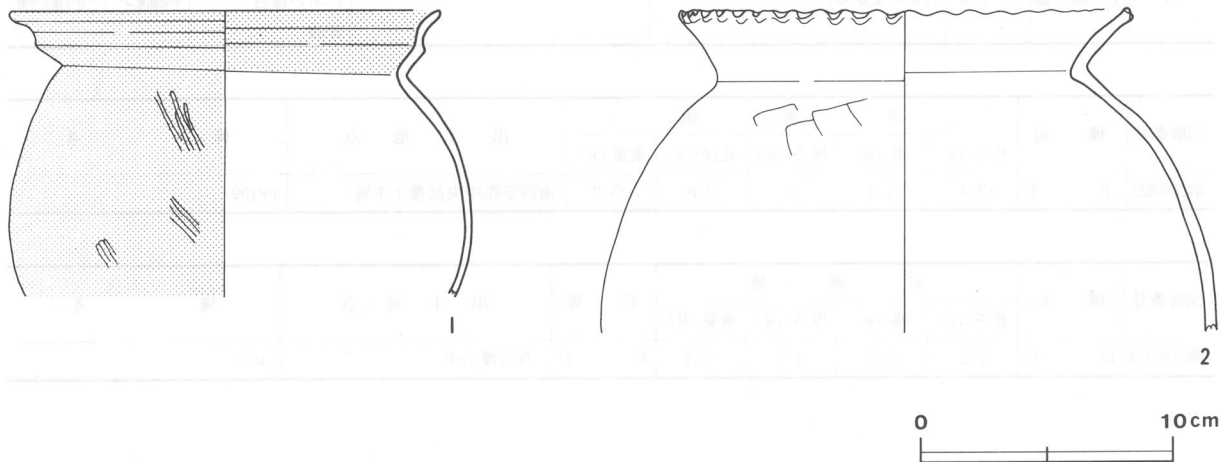
- 1 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 炉周辺及び東壁寄りの覆土下層から床面にかけて土師器の甕片を主体に少量出土している。1・2の甕は炉北西側の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第279図 第147号住居跡実測図



第280図 第147号住居跡出土遺物実測図

第147号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第280図 1	甕 土師器	A 17.0 B (11.3)	体部は球状で最大径を中位にもつ。 口縁部は頸部から屈曲して外反する。	口縁部内・外面ナデ, 体部外面へラ磨き。 口縁部内・外面, 体部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P747 40% PL86 炉北西側覆土下層
2	甕 土師器	A 18.1 B (12.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P748 30% 炉北西側覆土下層 二次焼成, 体部外面煤付着

第148号住居跡 (第281図)

位置 調査区南西部, E2b₆区。

重複関係 本跡は西コーナー部を第80号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.20m, 短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は32cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部を除いて全周しており, 上幅5~12cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 全体に平坦で, 強く踏み固められている。南西壁下のP₁とP₂の間は幅1.00m程, 長さ4.50m程の範囲で, 硬化面が一段高くなっている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。上幅10cm程, 深さ10cm程で, 断面形はU字状である。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は長径45~55cm, 短径40~50cmの楕円形, 深さ52~62cmで, いずれも主柱穴 (本来は4本主柱穴と思われるが, 北部が攪乱を受けており, 1か所確認できなかった。), P₄は径25cm程の円形, 深さ34cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径140cm, 短径55cmの長楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で, 深さは100cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 | 3 褐色 ローム小・中ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | |

覆土 13層からなる人為堆積である。

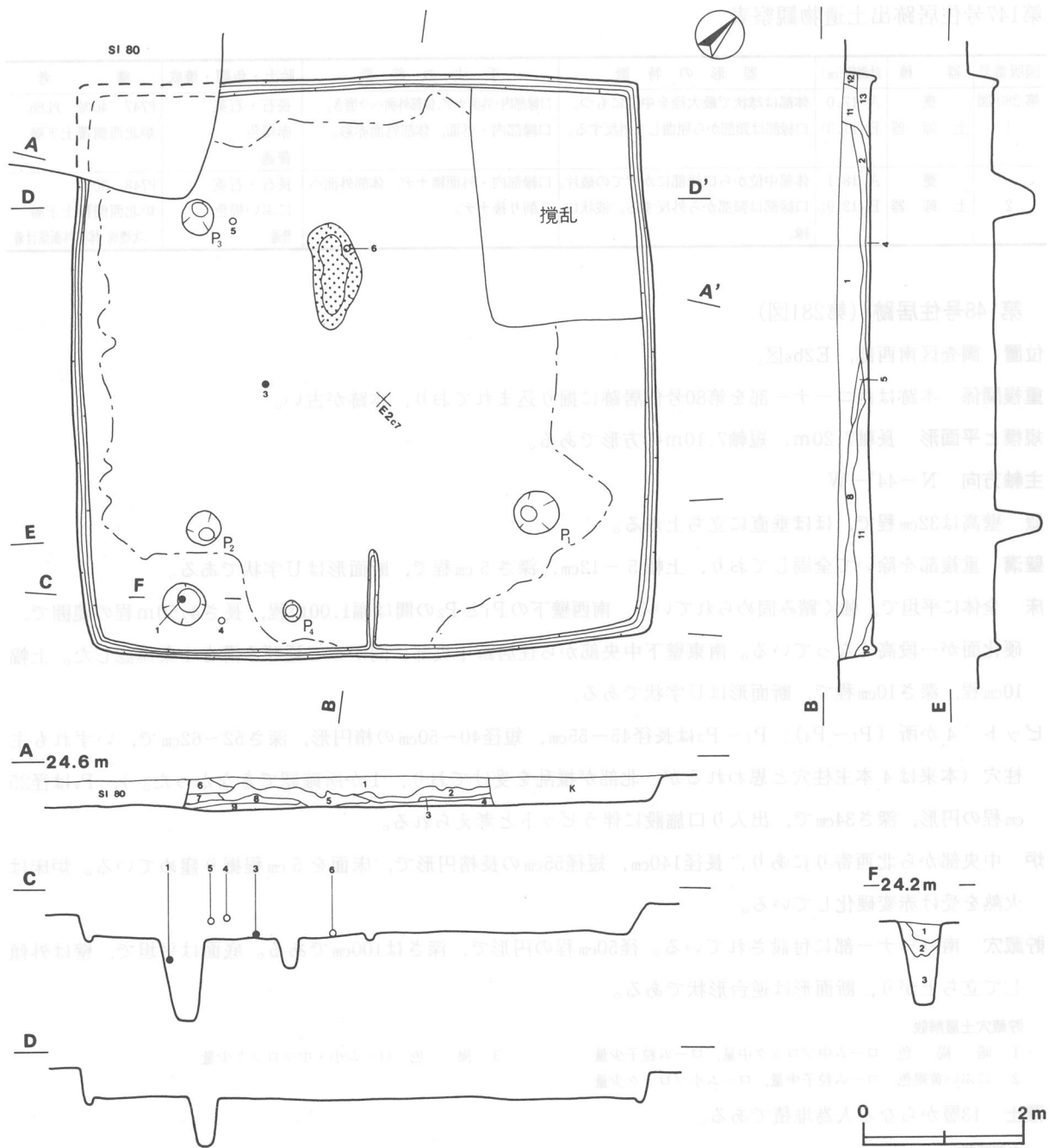
土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 9 黒暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 | 10 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・大ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 12 褐色 ローム粒子・黒色土粒子中量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量 | 13 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量 | |

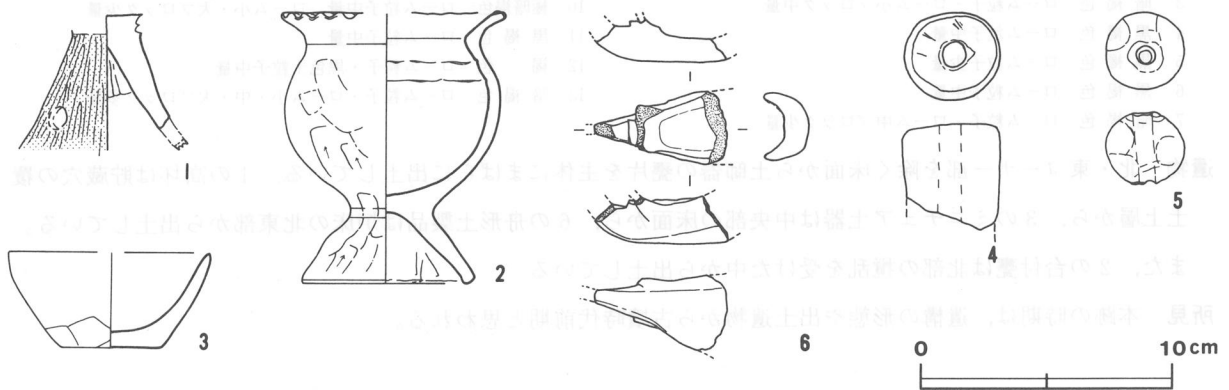
遺物 北・東コーナー部を除く床面から土師器の甕片を主体にまばらに出土している。1の高坏は貯蔵穴の覆土上層から, 3のミニチュア土器は中央部の床面から, 6の舟形土製品は炉床の北東部から出土している。

また, 2の台付甕は北部の攪乱を受けた中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第281図 第148号住居跡実測図



第282図 第148号住居跡出土遺物実測図

第148号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	高土師器	B(5.4)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P749 20% 貯蔵穴覆土上層
2	台付甕土師器	A 8.9 B 10.8 D 6.8 E 3.0	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P750 90% PL87 北部攪乱覆土中
3	ミニチュア土師器	A(8.0) B 3.8 C 4.0	平底。体部は器厚を減しながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P751 80% 中央部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第282図4	管状土錘	4.2	3.9	—	1.0	(53.3)	南東壁際南コーナー寄り覆土上層	DP200 PL99
5	土玉	2.9	3.1	—	0.7	26.1	西コーナー寄り覆土上層	DP201
6	舟形土製品	(5.3)	2.9	(1.9)	—	(16.3)	炉床 北東部	DP202 PL99

第149号住居跡 (第283図)

位置 調査区南西部, E2h3区。

重複関係 本跡は北西部が第79・145号住居跡を掘り込み、北東部を第78号住居跡に掘り込まれていることから、第79・145号住居跡より新しく、第78号住居跡より古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺5.30m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は46cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

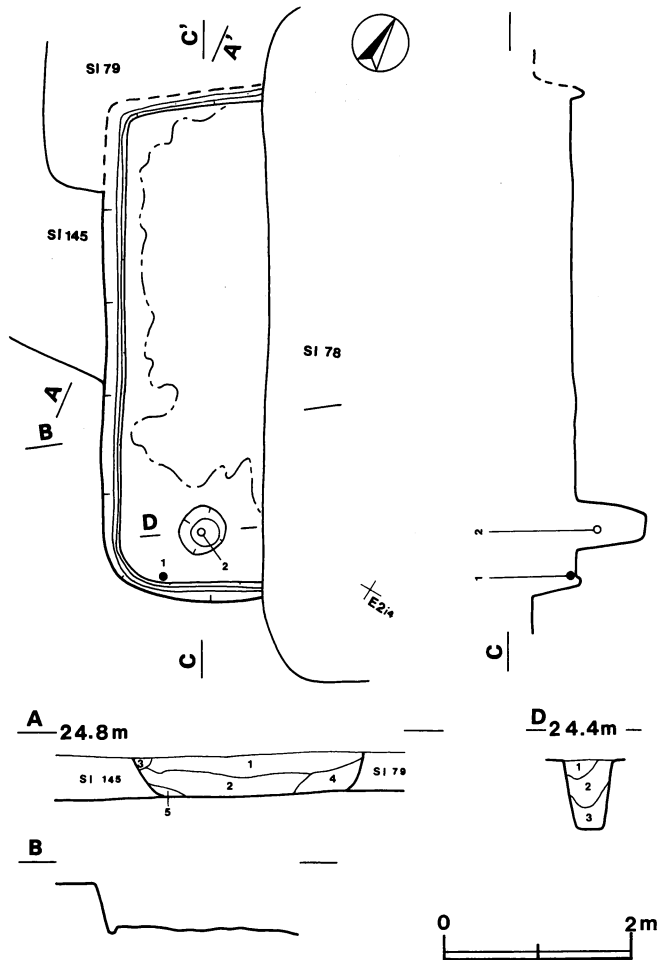
壁溝 南東壁下、南西壁下及び北西壁下に確認した。上幅10cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、踏み固められている。

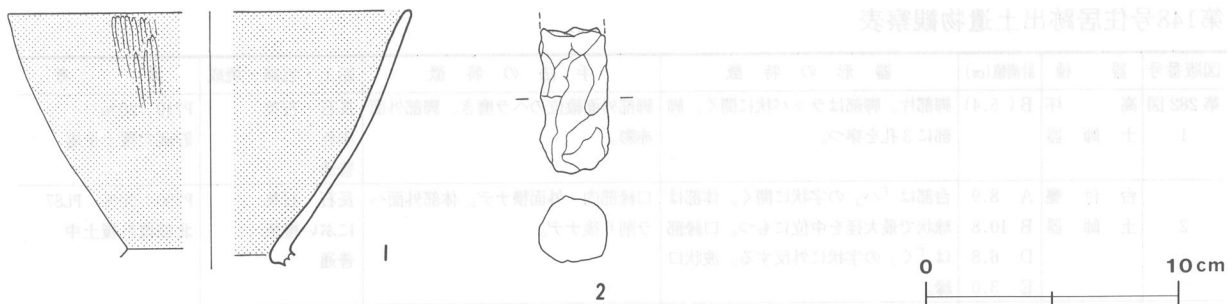
貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは76cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



第283図 第149号住居跡実測図



第284図 第149号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 貯蔵穴を含む南コーナー部の床面から土師器片及び土製品が少量出土している。1の罫は南コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第149号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第284図 1	罫 土師器	A(16.0) B(10.2)	口縁部片。口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P752 20% 南コーナー部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第284図2	不明土製品	(5.9)	2.9	2.6	—	(47.1)	貯蔵穴覆土上層	DP203 PL103

第150号住居跡 (第285図)

位置 調査区西端部, E2f1区。

重複関係 本跡は北西部を第73号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが, 長軸(径)4.90m程の隅丸方形か楕円形と推定される。

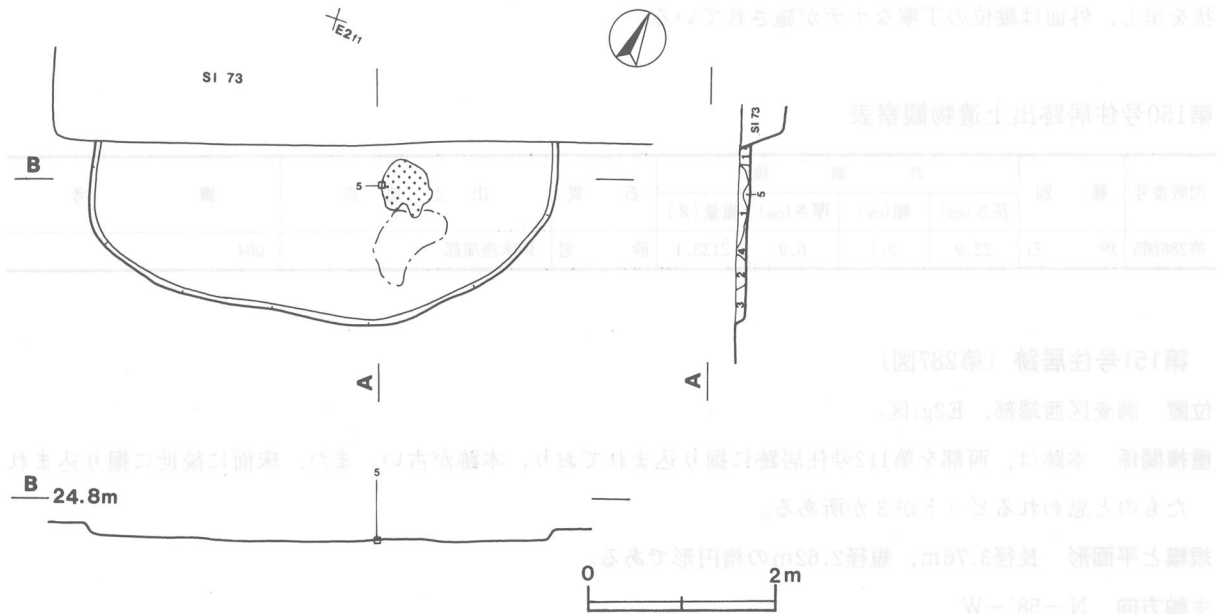
主軸方向 [N-72°-E]

壁 壁高は13cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

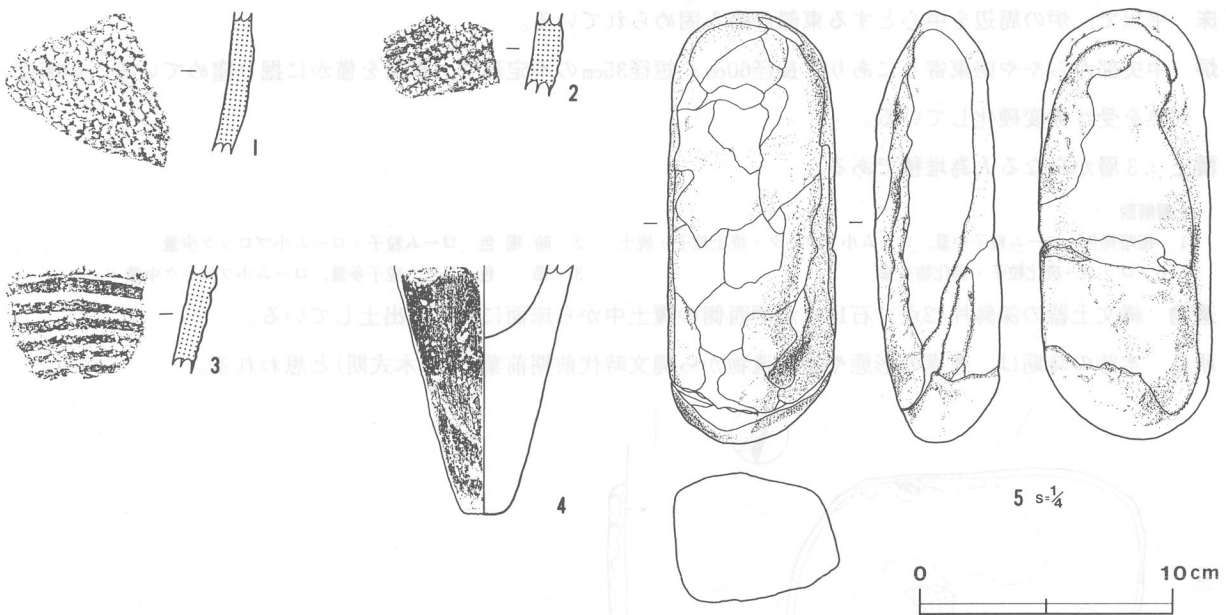
床 全体に平坦で, 炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部から東寄りにあり, 長径60cm, 短径50cmの不定形で, 床面を僅かに掘り窪めている。火床は火熱を受け赤変硬化しており, 西端部には炉石が付設されている。

覆土 5層からなる人為堆積である。



第285図 第150号住居跡実測図



第286号 第150号住居跡出土遺物実測・拓影図

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量 | 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 | |

遺物 炉を中心とする床面から縄文土器の深鉢片4点，礫3点，チャート剥片2点及び流れ込みと思われる縄文土器片3，4が出土している。また，炉床の西端部からは5の炉石が炉の長径に対しほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。

第286図1～4は，第150号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は胴部片で，1は単節R L，2は単節L Rの縄文が，3は横位の沈線がそれぞれ施されている。4は無文の尖底部片で，「天狗の鼻」

状を呈し、外面は縦位の丁寧なナデが施されている。

第150号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第286図5	炉石	22.9	9.1	6.9	2133.1	砂岩	炉床西端部	Q94

第151号住居跡 (第287図)

位置 調査区西端部, E2g₁区。

重複関係 本跡は、西部を第112号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。また、床面に後世に掘り込まれたものと思われるピットが3か所ある。

規模と平面形 長径3.76m, 短径2.62mの楕円形である。

主軸方向 N-58°-W

壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺を中心とする東部が踏み固められている。

炉 中央部からやや南東寄りにあり、長径60cm, 短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

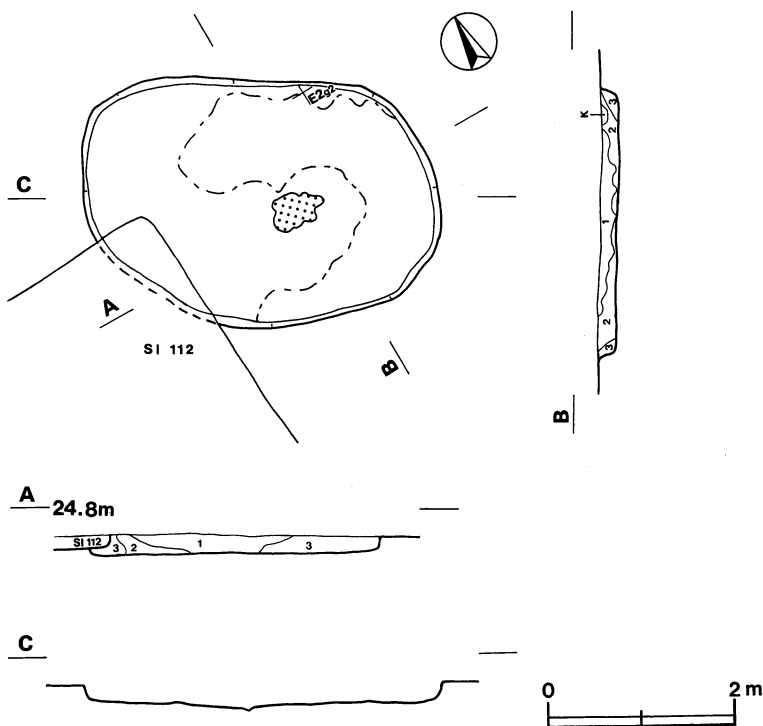
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

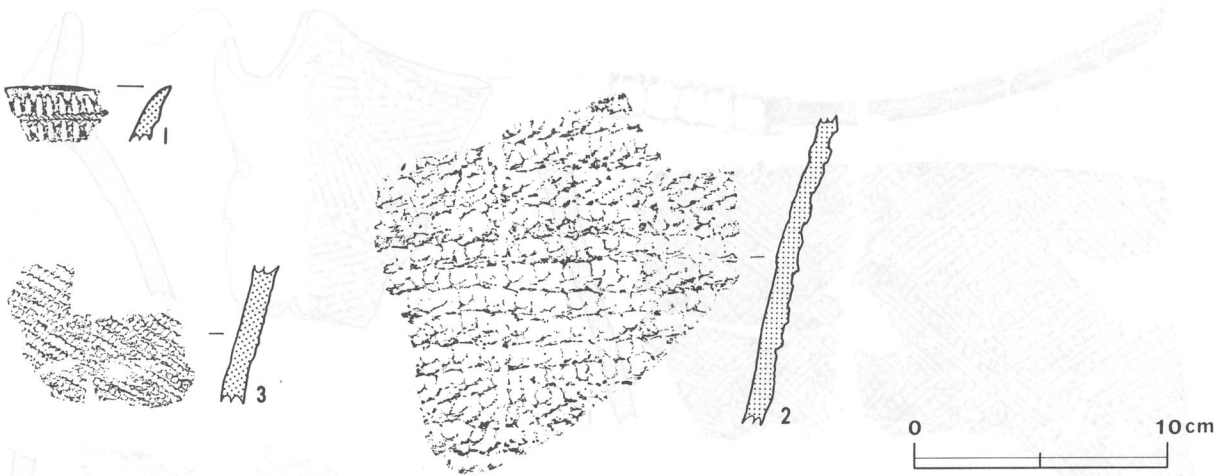
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 小ブロック・炭化粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

遺物 縄文土器の深鉢片42点, 石12点が炉西側の覆土中から床面にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。



第287図 第151号住居跡実測図



第288図 第151号住居跡出土遺物拓影図

第288図1～3は、第151号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、棒状工具によるキザミ目が2段に施されている。2・3は胴部片で、2はループ文が、3は単節R Lの縄文が施されている。

第152号住居跡 (第289図)

位置 調査区西端部, D2f₂区。

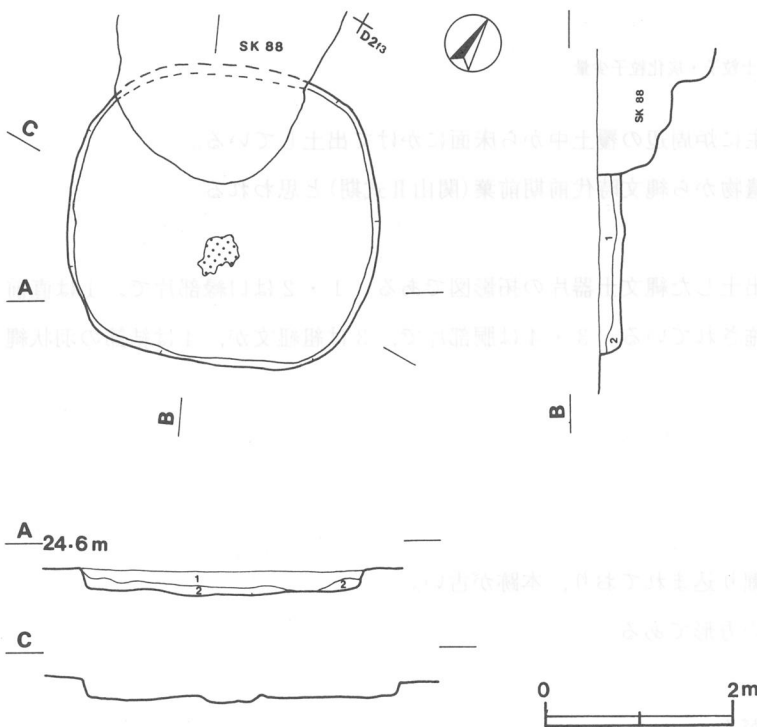
重複関係 本跡は、北西部を第88号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺3.30m程の隅丸方形と推定される。

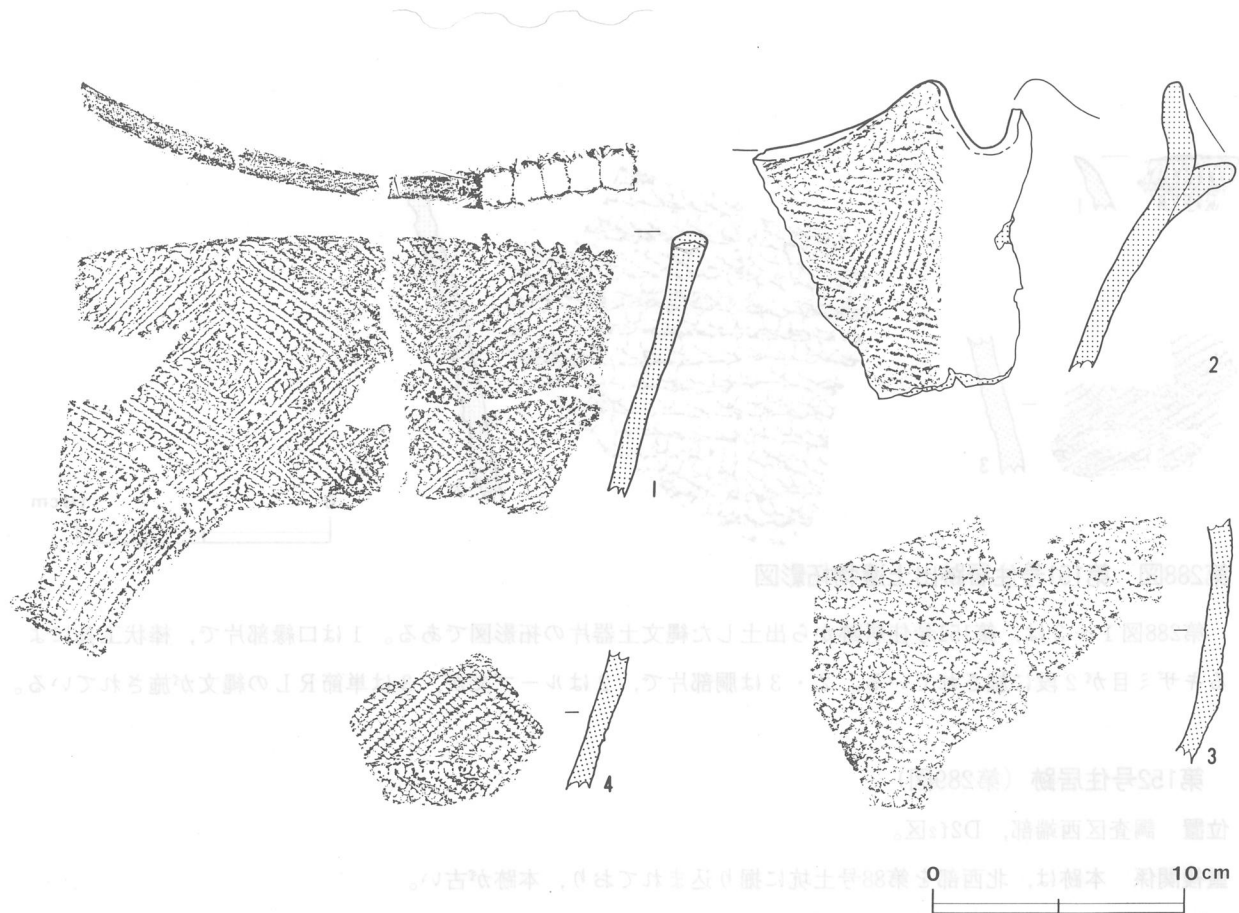
主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は12~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。



第289図 第152号住居跡実測図



第290図 第152号住居跡出土遺物拓影図

炉 中央部からやや南東寄りにあり、長径50cm、短径45cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片36点、石14点が主に炉周辺の覆土中から床面にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。

第290図1～4は、第152号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片で、1は直前段合熱の縄文が、2は結節の羽状縄文が施されている。3・4は胴部片で、3は組紐文が、4は結節の羽状縄文が施されている。

第153号住居跡 (第291図)

位置 調査区東部、E4e1区。

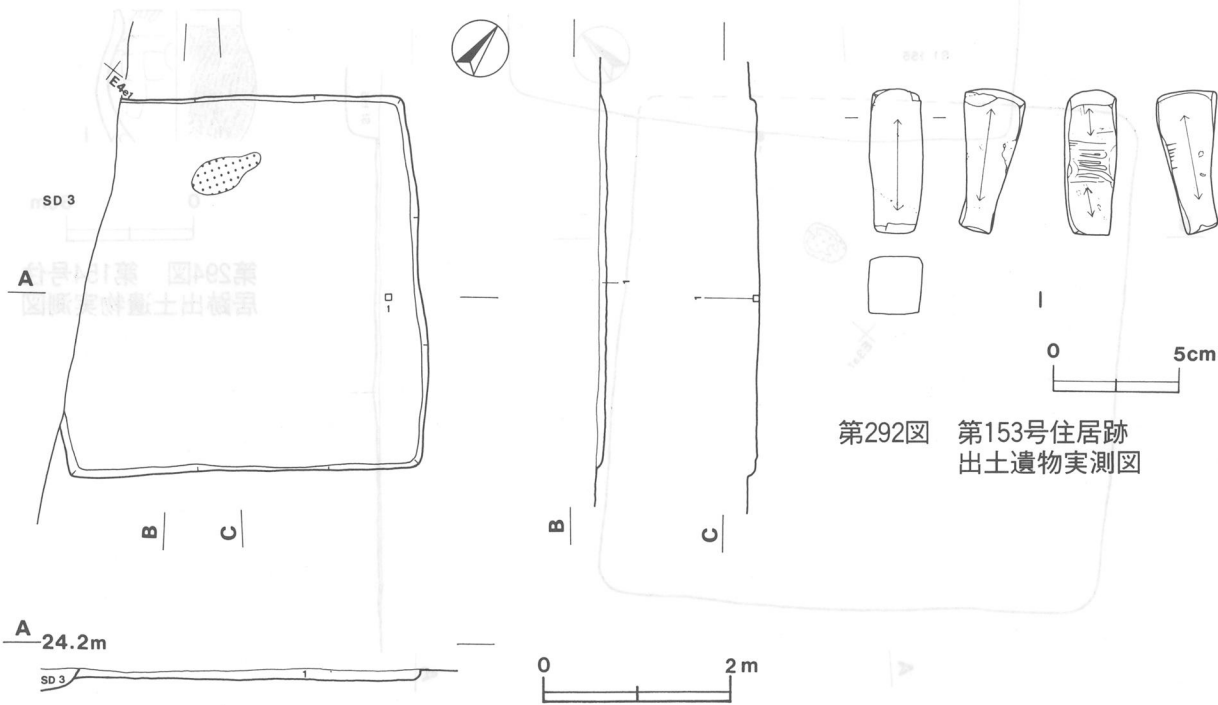
重複関係 本跡は、南西部を第3号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.85mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は7cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。



第291図 第153号住居跡実測図

第292図 第153号住居跡
出土遺物実測図

炉 中央部から北西寄りにあり，長径80cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなるが，堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器の甕片が4点出土しているが，いずれも細片である。1の砥石は北東壁際中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが，遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第153号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第292図1	砥石	5.7	2.1	2.5	32.9	凝灰岩	北東壁中央付近床面	Q96

第154号住居跡（第293図）

位置 調査区中央部，E3a6区。

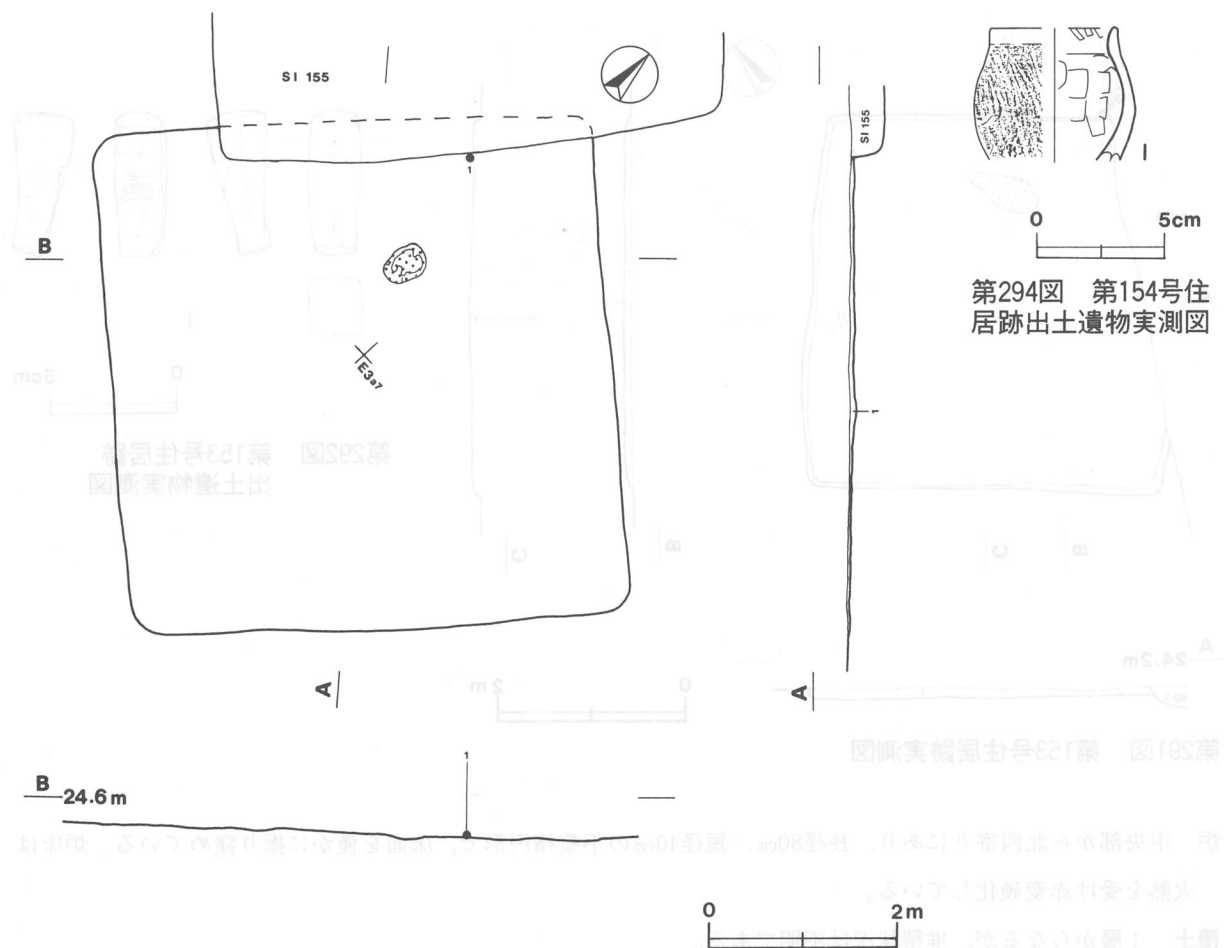
重複関係 本跡は，北西壁を第155号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.40m，短軸5.30mの方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 掘り込みが浅く，4cm程の壁を部分的に確認した。

床 平坦であるが，全体的に軟らかい。



第294図 第154号住居跡出土遺物実測図

第293図 第154号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径45cm、短径35cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量

遺物 土師器の甕片が5点出土している。1のミニチュア土器は炉北側の床面から散在した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第154号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第294図 1	ミニチュア土器 土師器	A〔5.0〕 B〔5.2〕	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は頸部からほぼ直立する。	体部外面縦位のヘラ磨き。体部内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P754 60% PL87 炉北側床面

第155号住居跡（第295図）

位置 調査区中央部，D3i6区。

重複関係 本跡は，南東壁が第154号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。また，南部が攪乱を受けている。規模と平面形 長軸6.00m，短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-40°-E

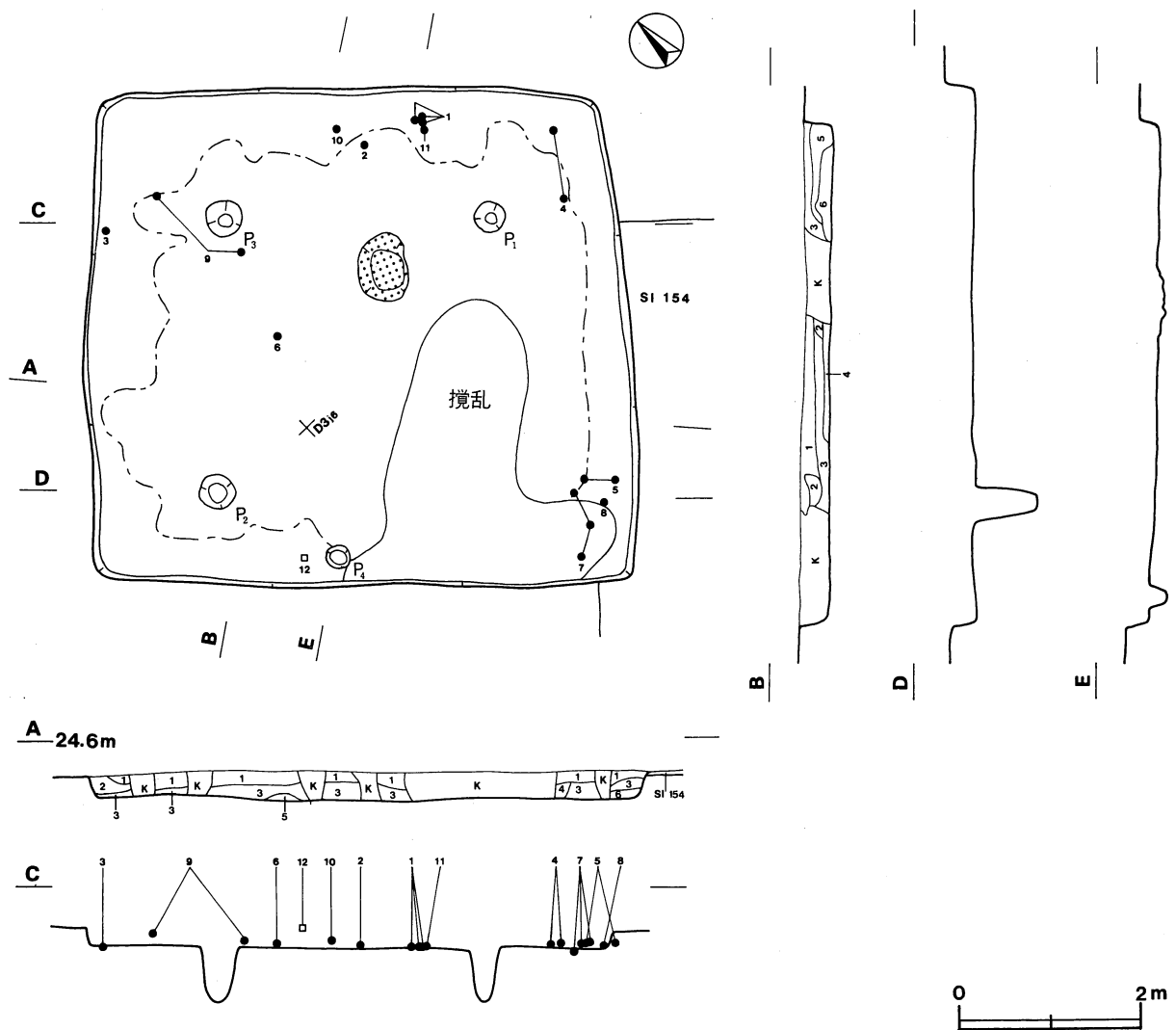
壁 壁高は22~30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，全体的に踏み固められている。

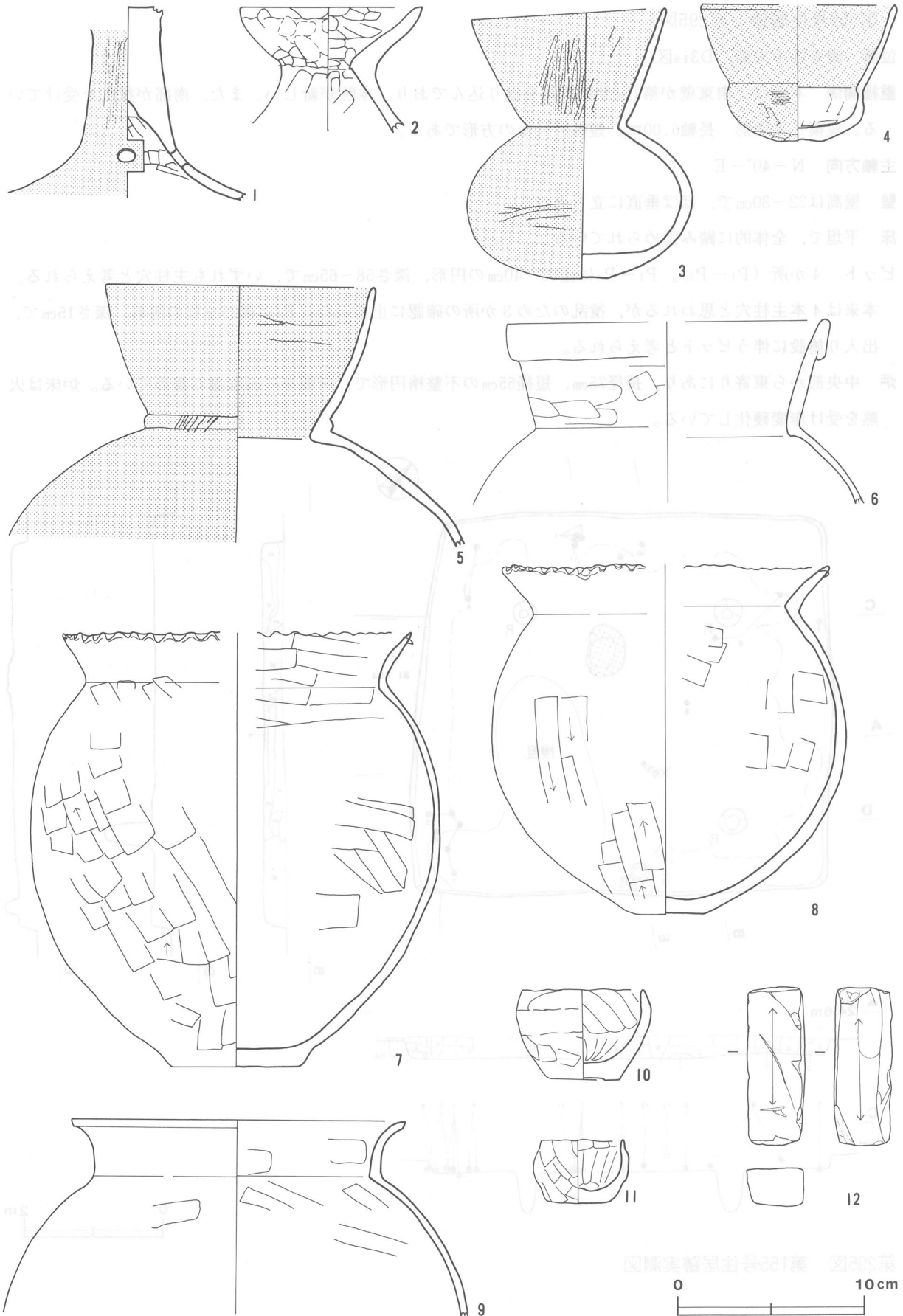
ピット 4か所（P₁~P₂）。P₁~P₃は径35~40cmの円形，深さ58~65cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

本来は4本主柱穴と思われるが，攪乱のため3か所の確認に止まった。P₄は径25cm程の円形，深さ15cmで，出入り施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から東寄りにあり，長径75cm，短径55cmの不整楕円形で，床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第295図 第155号住居跡実測図



第296図 第155号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|--------|---------------------------|------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 | 粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 5 黒褐色 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物少量 | 6 暗赤褐色 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量 |

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて, 土師器及び土師器片が464点出土している。また, 南西壁側を除く三方の壁側から焼土塊が出土している。1の高坏, 2の器台及び10・11のミニチュア土器は正位で北東壁中央部寄りの覆土下層から床面にかけて, 5の壺及び7・8の甕は南コーナー部の床面から, 3の罎は北西壁際北コーナー寄りの床面から, 4の罎は東コーナー部の床面から散在した状態で, 6の壺は中央部の床面から, 9の甕は北コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は, 焼失家屋である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第155号住居跡出土遺物観察表

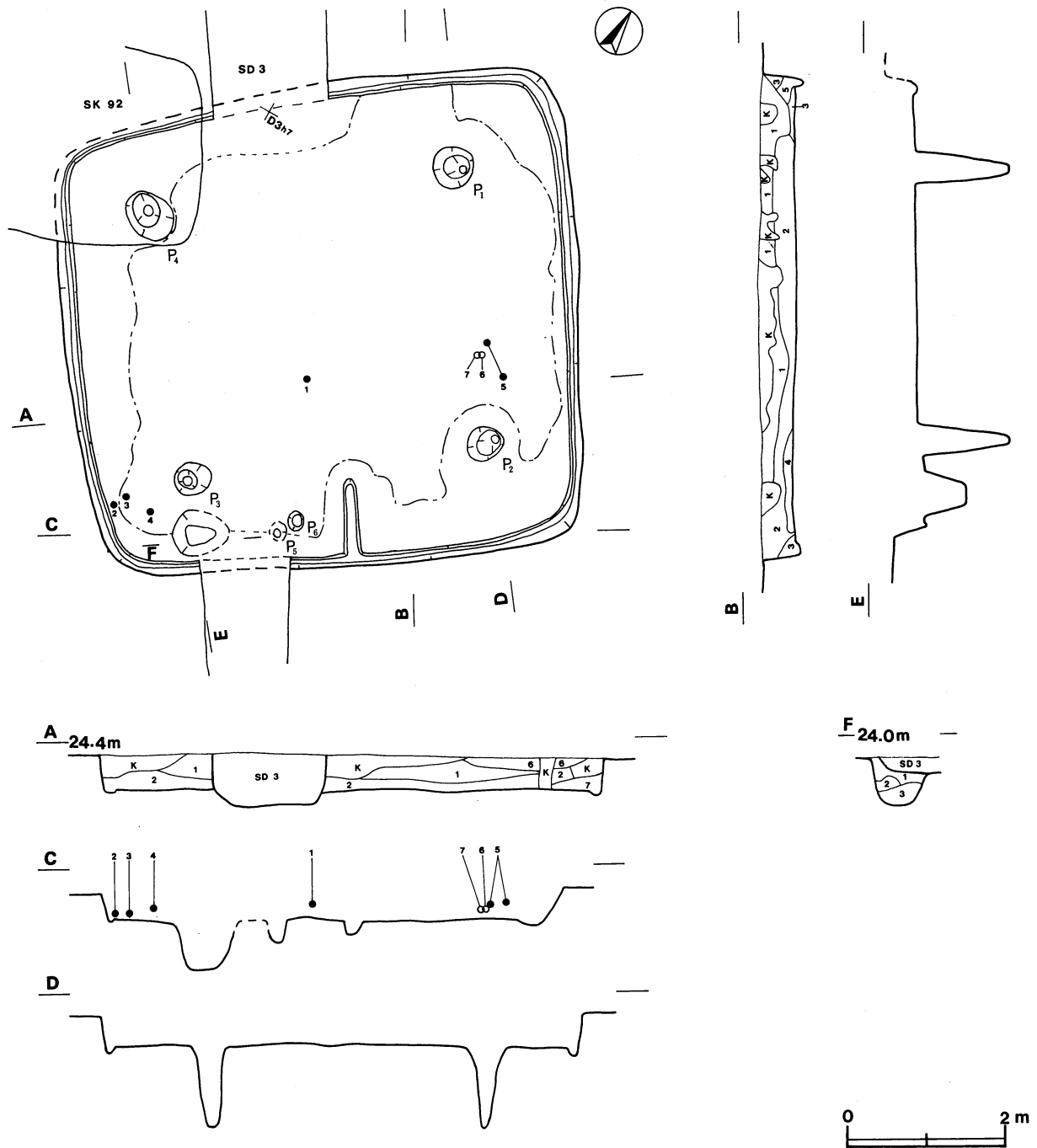
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第296図 1	高土師器 坏	A (12.8) B (10.3)	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に4孔を穿つ。	脚部外面縦位のナデ, 内面縦位のヘラナデ。裾部内面横位のヘラナデ。脚部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P755 20% 北東壁付近床面 外面煤付着
2	土師器 器台	A 9.8 B (6.7)	脚部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がり, 中央に貫通孔をもつ。	脚部外面は縦位のヘラナデ。器受部外面縦位のナデ, 内面横位のヘラナデ。器受部内・外面輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P756 50% PL87 北東壁付近床面
3	土師器 罎	A 10.4 B 14.6 C 3.0	中央部が僅かに凹む平底。体部は, 内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	口縁部内横ナデ, 外面磨き。体部内面ナデ, 外面ヘラナデ。口縁部内・外面, 体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P757 90% PL87 北西壁際北コーナー寄り床面
4	土師器 罎	A [10.7] B 7.2 C 2.3	中央部が僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ヘラナデ。口縁部内・外面, 体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P758 60% 東コーナー部床面
5	土師器 壺	A 14.5 B (13.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。頸部下端に隆帯が貼られ, ヘラ状工具による刻目が施されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。口縁部内・外面, 体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P759 40% PL87 南コーナー部床面
6	土師器 壺	A [17.4] B (9.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾して立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P760 10% 中央部床面 口縁部外面煤付着
7	土師器 甕	A [18.7] B 23.4 C 7.0	体部から口縁部にかけての破損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内面ヘラ削り後横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ヘラナデ。頸部外面に弱いハケ目整形。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P761 50% PL87 南コーナー部床面 外面煤付着 二次焼成
8	土師器 甕	A [17.6] B 18.7 C 3.6	体部から口縁部にかけての破損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ナデ, 内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P762 40% PL87 南コーナー部床面 体部外面炭化物付着 体部内面剝離
9	土師器 甕	A 18.0 B (10.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ, 内面弱いヘラ削り後横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ, 内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P763 20% 北コーナー部覆土中層 体部外面炭化物付着
10	ミニチュア土器 土師器	A 6.6 B 4.9 C 3.3	中央部が凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	体部外面弱いヘラ削り後ナデ, 内面斜位のナデ。体部外面に輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P764 100% PL87 北東壁付近覆土下層
11	ミニチュア土器 土師器	A 4.5 B 3.4 C 3.4	平底。体部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がる。口縁部はほぼ直立する。	体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ヘラナデ。内・外面赤彩痕。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P765 100% PL87 北東壁付近床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第296図12	砥石	8.5	3.0	2.1	83.6	凝灰岩	南西壁中央付近覆土上層	Q97

第156号住居跡 (第297図)

位置 調査区中央部, D3h7区。

重複関係 本跡は, 南西部の北西壁から南東壁にかけて第3号溝に, 西コーナー部を第92号土坑にそれぞれ掘り込まれており, 本跡が最も古い。



第297図 第156号住居跡実測図

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.15mの方形である。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は50cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し, 上幅8~12cm, 深さ6~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体に踏み固められている。北東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。長さ100cm, 上幅20cm程, 深さ15cmで, 断面形はU字状である。

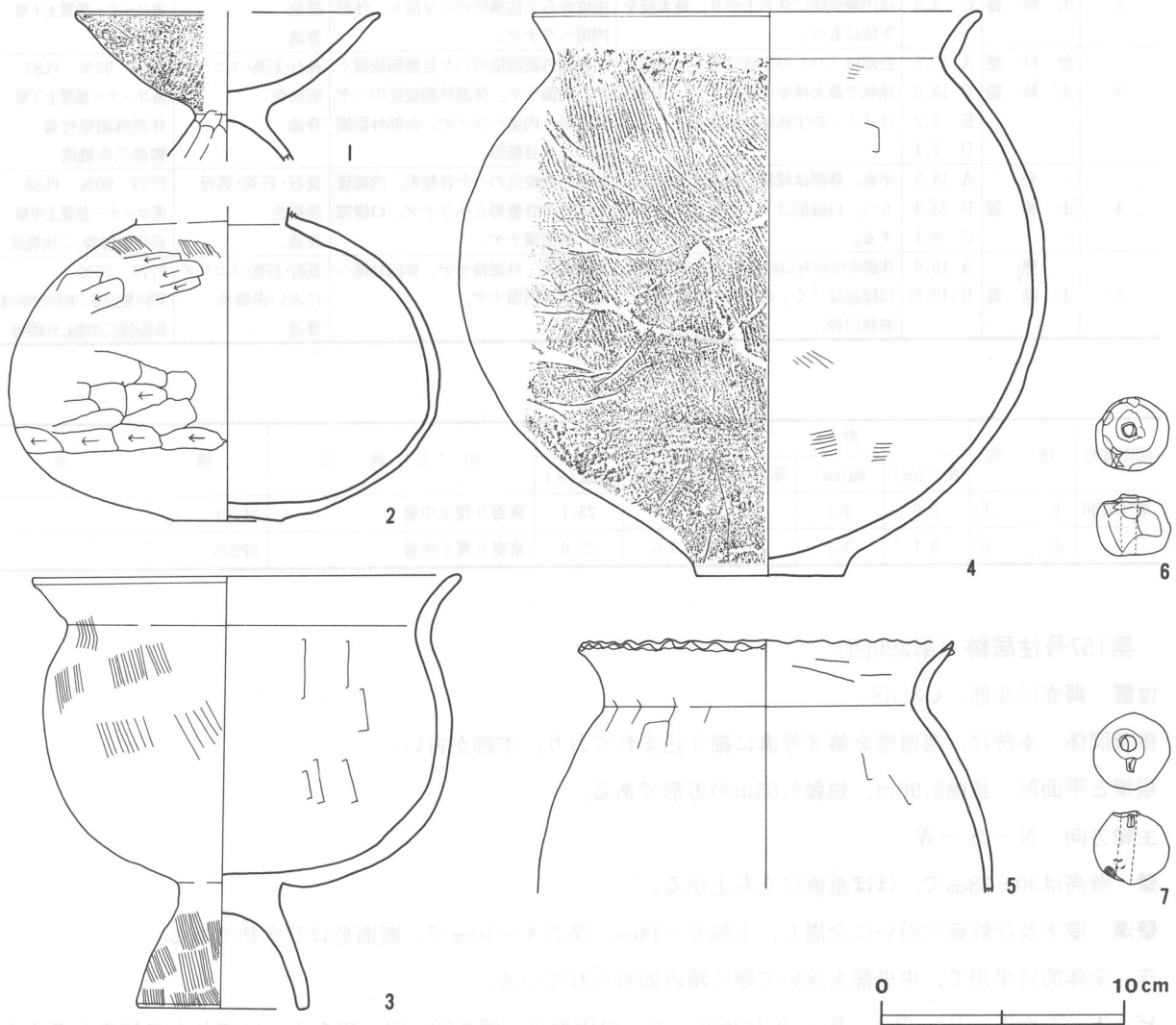
ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は長径45~75cm, 短径40~70cmの楕円形, 深さは100~117cmで, いずれも支柱穴と考えられる。P₅・P₆は径20cm程の円形で, 深さは18~32cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南東壁際の南コーナー寄りに付設されている。長径70cm, 短径55cmの不整楕円形で, 深さは62cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



第298図 第156号住居跡出土遺物実測図

覆土 7層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | | |

遺物 西コーナー部を除く住居跡全体の覆土上層から下層にかけて、土師器片が457点出土している。また、北東壁際の覆土下層から少量の焼土塊が、南東壁際の覆土下層から少量の粘土塊が出土しており、出土状況からいずれも投棄と思われる。1の高坏は横位で中央部から、5の甕は東寄りの覆土上層から、2の壺は正位で、3の台付甕及び4の甕は南コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図 1	高坏 土師器	A(12.6) B(6.1) E(1.9)	脚部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	坏部外面ハケ目整形、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P766 30% 中央部覆土上層
2	壺 土師器	B(12.9) C 4.5	口縁部欠損。僅かに凹む平底。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面上位ハケ目整形後ヘラ削り、中位から下位横位のヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P767 70% 南コーナー部覆土下層
3	台付甕 土師器	A 17.8 B 18.0 E 5.2 D 7.1	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部外面縦位のハケ目整形後横ナデ、内面ナデ。体部外面縦位のハケ目整形、内面ヘラナデ。台部外面縦位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P768 95% PL87 南コーナー部覆土中層 体部外面煤付着 脚部二次焼成
4	甕 土師器	A 18.5 B 23.3 C 6.1	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	体部外面縦位のハケ目整形、内部僅かにハケ目整形とヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P769 90% PL88 南コーナー部覆土中層 炭化物付着、二次焼成
5	甕 土師器	A 15.6 B(10.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P770 10% 東寄り覆土上層、口縁部外面煤付着 体部外面二次焼成、外面剥離

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第298図6	土玉	2.9	3.1	2.1	0.6	23.1	東寄り覆土中層	DP204
7	土玉	3.1	3.1	3.1	0.6	25.6	東寄り覆土中層	DP205

第157号住居跡 (第299図)

位置 調査区北部, C3i4区。

重複関係 本跡は、南西壁を第3号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.90m, 短軸5.65mの方形である。

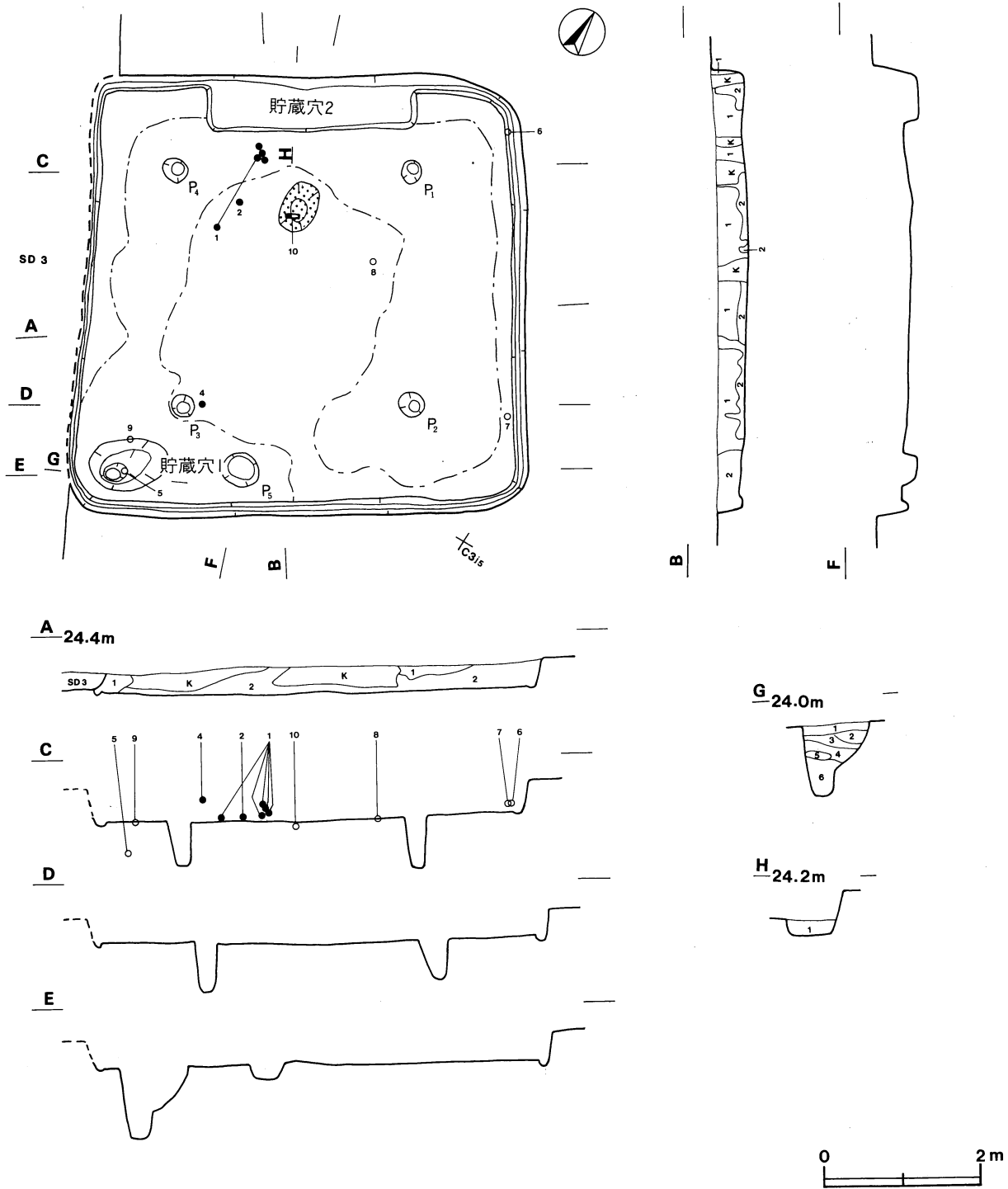
主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は30~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下及び貯蔵穴沿いに全周し、上幅6~14cm, 深さ4~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、中央部を除いて硬く踏み固められている。

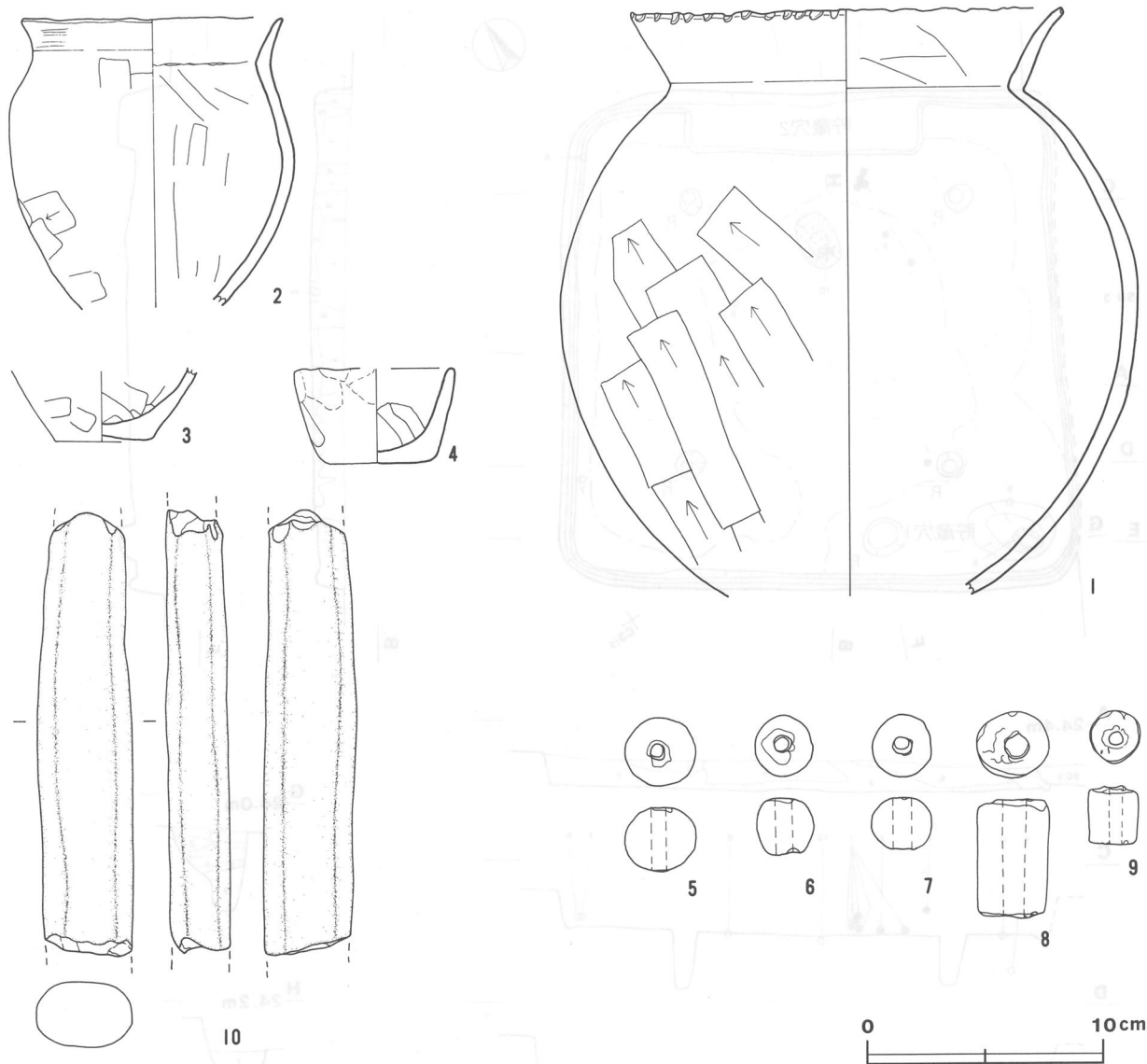
ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径25~35cmの円形で、深さ50~64cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P5は径45cm程の円形で、深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第299図 第157号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径65cm、短径45cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長径100cm、短径65cmの楕円形で、深さは89cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は北西壁際中央部に付設されている。長軸270cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは20cm程である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。



第300図 第157号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

貯蔵穴2土層解説

- | |
|-------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
|-------------------------|

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- | |
|--|
| 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量 |

遺物 北東壁中央部付近を除く、床面全体から土師器片が352点出土している。また、床面全体の覆土下層から床面にかけて炭化材及び焼土塊が出土している。1・2の甕は炉西側の床面から、4の手捏土器は南コーナー寄りの覆土中層から、3のミニチュア土器は覆土中からそれぞれ出土している。炉床南部からは10の土製炉石が炉の長径に対して直交した状態で出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第300図 1	甕 土師器	A 18.4 B (24.8)	底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部外面横ナデ、内面ヘラナデ。 体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P771 60% PL88 炉西側床面 口縁部外面煤付着
2	小形甕 土師器	A 11.1 B (12.3)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部外面ハケ目整形後横ナデ、内面横ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P772 60% PL88 炉西側床面
3	ミニチュア土器 土師器	B (2.9) C 4.0	底部片。僅かに凹む平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P773 40% 覆土中
4	手捏土器 土師器	A (6.9) B 4.0 C 4.4	平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がる。口縁部は僅かに内彎する。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P774 50% 南コーナー寄り覆土中層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第300図5	土玉	2.8	3.0	-	0.7	19.7	貯蔵穴覆土中層	DP206
6	土玉	2.9	2.5	-	0.8	12.2	北コーナー部覆土下層	DP207
7	土玉	2.3	2.6	-	0.8	14.3	東コーナー部覆土下層	DP208
8	管状土錘	5.0	3.1	-	1.0	51.6	中央部床面	DP20 PL99
9	管状土錘	2.5	2.1	-	0.6	14.4	南コーナー部覆土中層	DP210 PL99
10	土製炉石	(18.9)	4.1	2.7	-	(268.5)	炉床南部	DP211 PL102

第158号住居跡 (第301図)

位置 調査区南西部, E2c5区。

重複関係 本跡は, 南西部が第130号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 一辺2.80mの方形である。

主軸方向 N-46°-E

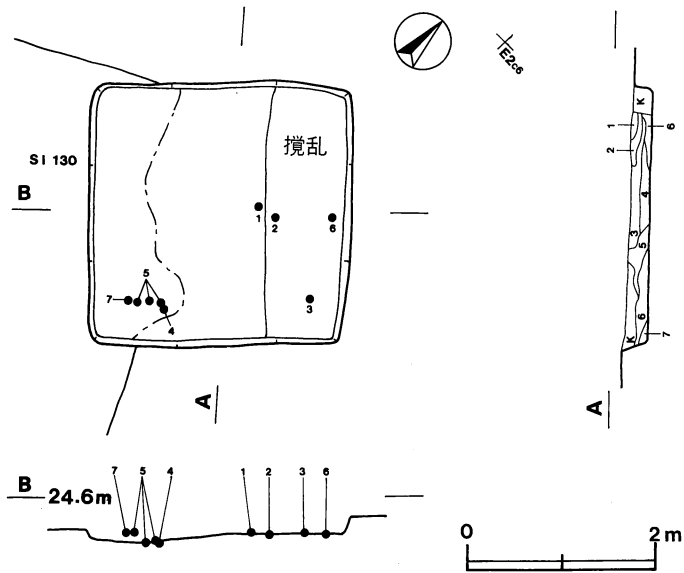
壁 壁高は24cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 南西部が踏み固められている。

覆土 7層からなる人為堆積である。

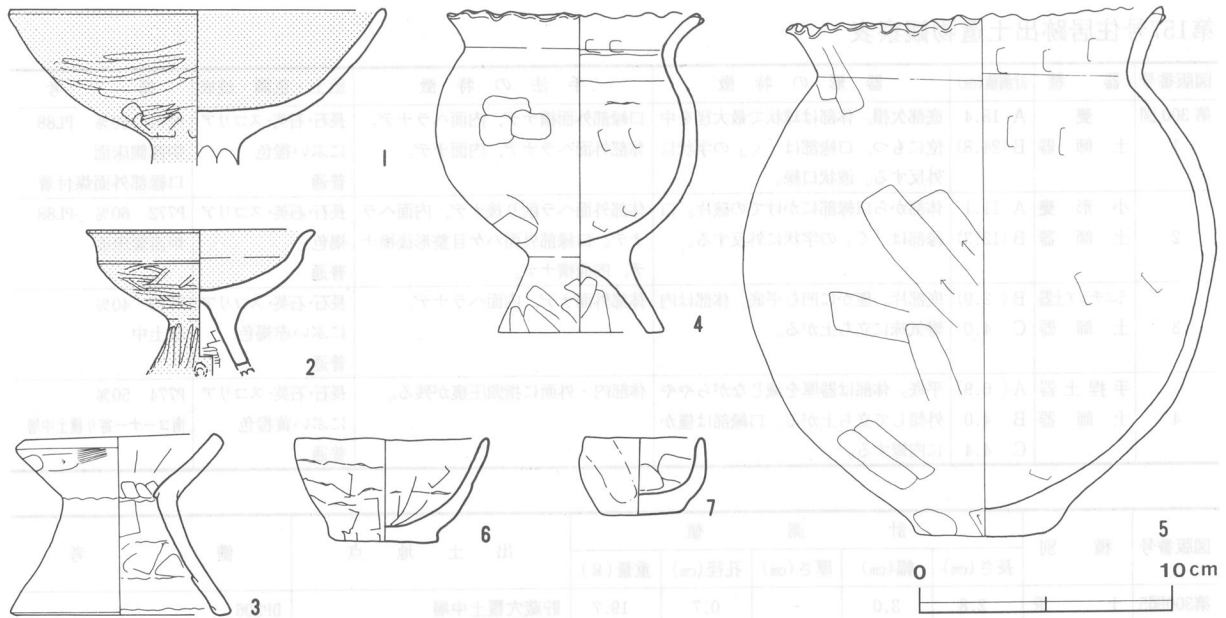
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム小・中ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量



第301図 第158号住居跡実測図

遺物 南西部を除く床面全体から土師器が116点出土している。また, 東部の床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の高坏, 2の器台は中央部寄り, 3の器台は横位で東コーナー部から, 4の台付甕, 5の甕及び7のミニチュア土器は南コーナー部から, 6のミニチュア土器は正位で北東壁際中央部のいずれも床面から出土している。



第302図 第158号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は炉，主柱穴等の確認はできなかったが，硬化した床面及び遺物の出土状況等から住居跡とした。
 時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第302図 1	高土師器	A 15.0 B (5.1)	脚部欠損。坏部は内彎気味に大きく開いて立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P775 60% 中央部寄り床面 内面剥離
2	器台土師器	A 9.1 B (5.7) E (2.2)	脚部中位から下位欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。脚部に4孔を穿つ。	器受部外面へラナデ後へラ磨き。口縁部横ナデ。脚部外面へラ磨き，内面ハケ目調整後へラナデ。脚部外面及び器受部内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P776 60% PL88 中央部寄り床面 内面剥離
3	器台土師器	A 8.4 B 7.2 D 8.8 E 4.7	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は僅かに内彎して立ち上がる。器受部中央に貫通孔をもつ。	脚部外面ナデ，内面横位のへラナデ。器受部外面横位のへラナデ後一部ハケ目整形，内面横位のへラナデ。接合部へラ削り。脚部内面輪積み痕。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P777 100% PL88 東コーナー部床面
4	台付甕土師器	A 10.2 B 12.5 D 6.6 E 3.0	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	台部内・外面へラナデ。体部外面へラ削り後ナデ，内面へラナデ。口縁部外面横ナデ，内面へラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P778 80% PL88 南コーナー部床面 外面全面煤附着 二次焼成
5	甕土師器	A 14.9 B 20.8 C 5.5	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	体部外面へラ削り後上位ナデ，内面へラナデ。口縁部内・外面へラナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P779 60% PL88 南コーナー部床面 外面煤附着，二次焼成
6	ミニチュア土師器	A 7.7 B 4.1 C 4.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面へラ削り後ナデ。内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P780 98% PL87 北東壁際中央部床面
7	手捏土師器	A 4.7 B 3.1 C 3.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面指頭圧痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P781 90% PL87 南コーナー部床面

第159号住居跡（第303図）

位置 調査区南西部，E2c8区。

規模と平面形 一辺3.20m程の方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

壁 掘り込みが浅い住居跡のため，一部で僅かな立ち上がり（2～3cm）を確認したのみである。

床 平坦で，炉の周囲が踏み固められている。

炉 中央部から西寄りにあり，長径60cm，短径40cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け強く赤変硬化している。

貯蔵穴 北東壁のほぼ中央部に付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

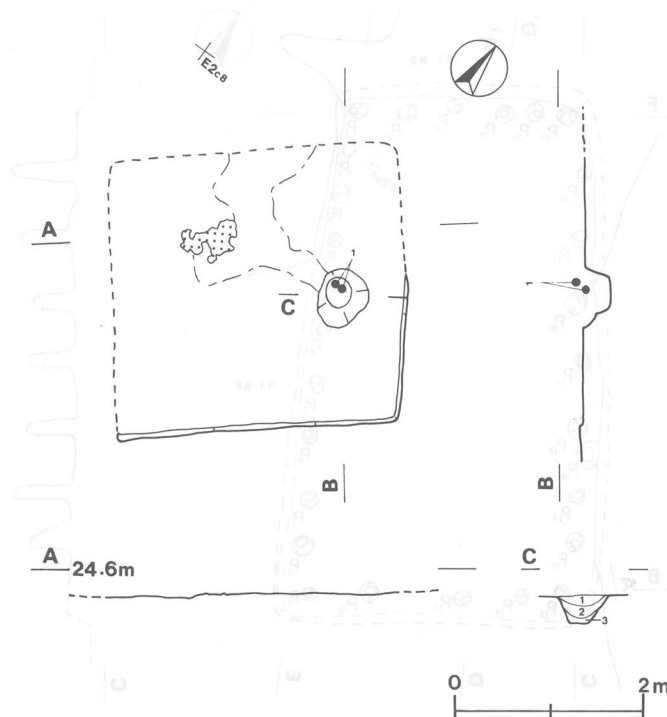
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

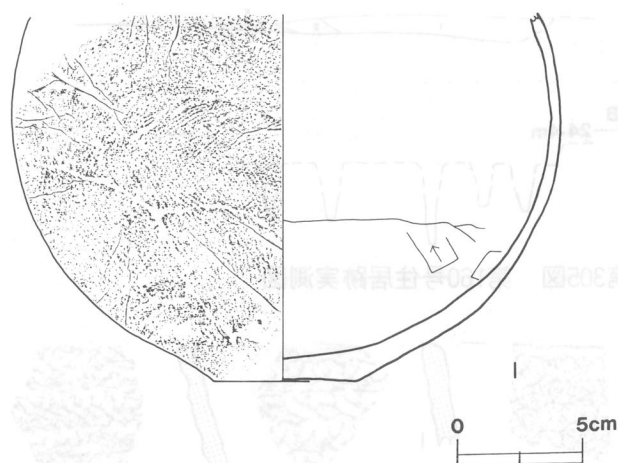
覆土 削平されており，堆積状況は不明である。

遺物 土師器の甕片が7点，主に貯蔵穴から出土している。1の甕は貯蔵穴の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第303図 第159号住居跡実測図



第304図 第159号住居跡出土遺物実測図

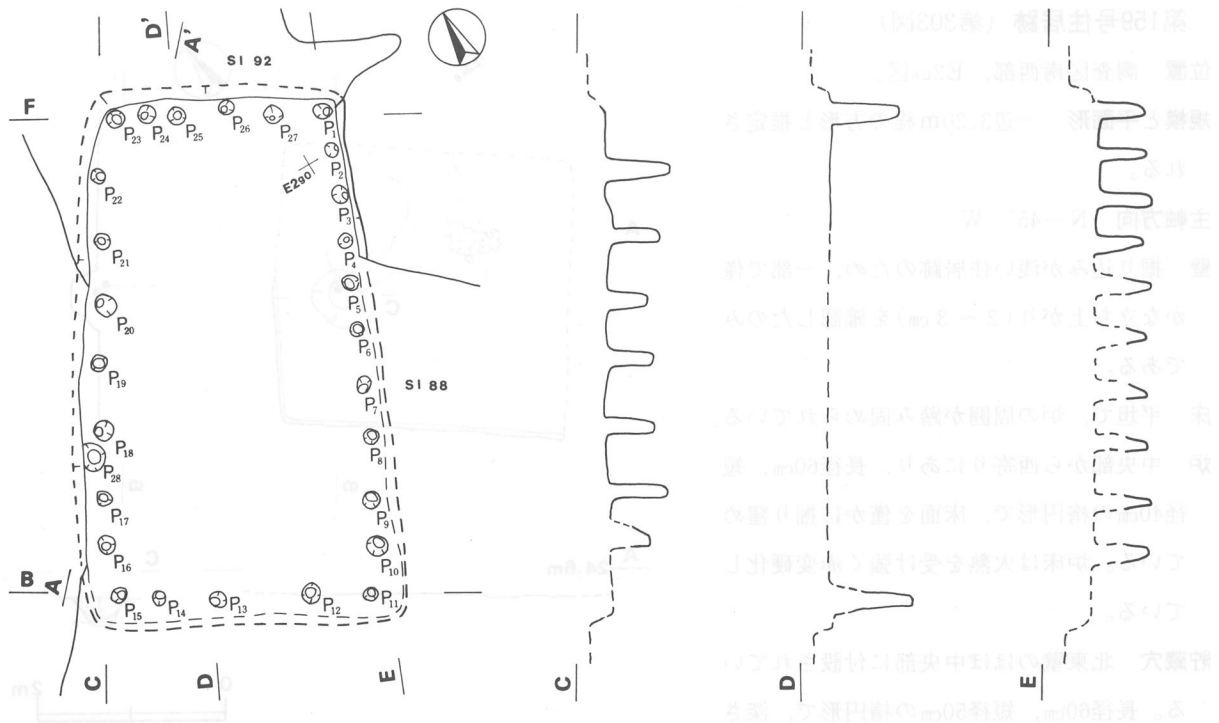
第159号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第304図 1	甕 土師器	B (14.5) C 5.7	体部下半から底部にかけての破片。 底部は平底で僅かに突出する。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。 体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 灰白色 普通	P782 40% PL88 貯蔵穴覆土中層 体部外面煤附着，二次焼成(底部)

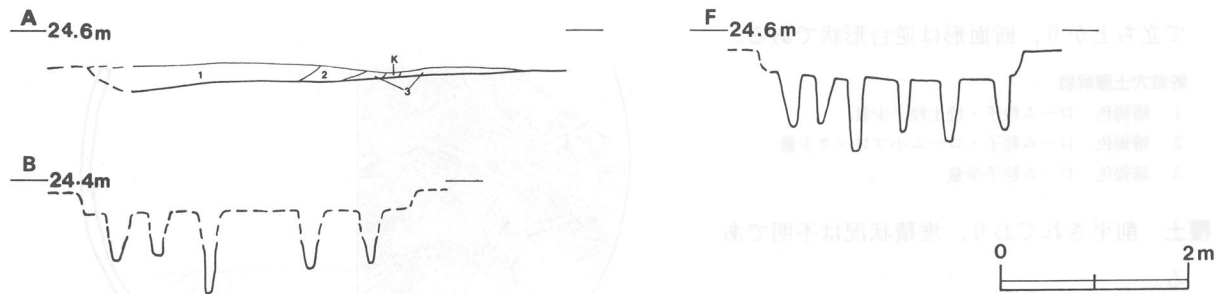
第160号住居跡（第305図）

位置 調査区南西部，E2g0区。

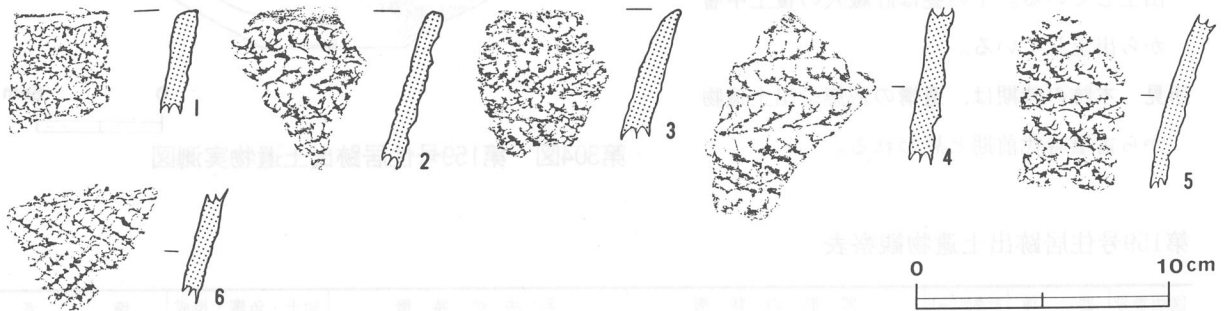
重複関係 本跡は，中央部から南部にかけて第88号住居跡に，北東壁を第92号住居跡にそれぞれ掘り込まれており，本跡が最も古い。



第305図 第160号住居跡実測図



第305図 第160号住居跡実測図



第306図 第160号住居跡出土遺物拓影図

規模と平面形 長軸(5.70)m, 短軸(3.45)mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-39°-E

壁 壁高は20~28cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、踏み固められている。

ピット 28か所 (P₁~P₂₈)。P₁~P₁₀は南東壁下であり、径15~20cmの円形で、深さ56~60cmである。P₁₁~P₁₅は南西壁下であり、径15~20cmの円形で、深さ20~57cmである。P₁₆~P₂₂は北西壁下であり、径15

～25cmの円形で、深さ48～66cmである。P₂₃～P₂₈は北東壁下にあり、径15～20cmの円形で、深さ50～76cmである。いずれも壁柱穴と考えられる。P₅～P₁₆は第88号住居跡に30cm程掘り込まれているため、確認した深さは本来の深さよりも浅くなっている。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片16点、石4点が北東部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。

第306図1～6は、第160号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は口縁部片で、ループ文が施されている。4～6は胴部片で、4・5はループ文が、6は単節LRの羽状縄文が施されている。

第161号住居跡 (第307図)

位置 調査区中央部, E2c9区。

重複関係 本跡は、中央部から北東部にかけて第128号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.80m程の隅丸方形か隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-35°-W]

壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

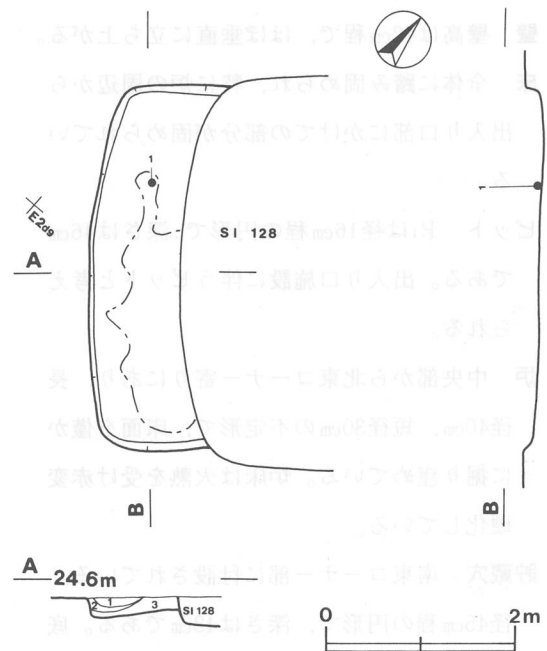
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

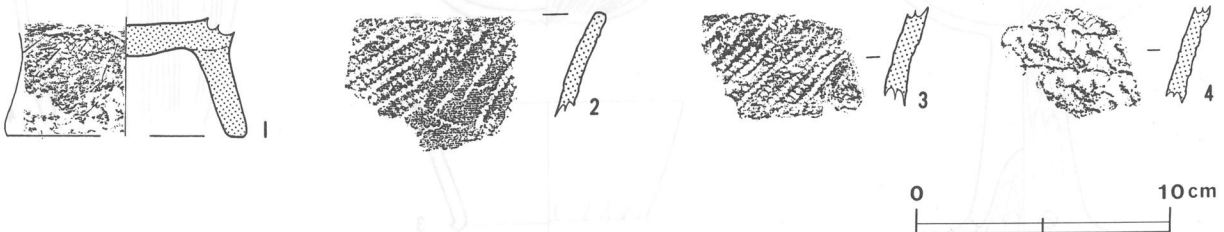
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片11点、石1点が床面から出土している。1の台付土器の台部は、正位で西コーナー寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。



第307図 第161号住居跡実測図



第308図 第161号住居跡出土遺物実測・拓影図

第161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	台付土器 縄文土器	B(4.8) D[9.8] E 3.4	底部片。底部は上げ底。内・外面とも丁寧にナデられている。縄文は施されていない。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P783 5% 西コーナー寄り床面 内外面剥離、二次焼成、繊維土器

第308図2～4は、第161号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、単節LRの縄文が施されている。3・4は胴部片で、3は単節LRの縄文が、4はループ文が施されている。

第162号住居跡 (第309図)

位置 調査区南西部, F2b3区。

規模と平面形 長軸2.55m, 短軸2.48mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は42cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に踏み固められ、特に炉の周辺から出入り口部にかけての部分固められている。

ピット P₁は径16cm程の円形で、深さは46cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

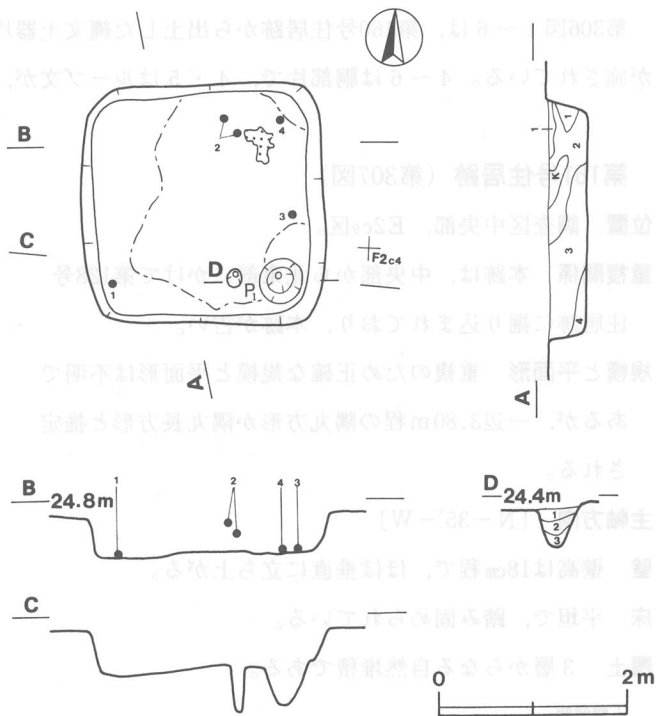
炉 中央部から北東コーナー寄りにあり、長径40cm, 短径30cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。

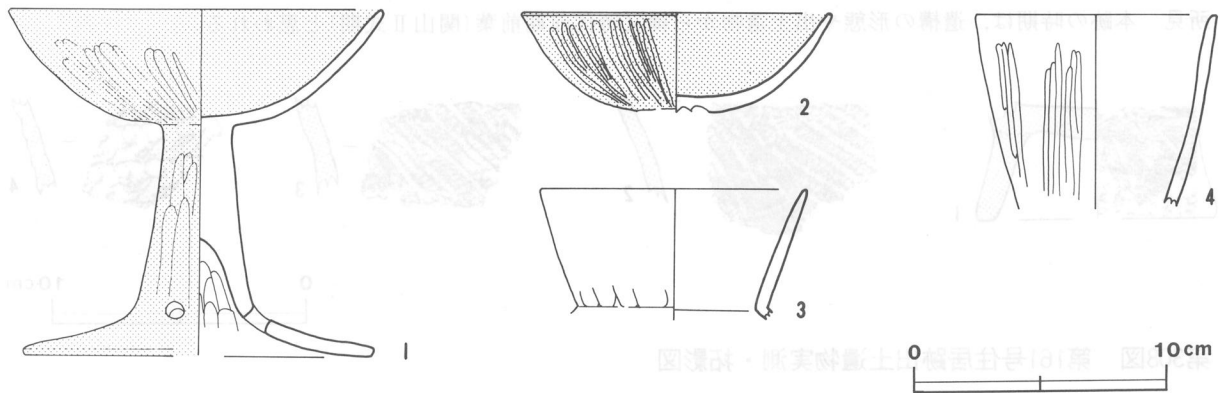
径45cm程の円形で、深さは42cmである。底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量



第309図 第162号住居跡実測図



第310図 第162号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中・大ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 北西コーナー部を除く, 覆土中層から床面にかけて土師器片が128点出土している。1の高坏は南西コーナー部の床面から, 2の高坏は炉北西側の覆土中層から上層にかけて, 3の埴は東壁際中央部の床面から, 4の埴は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第310図 1	高土師器 高坏	A 14.4 B 13.7 D (14.0)	脚部は上位3分の2が中実柱状。裾部は大きく開き上位に3孔を穿つ。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き, 内面ヘラナデ。坏部内・外面, 脚部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P784 80% PL88 南西コーナー部床面 内面著しい剝離
2	高土師器 高坏	A 12.4 B (5.0)	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P785 50% 炉北西側覆土中層から上層 内面著しい剝離
3	埴土師器 埴	A 10.6 B (5.2)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ナデ, 内面横ナデ。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P786 30% 東壁際中央部床面 内面剝離
4	埴土師器 埴	A 9.6 B (7.6)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き, 内面横ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P787 25% 北東コーナー部床面 内面剝離, 外面煤付着

第163号住居跡 (第311図)

位置 調査区南西端部, F2d2区。

重複関係 本跡は, 第61号住居跡の下に構築されており, 北西部を第40号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が最も古い。

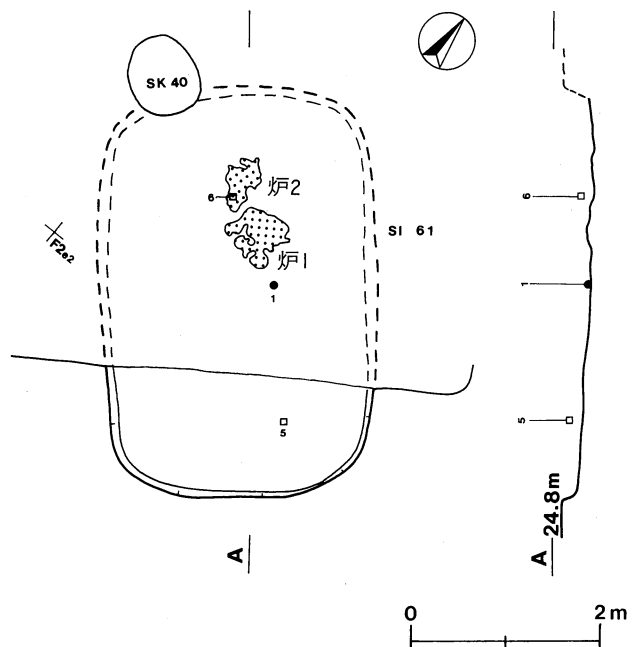
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが, 長軸4.20m程, 短軸2.80m程の隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-32°-W]

壁 壁高は10cm程で, 外傾して立ち上がる。

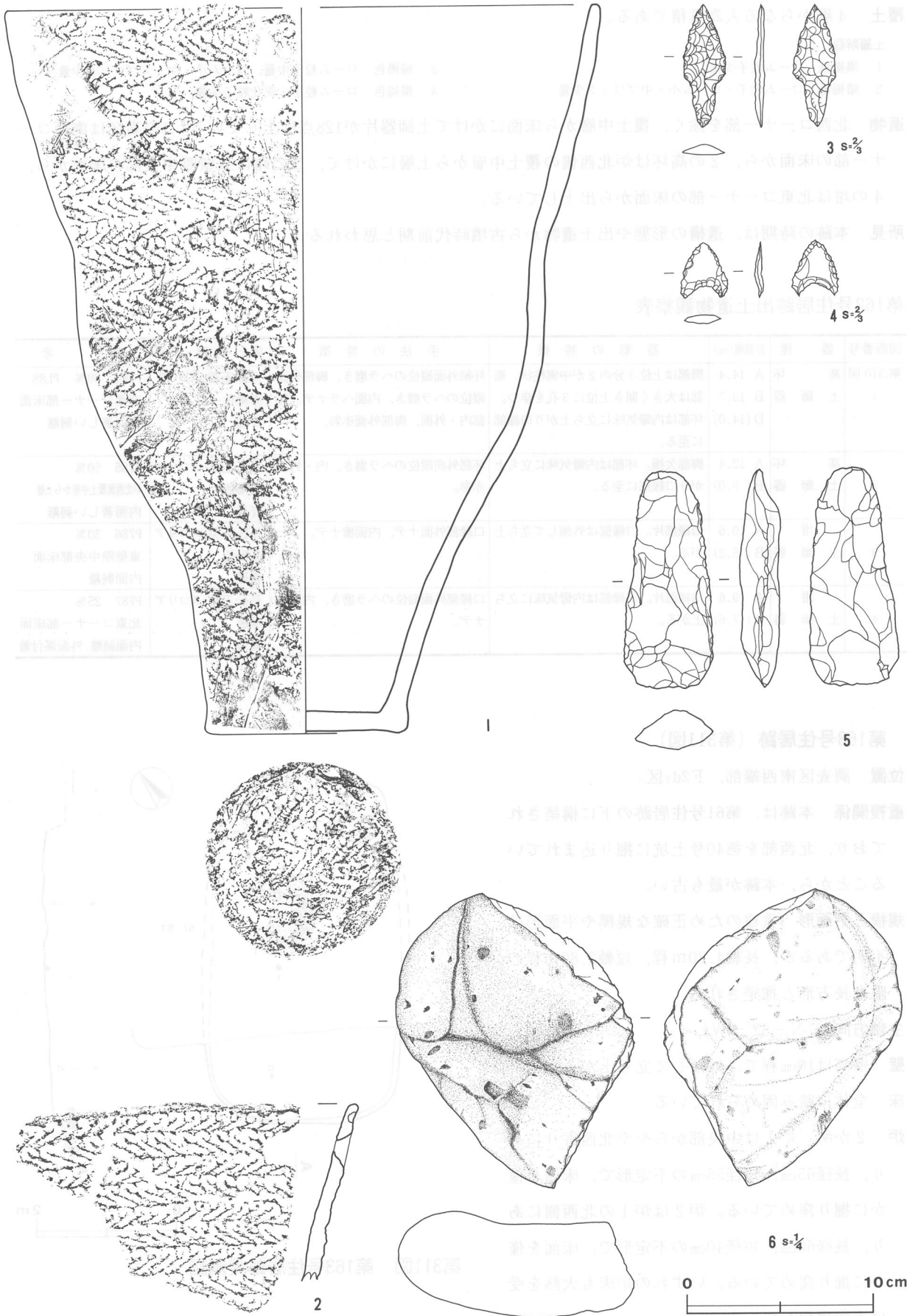
床 全体に踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部からやや北西寄りにあり, 長径65cm, 短径55cmの不定形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉2は炉1の北西側にあり, 長径60cm, 短径40cmの不定形で, 床面を僅かに掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。



第311図 第163号住居跡実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。重複のため現存する覆土が僅かであるが, ロームブロックが混入している。



第312図 第163号住居跡出土遺物・拓影図

遺物 中央部から南東部の覆土上層から床面にかけて、縄文土器の深鉢及び石9点が出土している。1の深鉢は中央部の床面から押圧された状態で、6の石皿（熱を受けている）は炉2の炉床から出土している。また、流れ込みと思われる5の打製石斧は東コーナー部の覆土上層から出土している。3・4の石鏃は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（二ツ木式期）と思われる。

第163号住居跡出土遺物観察表

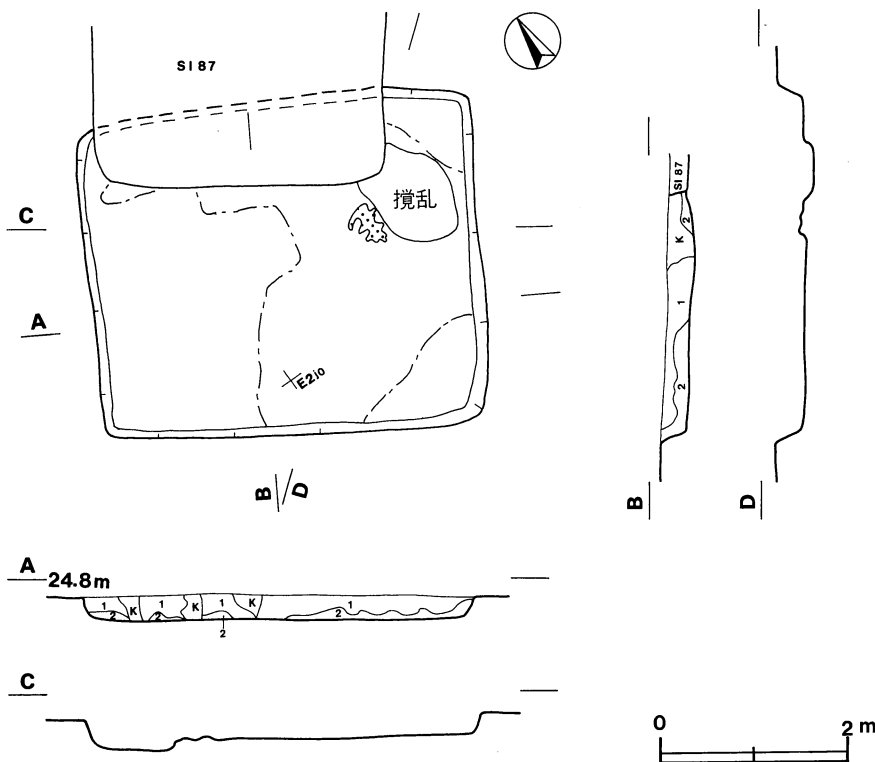
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第312図 1	深鉢 縄文土器	A 31.9 B 39.0 C 10.9	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底。胴部はやや外反して立ち上がり、中位ではほぼ直立した後上位は外傾する。底部から口縁部にかけて単節RLの縄文が施され、胴部は横位回転による羽状構成をとる。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P788 50% PL89 中央部床面 二次焼成、繊維土器

第312図2は、第163号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、ループ文が多段に施されている。口縁端部には、焼成後に孔が穿たれている。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第312図3	石鏃	3.3	1.2	0.3	0.8	チャート	覆土中	Q98 PL101
4	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.3	頁岩	覆土中	Q99
5	打製石斧	10.8	4.9	2.4	132.9	安山岩	東コーナー部覆土上層	Q100 PL103
6	石皿	(21.1)	(17.2)	7.6	(3087.2)	凝灰岩	炉2炉床	Q101 被熱

第164号住居跡（第313図）

位置 調査区南西部，E2i0区。



第313図 第164号住居跡実測図

重複関係 本跡は、第87号住居跡の下に構築されており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.10m、短軸3.60mの隅丸方形である。

主軸方向 N-125°-E

壁 壁高は24cm程で、やや外傾して立ち上がる。

床 炉の周囲を含む中央部から東部にかけて踏み固められている。

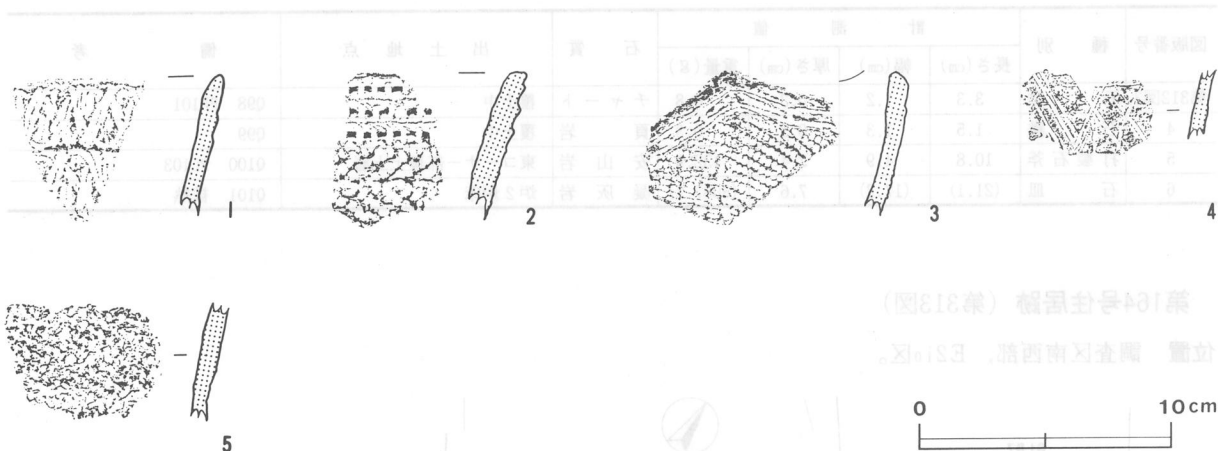
炉 中央部から南東寄りにあり、長径45cm、短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子多量

遺物 炉周辺の覆土中層から床面にかけて、縄文土器の深鉢片52点、チャート・メノウ片4点、石4点が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。



第314図 第164号住居跡出土遺物・拓影図

第314図1～5は、第164号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は口縁部片である。1・2はループ文の上に3本1対の隆帯を貼りキザミが施されている。3は波状口縁で、口縁端部には半截竹管による平行沈線が施されている。4・5は胴部片で、4はヘラ状工具による鋸歯状文が、5は組紐文が施されている。

第165号住居跡 (第315図)

位置 調査区西部，D2j7区。

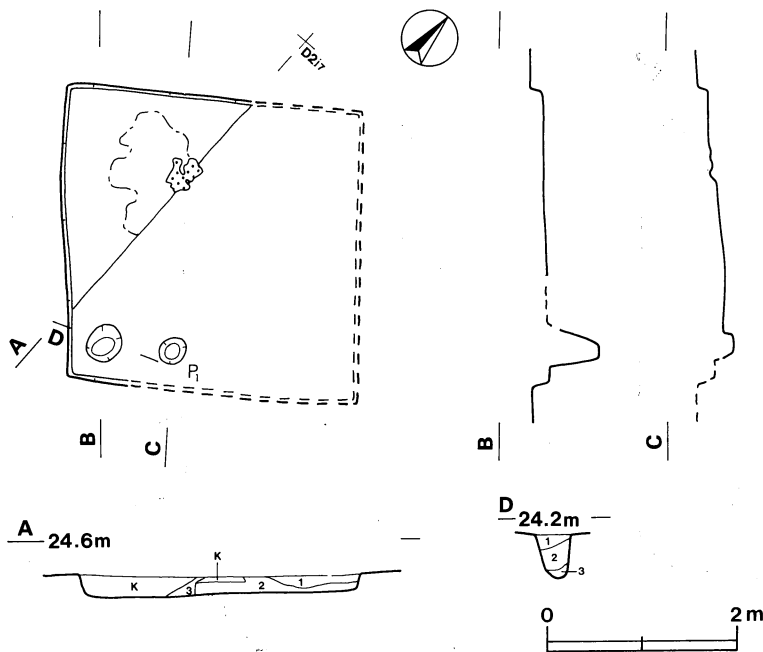
規模と平面形 中央部から東部にかけて削平されており、正確な規模や平面形は不明であるが、一辺3.10m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-48°-W

壁 壁高は10～18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 炉の周囲が踏み固められている。

ピット P₁は径28cm程の円形で、深さは13cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第315図 第165号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径40cm、短径25cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さは51cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

遺物 土師器の甕片を主体に床面から57点出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第166号住居跡 (第316図)

位置 調査区中央部、D3c6区。

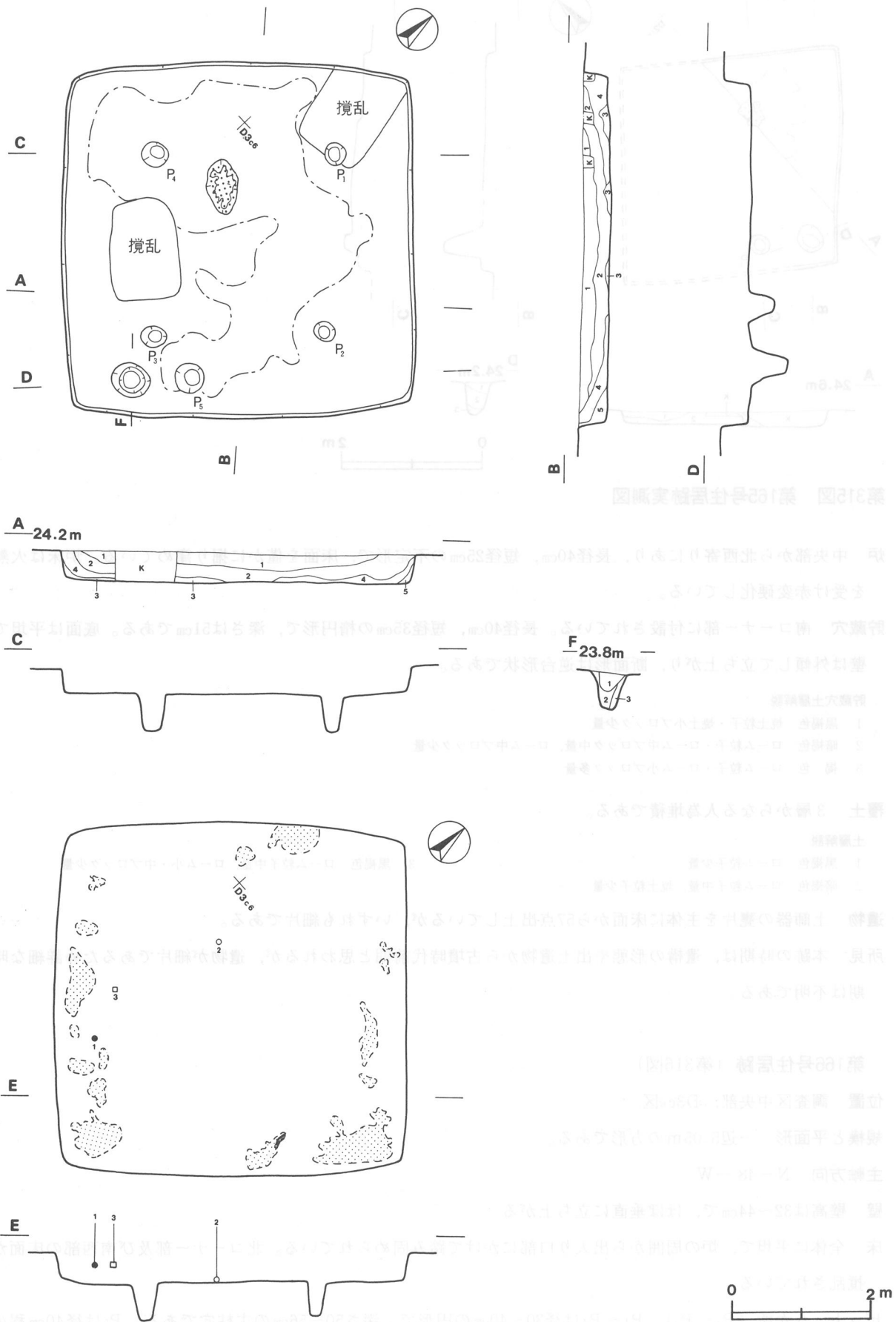
規模と平面形 一辺5.05mの方形である。

主軸方向 N-48°-W

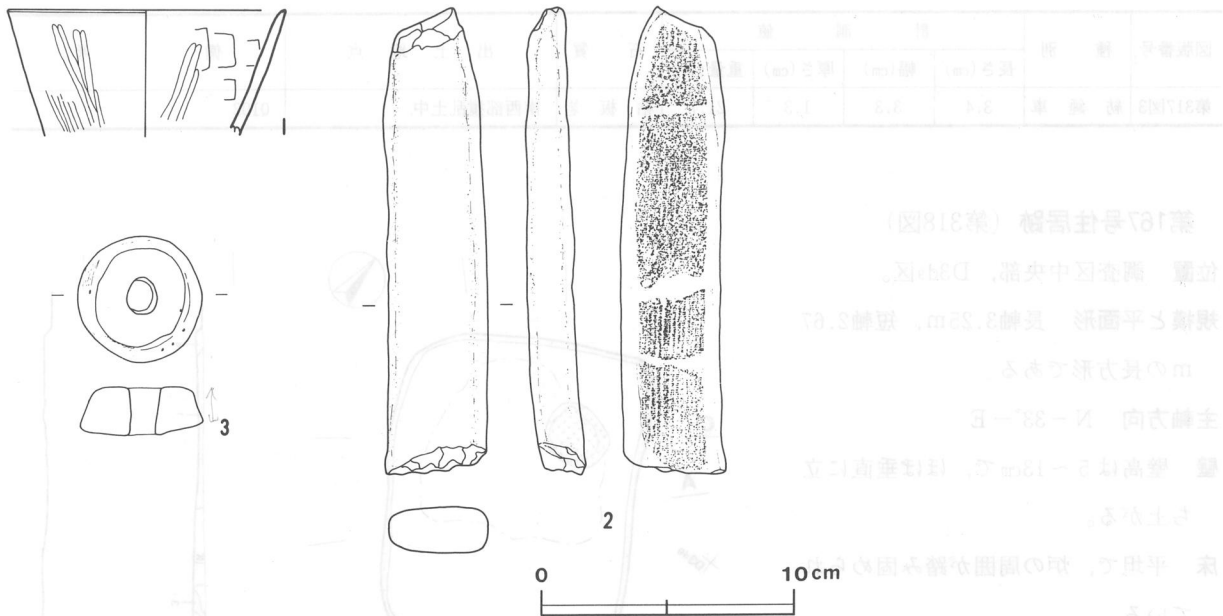
壁 壁高は32~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、炉の周囲から出入り口部にかけて踏み固められている。北コーナー部及び南西部の床面が攪乱されている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径30~40cmの円形で、深さ50~56cmの支柱穴である。P5は径40cm程の楕円形で、深さ35cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第316図 第166号住居跡実測・遺物出土位置図



第317図 第166号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径80cm、短径45cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径56cm、短径48cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量
 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
 4 極暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 5 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて、土師器片が甕を主体に450点出土している。また、四方の壁際の覆土下層からは、炭化材及び焼土塊が出土している。1の埴は南西壁際南コーナー寄りの覆土中層から、2の土製炉石は炉床中央部から、3の紡錘車は南西部の攪乱中から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第166号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第317図 1	埴 土師器	A 11.0 B(5.0)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ後ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P789 25% 南西壁際覆土中層 外面煤付着、二次焼成

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第317図2	土製炉石	(18.5)	4.2	1.8	-	(191.1)	炉床中央部	DP212 PL102

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第317図3	紡錘車	3.4	3.3	1.3	21.7	粘板岩	南西部攪乱土中	Q102

第167号住居跡 (第318図)

位置 調査区中央部, D3d9区。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸2.67mの長方形である。

主軸方向 N-33°-E

壁 壁高は5~13cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

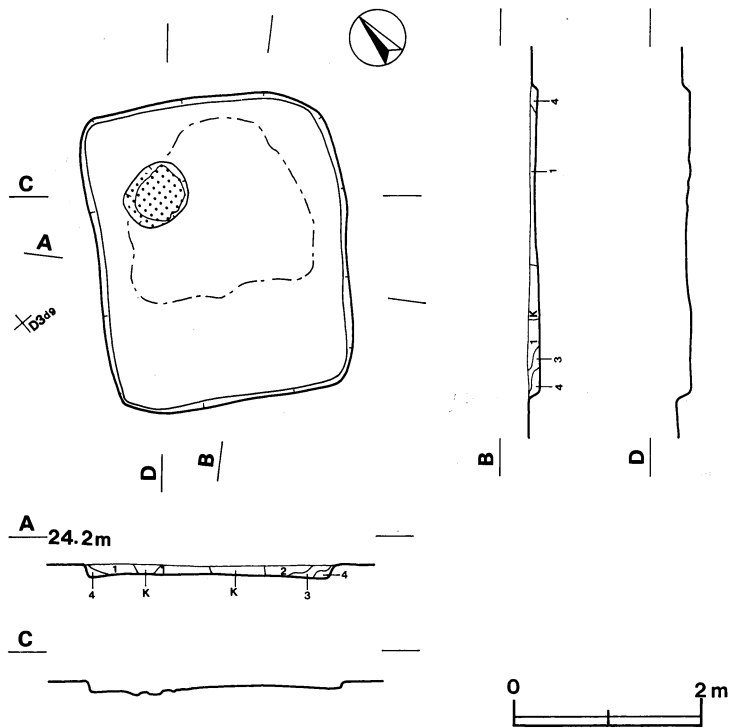
床 平坦で, 炉の周囲が踏み固められている。

炉 中央部から北寄りにあり, 長径70cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, ローム小・大ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量



第318図 第167号住居跡実測図

遺物 主に北西壁寄りの覆土下層から床面にかけて, 土師器片が甕を主体に36点出土しているが, いずれも細片である。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが, 遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第168号住居跡 (第319図)

位置 調査区中央部, D3i9区。

規模と平面形 耕作による削平と攪乱のため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺3.00m程の方形か長方形と推定される。

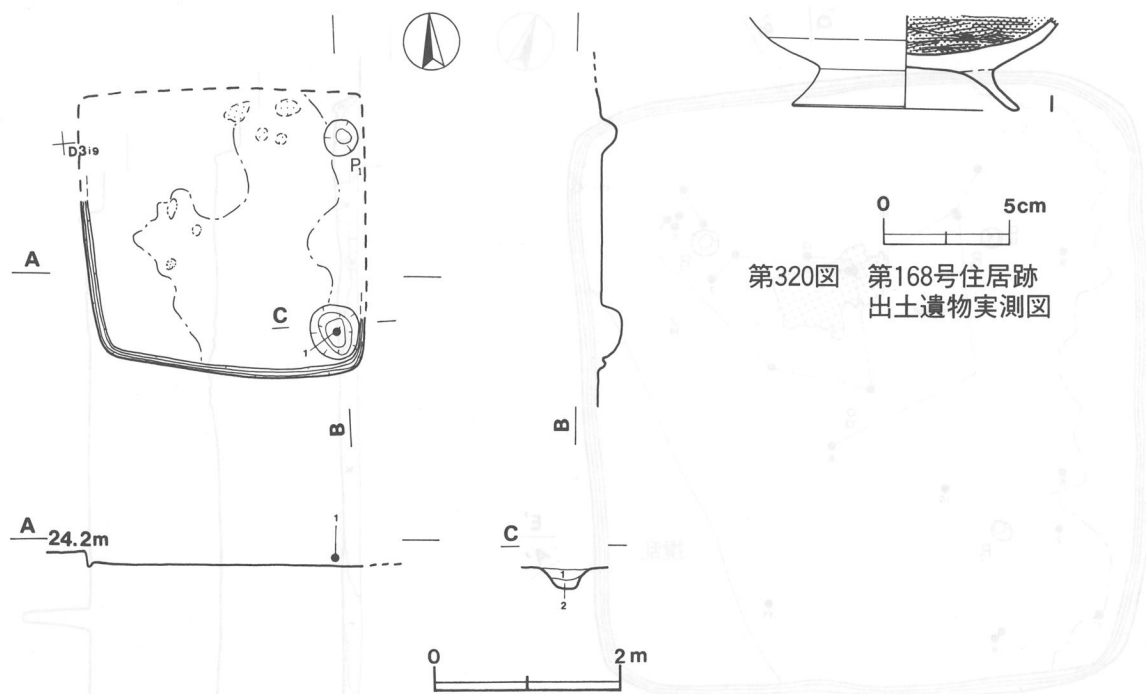
主軸方向 N-1°-W

壁 壁の大部分が削平のため確認できていないが, 西壁高は10cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部と西壁下の一部で確認した。上幅5cm程, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦であり, 中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径35cm程の円形で, 深さは14cmである。性格は不明である。



第319図 第168号住居跡実測図

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は鍋底状で，壁は外傾して立ち上がり，断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小・中ブロック微量

覆土 削平されているため堆積状況は不明である。

遺物 土師器片17点に混じり，粘土塊及び鉄滓が出土している。1の高台付坏は南東コーナー部の覆土下層から出土している。また，中央部からやや西寄りの床面から粘土塊及び鉄滓が散在した状態で出土している。

所見 本跡は炉，竈及び柱穴等は確認できなかったが，北壁際の東寄りの床面から竈等の燃烧施設の跡と思われる焼けた粘土塊が確認でき，床面及び遺物の出土状況等から住居跡とした。（工房跡の可能性も考えられる。）本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代(10世紀)と思われる。

第168号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第320図 1	高台付坏 土師器	B (5.0) D 9.0 E 1.5	体部下位から高台にかけての破片。「ハ」の字状に開く足高の高台がつく。体部は内彎して立ち上がる。体部下位に弱い稜をもつ。	体部外面ナデ，内面横位のヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・スコリアにぶい橙色普通	P790 50% 南東コーナー部覆土下層

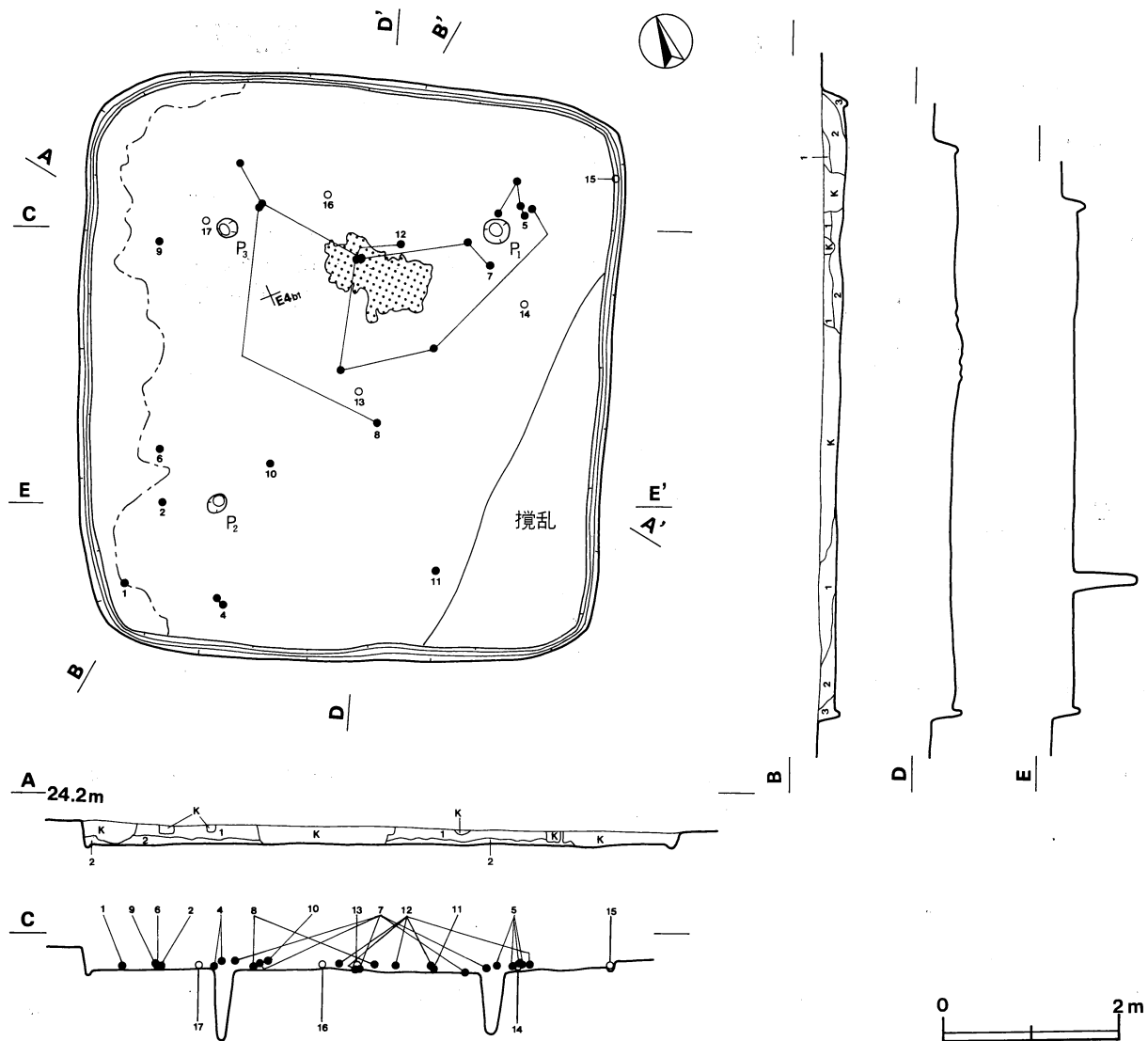
第169号住居跡 (第321図)

位置 調査区中央部，E4b1区。

規模と平面形 長軸6.56m，短軸5.96mの方形である。

主軸方向 N-27°-E

壁 壁高は12~36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第321図 第169号住居跡実測図

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体に踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁~P₃は径20~30cmの円形で、深さは73~82cmである。いずれも支柱穴と考えられる。本来は4本支柱穴と思われるが、南東部が攪乱を受けており3か所のみを確認した。

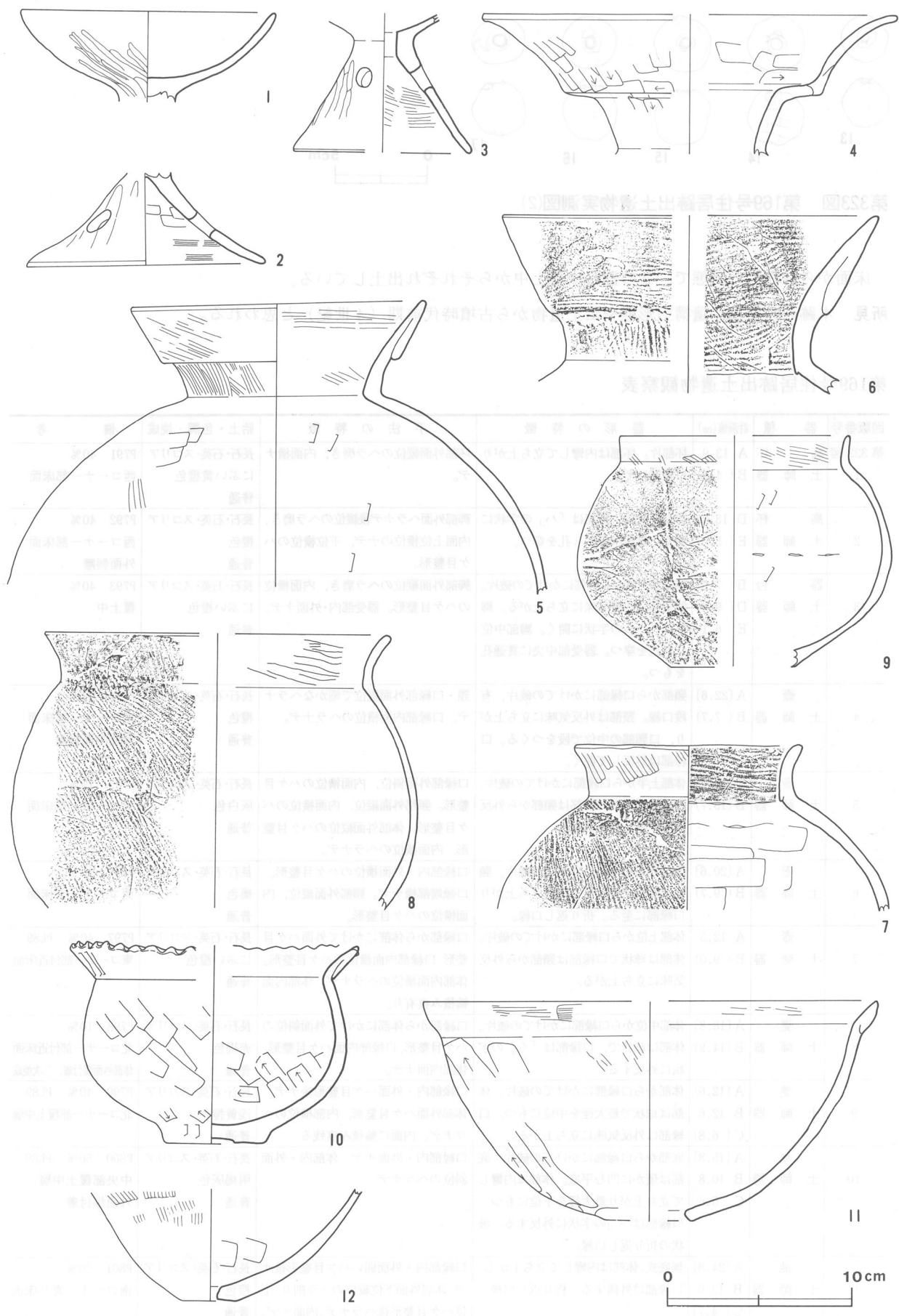
炉 中央部から北東寄りにあり、長径120cm、短径80cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

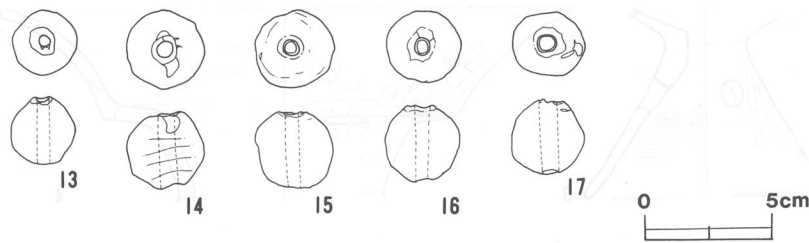
土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 | |

遺物 南コーナー部を除く、覆土中層から床面にかけて土師器片が870点出土している。大部分は破片であり、完形品は出土していない。1・2の高坏及び4・6の壺は西コーナー部の床面から、5の壺は東コーナー部の床面から、7・8の甕は北・東コーナー部及び中央部の床面から散在した状態で、11の甑は南コーナー寄りの床面から、10の甕は中央部の覆土中層から、9の甕は北コーナー部の覆土中層から、12の甕は中央部の



第322図 第169号住居跡出土遺物実測図(1)



第323図 第169号住居跡出土遺物実測図(2)

床面から散在した状態で、3の器台は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第169号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	高土師器 坏	A 13.9 B (4.9)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き、内面横ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P791 40% 西コーナー部床面
2	高土師器 杯	D 13.0 E (5.0)	器受部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部中位に3孔を穿つ。	脚部外面ヘラナデ後縦位のヘラ磨き、内面上位横位のナデ、下位横位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P792 40% 西コーナー部床面 外面剝離
3	土師器 器台	B (7.6) D [9.8] E 6.1	器受部下位から脚部にかけての破片。器受部は内彎気味に立ち上がる。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部中位に3孔を穿つ。器受部中央に貫通孔をもつ。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面横位のハケ目整形。器受部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P793 40% 覆土中
4	土師器 壺	A [22.6] B (7.7)	頸部から口縁部にかけての破片。有段口縁。頸部は外反気味に立ち上がり、口頸部の中位で段をつくる。口縁部は外反して開く。	頸・口縁部外面縦位で細かなヘラナデ。口縁部内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P794 20% 西コーナー部床面 頸部内面剝離
5	土師器 壺	A 15.1 B (15.7)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は球状で口縁部は頸部から外反する。折り返し口縁。	口縁部外面斜位、内面横位のハケ目整形。頸部外面縦位、内面横位のハケ目整形。体部外面縦位のハケ目整形、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 灰白色 普通	P795 15% 東コーナー部床面
6	土師器 壺	A [20.6] B (9.7)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は体部から外反気味に立ち上がり口縁部に至る。折り返し口縁。	口縁部内・外面横位のハケ目整形。口縁部外面縦位、内面横位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P796 10% 西コーナー部床面
7	土師器 壺	A 12.5 B (9.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は球状で口縁部は頸部から外反気味に立ち上がる。	口縁部から体部にかけて外面ハケ目整形。口縁部内面横位のハケ目整形。体部内面横位のヘラナデ。体部内面輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P797 40% PL89 東コーナー部付近床面
8	土師器 甕	A [18.8] B (14.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は球状で、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部から体部にかけて外面斜位のハケ目整形。口縁部内面ハケ目整形。体部内面ナデ。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P798 10% 北コーナー部付近床面 体部外面煤付着、二次焼成
9	土師器 甕	A [12.6] B 12.6 C [6.8]	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形、内部横位のヘラナデ。内面に輪積み痕残る。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P799 40% PL89 北コーナー部覆土中層
10	土師器 甕	A [15.8] B 10.8 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。底部は僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり最大径を下位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状の折り返し口縁。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面斜位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P800 50% PL89 中央部覆土中層 外面煤付着
11	土師器 甕	A [24.8] B 12.0 C [4.7]	無底式。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面弱いハケ目整形後ナデ。体部外面下位縦位のヘラ削り、上位ハケ目整形後ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P801 20% 南コーナー寄り床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 12	甌 土師器	B (6.1) C 3.0	平底。体部は内彎して立ち上がる。 底部中央に単孔を穿つ。	体部外面縦位のハケ目整形後ヘラナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P802 40% PL89 中央部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第323図13	土玉	2.6	2.6	-	0.5	14.9	中央部床面	DP213
14	土玉	3.0	3.0	-	0.6	23.5	東コーナー付近床面	DP214
15	土玉	3.1	3.0	-	0.6	26.0	東コーナー壁溝中	DP215
16	土玉	2.9	3.0	-	0.6	22.2	北コーナー付近床面	DP216
17	土玉	2.8	3.0	-	0.7	20.3	北コーナー付近床面	DP217

第170号住居跡 (第324図)

位置 調査区北部, C4j3区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.60mの長方形である。

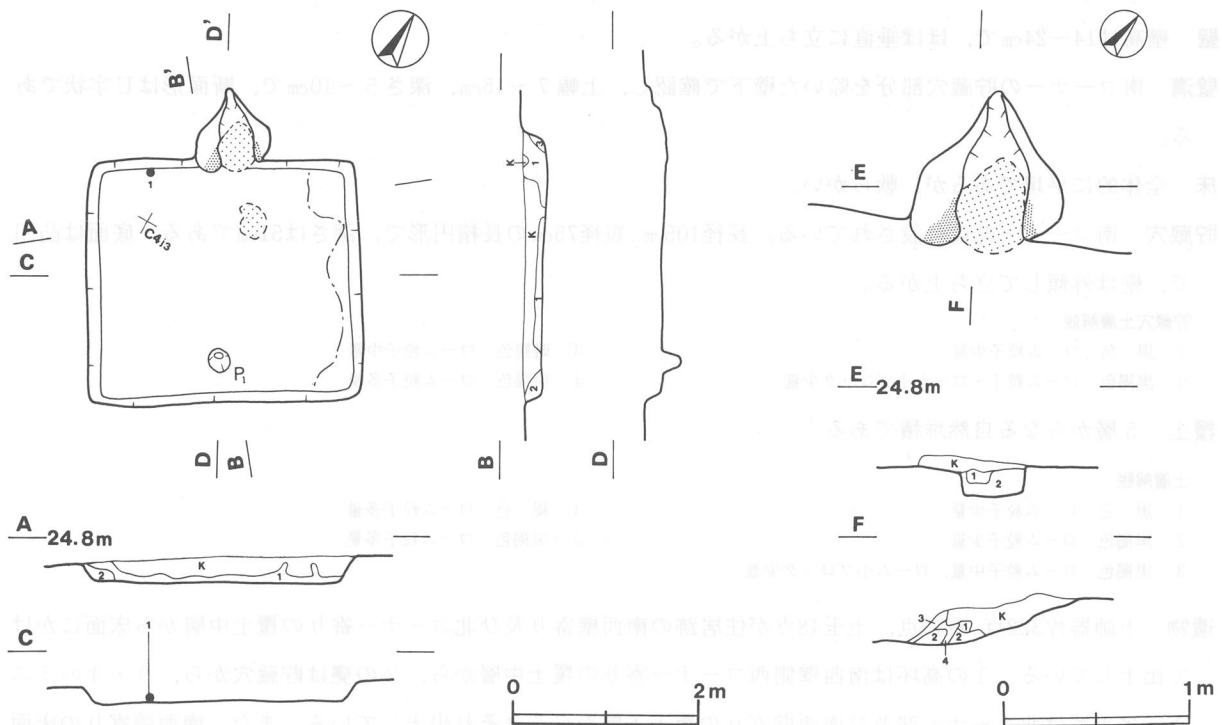
主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は20cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 北東壁際を除いて踏み固められている。

ピット P1は径25cm程の円形で, 深さ24cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

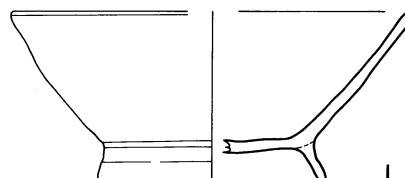
竈 北西壁中央部を壁外に75cm程掘り込み, 砂質粘土で構築している。規模は, 長さ90cm, 幅70cmである。袖部は, 床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は, 浅い皿状で火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 長さ40cm程で, 火床面から緩やかに立ち上がっている。



第324図 第170号住居跡実測図

竈土層解説

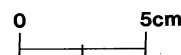
- 1 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小・中ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒子少量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土中ブロック中量, 炭化物少量



覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, 焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒子少量



第325図 第170号住居跡出土遺物実測図

遺物 竈内及び竈周辺の床面から土師器片が甕を主体に43点出土している。1の高台付坏は、北西壁際で西コーナー近くの床面から逆位の状態出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図 1	高台付坏 土師器	A [15.9] B 6.7 D 9.1 E 1.7	「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	体部, 高台部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P803 65% PL89 北西壁際西コーナー寄り床面

第171号住居跡（第326図）

位置 調査区東部, E4a4区。

規模と平面形 長軸4.78m, 短軸4.48mの方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は14~24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナーの貯蔵穴部分を除いた壁下で確認し、上幅7~15cm, 深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦であるが、軟らかい。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径105cm, 短径75cmの長楕円形で、深さは51cmである。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 明褐色 ローム粒子多量 |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | |

遺物 土師器片322点, 石10点, 土玉48点が住居跡の南西壁寄り及び北コーナー寄りの覆土中層から床面にかけ出土している。1の高坏は南西壁側西コーナー寄りの覆土中層から, 2の甕は貯蔵穴から, 3・4のミニチュア土器は北コーナー部及び南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また, 南西壁寄りの床面からは, 48点の土玉が集中して出土している。



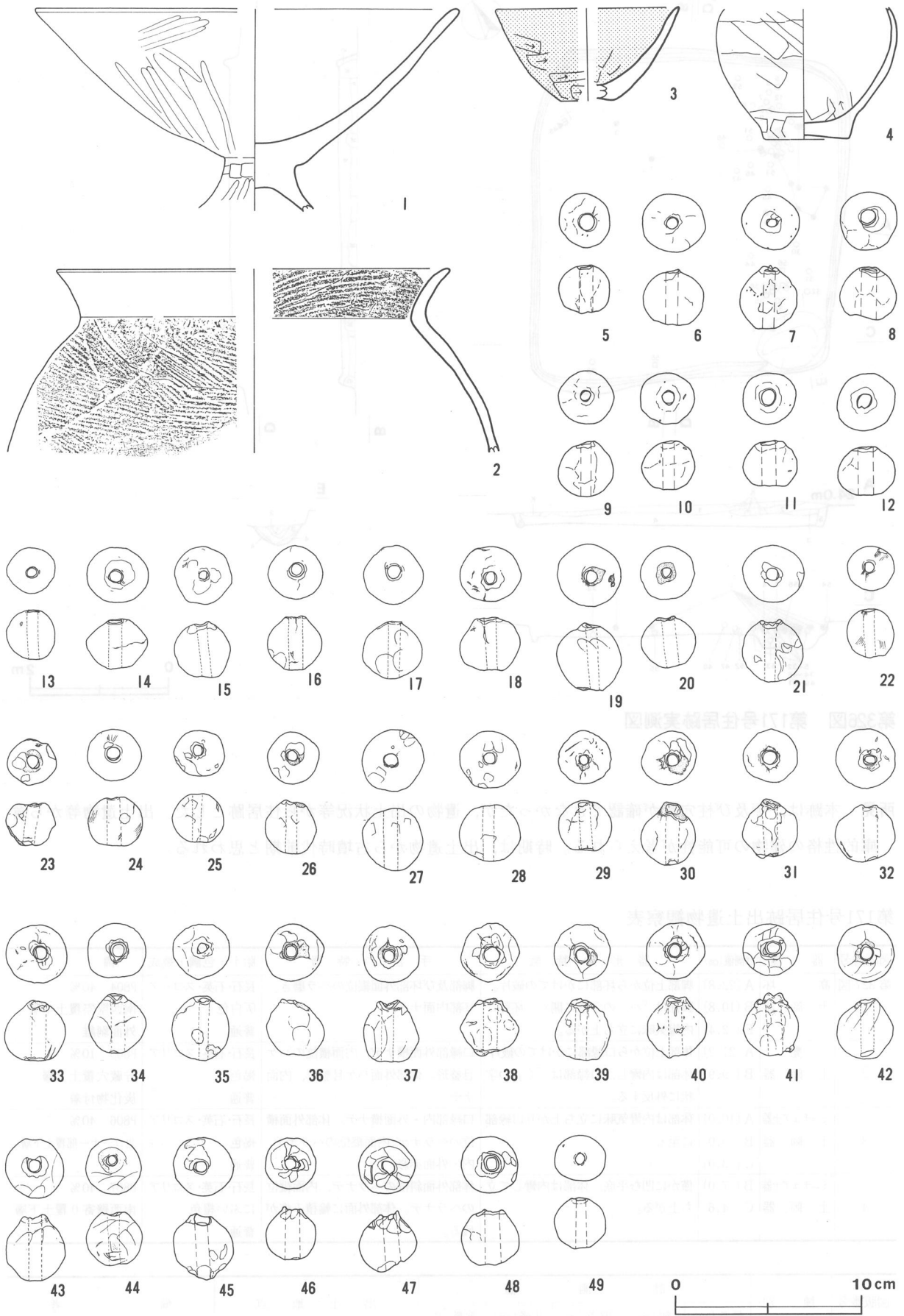
第326図 第171号住居跡実測図

所見 本跡は、炉及び柱穴等が確認できなかったが、遺物の出土状況等から住居跡とした。出土遺物等から倉庫的性格の建物の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われる。

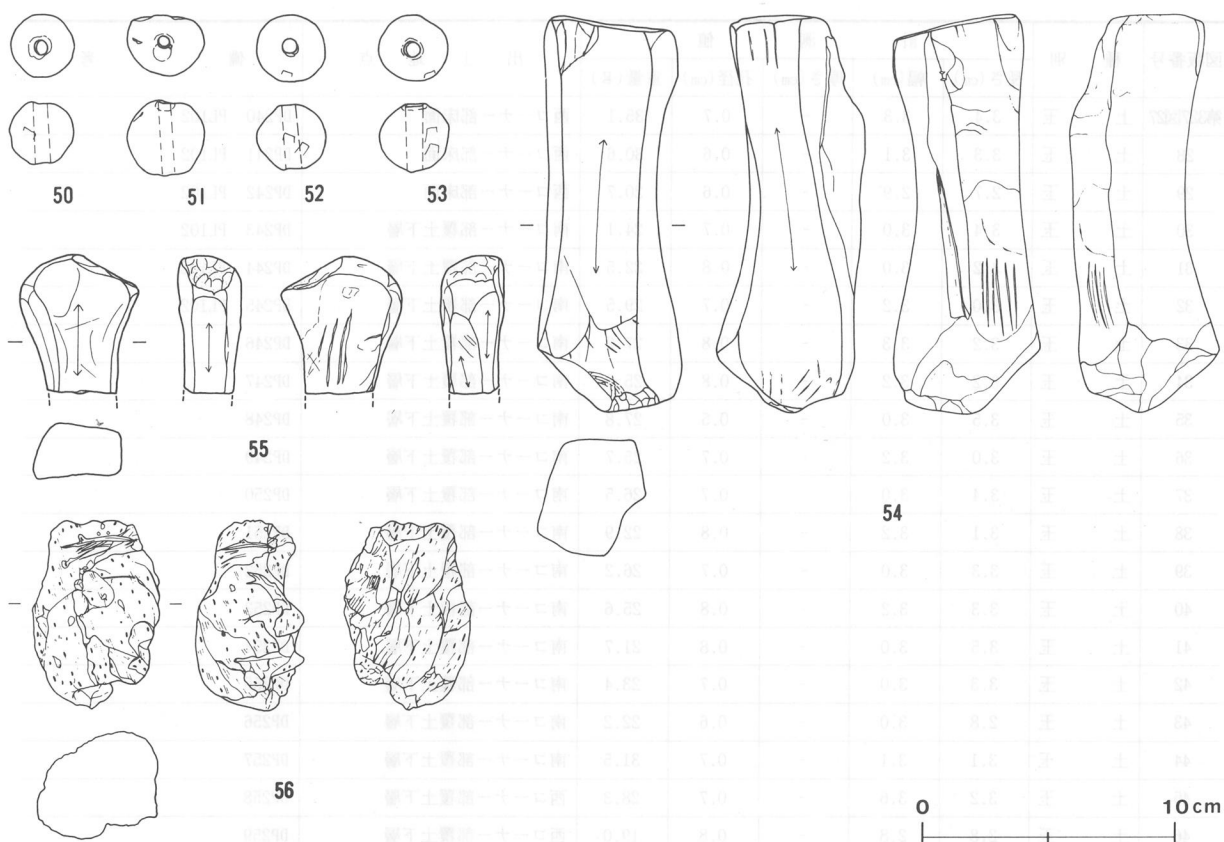
第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第327図 1	高坏 土師器	A [22.8] B (10.8) E (2.4)	脚部上位から坏部にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がる。	脚部及び坏部外面縦位のヘラ磨き。坏部内面ナデ。	長石・石英・スコリア 灰白色 普通	P804 40% 南西壁際覆土中層 外面剝離
2	甕 土師器	A [21.2] B (9.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部外面横ナデ、内面横位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P805 10% 貯蔵穴覆土上層 炭化物付着
3	ミニチュア土器 土師器	A [10.0] B 5.0 C [3.0]	体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ、内面縦位のヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P806 40% 北コーナー部覆土下層
4	ミニチュア土器 土師器	B (7.0) C 4.6	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ、内面縦位のヘラナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P807 40% 南西壁寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327図5	土玉	2.6	2.7	-	0.8	17.7	西コーナー部覆土下層	DP218



第327图 第171号住居跡出土遺物実測図(1)



第328図 第171号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327図6	土玉	3.0	3.4	-	0.6	29.0	西コーナー部覆土下層	DP219
7	土玉	3.4	3.1	-	0.6	23.0	西コーナー部覆土下層	DP220
8	土玉	2.9	3.1	-	0.8	22.1	西コーナー部覆土下層	DP221
9	土玉	3.0	3.1	-	0.6	22.9	西コーナー部覆土下層	DP222
10	土玉	2.6	2.9	-	0.7	18.8	西コーナー部覆土下層	DP223
11	土玉	2.5	2.9	-	0.7	17.8	西コーナー部覆土下層	DP224
12	土玉	2.7	3.2	-	0.9	23.5	西コーナー部覆土下層	DP225
13	土玉	2.7	2.6	-	0.5	15.5	西コーナー部覆土下層	DP226
14	土玉	2.8	3.3	-	0.7	21.0	西コーナー部床面	DP227
15	土玉	3.0	3.1	-	0.5	25.5	西コーナー部床面	DP228
16	土玉	2.9	3.0	-	0.8	21.0	西コーナー部覆土下層	DP229
17	土玉	3.2	3.2	-	0.7	26.4	西コーナー部床面	DP230
18	土玉	2.8	3.3	-	0.6	25.4	西コーナー部覆土下層	DP231 PL102
19	土玉	3.6	3.4	-	0.6	37.8	西コーナー部覆土下層	DP232 PL102
20	土玉	2.8	2.9	-	0.6	19.5	西コーナー部覆土下層	DP233 PL102
21	土玉	3.3	3.4	-	0.6	30.2	西コーナー部覆土下層	DP234 PL102
22	土玉	2.5	2.6	-	0.6	15.4	西コーナー部覆土下層	DP235 PL102
23	土玉	2.6	2.3	-	0.7	12.2	西コーナー部覆土下層	DP236 PL102
24	土玉	2.8	2.6	-	0.7	20.1	西コーナー部覆土下層	DP237 PL102
25	土玉	2.7	2.6	-	0.6	17.0	西コーナー部覆土下層	DP238 PL102
26	土玉	2.8	2.9	-	0.6	19.7	西コーナー部覆土下層	DP239 PL102

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327図27	土 玉	3.4	3.3	-	0.7	35.1	西コーナー部床面	DP240 PL102
28	土 玉	3.3	3.1	-	0.6	30.6	西コーナー部床面	DP241 PL102
29	土 玉	2.7	2.9	-	0.6	20.7	西コーナー部床面	DP242 PL102
30	土 玉	3.4	3.0	-	0.7	24.1	南コーナー部覆土下層	DP243 PL102
31	土 玉	3.2	3.0	-	0.8	22.5	南コーナー部覆土下層	DP244 PL102
32	土 玉	3.0	3.2	-	0.7	29.5	南コーナー部覆土下層	DP245 PL102
33	土 玉	3.2	3.3	-	0.8	27.2	南コーナー部覆土下層	DP246
34	土 玉	3.2	3.2	-	0.8	25.9	南コーナー部覆土下層	DP247
35	土 玉	3.5	3.0	-	0.5	27.8	南コーナー部覆土下層	DP248
36	土 玉	3.0	3.2	-	0.7	25.7	南コーナー部覆土下層	DP249
37	土 玉	3.4	3.0	-	0.7	26.5	南コーナー部覆土下層	DP250
38	土 玉	3.1	3.2	-	0.8	22.9	南コーナー部覆土下層	DP251
39	土 玉	3.3	3.0	-	0.7	26.2	南コーナー部覆土下層	DP252
40	土 玉	3.3	3.2	-	0.8	25.6	南コーナー部覆土下層	DP253
41	土 玉	3.5	3.0	-	0.8	21.7	南コーナー部覆土下層	DP254
42	土 玉	3.3	3.0	-	0.7	23.4	南コーナー部覆土下層	DP255
43	土 玉	2.8	3.0	-	0.6	22.2	南コーナー部覆土下層	DP256
44	土 玉	3.1	3.1	-	0.7	31.5	南コーナー部覆土下層	DP257
45	土 玉	3.2	3.6	-	0.7	28.3	西コーナー部覆土下層	DP258
46	土 玉	2.8	2.8	-	0.8	19.0	西コーナー部覆土下層	DP259
47	土 玉	3.1	3.3	-	0.8	22.7	西コーナー部覆土下層	DP260
48	土 玉	3.0	3.0	-	0.8	26.0	西コーナー部覆土下層	DP261
49	土 玉	2.7	2.7	-	0.6	17.5	西コーナー部床面	DP262
第328図50	土 玉	2.6	2.5	-	0.6	14.5	西コーナー部床面	DP263
51	土 玉	3.1	3.1	-	0.5	22.1	西コーナー部床面	DP264
52	土 玉	2.7	2.6	-	0.6	16.3	西コーナー部床面	DP265
53	土 玉	2.8	2.7	-	0.6	17.2	西コーナー部床面	DP266

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第328図54	砥 石	15.7	5.7	5.9	634.1	粘 板 岩	西コーナー部覆土下層	Q103 PL101
55	砥 石	(5.5)	4.8	2.5	(81.1)	凝 灰 岩	南東壁際床面	Q104 PL101
56	砥 石	7.6	5.1	4.3	34.1	流 紋 岩	南コーナー部覆土下層	Q105

第172号住居跡 (第329図)

位置 調査区東端部, D4h7区。

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.35mの方形である。

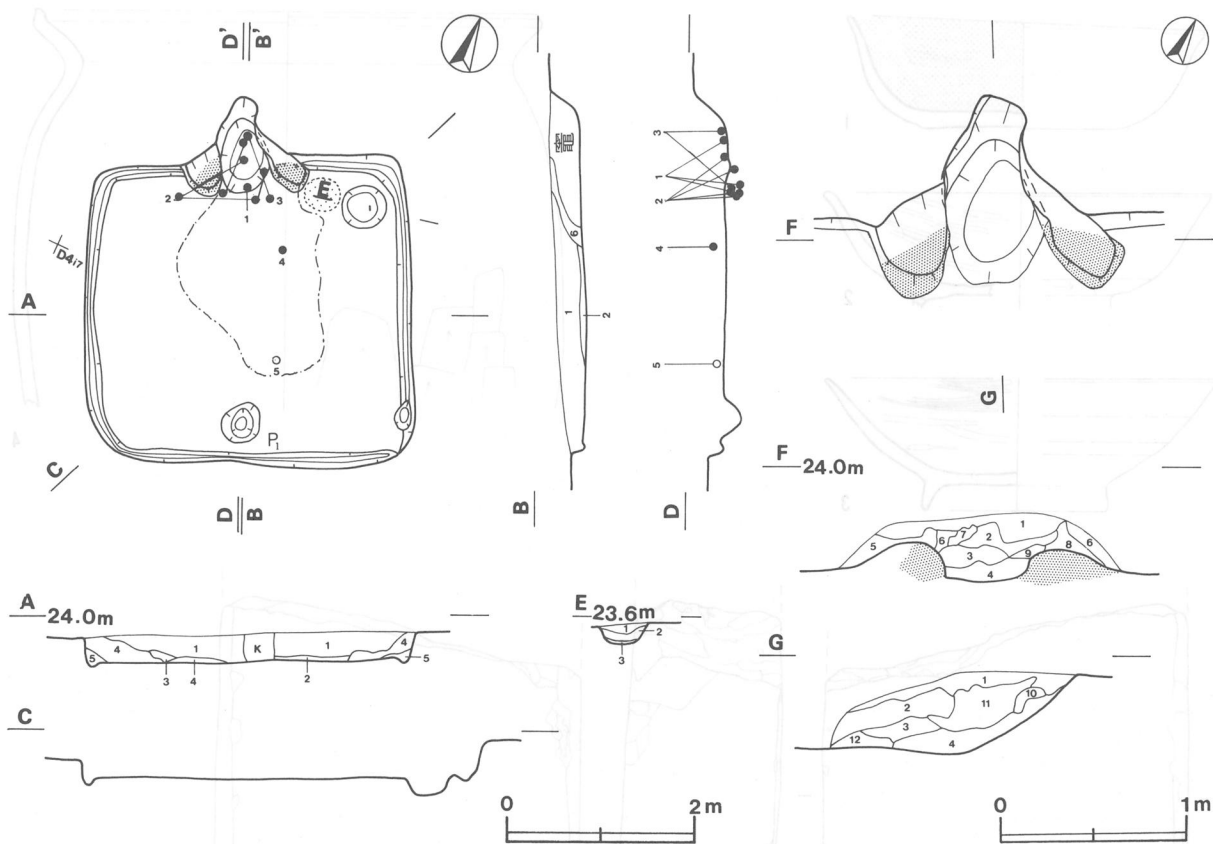
主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は26~32cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈部を除いて全周しており, 上幅14cm, 深さ12cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈前方部から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P1は径40cm程の円形で, 深さ18cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第329図 第172号住居跡実測図

竈 北西壁中央部を壁外に66cm程掘り込み、ロームと砂質粘土で構築している。規模は、長さ110cm、幅130cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は、浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、長さ40cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。竈右袖部と貯蔵穴の間に径44cm程の円形で、深さ14cmの、底面が鍋底状の落ち込みを確認した。多量の焼土が出土していることから竈の関連施設と考えられる。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ローム粒子多量, 砂粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量 | 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量 | 10 褐色 砂粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒子少量 | 11 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・砂粒子少量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子・砂粒子少量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・砂粒子少量 |

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。径45~50cmの円形で、深さは18cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

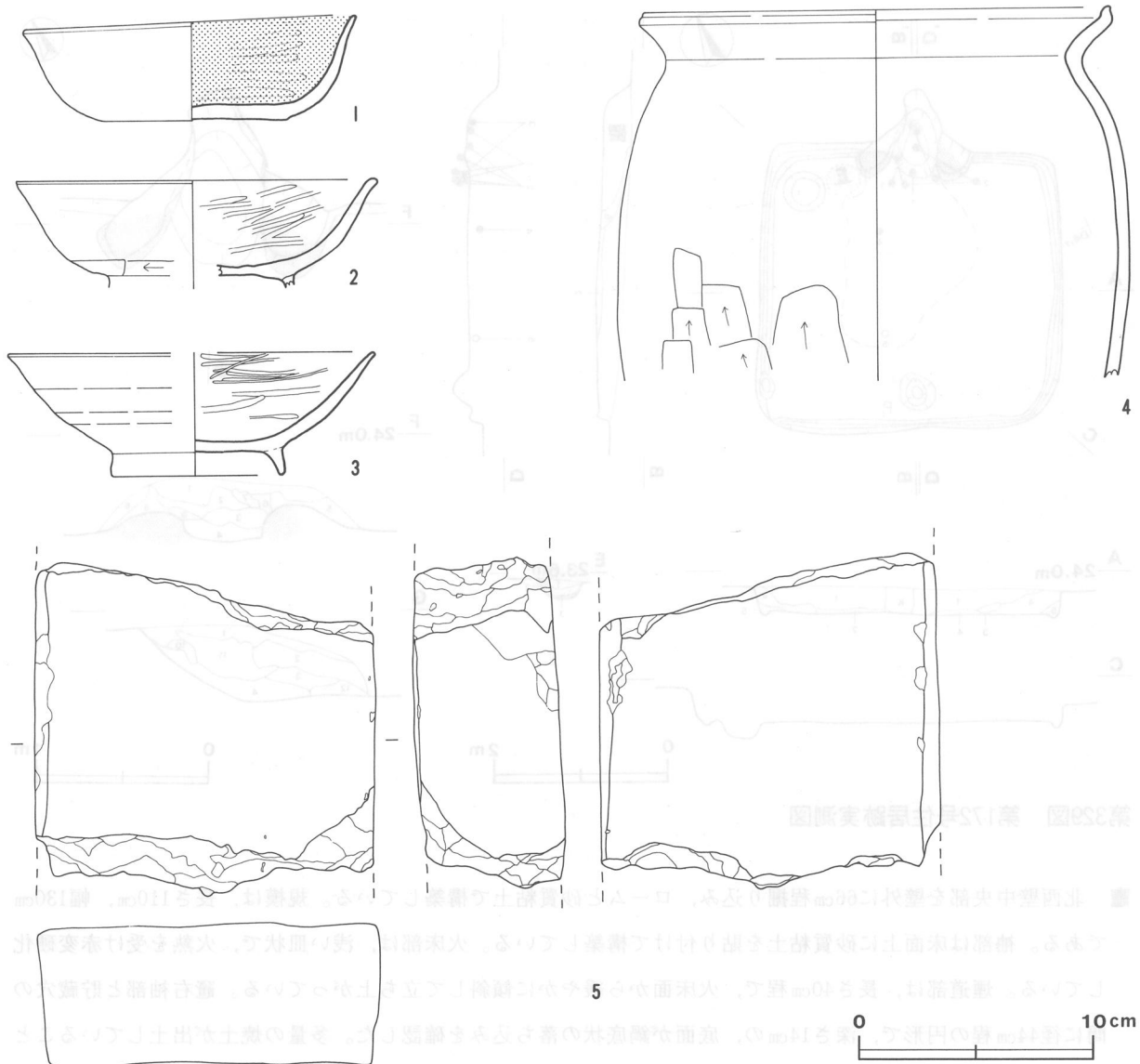
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・砂粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | |

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 6 極暗褐色 ローム粒子多量, 砂粒子少量 |



第330図 第172号住居跡出土遺物実測図

遺物 竈内及び住居跡の覆土中層から床面にかけて、土師器片71点、須恵器片2点及び土製品1点が出土している。1の坏及び2・3の高台付坏は竈内の覆土中層から下層にかけて、4の甕は竈袖部前方の覆土中層から逆位で、5の埴は住居跡中央部やや東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。埴は本来寺院官衙跡等から出土するものであり、いずれかから持ち込まれたものと考えられる。

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 1	土師器	A 14.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。底部ヘラ削り。	長石・石英・スコリア におい黄橙色 普通	P808 45% 竈内覆土下層
		B 4.5				
		C 7.9				
2	高台付土師器	A 15.4	高台部から口縁部にかけての破片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P809 70% PL89 竈内覆土下層 二次焼成
		B(4.6)				
		E(0.6)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330回 3	高台付 土師器	A [15.7]	高台部から口縁部にかけての破片。「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P810 50% PL89 竈内覆土下層 二次焼成
		B 5.3				
		D 7.4				
		E 1.1				
4	甕 土師器	A 20.2	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から強く外反し、口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部は内・外面横位のナデ。体部外面上半ナデ,下半縦位のヘラ削り。内面横位のナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P811 40% PL89 竈付近覆土中層
		B (15.8)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第330図5	埴	(14.3)	14.6	6.6	-	(1776.1)	中央部覆土下層	DP267 破片 PL98

第173号住居跡 (第331図)

位置 調査区東部, D4f₃区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第174号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は55~70cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西壁の一部を除いてほぼ全周しており, 上幅10~15cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 出入り口部, 東部及び竈の左右の両袖部周辺が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径50~65cmの円形で, 深さ53~73cmである。いずれも支柱穴である。

P₅は長径50cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ32cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部を壁外に30cm程掘り込み, 砂質粘土で構築している。規模は, 長さ120cm, 幅85cmである。袖部は, 床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は, 浅い皿状で, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 長さ70cm程で, 火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 砂粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 黄褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子多量, 炭化物中量, 焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中・大ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒子多量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 7 黒褐色 焼土粒子多量
- 8 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 9 赤褐色 焼土粒子多量

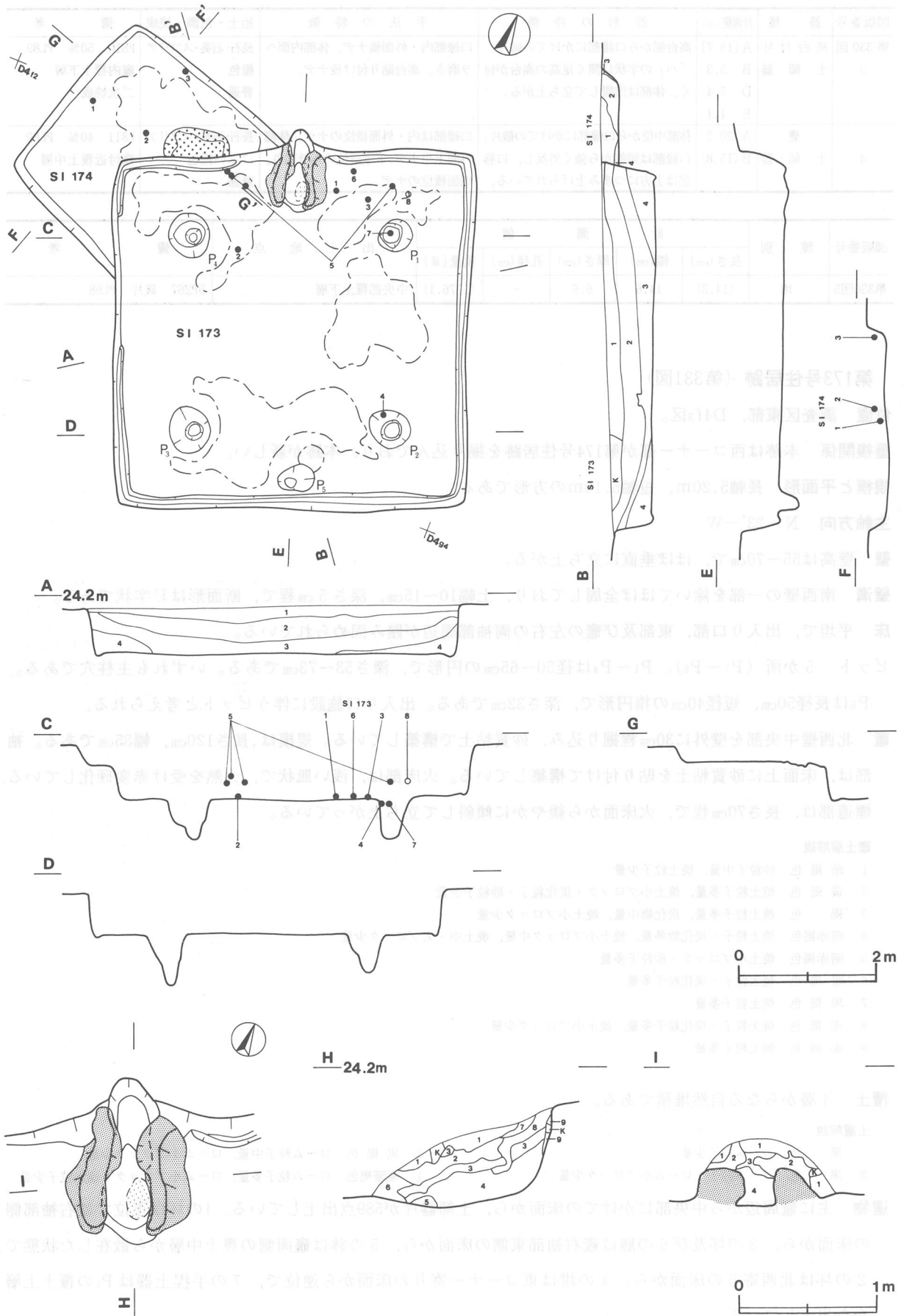
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

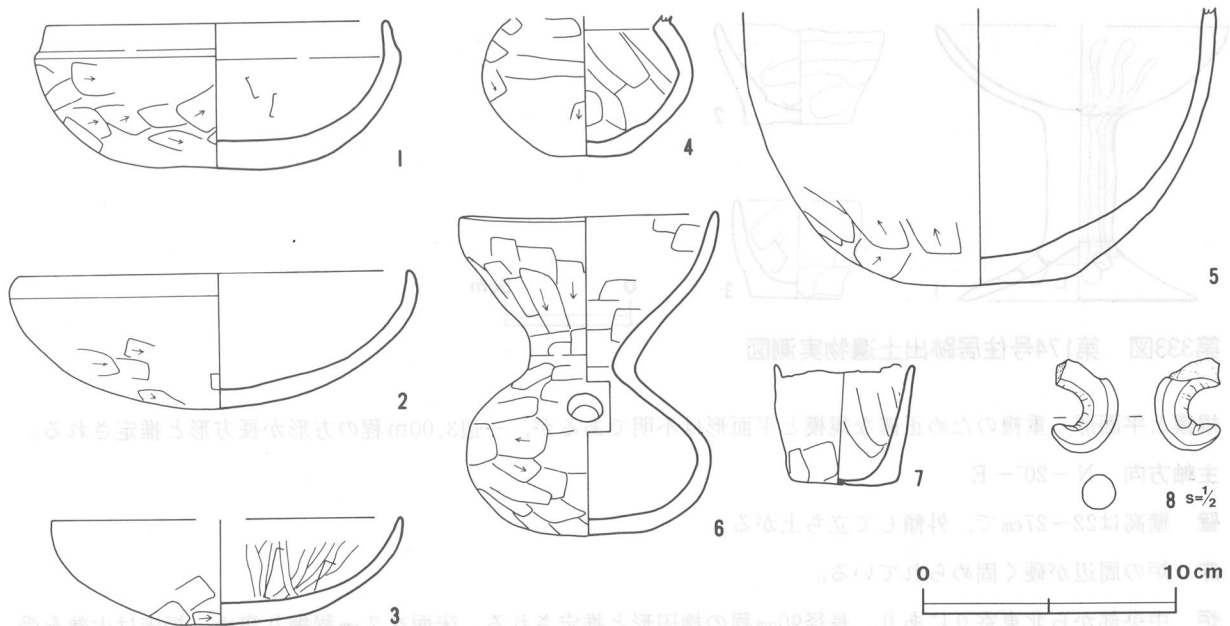
- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 主に竈周辺から中央部にかけての床面から, 土師器片が589点出土している。1の坏は正位で竈右袖部側の床面から, 3の坏及び6の甕は竈右袖部東側の床面から, 5の鉢は竈両側の覆土中層から散在した状態で, 2の坏は北西寄りの床面から, 4の埴は東コーナー寄りの床面から逆位で, 7の手捏土器はP₁の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(7世紀前半)と思われる。



第331図 第173・174号住居跡実測図



第332図 第173号住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表

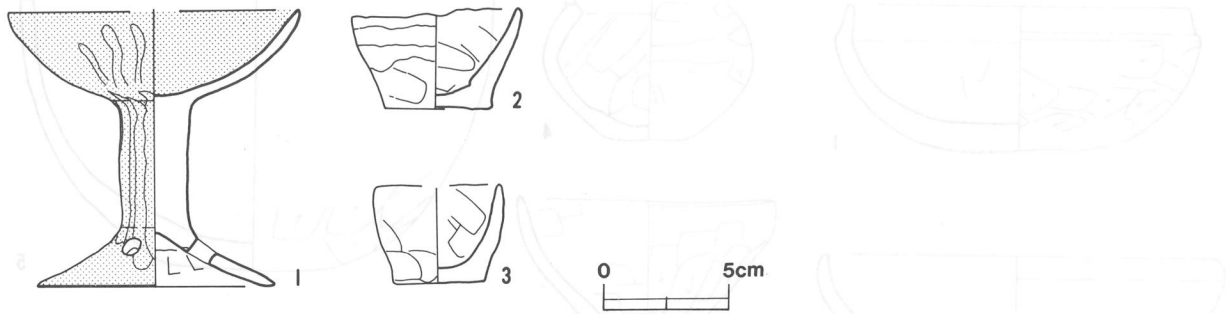
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 1	坏 土師器	A 13.5	凹凸のある丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい黄橙色 普通	P812 95% PL89 竈右袖部東側床面 内面剝離
		B 5.8				
2	坏 土師器	A 15.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい褐色 普通	P813 70% PL90 北西寄り床面 内外面煤付着、二次焼成
		B 5.4				
3	坏 土師器	A [13.9]	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ後、一部へラ磨き。	長石・石英・スコリア針状物にぶい黄橙色 普通	P814 60% 竈右袖部東側床面
		B 4.2				
4	埴 土師器	B (5.5)	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。内面に輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P816 70% PL89 東コーナー寄り床面 外面煤付着
		C 3.1				
5	甕 土師器	B (11.0)	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ、内面縦位のナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P815 50% 竈周辺覆土中層 二次焼成、外面剝離
		C 7.8				
6	甕 土師器	A 10.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のへラ削り、内面横位のへラ削り後ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P817 70% PL90 竈右袖部東側床面
		B 12.7				
7	手捏土器 土師器	A 5.5	平底。体部は外傾気味に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P818 100% PL90 P1覆土上層
		B 4.9				
		C 4.2				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第332図8	勾玉	(2.4)	(1.7)	0.9	-	(3.2)	北コーナー部覆土中層	DP268 一部欠損 PL100

第174号住居跡 (第331図)

位置 調査区東部, D4f₂区。

重複関係 本跡は、炉から南東部を第173号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。



第333図 第174号住居跡出土遺物実測図

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.00m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は22~27cmで、外傾して立ち上がる。

床 炉の周辺が硬く固められている。

炉 中央部から北東寄りにあり、長径90cm程の楕円形と推定される。床面を7cm程掘り窪め、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 極暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |

遺物 土師器片が、甕片を主体に190点が覆土上層から床面にかけて出土している。1の器台は北西壁中央部の覆土下層から横位で、3の手捏土器は北東壁際北コーナー寄りの覆土中層から、2の手捏土器は炉西側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	高 土師器	A [11.5]	脚部は中実柱状で、裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。裾部に3孔を穿つ。	坏部外面粗い縦位のヘラ磨き、内面ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。坏部内・外面及び脚部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P819 70% PL90 北西壁中央部覆土下層 坏部内面剝離
		B 10.9				
		D 9.4				
		E 7.0				
2	手捏土器 土師器	A 6.7	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減じながら口縁部に至る。	体部内・外面に指頭圧が残る。体部外面輪積み痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P820 85% PL90 炉西側覆土中層
		B 4.0				
		C 4.2				
3	手捏土器 土師器	A [5.1]	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減じながら口縁部に至る。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P821 90% 北コーナー寄り覆土中層
		B 3.8				
		C 3.6				

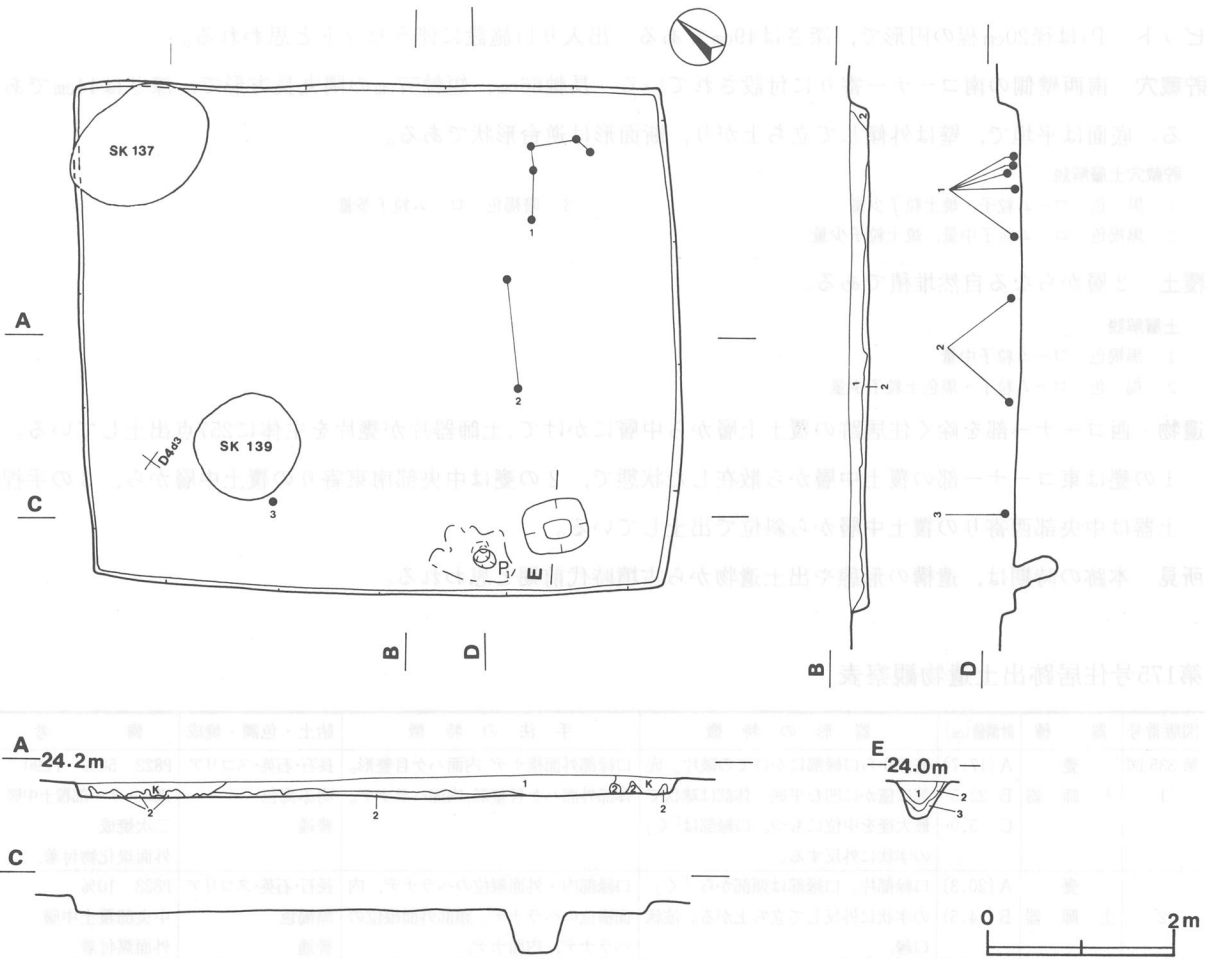
第175号住居跡 (第334図)

位置 調査区東部、D4d3区。

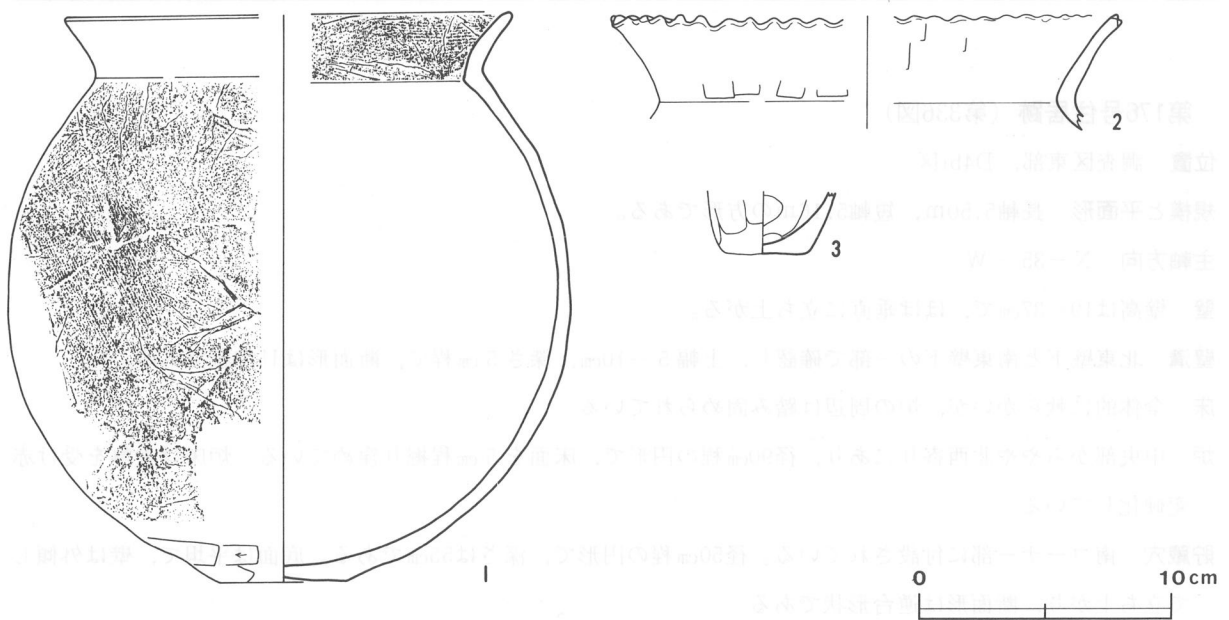
重複関係 本跡は、北コーナー部を第137号土坑に、西部を第139号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸6.32m、短軸5.38mの長方形である。

主軸方向 N-45°-E



第334図 第175号住居跡実測図



第335図 第175号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は13～23cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に軟らかいが、出入り口部は踏み固められている。

ピット P₁は径20cm程の円形で、深さは49cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南西壁側の南コーナー寄りに付設されている。長軸66cm、短軸57cmの隅丸長方形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | |

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- | |
|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量 |

遺物 西コーナー部を除く住居跡の覆土上層から中層にかけて、土師器片が甕片を主体に257点出土している。

1の甕は東コーナー部の覆土中層から散在した状態で、2の甕は中央部南東寄りの覆土中層から、3の手捏土器は中央部西寄りの覆土中層から斜位で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第175号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第335図 1	甕 土師器	A [17.7]	底部から口縁部にかけての破片。底部は僅かに凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部外面横ナデ、内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P822 50% PL90 東コーナー部覆土中層 二次焼成 外面炭化物付着
		B 22.5				
		C 5.0				
2	甕 土師器	A [20.3]	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反して立ち上がる。波状口縁。	口縁部内・外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。頸部外面縦位のヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P823 10% 中央部覆土中層 外面煤付着
		B (4.5)				
3	手捏土器 土師器	B (2.5)	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英 におい橙色 普通	P824 80% 中央部覆土中層
		C 3.2				

第176号住居跡 (第336図)

位置 調査区東部, D4b₄区。

規模と平面形 長軸5.50m, 短軸5.16mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は19~37cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東壁下と南東壁下の一部で確認し、上幅5~10cm, 深さ5cm程で、断面形はU字状である。

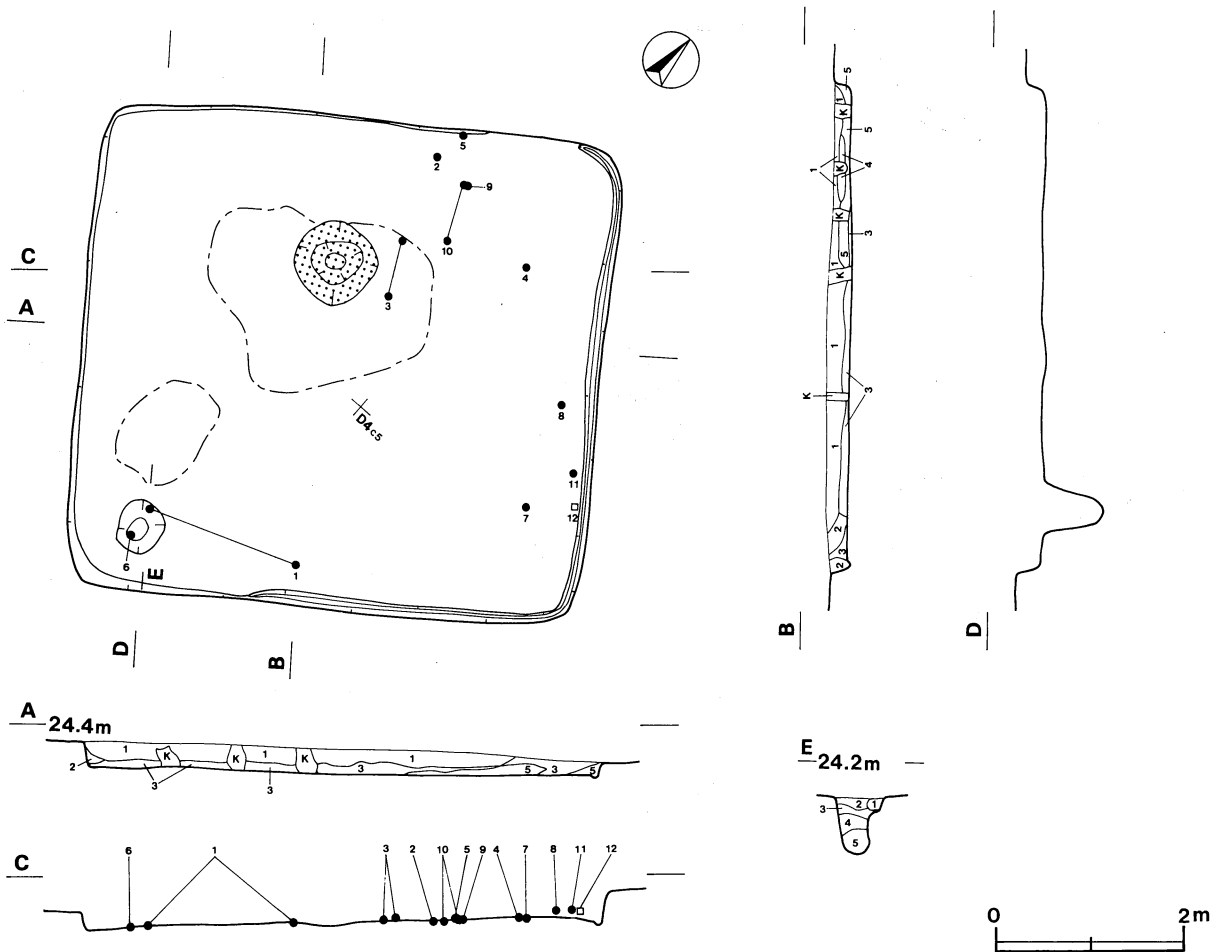
床 全体的に軟らかいが、炉の周辺は踏み固められている。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、径90cm程の円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | 5 黒色 炭化粒子少量 |
| 3 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | |



第336図 第176号住居跡実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量 | | |

遺物 土師器片722点及び須恵器片32点が、住居跡全体の覆土中層から床面にかけて出土している。1の高坏は南コーナー部及び南東壁中央部の床面から散在した状態で、2の高坏は潰れた状態の横位で及び5の埴は逆位で北西壁際北コーナー寄りの床面から、3の装飾器台は炉東側の床面から、4の埴（横位で）、9の甕及び10のミニチュア土器は北コーナー寄りの床面から、6の壺は斜位で南コーナー部の床面から、7の壺は横位で東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。8の甕は潰れた状態の横位で北東壁際中央部の覆土下層から、11のミニチュア土器（横位で）及び12の管玉は北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第337図	高坏	A 14.4	脚部は中実柱状で裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。裾部に3孔が穿たれている。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ磨き、内面へラナデ後下位へラ磨き。脚部外面へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色普通	P825 80% PL90 南コーナー部周辺床面 坏部外面煤付着
1	土師器	B 15.4				
		D [13.2]				
		E 10.3				



第337図 第176号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 2	高坏 土師器	A 10.1 B 11.1 D 10.0 E 7.7	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラ削り。裾部内・外面ナデ。坏部内・外面及び脚部外面赤彩。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P826 90% PL90 北コーナー寄り床面
3	裝飾器台 土師器	A 21.8 B (5.4)	器受部の破片。器受部は二段作りで下段には張り出しが有り、上段は立ち上がってから大きく外反する。	器受部外面上段丁寧なヘラナデ、内面ヘラ磨き。張り出し部ナデ。下段外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P827 40% 炉東側床面
4	罎 土師器	A 9.8 B 6.1 C 2.9	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P828 80% PL90 北コーナー寄り床面 外面煤付着
5	罎 土師器	A [10.7] B (8.2)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり中位から内彎する。口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。体部外面粗いヘラ磨き、内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P829 30% 北コーナー寄り床面 外面煤付着
6	壺 土師器	A 13.4 B 16.6 C 5.0	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ナデ、内面横位のヘラナデ。体部外面ヘラナデ、内部ナデ。折り返し口縁。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P830 100% PL90 南コーナー床面 赤彩の可能性有り
7	壺 土師器	A 9.5 B 13.2 C 4.0	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。口縁端部に弱い稜をもつ。	口縁端部つまみ上げ。口縁部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P831 100% PL90 東コーナー床面 外面煤付着 二次焼成
8	甕 土師器	A 14.9 B 20.8 C 5.0	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P832 80% PL90 北東壁際覆土下層
9	甕 土師器	A [19.7] B 31.2 C 8.3	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位・下位ヘラナデ、中位ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい赤橙色 普通	P833 50% PL91 北コーナー寄り床面 二次焼成
10	ミニチュア土器 土師器	A [8.2] B 7.0 C 2.8	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、器厚を減じながら口縁部に至る。	口縁部外面横位のヘラナデ、内面ナデ。体部内・外面ヘラナデ。内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P834 50% 北コーナー寄り床面
11	ミニチュア土器 土師器	A [4.8] B 4.4 C 2.4	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、器厚を減じながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び内面上位ヘラナデ、内面中位～下位ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P835 90% PL90 北東壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第337図12	管玉	2.6	0.4	0.2	-	0.8	蛇紋岩	北東壁際東コーナー付近覆土下層	Q106 PL101

第177号住居跡 (第338図)

位置 調査区東部、D4C区。

規模と平面形 長軸4.88m、短軸3.87mの長方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は18~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

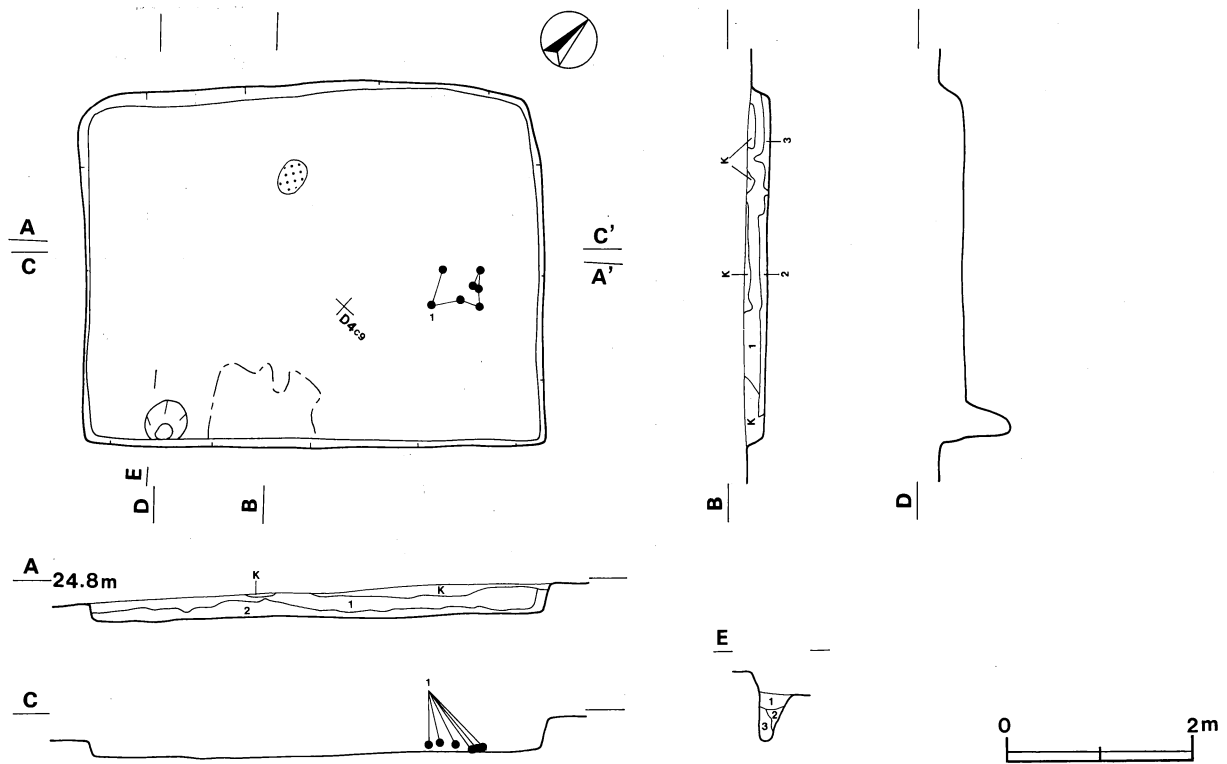
床 全体的に軟らかいが、出入り口部と考えられる南東壁際の中央部が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径40cm、短径30cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

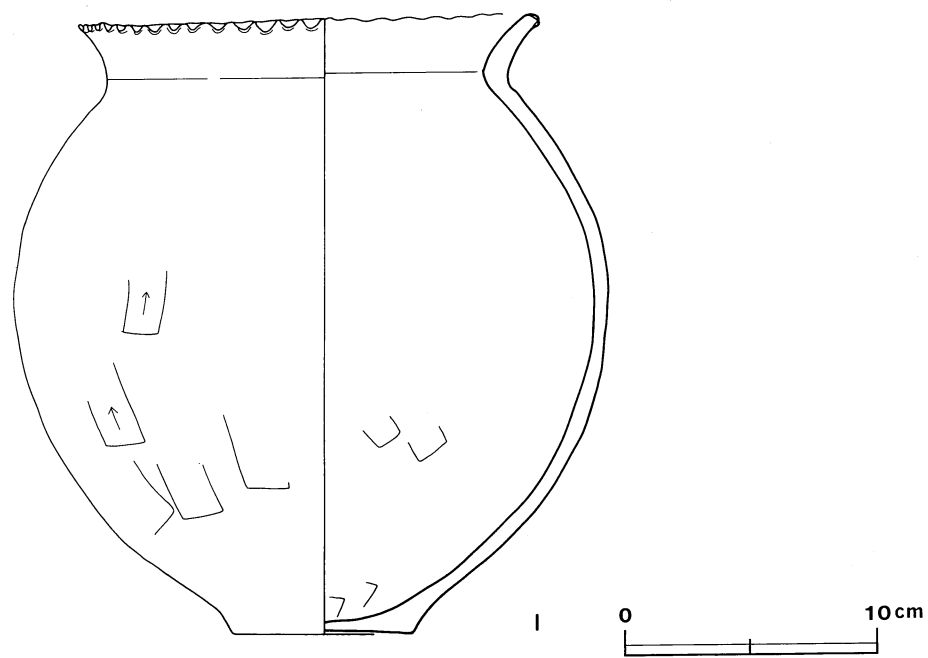
貯蔵穴 南東壁際下の南コーナー寄りに付設されている。径40cm程の円形で、深さは53cmである。底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 | |



第338図 第177号住居跡実測図



第339図 第177号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片が、東部及び南・北コーナー部の覆土下層から床面にかけて、41点出土している。1の甕は中央部東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第339図 1	甕 土師器	A 18.2 B 24.6 C 7.1	僅かに凹む平底。体部は球形状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P836 60% PL91 中央部東コーナー寄り覆土下層 外面煤付着,二次焼成

第178号住居跡(第340図)

位置 調査区中央部, D4c1区。

重複関係 本跡は南東壁が第138号土坑を掘り込み, 北東部を第179号住居跡に, 北部を第191号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから, 第138号土坑より新しく, 第179号・191号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.35m, 短軸6.25mの方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は40~48cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下の一部を除いてほぼ全周しており, 上幅10~15cm, 深さ10cm程で, 断面形はU字状である。

床 中央部より周囲が踏み固められ, 特に入出口部は非常に固められている。南東壁下中央部から, 住居跡中央部に向かって延びる溝状の落ち込みを確認した。長さ150cm, 上幅50cm程, 深さ5cm程で, 断面形は逆台形状である。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径40~60cm, 短径35~55cmの楕円形で, 深さ56~74cmである。いずれも支柱穴である。P5は径45cm程の円形で, 深さ51cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から北西寄りにあり, 長径65cm, 短径50cmの不整楕円形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉2は中央部から北東寄りにあり, 長径50cm, 短径35cmの楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化しており, 炉1の炉床には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径75cm程の円形で, 深さは57cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

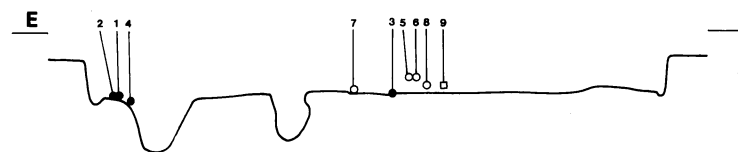
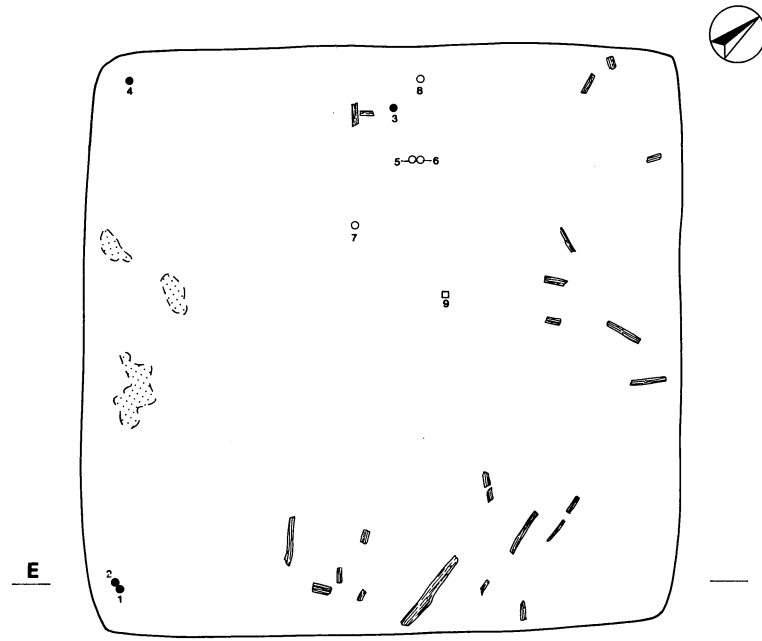
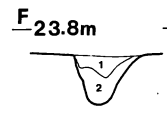
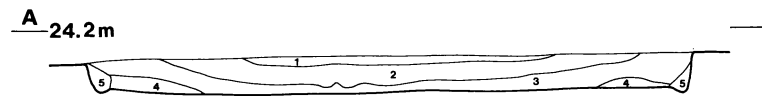
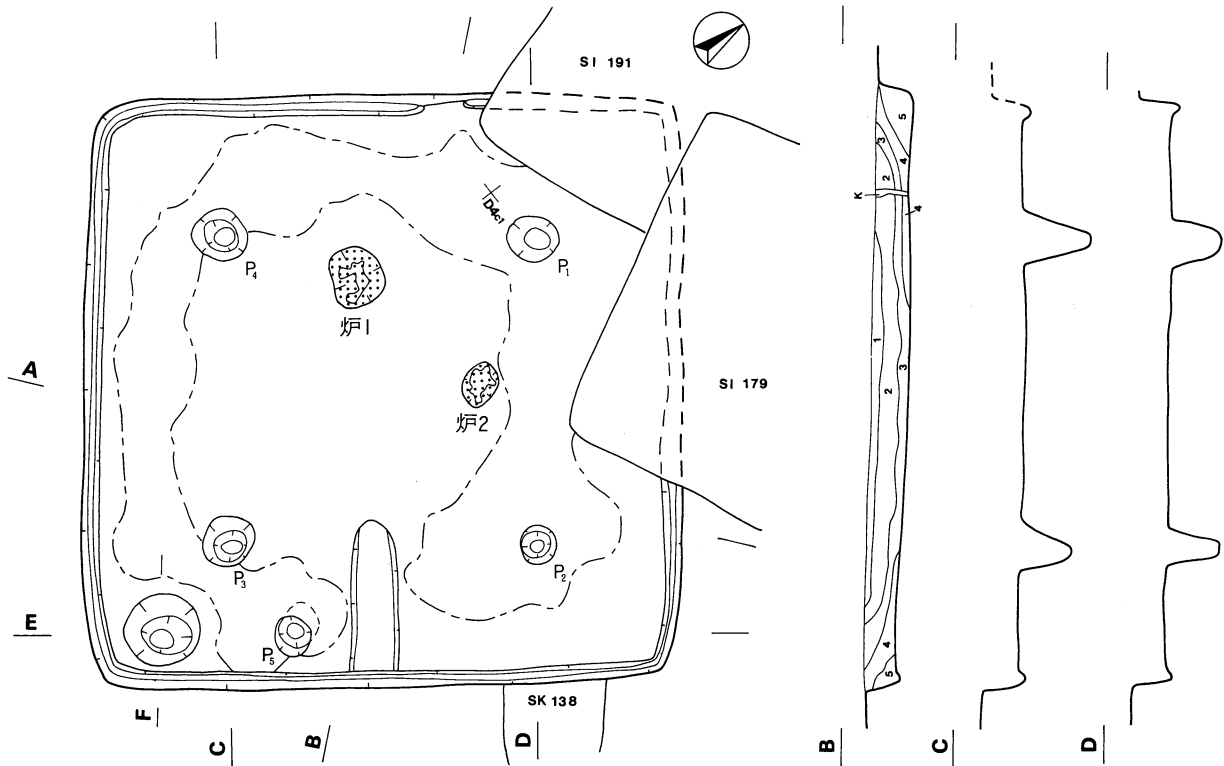
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

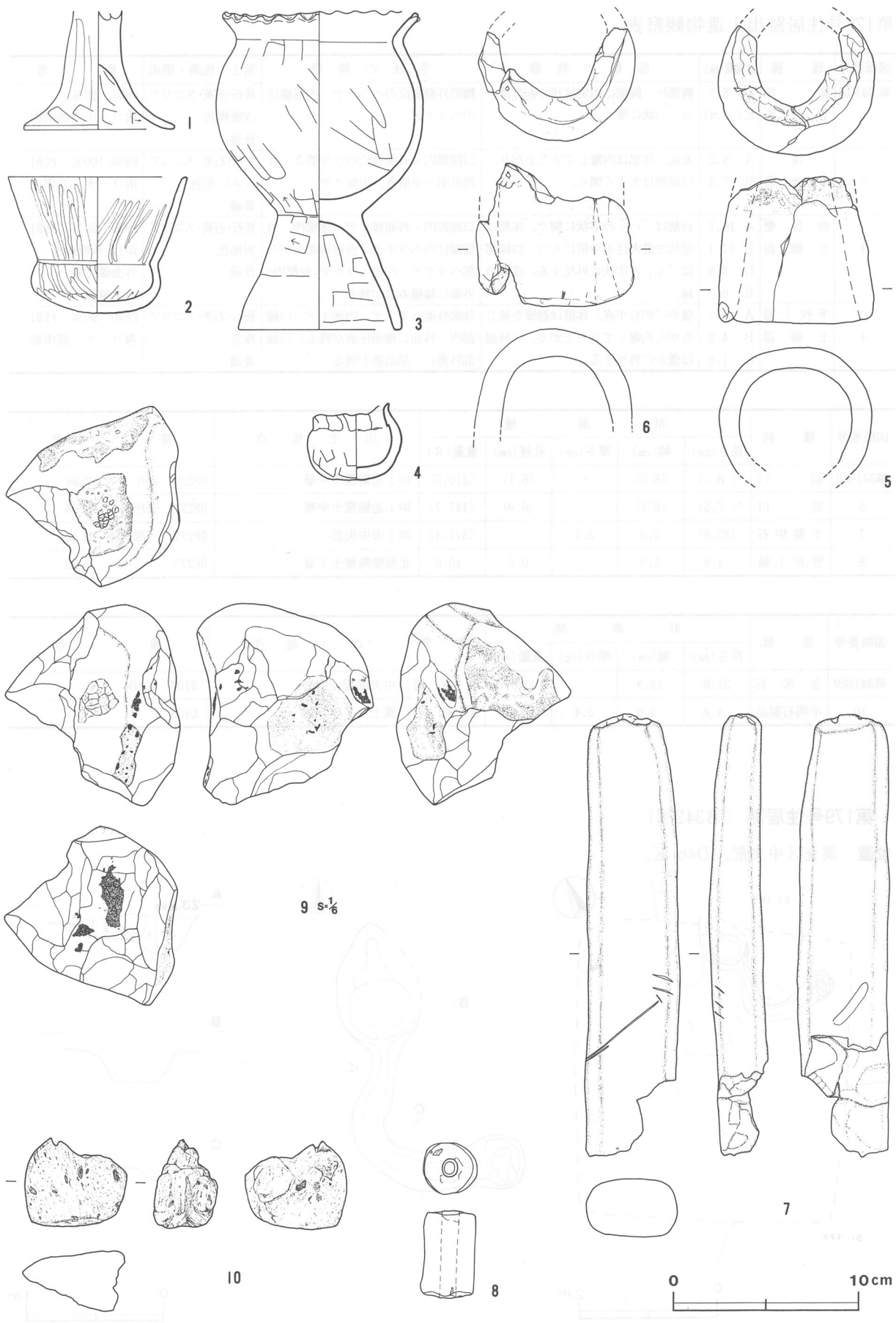
- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物中量, 炭化物少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて, 土師器片が784点出土している。また, 四方の壁寄りの覆土中層から下層にかけて, 多量の炭化材と焼土塊が出土している。1の高坏及び2の埴(横位で)は南コーナー部の床面から, 3の台付甕は炉1北西側の床面から横位で, 4の手捏土器は西コーナー部の床面から正位で, 7の土製炉石は炉1の炉床から折れた状態で出土している。また, 流れ込みと思われる5・6の羽口は炉1北側の覆土中層から出土している。8の管状土錘は北西壁際覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 焼失家屋である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。



第340图 第178号住居跡実測・出土遺物位置図



第341图 第178号住居跡出土遺物実測図

第178号住居跡出土遺物観察表

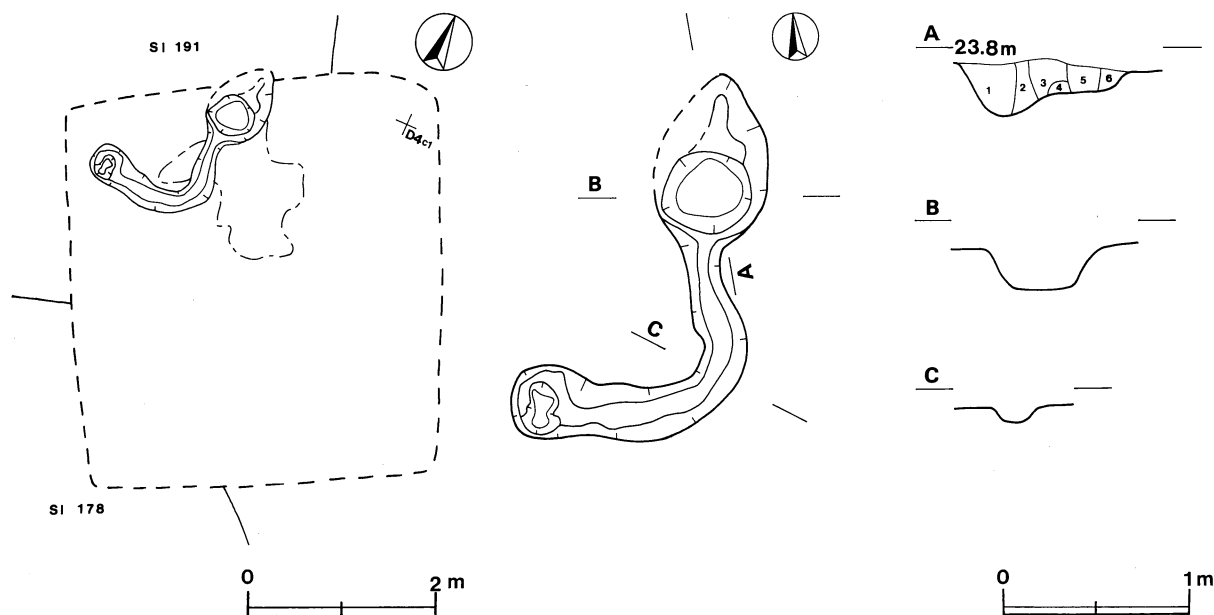
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図 1	高坏 土師器	D 8.1 E (6.4)	脚部片。脚部は中実柱状で裾部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P837 20% 南コーナー部床面
2	埴 土師器	A 9.2 B 7.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく開く。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P838 100% PL91 南コーナー部床面
3	台付甕 土師器	A 10.7 B 17.1 D 8.8 E 6.2	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦位のヘラナデ。台部外面ナデー部ヘラナデ、内面ヘラナデ。台部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P839 90% PL91 炉1北西側床面 外面煤付着 二次焼成
4	手捏土器 土師器	A 4.1 B 4.2 C 1.6	僅かに凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。口縁部内・外面に指頭圧痕が残る。口縁部外面に一部爪痕が残る。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P840 90% PL91 西コーナー部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第341図5	羽口	(8.0)	(8.5)	-	(6.1)	(210.5)	炉1北側覆土中層	DP270 破片 PL96
6	羽口	(7.5)	(8.1)	-	(6.0)	(147.7)	炉1北側覆土中層	DP271 破片 PL96
7	土製炉石	(23.9)	5.0	3.1	-	(377.4)	炉1床中央部	DP272 一部欠損 PL102
8	管状土錘	4.8	2.9	-	0.9	46.8	北西壁際覆土下層	DP273 PL99

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第341図9	金床石	21.8	13.9		6026.7	凝灰岩	中央部覆土下層	Q107 PL104
10	不明石製品	4.8	5.6	3.4	10.6	流紋岩	覆土中	Q108

第179号住居跡 (第342図)

位置 調査区中央部, D4b1区。



第342図 第179号住居跡実測図

重複関係 本跡は南西部が第178号住居跡を、北西部が第191号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 削平されており、正確な規模や平面形は不明であるが、長軸4.20m程、短軸3.50m程の長方形と推定される。

主軸方向 [N-30°-W]

床 平坦で、燃焼部前方部が踏み固められている。

燃焼部 北西壁中央部付近に、赤変硬化した部分と焼土を確認した。竈か炉の可能性が考えられる。また、赤変硬化部から「└」状に延びた溝状の落ち込みを確認した。長さ2m程で、1m程南に延びてから直角に西側に折れている。上幅15~30cm、深さ10~20cmで、断面形は逆台形状である。

燃焼部断ち割り土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小・中ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック中量 | 6 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量 |

遺物 土師器片が赤変硬化部及び溝状の落ち込みから4点出土しているが、いずれも細片である。また、赤変硬化部から鉄滓1点が、溝状の落ち込みからは砂や小礫が出土している。

所見 本跡は、工房跡の可能性も考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10~12世紀)と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第180号住居跡 (第343図)

位置 調査区北部, C3g6区。

規模と平面形 長軸7.00m, 短軸6.85mの方形である。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は45~67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅8~14cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

床 竈周辺、出入り口部及び北東壁寄りの部分が踏み固められている。全体的に平坦であるが、中央部に長径100cm、短径80cm、深さ12cm程の落ち込みがある。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は径25cm程の円形で、深さ48~51cmである。いずれも支柱穴である。

P5は径50cm程の円形で、深さ43cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 屋外部が削平されており、正確な規模については不明であるが、北西壁中央部を壁外に掘り込み、砂質粘土で構築している。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築し、幅100cmである。火床部は、浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。

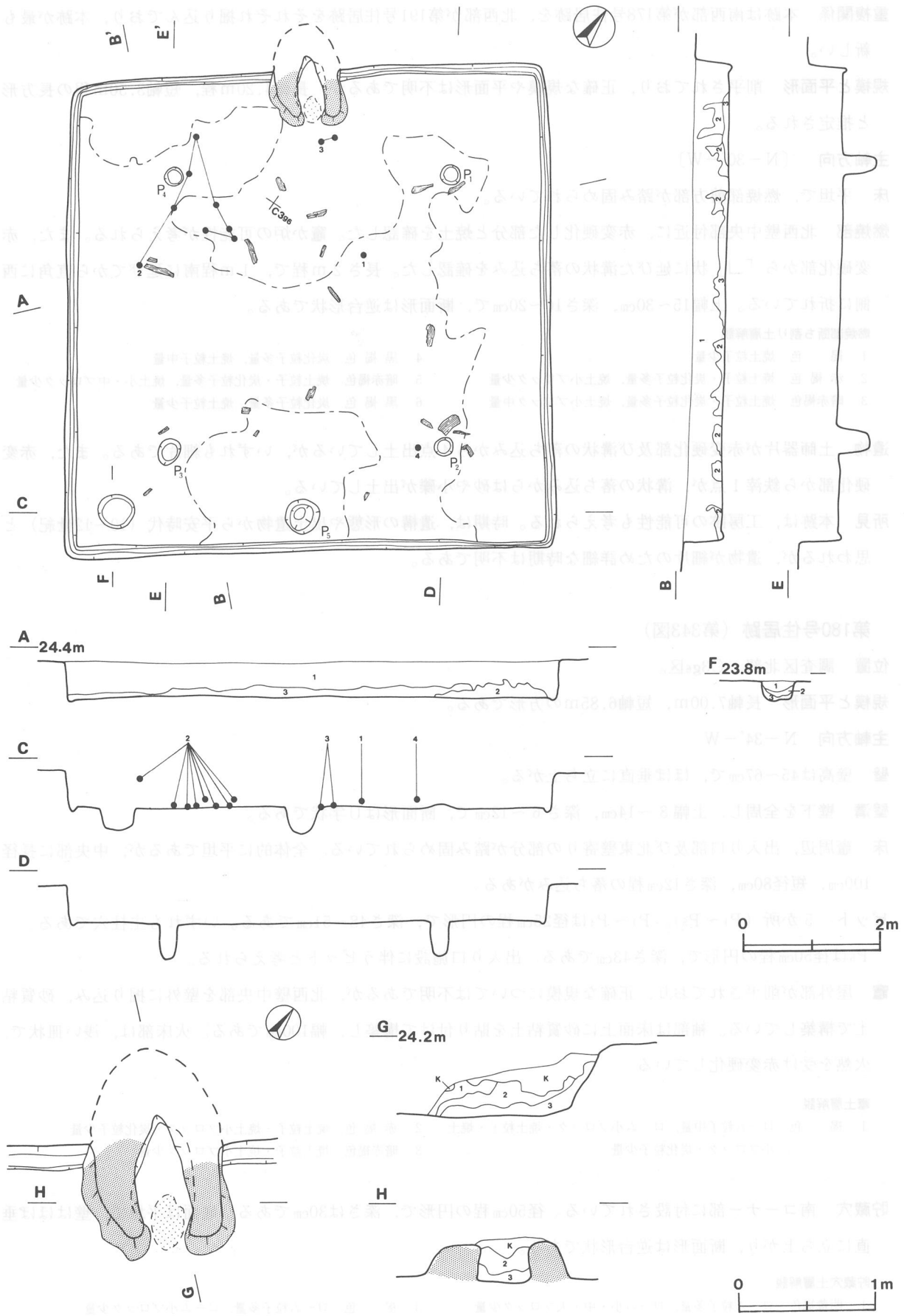
竈土層解説

- | | |
|--|---------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 2 赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| | 3 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量 |

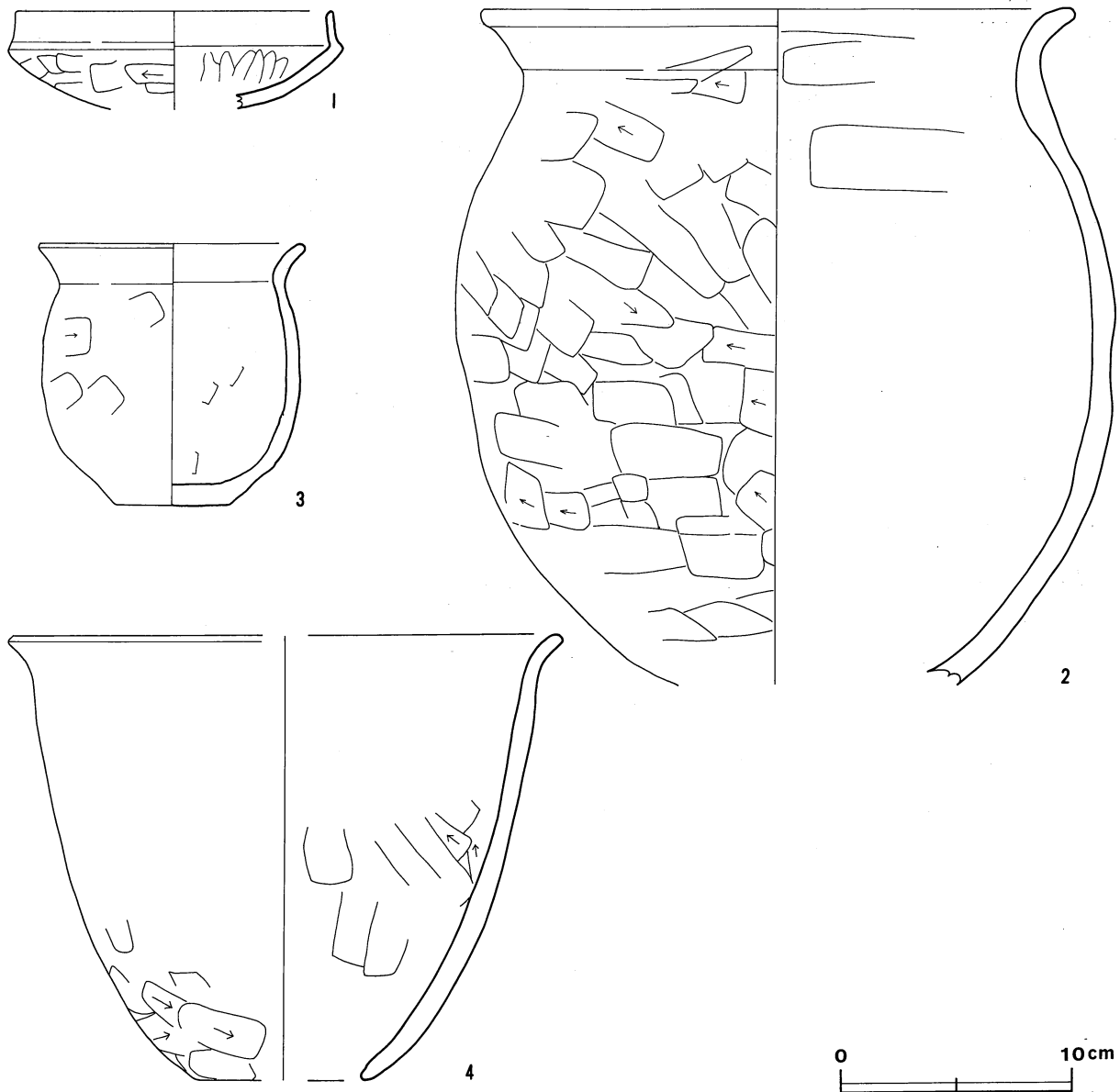
貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 明黄褐色 ローム粒子多量, ローム小・中・大ブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 2 黄褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | |



第343図 第180号住居跡実測図



第344図 第180号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 住居跡全体の覆土下層から床面にかけて, 土師器が296点出土している。また, 床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の坏は中央部の覆土下層から, 2の甕は西コーナー寄りの床面から散在した状態で, 3の小形甕は竈前方の床面から, 4の甑は東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 焼失家屋である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(6世紀後半)と思われる。

第180号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第344図 1	坏 土師器	A 13.7 B (4.2)	体部下位欠損。体部は内彎し、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面縦位の粗いへラ磨き。	長石・石英・スコリアにぶい黄褐色 普通	P841 30% 中央部覆土下層 外面煤付着
2	甕 土師器	A 25.6 B (29.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、最大径を上位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横位のへラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P842 70% PL91 西コーナー寄り床面
3	小形甕 土師器	A 11.5 B 11.3 C 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P843 70% PL91 竈前方床面、外面煤付着 外面剝離、二次焼成
4	甕 土師器	A [23.9] B 19.2 C [7.3]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P844 40% PL91 東コーナー寄り覆土下層

第181号住居跡 (第345図)

位置 調査区北部, C3b5区。

重複関係 本跡は, 第190号住居跡の上に構築しており, 本跡が新しい。

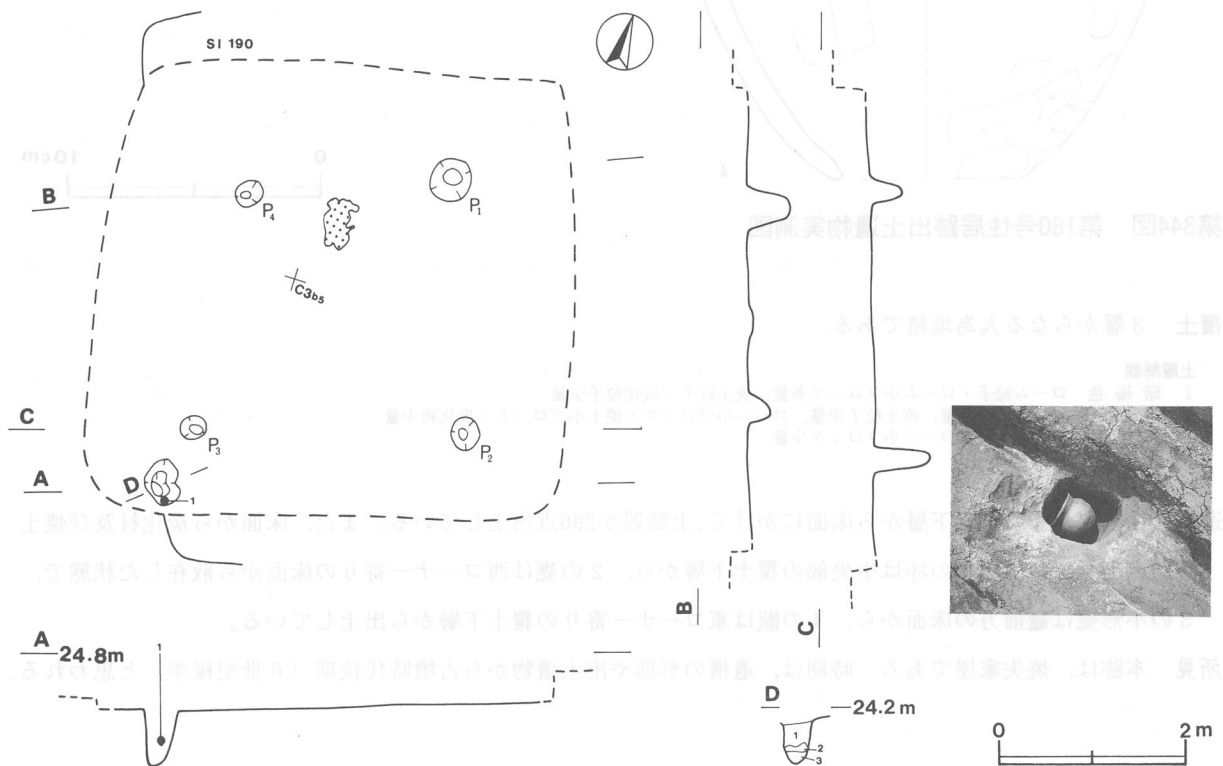
規模と平面形 重複と削平のため正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺4.50m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 [N-15°-W]

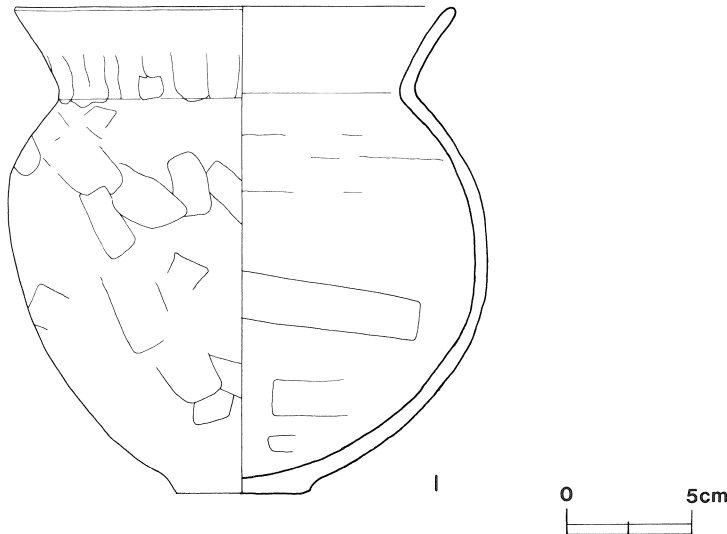
壁 耕作による削平のため, 壁は確認できなかった。

床 平坦で, 硬化面は削平されている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は径30~45cmの円形で, 深さ27~62cmである。いずれも支柱穴と考えられる。



第345図 第181号住居跡実測図



第346図 第181号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径50cm、短径35cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南壁際の南西コーナー寄りに付設されている。長径50cm、短径35cmの楕円形で、深さは65cmである。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状に近い。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 灰色 粘土多量

3 褐灰色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

覆土 削平のため堆積状況は不明である。

遺物 貯蔵穴及び南コーナー部の床面から、土師器の甕及び甕片が181点出土している。1の甕は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第181号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第346図 1	甕 土師器	A 17.5 B 19.4 C 5.2	平底。体部は内彎し、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P845 100% PL92 貯蔵穴覆土中層 外面炭化物付着、二次焼成

第182号住居跡（第347図）

位置 調査区北部、B3i3区。

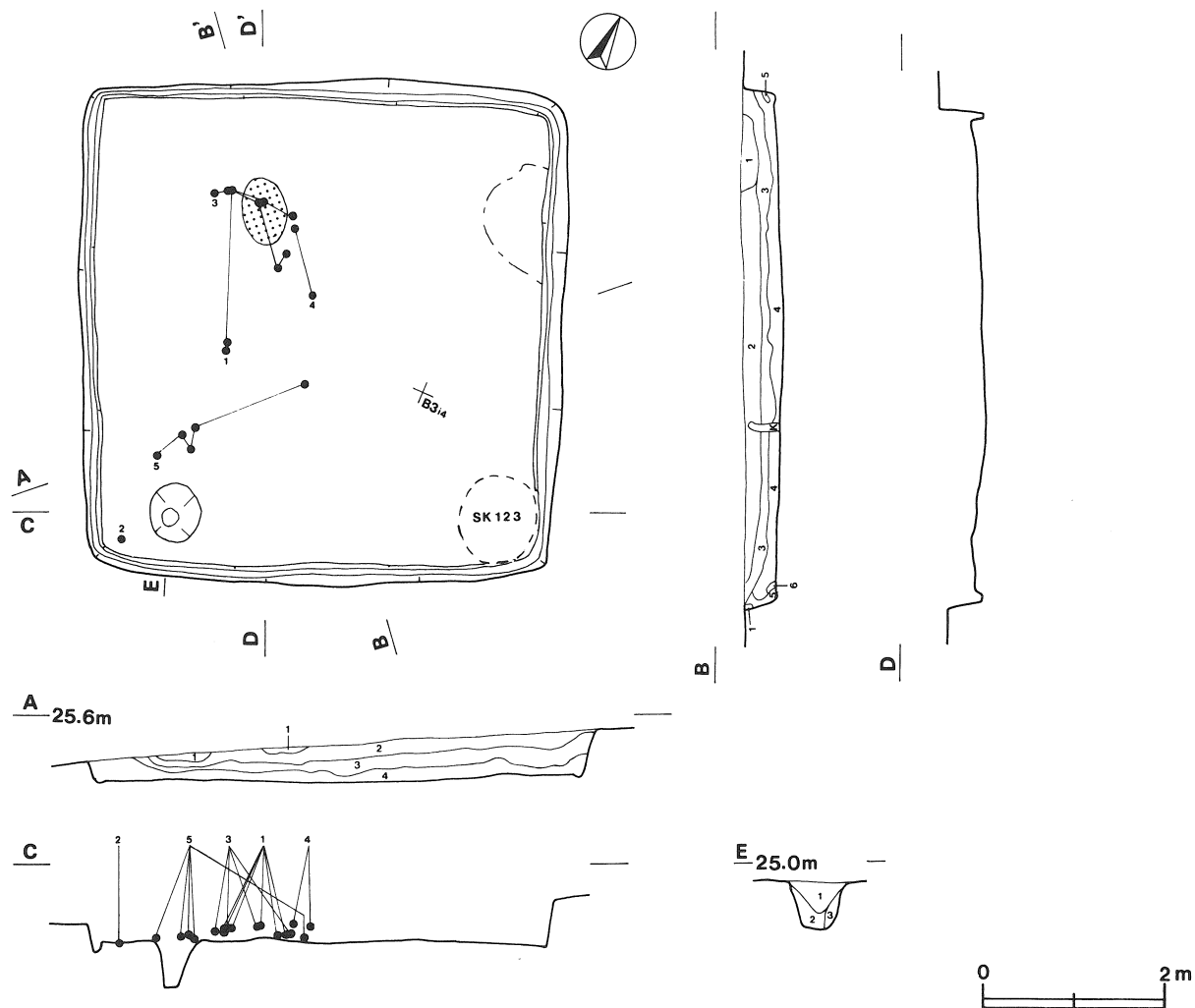
重複関係 本跡は、東コーナー部が第123号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.45m、短軸5.25mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は32~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅10~15cm、深さ10cm程で、断面形はU字状である。



第347図 第182号住居跡実測図

床 全体的に軟らかいが，出入り口部と考えられる部分が踏み固められている。

炉 中央部からやや北西寄りにあり，長径70cm，短径45cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径66cm，短径55cmの楕円形で，深さは52cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

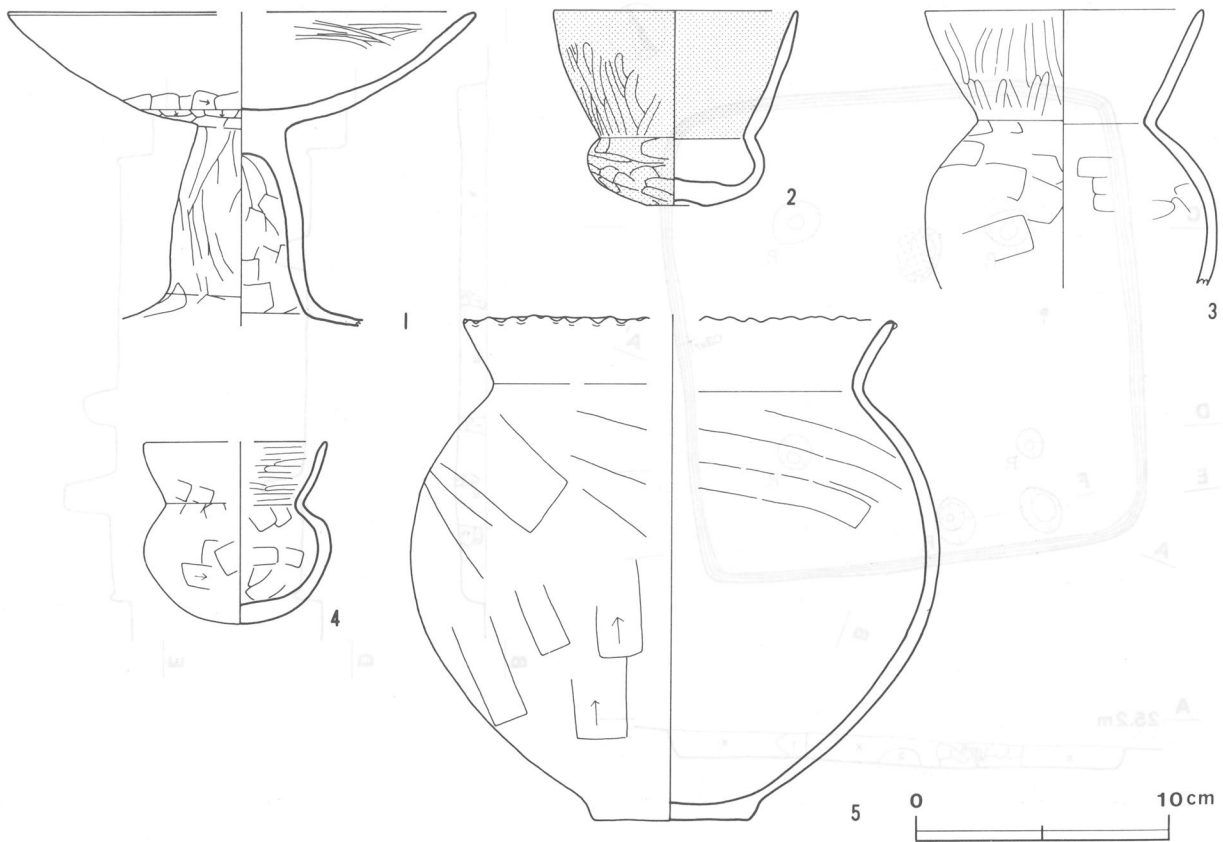
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子・黒色粒子多量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 東部を除く覆土中層から床面にかけて，土師器片203点が出土している。1の高坏は中央部の覆土下層から，2の罎は南コーナー部の床面から正位の状態，3及び4の罎は炉周辺の覆土中層から，5の甕は南コーナー寄りの床面から出土している。



第348図 第182号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

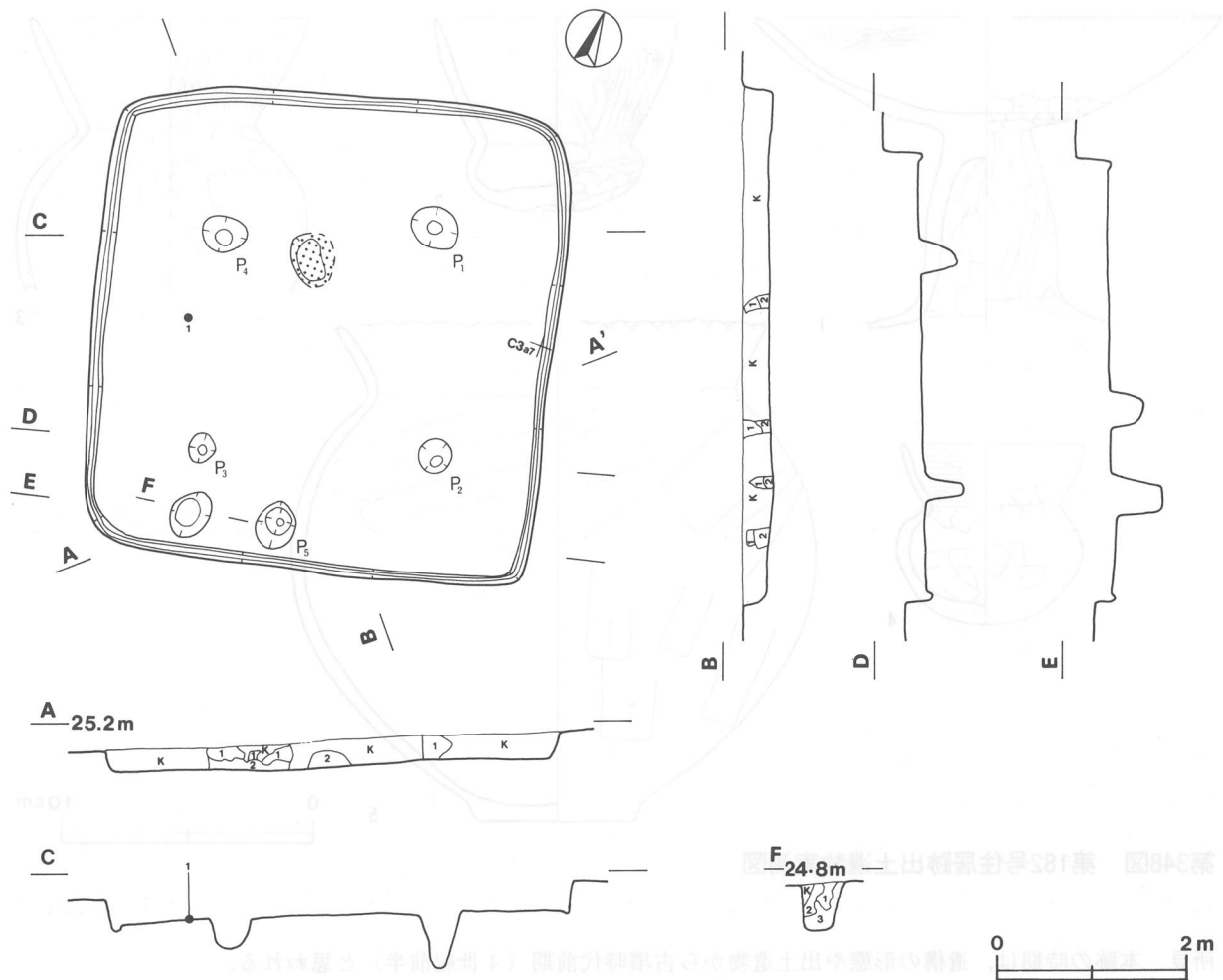
第182号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第348図 1	高土師器 坏	A [18.6] B (12.4) E (7.7)	脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部外面下位ヘラナデ、内面上位ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P846 50% 中央部覆土下層
2	土師器 柑	A 9.7 B 7.7 C 2.3	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁端部内・外面ナデ。口縁部外面ヘラ磨き、内面ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母赤褐色 普通	P847 100% PL92 南コーナー部床面 内面剝離
3	土師器 柑	A 11.0 B (11.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎する。口縁部は外傾して開く。	口縁部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P848 50% PL92 炉周辺覆土中層
4	土師器 柑	A [7.3] B 7.3	丸底。体部は球形で最大径をやや上位に持つ。口縁部は「く」の字状に立ち上がる。	口縁部外面ヘラナデ、内面横位のヘラ磨き。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい赤褐色 普通	P849 70% 炉周辺覆土中層
5	土師器 甕	A [17.1] B 19.8 C 6.2	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P850 40% PL92 南コーナー付近床面 二次焼成

第183号住居跡（第349図）

位置 調査区北部，C3a7区。

規模と平面形 長軸5.05m，短軸4.90mの方形である。



第349図 第183号住居跡実測図

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は22~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅5~10cm、深さ7cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に耕作による攪乱を受け軟らかいが、出入り口部が硬く踏み固められている。

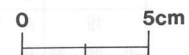
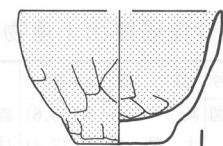
ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径35~55cm、短径30~40cmの楕円形で、深さ34~58cmである。いずれも支柱穴である。P₅は径45cm程の円形で、深さ40cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径45cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南壁際の南コーナー寄りに付設されている。長径55cm、短径40cmの楕円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量



第350図 第183号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 炭化粒子少量

遺物 耕作による攪乱を受けているが, 土師器片306点が, 主に南部の覆土中から床面にかけて出土している。

1のミニチュア土器は南西壁中央部寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第183号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図 1	ミニチュア土器 土師器	A [8.0] B 5.3 C 3.6	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面下半ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P851 60% PL92 南西壁中央部寄り床面

第184号住居跡 (第351図)

位置 調査区北部, C3i6区。

規模と平面形 耕作による攪乱のため正確な規模と平面形は不明であるが, 長軸3.50m程の方形と推定される。

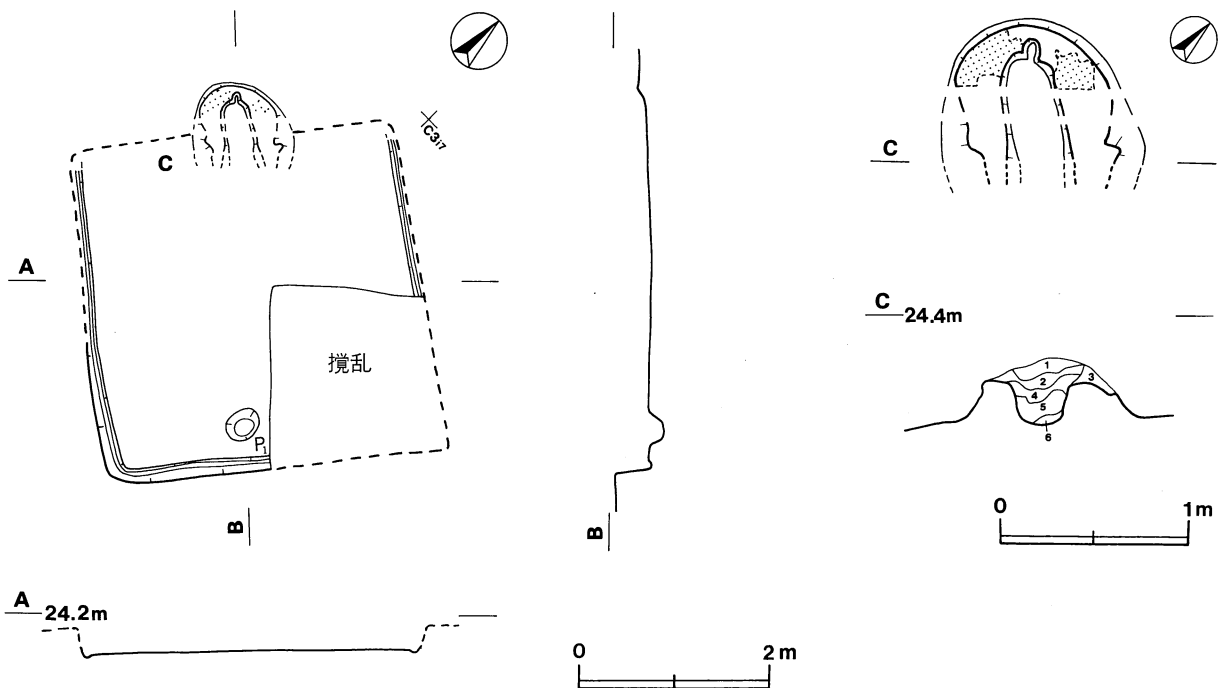
主軸方向 N-49°-W

壁 壁高は6~20cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東壁下, 南東壁下及び南西壁下のそれぞれ一部に確認され, 上幅5~10cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 耕作による攪乱のため遺存状態が悪く, 硬化部は確認できなかった。

ピット P1は径30cm程の円形で, 深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。



第351図 第184号住居跡実測図

竈 北西壁中央部付近に、赤変硬化した火床部の一部と構築材の粘土が僅かに残っている。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量

覆土 耕作による攪乱と重複のため、堆積状況は不明である。

遺物 土師器片が甕片を主体に121点出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10~12世紀)と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第185号住居跡 (第352図)

位置 調査区北部, C4g3区。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸3.10mの方形である。

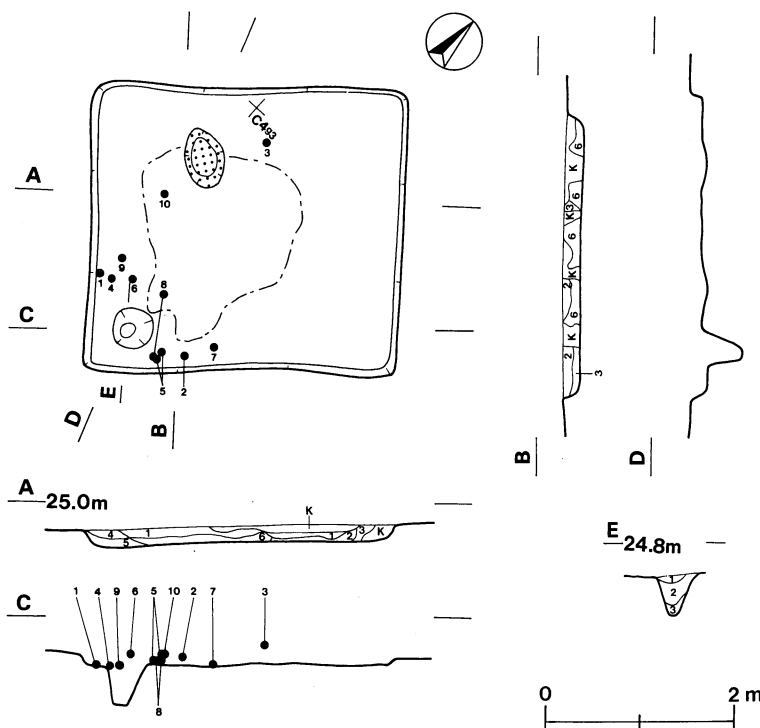
主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は9~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

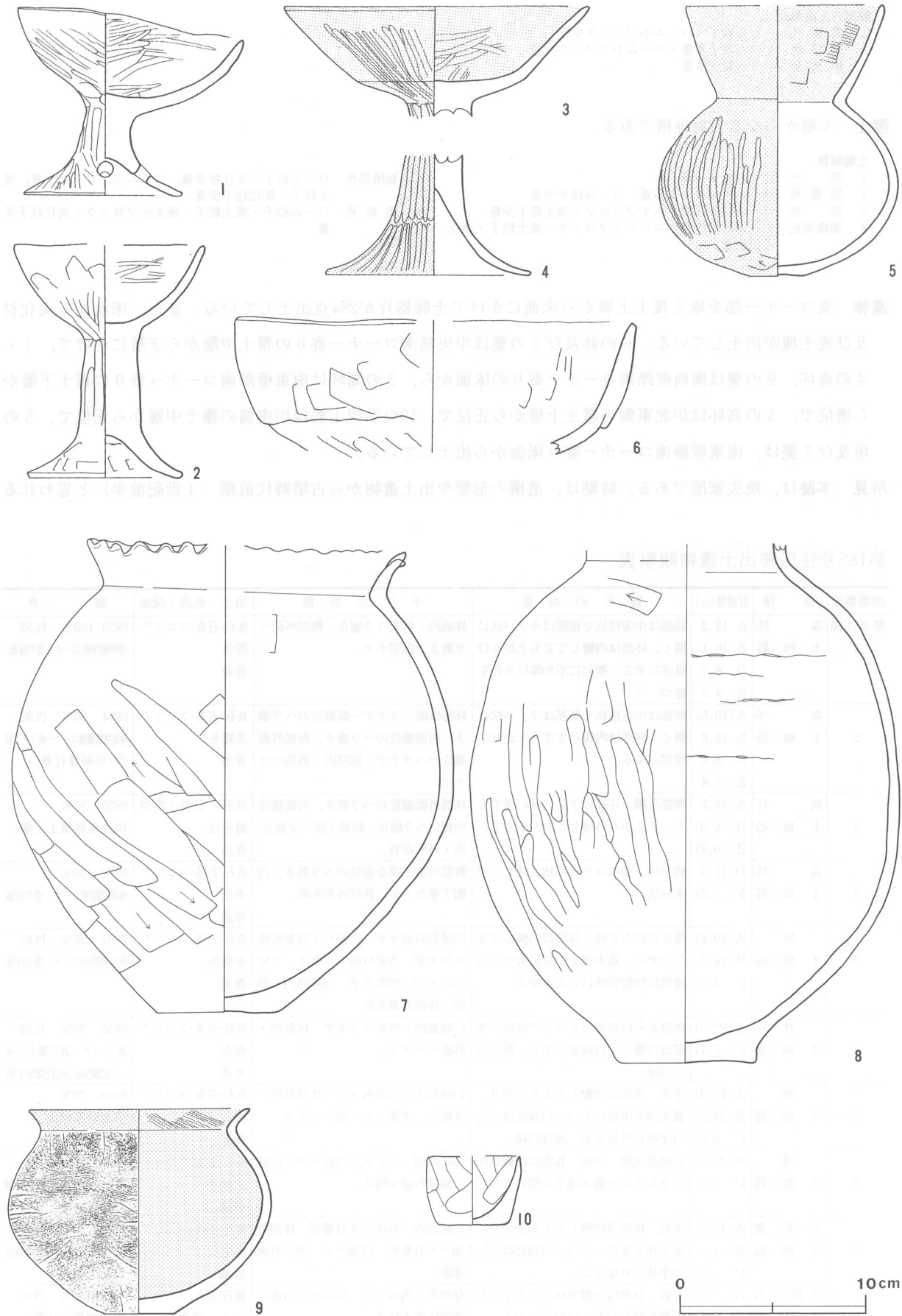
床 炉の周囲を含む中央部が踏み固められている。

炉 中央部から西寄りにあり、長径60cm, 短径40cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径45cm程の円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。



第352図 第185号住居跡実測図



第353図 第185号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量
- 3 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・炭化物多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子多量

遺物 東コーナー部を除く覆土上層から床面にかけて土師器片が284点出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。6の鉢及び8の甕は中央部南コーナー寄りの覆土中層から下層にかけて、1・4の高坏、9の甕は南西壁際南コーナー寄りの床面から、2の高坏は南東壁際南コーナー寄りの覆土下層から横位で、3の高坏は炉北東側の覆土上層から正位で、10の手捏土器は炉南側の覆土中層から正位で、5の埴及び7甕は、南東壁際南コーナー寄り床面から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第185号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 1	高土師器 坏	A 12.3 B 10.1 D 8.7 E 4.7	脚部は中実柱状で裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。裾部に不均等に3孔を穿つ。	坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P853 100% PL92 南西壁際南コーナー寄り床面
2	高土師器 坏	A [10.5] B 12.6 D 8.6 E 7.6	脚部は中実柱状で裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面ヘラナデ一部縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラナデ。裾部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P854 80% PL92 南東壁際南コーナー寄り土下層内・外面煤付着
3	高土師器 坏	A 16.7 B (6.0) E (0.8)	脚部欠損。坏部は下位に弱い稜をもち、そこから外傾して立ち上がる。	坏部外面縦位のヘラ磨き、内面横位の粗いヘラ磨き。脚部上位ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 暗赤色 普通	P855 50% 炉北東側覆土上層
4	高土師器 坏	D 11.3 E (6.5)	脚部片。裾部はラッパ状に開く。中実柱状。	脚部外面丁寧な縦位のヘラ磨き、内面丁寧なナデ。胸部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P856 30% 南西壁際南コーナー寄り床面
5	埴 土師器	A [10.8] B 14.6 C 3.0	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面ナデ、内面ハケ目整形後ヘラナデ。体部外面ヘラ磨き、下位ヘラナデ。内面ナデ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P857 90% PL92 南東壁際南コーナー寄り床面
6	鉢 土師器	A [22.0] B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して口縁部に至る。折り返し口縁。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P852 20% PL92 南コーナー寄り覆土中層 二次焼成、炭化物付着
7	甕 土師器	A [17.3] B 24.9 C 6.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ一部ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P858 70% 南東壁際床面
8	甕 土師器	B (28.0) C 7.6	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P859 60% 南コーナー寄り覆土下層 外面煤付着
9	小形甕 土師器	A 12.0 B 11.0 C 3.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P860 80% PL92 南西壁際南コーナー寄り床面 内面剝離
10	手捏土器 土師器	A [5.1] B 3.7 C 3.6	平底。体部は内彎気味に立ち上がり器厚を減じながら口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・スコリア ぶい黄褐色 普通	P861 70% PL92 炉南側覆土中層

第186号住居跡 (第354図)

位置 調査区北部, C4c4区。

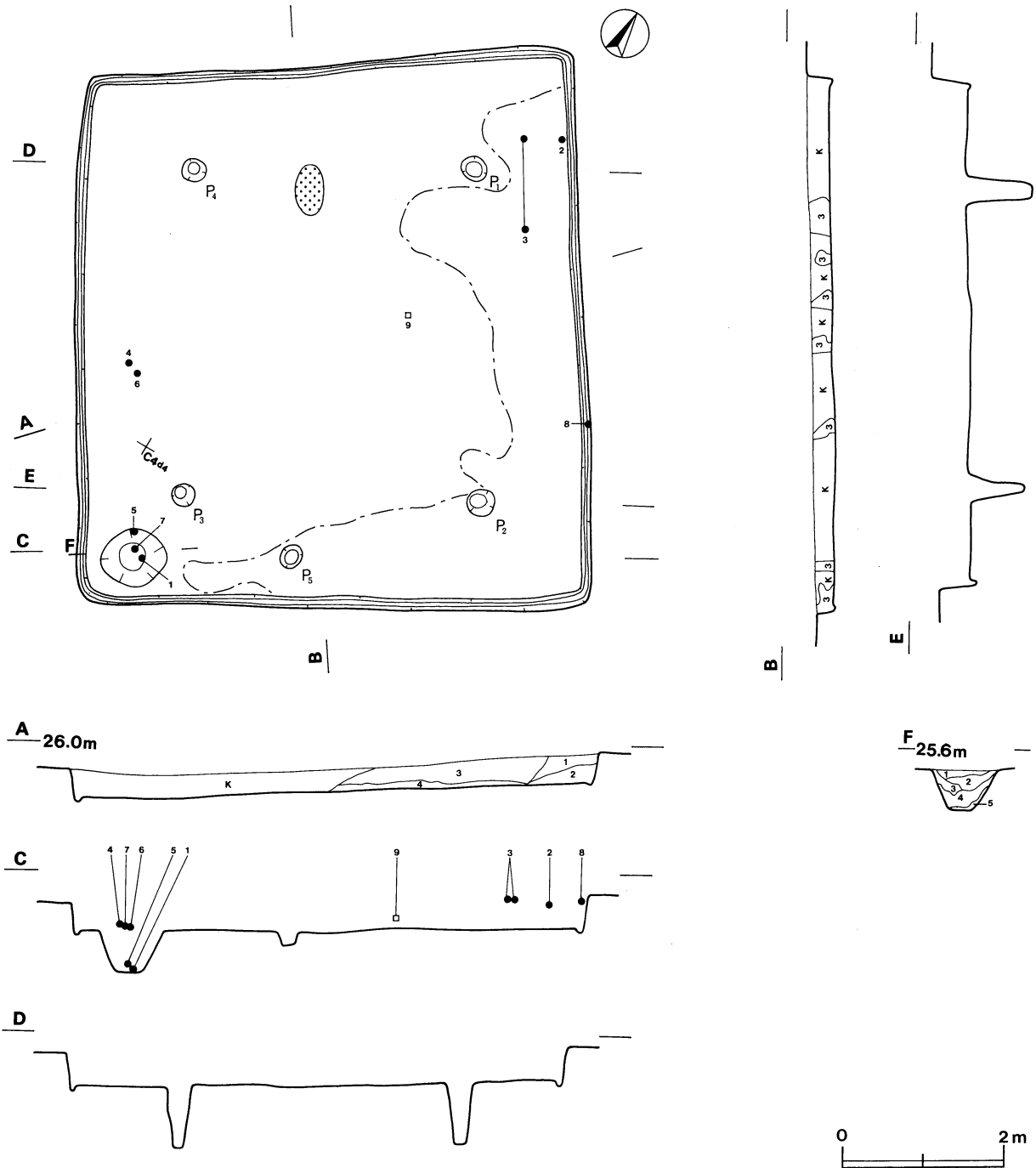
規模と平面形 長軸6.70m, 短軸6.30mの方形である。

主軸方向 N-31°-W

壁 壁高は24~55cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し, 上幅5~10cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状である。

床 出入口部を含む住居跡の東部が, 硬く踏み固められている。



第354図 第186号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径30cm程の円形で、深さ67~81cmの支柱穴である。P₅は径30cm程の円形で、深さ18cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径35cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径80cm、短径60cmの楕円形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化材中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化材中量, ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量



第355図 第186号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子・炭化物中量, ローム小ブロック少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量 |

遺物 西部を除く覆土上層から床面にかけて土師器片が318点出土している。また、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて、炭化材及び焼土塊が出土している。2・3の高坏は北コーナー部の覆土上層から、4の高坏及び6の埴（横位で）は南西壁際南コーナー寄りの床面から、8のミニチュア土器は北東壁際東コーナー寄りの覆土上層から、1の椀（正位で）及び5の埴（斜位で）は貯蔵穴の底面から、7のミニチュア土器（逆位で）は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第186号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 1	椀 土師器	A [12.1] B 4.9 C 5.8	凹凸のある平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア におい橙色 普通	P862 70% PL92 貯蔵穴底面
2	高坏 土師器	A [20.4] B 14.8 D [17.1] E 9.2	脚部から口縁部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は外反気味に立ち上がり下位に稜をもち、更に外反して大きく開き口縁部に至る。	坏部外面上半ヘラ磨き, 下半ヘラナデ, 内面ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ, 内面横位のヘラナデ。裾部外面粗いヘラ磨き, 内面ナデ。	長石・石英・スコリア におい橙色 普通	P863 50% 北コーナー部覆土上層 坏部内面剝離 二次焼成
3	高坏 土師器	A 16.6 B (13.3) E (8.4)	脚部から口縁部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は水平に開き更に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き, 内面ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き, 内面縦位のヘラナデ。裾部内・外面ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア におい橙色 普通	P864 60% PL93 北コーナー部覆土上層
4	高坏 土師器	D 12.1 E (8.9)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き, 内面横位のヘラ削り。裾部内・外面ヘラナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P865 40% 南西壁際南コーナー寄り床面 外面煤付着
5	埴 土師器	A 9.8 B 9.4 C 3.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁部外面上半ナデ, 下半ヘラナデ。内面ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア におい赤褐色 普通	P866 100% PL93 貯蔵穴底面 内・外面煤付着
6	埴 土師器	A [8.8] B 8.3 C 4.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁部外面ヘラナデ, 内面ナデ。一部ハケ目痕が残る。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア におい橙色 普通	P867 90% PL92 南西壁際南コーナー寄り床面
7	ミニチュア土器 土師器	A 7.0 B 4.6 C 5.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり器厚を減じながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面に指頭圧痕が残る。体部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・雲母 におい橙色 普通	P868 100% PL92 貯蔵穴覆土上層 外面煤付着, 二次焼成
8	ミニチュア土器 土師器	A [8.8] B 3.6 C 5.0	僅かに丸みのある平底。体部は内彎気味に立ち上がり器厚を減じながら口縁部に至る。	体部外面ヘラ削り後ナデ。内面上半横ナデ, 下半縦位の粗いナデ。	長石・石英・スコリア におい黄橙色 普通	P869 60% 北東壁際東コーナー寄り覆土上層 内面剝離

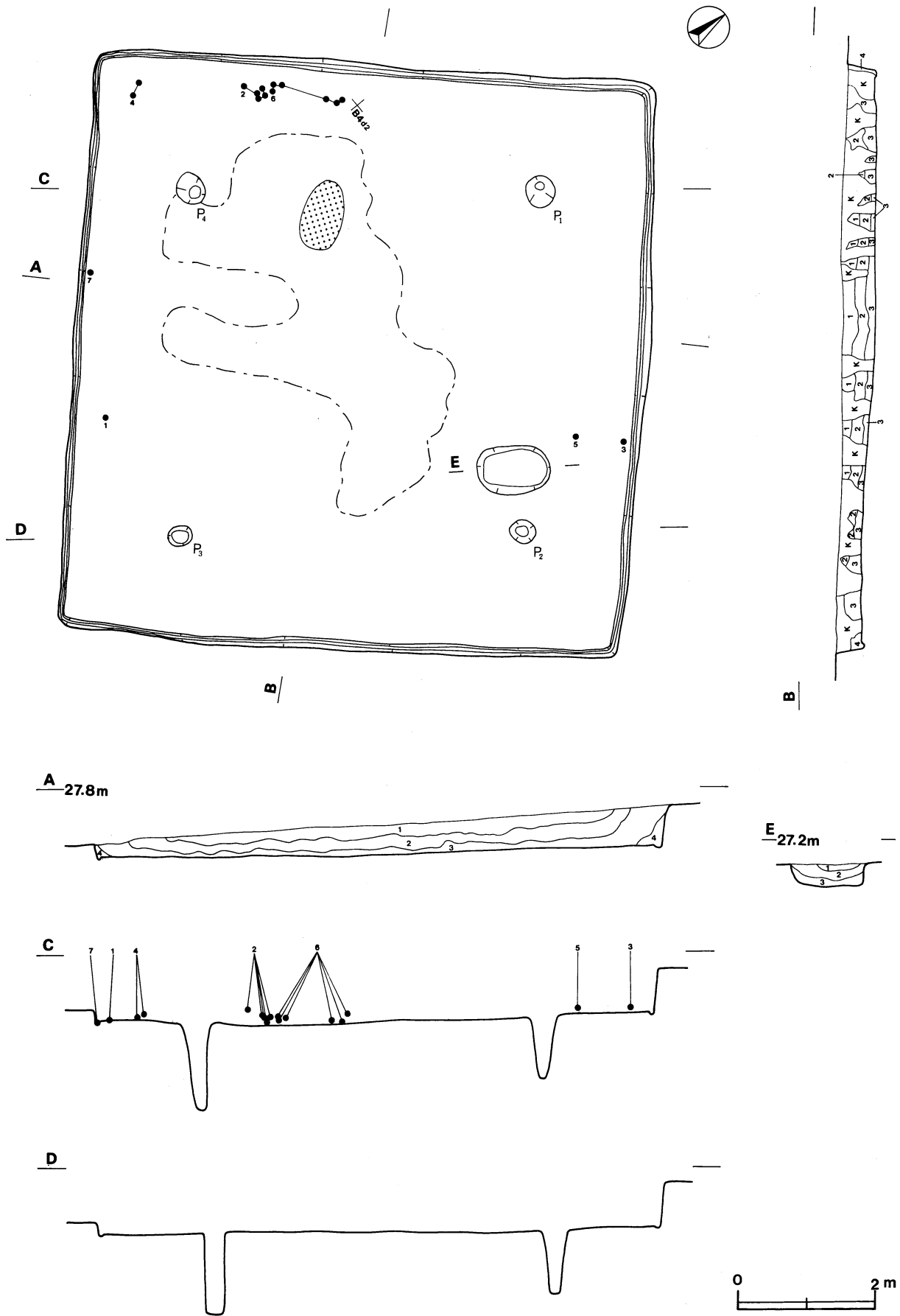
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第355図9	打製石斧	13.6	7.4	5.0	661.8	硬砂岩	中央部覆土下層	Q109 PL104

第187号住居跡（第356図）

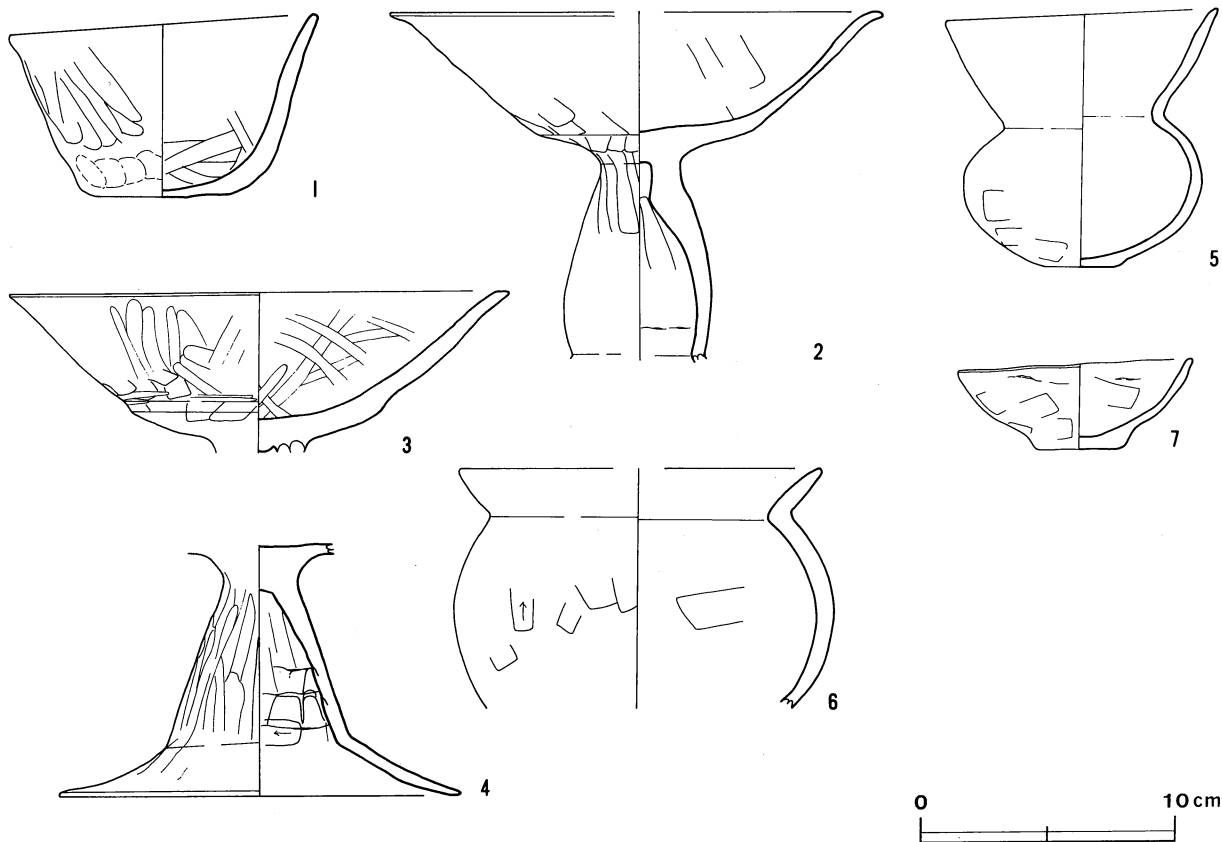
位置 調査区北部, B4d₂区。

規模と平面形 長軸8.40m, 短軸8.32mの方形である。

主軸方向 N-45°-W



第356图 第187号住居跡実測図



第357図 第187号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は18~66cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅5~10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 炉の周囲を含む住居跡中央部が硬く踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は径30~40cmの円形で、深さ90~125cmの主柱穴である。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径100cm、短径55cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 住居跡東部、P₂の北西側に付設されている。長軸105cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 淡褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・炭化粒子少量

遺物 主に、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて、土師器片が486点出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の椀は南西壁際南コーナー寄りの床面から正位で、2~4の高坏は、2が北西壁際西コーナー寄り、3が北東壁際中央部、4が西コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。5の罎は貯蔵穴北側の覆土下層から横位で、6の甕は炉北西側の覆土下層から散在した状態で、7のミニチ

チュア土器は南西壁際中央部の床面から逆位で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第187号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	椀 土師器	A 12.2	僅かに凹凸のある平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁端部内・外面横ナデ。体部外面中位から上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。体部内面下位幅広のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P870 90% PL93 南西壁際南コーナー寄り床面 二次焼成、内・外面煤付着
		B 7.2				
		C 5.1				
2	高坏 土師器	A (19.4)	裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は下位に僅かに稜をもち、そこから外傾して立ち上がる。	坏部外面ナデー部丁寧なヘラナデ、内面ナデ。脚部外面ヘラ磨き、内面ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P871 50% 北西壁際西コーナー寄り覆土下層
		B (13.7)				
		E (7.7)				
3	高坏 土師器	A 19.8	脚部欠損。内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。下位に稜をもち。	坏部外面上半ヘラ磨き、下半ヘラナデ。内面粗いヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P872 50% 北東壁際中央部覆土下層 内面剝離、スコリア多量
		B (6.2)				
4	高坏 土師器	B (10.0)	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。裾部内・外面ナデ。内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P873 40% 西コーナー部覆土下層 外面煤付着
		D 15.9				
		E 8.7				
5	罎 土師器	A 10.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ、下半ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 明黄褐色 普通	P874 100% PL93 貯蔵穴北側覆土下層 内面剝離
		B 10.3				
		C 3.0				
6	甕 土師器	A (14.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は球状で口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P875 40% 炉北西側覆土下層 炭化物・煤付着、二次焼成
		B (9.5)				
7	ミニチュア土器 土師器	A 9.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P876 100% PL93 南西壁際中央部床面
		B 3.6				
		C 3.4				

第188号住居跡（第358図）

位置 調査区北部，B3b3区。

規模と平面形 長軸6.60m，短軸6.50mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は39~72cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し，上幅5~10cm，深さ5~10cm程で，断面形はU字状である。

床 出入り口周辺が硬く踏み固められている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は径25~35cmの円形で，深さ76~82cmである。いずれも支柱穴である。

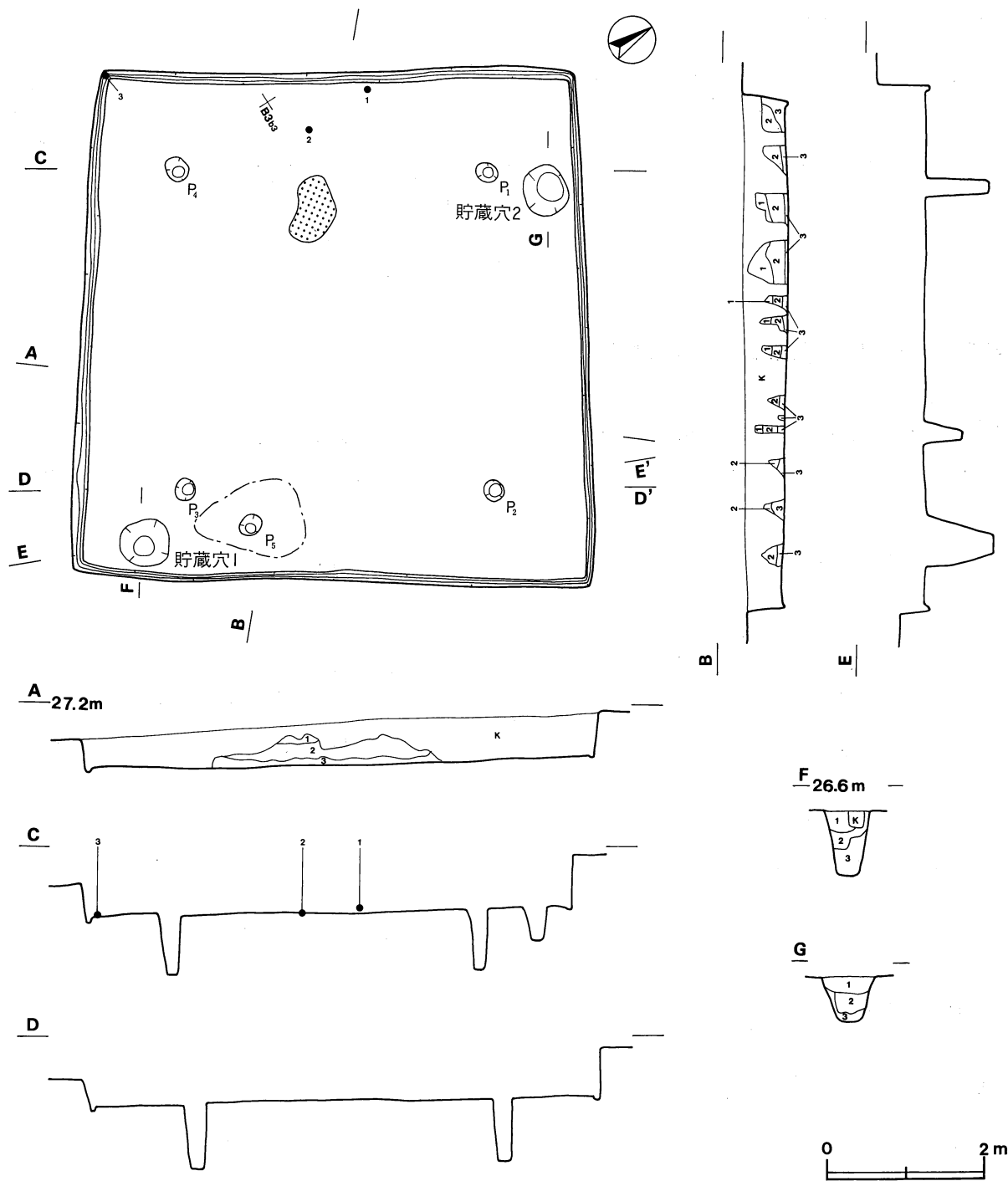
P₅は径25cmの円形で，深さ47cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり，長径85cm，短径50cmの不整楕円形で，床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁際の南コーナー付近に付設されている。径65cm程の円形で，深さは86cmである。貯蔵穴2は北東壁際の北コーナー付近に付設されている。長径65cm，短径55cmの楕円形で，深さは55cmである。いずれも底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量，炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量



第358図 第188号住居跡実測図

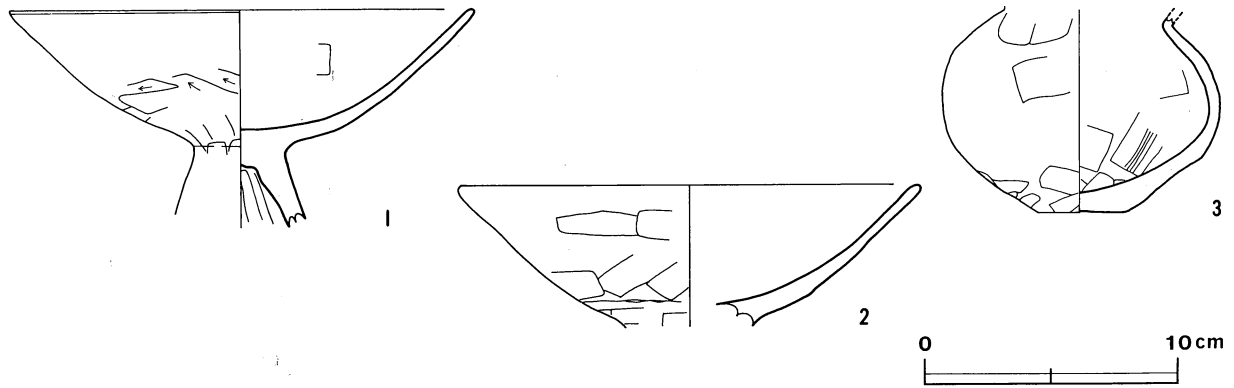
貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子, 炭化物中量, 焼土粒子少量



第359図 第188号住居跡出土遺物実測図

遺物 北東壁側を除く、三方の壁寄りの覆土中層から床面にかけて土師器片が183点出土している。1の高坏は北西壁際中央部の覆土下層から、2の高坏は炉北西側の床面から、3の甕は西コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第188号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	高坏 土師器	A 18.5 B (8.6) E (2.9)	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面上位ナデ、中位から下位ヘラナデ。内面丁寧なナデ。脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P877 50% 北西壁際中央部覆土下層 内面剝離
2	高坏 土師器	A 18.3 B (5.6)	坏部片。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面横位のヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P878 40% 炉北西側床面
3	小形甕 土師器	B (8.0) C 3.5	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。内面に弱いハケ目痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P879 60% 西コーナー部床面

第189号住居跡（第360図）

位置 調査区北部，B3h9区。

規模と平面形 長軸7.80m，短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-38° - W

壁 壁高は32~47cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 耕作による攪乱のため，床の遺存状態が悪く，硬化面は確認できなかった。

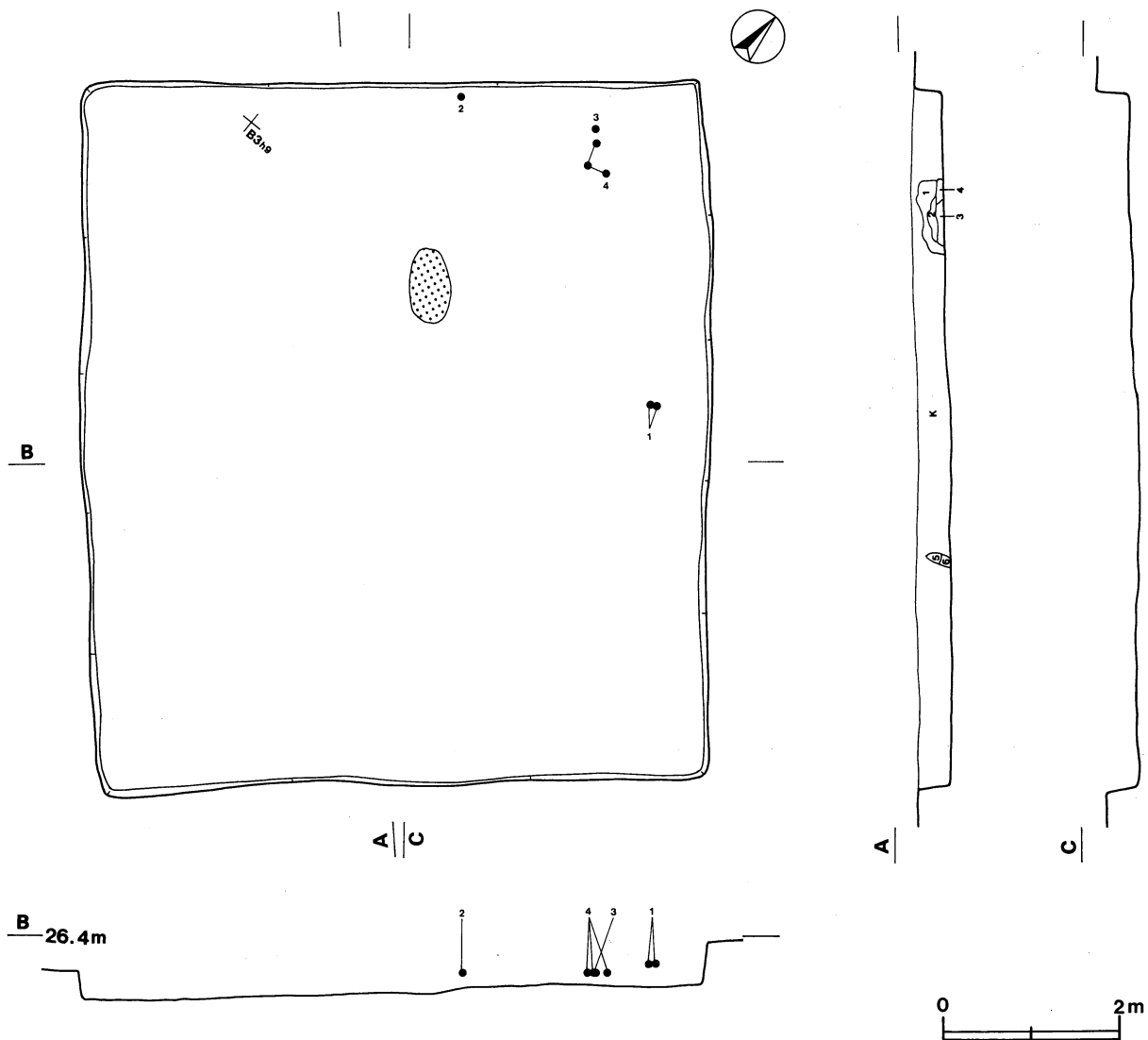
炉 中央部から北西寄りの部分が，長径80cm，短径45cm程の長楕円形状の範囲で，僅かに赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 北コーナー部を中心とする，北部の覆土中層から下層にかけて，土師器片223点が出土している。1の椀は北東壁中央部寄りの覆土中層から，2の高坏は北西壁際中央部の覆土中層から，3の高坏及び4の甕は北コーナー部の覆土中層から出土している。

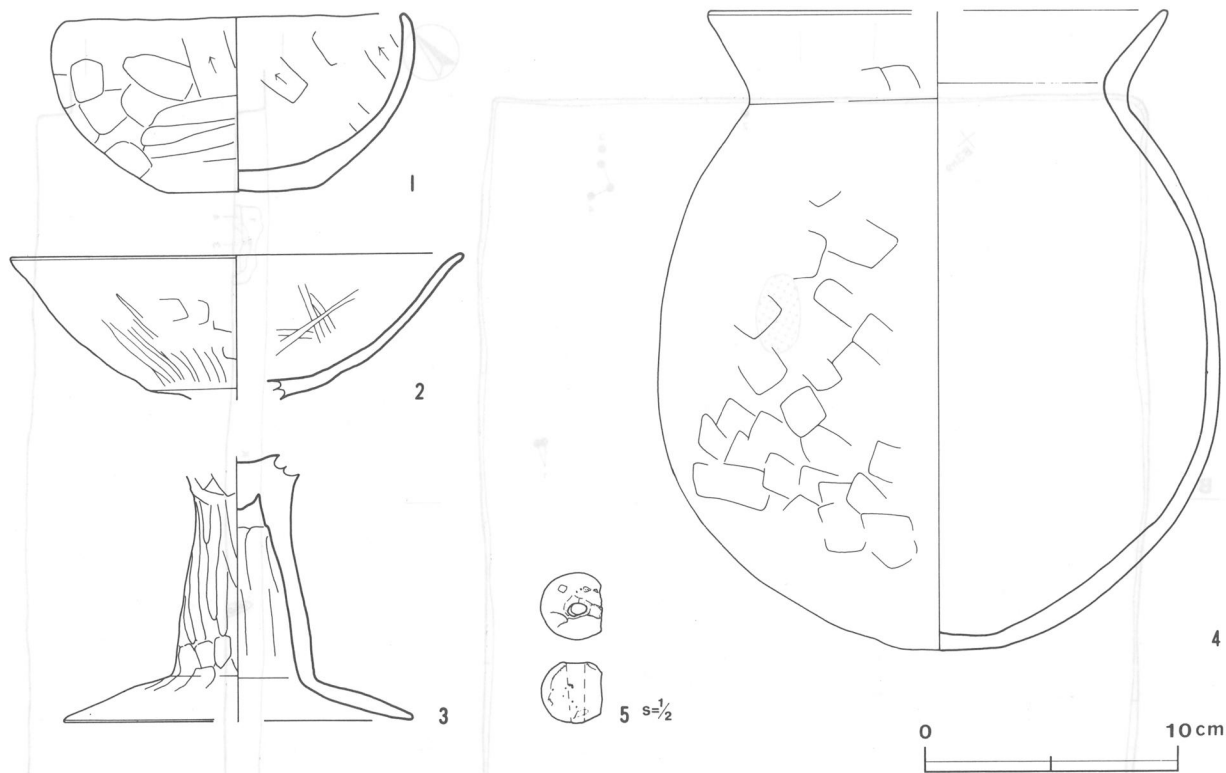


第360図 第189号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第189号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第361図 1	土師器 椀	A 13.5 B 6.9 C 5.8	僅かに凹凸のある平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色普通	P880 70% PL93 北東壁中央部覆土中層
2	土師器 高坏	A 18.0 B (5.7)	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面横位のヘラナデ後縦位のヘラ磨き、内面粗いヘラ磨き。	長石・石英・スコリア橙色普通	P881 50% 北西壁際中央部覆土中層
3	土師器 高坏	B (10.5) D [13.8] E 9.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面縦位のヘラナデ。裾部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア橙色普通	P882 40% 北コーナー部覆土中層
4	土師器 甕	A [18.2] B 25.3 C 4.8	やや丸みのある平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい褐色普通	P883 70% PL93 北コーナー部覆土中層 二次焼成、内面剥離



第361図 第189号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第361図5	ガラス玉	1.8	(1.7)	1.6	-	(6.8)	ガラス	覆土中	Q110

第190号住居跡 (第362図)

位置 調査区北部, C3a5区。

重複関係 本跡は第181号住居跡の下に構築されており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.87m, 短軸5.02mの長方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 東壁の一部で, 20cm程の壁高を確認した。

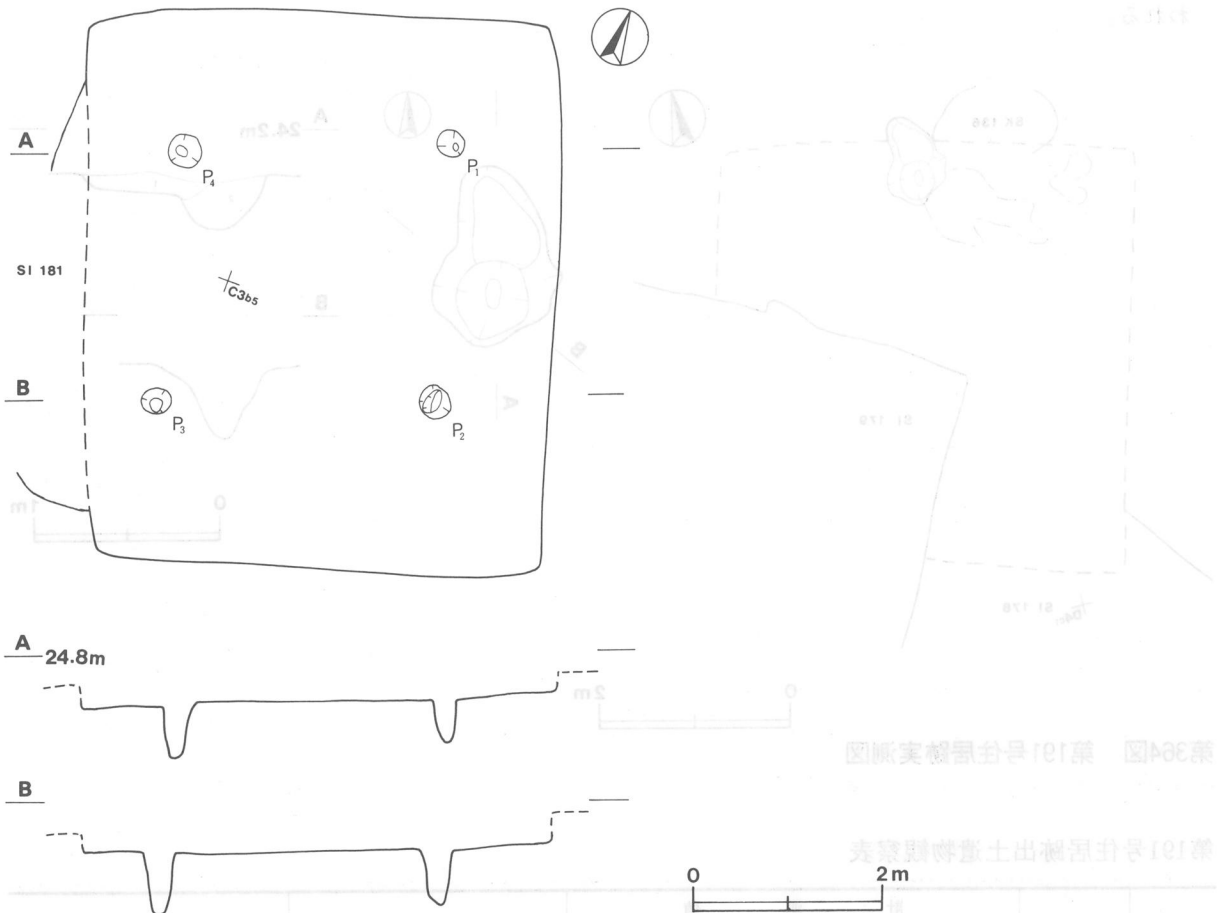
床 平坦であるが, 硬化面は削平されている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は長径30~50cm, 短径25~30cmの楕円形で, 深さ49~69cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

覆土 重複と削平のため堆積状況は不明である。

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は, 重複関係から第181号住居跡 (古墳時代前期) より古い, 遺物がないため詳細な時期は不明である。



第362図 第190号住居跡実測図

第191号住居跡 (第364図)

位置 調査区中央部, D4b1区。

重複関係 本跡は南部が第178号住居跡を掘り込み, 南東部を第179号住居跡に, 北西部を第136号土坑に掘り込まれていることから, 第178号住居跡より新しく, 第179号住居跡及び第136号土坑より古い。

規模と平面形 重複と削平のため, 正確な規模や平面形は不明である。

主軸方向 [N-15°-W]

床 北西コーナー部と燃焼部の間が踏み固められている。

燃焼部 北壁に火熱を受け赤変硬化した部分と焼土を確認した。

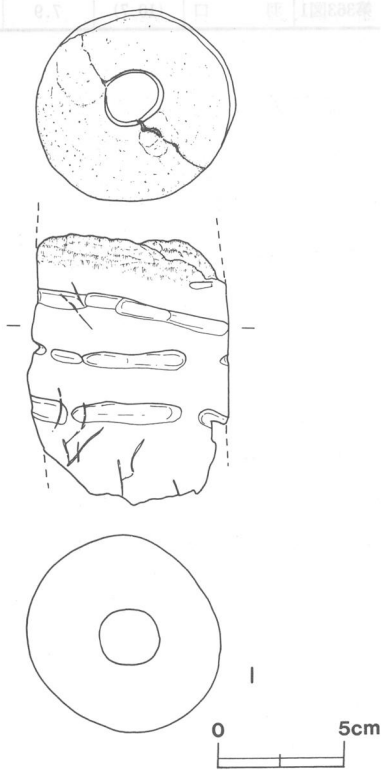
燃焼部断ち割り土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物 北壁の燃焼部から土師器片6点, 鉄滓及び羽口が出土している。

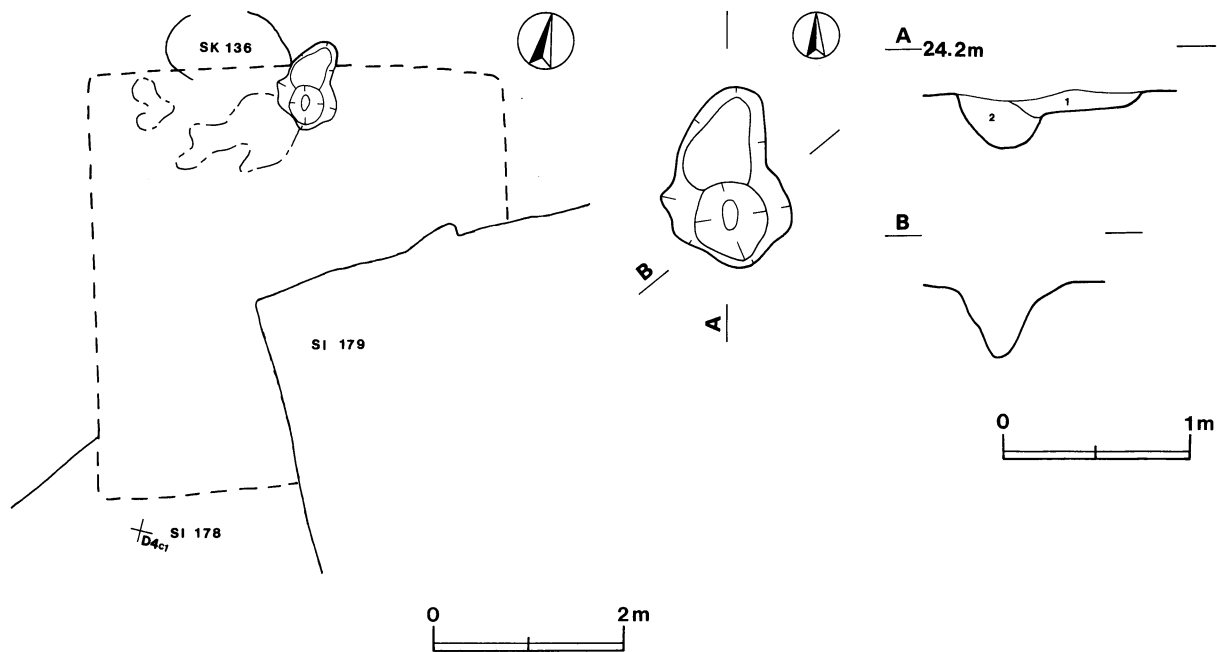
1の羽口は燃焼部北部から出土している。

所見 本跡は重複と耕作による削平のため, 北西コーナー部の一部と燃焼部と思われる部分の確認のみであるが, 出土遺物等から工房跡と考えられる。時期は, 出土遺物等から平安時代(10~12世紀)と思



第363図 第191号住居跡出土遺物実測図

われる。



第364図 第191号住居跡実測図

第191号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第363図1	羽口	(10.7)	7.9	—	2.4	(487.5)	炉覆土中	DP274 PL98

表2 南小割遺跡竪穴住居跡一覽表

〔 〕推定 () 現存 新→旧

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	時期	主 な 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
1	B3d2	N-20°-W	方 形	5.70×5.20	38~50	平坦	有		4	1	竈		自然	古後	土師器(坏, 甕), 土玉	
2	G4e1	N-36°-W	[方 形]	(7.80×5.10)	15	平坦					炉		自然	古中	土師器(高坏, 埴, 甕)	SK6→本跡
3A	G3c0	N-71°-W	方 形	5.48×5.22	24~46	平坦			3		炉	1	人為	古前	土師器(碗, 高坏, 器台, 埴, 甕), 手捏土器	本跡→SI3B焼失
3B	G3c0	N-71°-W	[方 形]	(4.00×4.00)		平坦					炉		古前	土師器片(甕)	SI3A→本跡	
4	F4i1	N-34°-W	方 形	4.14×3.92	9~16	平坦					炉		自然	古前	土師器片(甕)	
5	G3a9	N-32°-E	長 方 形	6.06×5.16	14~25	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(器台), 土玉	
6	G3c8	N-45°-W	[方 形]	6.40×(3.0)	24~32	平坦			(2)		—		人為	古前	土師器片(甕)	
7	G4c2	N-33°-E	方 形	4.94×4.70	22~27	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(器台)	SK5→本跡 焼失
8	G4a1	N-51°-W	[方 形]	4.10×3.90	50~62	平坦			(1)	1		1	人為	古前	土師器(甕, 甕)	SK3→本跡
9	F4b3	N-33°-W	[方 形]	3.40×(2.6)	18	平坦					炉		人為	古前	土師器片(甕)	
10	F3d8	N-10°-W	方 形	5.46×5.26	14~18	平坦					炉	1	人為	古前	土師器(碗, 埴, 台付甕, 甕)	
11	G4d5	N-7°-E	方 形	(7.00×7.00)	20	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器片(甕)	
12	F4j7	N-60°-E	[方 形]	7.70×(4.3)	40~44	平坦			(2)	1	—		自然	古前	土師器(高坏, 甕)	SK7A・B→本跡
13	F4g5	N-47°-W	長 方 形	7.50×6.00	32~38	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(器台, 甕), ガラス玉, ミニチュア土器, 土玉	SK2A・B・9→本跡
14	F4e1	N-30°-W	方 形	8.61×8.16	24~31	平坦			4	1	炉	2	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 甕, 甕), 土玉, 管状土錘	SI15→本跡
15	F3e0	N-115°-E	長 方 形	3.92×3.52	24~28	平坦	有				竈	1	平安		土師器(高台坏), 須恵器(短頸甕)	本跡→SI14
16	F3b9	N-45°-W	長 方 形	6.73×6.01	56~70	平坦	有		4	1	竈	1	人為	古後	土師器(坏, 甕)	焼失
17	F4i3	N-51°-W	方 形	5.40×5.10	22~27	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(器台, 裝飾器台, 甕), ミニチュア土器	SK13, 14→本跡
18	F4g1	N-44°-W	長 方 形	4.10×3.47	18~27	平坦					炉		人為	古前	土師器片(碗, 甕), 土玉	
19	F3i9	N-48°-W	方 形	4.95×4.78	24~31	平坦			4	1	炉		自然	古前	土師器片(碗, 甕)	
20	G3a5	[N-72°-W]	[方 形]	(5.30×3.80)	29	平坦			(1)		—		人為	古前	土師器(甕)	
21	F3h6	N-49°-W	方 形	8.88×8.77	20~32	平坦			4	1	炉	2	人為	古中	土師器(埴, 甕), ミニチュア土器, 手捏土器	本跡→SI23, 27焼失
22	F3f8	N-41°-W	方 形	6.72×6.56	47~56	平坦	有		4	1	竈		自然	古後	土師器(坏, 甕)	本跡→SI23
23	F3f6	N-40°-E	長 方 形	6.10×4.48	10~18	平坦			1		炉		人為	古前	土師器片(甕)	SI21, 22, 24→本跡
24	F3e6	N-20°-E	長 方 形	5.84×3.88	6~16	平坦	有				竈	1	人為	平安	土師器(坏, 高台付坏)	本跡→SI23, 32, SK25, 100
25	F3g5	N-125°-E	隅丸長方形	5.04×2.72	14	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器(漆箱), 石鏃, チャート片185, メノウ片8	
26	F2g9	N-5°-W	方 形	6.84×6.58	40~48	平坦			4	1	炉	1	人為	古中	土師器(坏, 高坏, 埴, 甕, 甕)	焼失
27	F3i4	N-34°-W	方 形	6.04×5.76	36~41	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(埴, 器台, 台付甕, 甕), 紡錘車, ミニチュア土器, 土玉	SI21→本跡 焼失
28	F3g2	N-50°-W	[方 形]	3.40×(2.1)	14	平坦					—		人為	古前	土師器(台付甕, 甕), ミニチュア土器	
29	F3g1	N-50°-W	[方 形]	5.00×(2.9)	14	平坦			(2)		炉	1	古前		土師器(埴)	SI51, SD-1→本跡
30	F3f4	N-108°-E	長 方 形	4.52×3.96	4	平坦					炉		古前		土師器(高坏)	SI31→本跡
31	F3e4	N-14°-W	方 形	4.77×4.56	4~10	平坦			(2)	1	炉		自然	古前	土師器(碗, 脚付碗)	本跡→SI30
32	F3d6	N-21°-W	方 形	3.46×3.43	32~38	平坦	有				炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 甕, 甕), 土玉, 管状土錘	SI24→本跡→SK100
33	E3j0	N-9°-W	方 形	5.20×5.10	14~28	平坦	有	1	1	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕), 土玉	
34	E3h0	N-39°-W	方 形	3.65×3.60	10~16	平坦					—		人為	古前	土師器片(甕)	

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	時期	主な遺物	備考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉竈	貯蔵穴				
35	E3i9	N-35°-W	長方形	3.60×3.10	36~42	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,壺,甗,甍)	
36	F2h8	N-79°-W	隅丸長方形	5.70×2.70	10	平坦					炉		自然	縄前	縄文土器片(深鉢),チャート片	
37	E3j7	N-122°-E	長方形	3.35×2.60	15~32	平坦	有				竈		人為	平安	土師器(高台付坏,皿)	SK32,35,38→本跡→SI38,40
38	E3j6	N-60°-W	[方形]	6.60×(3.2)	11~18	平坦			(1)	1	炉		人為	古前	土師器(器台,甗),ミニチュア土器,土玉	SI37,40,SK37→本跡
39	F3a5	N-41°-W	方形	3.65×3.60	40~46	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(甗),ミニチュア土器	SK37→本跡
40	E3i6	N-5°-E	方形	6.85×6.80	40~46	平坦			4	1	炉	1	人為	古中	土師器(坏,甗),手捏土器,白玉	SI38→本跡→SI37焼失
41	E3h8	N-41°-W	方形	3.55×3.27	36~44	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器片(甗)	
42	E3g9	N-45°-W	[方形]	4.30×(4.1)	20	平坦					-		人為	古前	土師器(埴,壺),ミニチュア土器,土玉	SK131→本跡
43	F3b7	N-19°-W	長方形	3.70×3.19	11~16	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(埴,甗),手捏土器,紡錘車,土鏝	本跡→SK45
44	F3c6	N-2°-W	長方形	5.15×4.00	14~28	平坦					炉	1	人為	古中	土師器(鉢,甗)	
45	F3c5	N-7°-W	長方形	3.30×2.91	20	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(甗)	
46	F2f4	N-32°-W	方形	7.31×7.21	22~40	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甗,高坏,器台,埴,壺,甗)	本跡→SM4
47	F2f1	N-123°-W	方形	5.23×5.06	32~56	平坦			4	1	炉		人為	古中	土師器(坏,甗)	SK23,24→本跡
48	F3d1	N-49°-W	[方形]	(5.60×3.60)	50	平坦	有				炉		-	古前	土師器(高坏),土玉	SI49→本跡
49	F3d2	N-50°-W	方形	6.94×6.86	28~44	平坦			4	1	炉	1	人為	古中	土師器(甗),管状土鏝	本跡→SI48焼失→SK102
50	F3c3	N-12°-W	方形	5.40×5.32	48~54	平坦	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甗,高坏,器台,埴,壺,甗),手捏土器,土製炉石	SI52→本跡
51	F3g1					平坦		-								本跡→SI29
52	F3b3	N-51°-W	方形	5.71×5.46	26~34	平坦	有		4	1	炉		人為	古前	土師器(高坏,甗)	SI53→本跡→50
53	F3a4	N-24°-W	方形	3.01×2.95	28~40	平坦					炉	1	人為	古前	土師器(埴),手捏土器	本跡→SI52
54	F2c0	N-51°-W	方形	5.60×5.50	26~42	平坦	有		4	1	炉	2	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,壺,台付甗),ミニチュア土器,土玉,土製炉石	SD1→本跡 焼失
55	F2e9	N-52°-W	長方形	4.00×3.30	14	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,高坏,器台),管玉	本跡→SI56,57
56	F2d9	N-48°-W	方形	4.50×4.30	18~25	平坦				1	炉3	1	人為	古前	土師器(壺,台付甗,甗)	SI55→本跡→57
57	F2e9	N-52°-W	[方形]	(3.60×3.18)	20	平坦					炉		-	古前	土師器片(甗)	SI55,56→本跡
58	F2g5	N-40°-W	方形	4.80×4.70	38~52	平坦	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,器台,埴,甗),手捏土器	本跡→SK71焼失
59	E3f6	N-28°-W	方形	6.60×6.45	27~46	平坦	有	2	4	1	炉	2	人為	古中	土師器(高坏,壺,甗),土玉,管状土鏝	
60	F2e6	N-28°-E	隅丸長方形	7.50×7.10	27~38	平坦	有	3	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,壺,甗),ミニチュア土器	焼失
61	F2d2	N-30°-W	長方形	5.72×4.78	14~19	平坦		1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,甗),土玉	SK40→本跡→SI62,163
62	F2c3	N-26°-W	方形	4.22×4.07	19~30	平坦			(2)	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,壺,台付甗,甗),土製三脚,ミニチュア土器,土玉	SI61→本跡 焼失
63	F2c2	N-7°-W	方形	4.63×4.45	52~57	平坦			4	1	竈		自然	古後	土師器(坏,甗),ミニチュア土器,土玉	本跡→SI62,64,68
64	F2b2	N-49°-W	方形	5.60×5.40	57	平坦	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,壺,台付甗,甗),ミニチュア土器,土玉,管状土鏝	SI63→本跡→68焼失
65	F1d0	N-50°-W	方形	3.85×3.70	8	平坦					炉		人為	古前	土師器片(甗)	
66	F1c0	N-31°-W	方形	4.15×(3.9)	22~27	平坦			(2)		炉		人為	古前	土師器片(甗),紡錘車,土玉,砥石	本跡→SI67
67	F1c9	N-63°-W	[方形]	4.40×(4.3)	27	平坦					炉		人為	古前	土師器(甗,甗),土玉,砥石,勾玉	SI66→本跡
68	F2a1	N-48°-W	[方形]	5.30×(2.5)	12	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(器台,甗),土玉	SI63,64→本跡
69	F2d4	N-30°-E	方形	3.60×3.55	14~20	平坦			4	1	炉2		人為	古前	土師器(鉢,甗)	

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	時期	主 な 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
70	E2j3	N-32°-W	方 形	4.05×3.95	10~20	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器片(甕),ミニチュア土器	SI71→本跡
71	F2a4	N-8°-E	長 方 形	5.16×4.48	39~44	平坦			4	1	竈	1	人為	古中	土師器(碗,鉢,甕)	本跡→SI70,72焼失
72	E2j5	N-35°-W	方 形	7.10×6.86	37~44	平坦	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,高坏,器台,埴,壺,甕, 甗),ミニチュア土器,土玉,管状 土錘,土製炉石	SI71,SK52~54,S D1→本跡
73	E2e1	N-18°-W	方 形	7.75×7.60	51~56	平坦	有		4	1	竈	1	自然	古後	土師器(坏,碗,壺,甕),紡錘車, 勾玉,土玉,双孔円板	本跡→SI74,150
74	E2d2	N-40°-W	[方 形]	4.60×(3.2)	10	平坦			(2)	1	炉		—	古前	土師器片(甕)	SI73,75→本跡
75	E2e3	N-46°-W	[方 形]	4.60×(4.2)	8~13	平坦			1				人為	古前	土師器(碗,鉢,埴,壺,甕)	SI76→本跡→74
76	E2e4	N-73°-W	方 形	5.10×4.72	33~59	平坦	有		4	1	竈		自然	古後	土師器(坏,甕),手捏土器,管状 土錘	本跡→SI75,77
77	E2f5	N-6°-W	方 形	7.10×6.50	30	平坦	有		(2)		炉	1	人為	古前	土師器(器台,甕),手捏土器	SI76,78,131→本跡→144
78	E2h4	N-32°-W	方 形	7.45×7.32	44~58	平坦	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,甕),ミニチュア土 器,土玉,土製炉石,砥石	本跡→SI77,79,149S K51焼失
79	E2g2	N-24°-W	隅丸長方形	5.60×3.74	44	平坦			25		炉2		人為	縄前	縄文土器(深鉢),チャート片15	SI78,145,149,SM3→本跡
80	E2b5	N-59°-E	長 方 形	6.71×5.29	26~31	平坦	有				竈	1	人為	古中	土師器(坏,高坏,壺,甕,甗),須 惠器,ミニチュア土器,土玉	本跡→SI81,148
81	E2b5	N-35°-W	方 形	3.80×3.54	9~14	平坦					炉	1	—	古前	土師器(埴,器台,壺,甕),ミニ チュア土器,土玉,管状土錘	SI80→本跡
82	E3e5	N-81°-W	方 形	6.37×6.25	33~44	平坦	有	2	4	2	竈	1	人為	古後	土師器(坏,碗,甕,甗),須惠器, 土玉,支脚	本跡→SI83
83	E3f4	N-18°-W	方 形	6.05×5.70	27~38	平坦	有	1	4	1	炉	2	人為	古前	土師器(碗,器台,壺,台付甕),ミ ニチュア土器,土玉,管状土錘	SI82→本跡
84	E3h3	N-42°-W	方 形	4.05×3.94	21~31	平坦	有	1		1	炉	1	人為	古前	土師器(碗,器台,壺,甕),ミニ チュア土器	本跡→SK104
85	E3i2	N-57°-W	長 方 形	5.18×4.60	20	平坦	有			1	炉	1	人為	古前	土師器(碗,壺,甕)	本跡→SI86
86	E3j3	N-31°-W	長 方 形	3.55×3.05	10	平坦				1	炉		人為	古前	土師器(高坏),土製勾玉,管状土錘	SI85→本跡
87	E2i0	N-34°-E	方 形	3.30×3.20	24	平坦					竈		人為	平安	土師器(甕)	本跡→SI88,164
88	E2h0	N-46°-W	方 形	7.50×7.30	48~58	平坦	有	1	4	1	炉3	3	人為	古前	土師器(鉢,埴,高坏,器台,壺,甕), ミニチュア土器,管状土錘,土製 炉石	SI87,92→本跡→160焼失
89	E3g2	N-30°-W	方 形	3.70×3.60	26~32	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,高坏,壺,甕),土玉, 管状土錘	
90	E3e1	N-52°-W	方 形	8.55×7.95	42~53	平坦	有	3	4	1	炉	4	人為	古中	土師器(埴,高坏,甕),ミニチュア 土器,土玉	本跡→SI91焼失
91	E2d0		[方 形]	(3.40×0.80)	38	平坦								古前		SI90→本跡
92	E2f0	N-120°-E	長 方 形	4.08×3.10	28	平坦				1	竈	1	人為	平安	土師器(高台付坏,皿,甕),置き竈片	本跡→SI-88,160
93	E3b1	N-50°-E	方 形	3.70×3.60	25	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(碗,埴,高坏,器台),ミニ チュア土器	
94	D3j2	N-80°-W	長 方 形	4.65×4.20	74~79	平坦	有		1		竈	1	人為	古後	土師器片(甕),土玉,管状土錘	本跡→SI95
95	E3a3	N-50°-W	長 方 形	4.82×4.32	30	平坦	有		(2)	1		1	人為	古前	土師器(高坏,器台,甕),ミニ チュア土器	SI94→本跡
96	E3c2	N-43°-W	方 形	3.26×3.10	30~42	平坦				1	炉		人為	古前	土師器(埴,器台,甕),管状土錘	
97	D2h8	N-29°-W	方 形	5.60×5.48	12~27	平坦				1	炉		人為	古前	土師器片(甕),土玉	SI98→本跡
98	D2g8	N-10°-E	長 方 形	3.42×3.04	13~30	平坦	有				竈2	1	人為	平安	土師器(高台付坏,皿,甕)	本跡→SI97,141

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	時期	主 な 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
99	D2b5	N-25°-W	方 形	7.95×7.80	25~50	平坦	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,高坏,器台,壺),ミニチュア土器,手捏土器,土玉	本跡→SI100,SK118
100	D2c5	N-160°-E	[隅丸方形]	4.50×(4.6)	26~32	平坦			(2)		炉		人為	縄前	縄文土器(深鉢),石,チャート	SI99→本跡
101	D2d2	N-25°-E	楕 円 形	4.10×3.54	16~26	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器(深鉢),石,チャート	
102	D2i4	N-52°-W	楕 円 形	5.34×5.10	8	平坦				1			人為	古前	土師器(甕)	本跡→SI105
103	D2f5	N-28°-W	方 形	8.50×8.45	42~56	平坦	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,碗,壺,甕),土玉,管状土錘	
104	D2i5	N-49°-W	方 形	3.25×3.18	13	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,埴,高坏,甕)	本跡→SK113
105	D2h4	N-150°-W	[隅丸長方形]	(3.80×3.20)	15	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器(深鉢)	SI102→本跡
106	E2a4	N-3°-W	方 形	3.75×3.70	10~20	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,壺,甕),紡錘車,土玉,土製炉石	
107	F1b0	N-64°-W	長 方 形	3.45×2.90	20	平坦					炉2	1	人為	古前	土師器(高坏,甕)	SK36→本跡
108	E2b2	N-20°-W	方 形	5.70×5.55	42~50	平坦	有		4	1	炉	2	人為	古前	土師器(碗,高坏,器台,埴),紡錘車,ミニチュア土器,土玉,管状土錘,土製炉石	本跡→SK79焼失
109	E1j0	N-39°-W	方 形	4.66×4.60	17	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,埴,台付甕,甕),土玉	SB3→本跡
110	E1h9	N-20°-W	[方 形]	(4.15×3.30)	18	平坦							人為	古前	土師器(甕)	SB3→本跡→SI111
111	E1i9	N-9°-E	[方 形]	5.10×(3.1)	20	平坦							人為	古前	土師器片(甕)	SI110,SK75,SB3→本跡
112	E1g0	N-2°-W	方 形	4.20×4.10	11~20	平坦			4	1	炉		人為	古前	土師器(高坏,甕)	SK74→本跡→SI129,151
113	E2b6	N-7°-E	方 形	4.65×4.60	54	平坦	有		4	1	竈		人為	古後	土師器(甕),支脚,管状土錘	焼失
114	E2a9	N-57°-W	方 形	6.95×6.80	52~70	平坦	有		4	1	竈	1	自然	古後	土師器(坏,甕,甗)	SI115→本跡→116,117,127
115	E2a9	N-99°-E	[方 形]	(2.35×1.10)	30	平坦					竈		—	平安	土師器(高台付坏,皿),羽口	本跡→SI114,127
116	E2a8	N-132°-W	[方 形]	(3.6)×3.60	5	平坦					炉		人為	古前	土師器片(甕)	SI114→本跡
117	E2b9	N-50°-W	方 形	2.90×(2.0)	9~20	平坦	有			1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,埴,甕),ミニチュア土器	SI114→本跡
118	F2b8	N-25°-E	方 形	4.30×4.20	8~14	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢,高坏,壺),土製炉石	SD1→本跡→SI119
119	F2a8	N-64°-W	方 形	5.60×5.50	28~38	平坦	有		4	1	炉	2	人為	古前	土師器(鉢,高坏,器台,埴,壺,甕),ミニチュア土器	SI118,SD1→本跡
120	E2j7	N-3°-W	長 方 形	5.10×4.80	25	平坦	有			1	炉2	1	人為	古中	土師器(坏,高坏,碗,鉢,甕)	焼失
121A	E2h8	[N-49°-E]	[長方形]	[4.00×2.60]	20	平坦					炉		平安		土師器片(甕),鉄滓	本跡→SI121B,122
121B	E2h8	N-13°-W	方 形	4.00×3.90	40~56	平坦	有			1	竈		人為	古後	土師器(高坏,甕),手捏土器	SI121A→本跡→122
122	E2g8	N-50°-W	長 方 形	4.60×4.05	40	平坦					炉		人為	古前	土師器(腕器台,壺,甕),土玉,土製炉石	SI121A・B→本跡→123
123	E2f8	N-43°-E	方 形	6.10×6.05	16~27	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(裝飾器台,埴,甕),土玉	SI122,SK56,SK1→本跡 焼失
124	F3a1	N-62°-W	方 形	5.10×4.90	32~48	平坦	有			1	炉	2	人為	古中	土師器(高坏,壺,甕),土玉,管状土錘	本跡→SI125焼失
125	E2j0	N-57°-W	[方 形]	4.20×(3.1)	8~20	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(碗,高坏,器台)	SI124→本跡
126	D3j1	N-55°-W	[隅丸方形]	3.70×(1.6)	32	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片(深鉢)	
127	D2j0	N-66°-W	隅丸長方形	4.50×3.60	30	平坦					炉		自然	縄前	縄文土器(深鉢),石器	SI114,115→本跡
128	E2c9	N-37°-W	隅丸長方形	4.15×3.65	25~33	平坦							自然	縄前	縄文土器片(深鉢),石器	SK-47→本跡→SI1161
129	E1h0	N-2°-E	隅丸長方形	4.70×3.88	14~28	平坦			2		炉		人為	縄前	縄文土器片(深鉢),石,貝刃	SI112,SK74,SK2→本跡→SK73
130	E2d5	N-64°-E	方 形	5.70×5.60	14~19	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏,器台,壺,甕),土玉	SI158→本跡
131	E2g6	N-36°-W	方 形	3.45×3.40	43~48	平坦	有			1	炉	1	人為	古前	土師器(甕),管状土錘	本跡→SI77,132,144
132	E2g6	N-32°-W	[楕円形]	(4.70×3.70)	16	平坦							自然	縄前	縄文土器片(深鉢),石	SI131,133,SK1→本跡
133	E2h6	N-43°-W	方 形	3.75×3.70	22~36	平坦							人為	古前	土師器片(甕)	本跡→SI132

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	時期	主 な 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
134	D2g6	N-127°-W	方 形	2.70×2.60	10~16	平坦					炉		人為	古前	土師器片(碗, 甕)	
135	D2e7	N-32°-W	方 形	6.80×6.20	28~42	平坦	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(碗, 鉢, 高坏, 器台, 埴, 壺, 台付甕, 甕), ミニチュア土器	本跡→SI141
136	C2i7	N-25°-W	方 形	4.30×4.25	22~31	平坦	有				炉	1	人為	古前	土師器(碗, 高坏, 器台, 埴, 壺, 甕)	SK68→本跡E
137	D2a8	N-45°-W	方 形	3.04×2.94	26~34	平坦				1	炉		人為	古前	土師器(高坏)	
138	D3a2	N-46°-W	方 形	3.10×3.00	16~30	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器片(甕)	
139	D2d0	N-40°-W	方 形	3.60×3.45	30~37	平坦				1	炉		人為	古前	土師器(鉢, 高坏, 器台, 埴, 甕), ミニチュア土器	SK70→本跡D
140	D2d8	N-140°-E	隅丸方形	3.80×3.70	14~20	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片(深鉢), 石器, チャー ト・メノウ片	SK66, SB2→本跡
141	D2f7	N-147°-W	隅丸方形	4.62×4.28	20	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器(深鉢), 石器	SI98, 135, SK77→本跡
142	D3e2	N-47°-E	方 形	4.90×4.86	52~60	平坦	有	2	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 埴, 壺, 甕)	
143	E2e6	N-43°-W	方 形	3.78×3.48	21~30	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 台付甕), ミ ニチュア土器	
144	E2g5	(N-65°-W)	—	(1.80×1.30)	40	平坦							—	古前	土師器片(甕)	SI77, 78, 131→本跡
145	E2h2	N-1°-W	方 形	3.74×3.62	5	平坦							—	古前	土師器片(甕)	SI149→本跡→79
146	D3f5	N-20°-W	方 形	6.90×6.60	60	平坦	有	1	4	1	炉2	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 壺, 台付甕, 甕), ミニチュア土器	SD3→本跡
147	D3i3	(N-8°-W)	[方 形]	(4.20×4.14)	17	平坦					炉	1	—	古前	土師器(甕)	
148	E2b6	N-44°-W	方 形	7.20×7.10	32	平坦	有	1	(3)	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 台付甕), ミニ チュア土器, 舟形土製品	SI80→本跡
149	E2h3	N-33°-W	[方 形]	5.30×(1.7)	46	平坦	有					1	人為	古前	土師器(埴)	SI78→本跡→79, 145
150	E2f1	(N-72°-E)	[楕円形]	4.90×(1.8)	13	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片(深鉢), 炉石	SI73→本跡
151	E2g1	N-58°-W	楕 円 形	3.76×2.62	18	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片, 石	SI112→本跡
152	D2f2	N-22°-W	楕 円 形	3.30×(3.3)	12~22	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片, 石器, 石	SK88→本跡
153	E4e1	N-40°-W	方 形	4.00×3.85	7	平坦					炉		—	古前	土師器片, 砥石	SD3→本跡
154	E3a6	N-50°-W	方 形	5.40×5.30	4	平坦					炉		—	古前	土師器片, ミニチュア土器	SI155→本跡
155	D3i6	N-40°-E	方 形	6.00×5.50	22~30	平坦			(3)	1	炉		人為	古前	土師器(埴, 高坏, 器台, 壺, 甕), ミニチュア土器	本跡→SI154
156	D3h7	N-34°-W	方 形	6.50×6.15	50	平坦	有		4	1		1	人為	古前	土師器(埴, 高坏, 器台, 甕)	SK92, SD3
157	C3i4	N-28°-W	方 形	5.90×5.65	30~38	平坦	有		4	1	炉	2	人為	古前	土師器(高坏, 壺, 甕)	SD3
158	E2c5	N-46°-E	方 形	2.80×2.80	24	平坦							人為	古後	土師器(坏, 甕)	SI130
159	E2c8	N-45°-W	方 形	3.20×(1.6)	5	平坦					炉	1	—	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
160	E2g0	N-39°-E	隅丸長方形	[5.70×3.45]	20~28	平坦							自然	縄前	縄文土器片, 石	SI88, 92
161	E2c9	(N-35°-W)	隅丸方形	3.80×(1.0)	18	平坦							自然	縄前	縄文土器片, 石	SI128
162	F2b3	N-3°-W	方 形	2.55×2.48	42	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
163	F2d2	N-32°-W (隅丸長方形)	方 形	4.20×2.80	10	平坦					炉2		人為	縄前	縄文土器片, 石	SI61, SK40
164	E2i0	N-125°-E	隅丸方形	4.10×3.60	24	平坦					炉		人為	縄前	縄文土器片, 石	SI87
165	D2j7	N-48°-W	[方 形]	3.10×(1.9)	10~18	平坦				1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
166	D3c6	N-48°-W	方 形	5.05×5.05	32~44	平坦			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
167	D3d9	N-33°-E	長 方 形	3.25×2.67	5~13	平坦					炉		人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
168	E3i9	N-1°-W	[方 形]	3.00×(1.6)	10	平坦	有					1	—	平安	土師器(甕)	SB5
169	E4b1	N-27°-E	方 形	6.56×5.96	12~36	平坦	有		3		炉		人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
170	C4j3	N-30°-W	長 方 形	2.90×2.60	20	平坦				1	竈		人為	平安	土師器(甕)	
171	E4a4	N-32°-W	長 方 形	4.78×4.48	14~24	平坦	有					1	自然	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
172	D4h7	N-24°-W	方 形	3.45×3.35	26~32	平坦	有			1	竈	1	自然	平安	土師器(甕)	

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	時期	主 な 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
173	D4f3	N-23°-W	方 形	5.20×5.10	55~70	平坦	有		4	1	竈		自然	古後	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SI174
174	D4f2	N-20°-E	[方 形]	3.00×(1.6)	22~27	平坦					炉		自然	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SI173, SK128
175	D4d3	N-45°-E	長 方 形	6.32×5.30	13~23	平坦				1		1	自然	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SK137, 139
176	D4b4	N-35°-W	方 形	5.50×5.16	19~37	平坦	有				炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
177	D4c8	N-44°-W	長 方 形	4.88×3.87	18~32	平坦					炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
178	D4c1	N-44°-W	方 形	6.35×6.25	40~48	平坦	有		4	1	炉2	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SI179, 191, SK138
179	D4b1	N-30°-W	[長方形]	[4.20×3.50]	—	平坦					[炉]		—	平安	土師器(甕)	SI178, 191
180	C3g6	N-34°-W	方 形	7.00×6.85	45~67	平坦	有		4	1	竈	1	人為	古後	土師器(甕)	
181	C3b5	N-15°-W	[方 形]	[4.50×4.80]	—	平坦			4		炉	1	—	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SI190
182	B3i3	N-22°-W	方 形	5.45×5.25	32~60	平坦	有				炉	1	自然	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
183	C3a7	N-15°-W	方 形	5.05×4.90	22~60	平坦	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
184	C3i6	N-49°-W	[方 形]	[3.50×3.58]	6~20	平坦	有			1	竈		—	平安	土師器(甕)	
185	C4g3	N-40°-W	方 形	3.30×3.10	9~20	平坦					炉	1	人為	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	
186	C4c4	N-31°-W	方 形	6.70×6.30	24~55	平坦	有		4	1	炉	1	人為	古中	土師器(埴, 甕)	
187	B4d2	N-45°-W	方 形	8.40×8.32	18~66	平坦	有		4		炉	1	人為	古中	土師器(埴, 甕)	
188	B3b3	N-57°-W	方 形	6.60×6.50	39~72	平坦	有		4	1	炉	2	人為	古中	土師器(埴, 甕)	
189	B3h9	N-38°-W	方 形	7.80×7.10	32~47	平坦					炉		人為	古中	土師器(埴, 甕)	
190	C3a5	N-20°-W	長 方 形	5.87×5.02	20	平坦			4		—		—	古前	土師器(鉢, 埴, 器台, 甕)	SI181
191	D4b1	N-15°-W	—	—	—	—					—		—	平安	土師器(甕), 鉄	SI178, 179, SK136

茨城県教育財団文化財調査報告第129集
茨城中央工業団地造成工事
地内埋蔵文化財調査報告書

南小割遺跡 権現堂遺跡
親塚古墳 後原遺跡
(上 卷)

平成10年(1998)年3月16日印刷

平成10年(1998)年3月20日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地2号

T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 きど印刷

〒310-0913 水戸市見川町2558-21

T E L 029-241-2525